

利用者評価に基づく公園資産を活用した都市公園の  
再整備の効果に関する研究

2015年01月

呉 垠錫

(千葉大学審査学位論文)

# 利用者評価に基づく公園資産を活用した都市公園の 再整備の効果に関する研究

2015年01月

呉 垠錫

---

千葉大学大学院 園芸学研究科 環境園芸学専攻 緑地環境学コース  
都市環境デザイン学研究グループ

# 目 次

## 第1章. 序論

1. 研究の背景.....	6
2. 既往研究と本研究の位置づけ.....	8
3. 都市公園整備事業における公園再整備の位置づけ .....	10
4. 地域の活性化における公園再整備の位置づけ.....	14
5. 研究の目的.....	16
6. 研究の方法と論文の構成.....	17
<引用・参考文献>	

## 第2章. 空間的特性を重視した公園資産の保全・活用とその効果

1. はじめに .....	29
2. 研究の方法.....	29
2-1. 研究対象公園の概要	
2-2. 調査方法	
3. 結果及び考察.....	38
3-1. 西台公園.....	38
3-1-1. 再整備による空間構成の変化	
3-1-2. 再整備による空間と利用に対する利用者の認識度の変化	
3-1-3. ヒアリング調査の結果まとめ	
3-1-4. 再整備による利用形態の変化	
3-1-5. 再整備による公園の評価と利用満足度	
3-2. 庄戸第二公園.....	61
3-2-1. 再整備による空間構成の変化	
3-2-2. 再整備による空間と利用に対する利用者の認識度の変化	
3-2-3. ヒアリング調査の結果まとめ	
3-2-4. 再整備による利用形態の変化	
3-2-5. 再整備による公園の評価と利用満足度	
4. 本章の結論.....	79
<引用・参考文献>	

## 第3章. 利用的特性を重視した公園資産の保全・活用とその効果

1. はじめに.....	82
2. 研究の方法.....	82
2-1. 研究対象公園の概要	

2-2. 調査方法	
3. 結果及び考察	91
3-1. 富岡第五公園	91
3-1-1. 再整備による空間構成の変化	
3-1-2. 再整備による空間と利用に対する利用者の認識度の変化	
3-1-3. ヒアリング調査の結果まとめ	
3-1-4. 再整備による利用形態の変化	
3-1-5. 再整備による公園の評価と利用満足度	
3-2. 五丁田公園	110
3-2-1. 再整備による空間構成の変化	
3-2-2. 再整備による利用形態と利用者認識度の変化	
3-2-3. ヒアリング調査の結果まとめ	
3-2-4. 再整備による公園の評価と利用満足度	
4. 本章の結論	129
<引用・参考文献>	

#### 第4章. 空間と利用の特性を重視した公園資産の保全・活用とその効果

1. はじめに	132
2. 研究の方法	132
2-1. 研究対象公園の概要	
2-2. 調査方法	
3. 結果及び考察	137
3-1. 再整備による空間構成の変化	
3-2. 再整備による利用形態と利用者認識度の変化	
3-3. ヒアリング調査の結果まとめ	
3-4. 再整備による公園の評価と利用満足度	
4. 本章の結論	155
<引用・参考文献>	

#### 第5章 結論

1. 各章のまとめ	158
2. 統括	163
3. 今後の研究課題	165

#### SUMMARY

#### 図表リスト

#### 資料編

## 第1章 序論

1. 研究の背景
2. 既往研究と本研究の位置づけ
3. 都市公園事業における公園再整備の位置づけ
4. 地域の活性化における公園再整備の位置づけ
5. 研究の目的
6. 研究の方法と論文の構成

# 第1章 序論

## 1. 研究の背景

都市公園は明治6年の公園開設に関する太政官布告によって公園制度が創設され、大正8年の都市計画法（旧都市計画法）の制定により、土地区画整理事業による公園整備が行われるようになった。その後、昭和31年に施行された都市公園法・都市公園法施行令は都市公園の設置及び管理の礎石となった<sup>1)</sup>。戦後の日本は高度経済成長期に伴い、都市への人口や産業基幹施設の集中などにより、急激な都市化現象が問題となった。その結果、都市内の自然環境は破壊されてしまい、みどりの減少が徐々に進行しつつあった。

一方、都市民の生活水準が向上し続ける中、余暇時間の増大や高齢者の増加などにより、環境の保全、健康増進、余暇レクリエーションへの関心が高まり、都市環境の維持・改善、防災、都市住民の健康づくり・レクリエーション・交流の場など、多面的な役割を果たす都市公園の機能が注目され、昭和47年の「都市公園等整備5ヶ年計画」の策定により、住民一人当たりの公園面積の増加を目指して整備が行われた。その結果、昭和35年には全国の一人当たり都市公園の面積は約2.1 m<sup>2</sup>/人であったが、平成24年度末時点では約10.0 m<sup>2</sup>/人と約5倍までに増えてきた<sup>2)</sup>。

しかし、これは都市公園の面積の量的拡大を主な目的として都市公園事業が計画され、推進されてきたものであり、公園の質の向上を保障するものではなかった。実際に近年の都市公園は公園開設から40年前後が経過し、施設の老朽化や管理不足による荒廃化が進むと同時に少子高齢化や生活スタイルの変化などによる公園に対するニーズの変化を原因とする利用率の低下や安全面の悪化などの様々な問題を抱えるようになり、公園機能と利用者ニーズとの乖離も目立つようになった。また、人口減少、環境保全への関心の高まり、世代間格差による価値観の違いなど、様々な社会情勢の変化に伴い、公園に対する新たなニーズに対応した機能や役割を求められるようになり、大きな転機を迎えている。

しかしながら、都市公園整備事業に関わる国からの補助事業費が最も多かった平成7年を起点に、徐々に減少し、平成22年度現在、平成7年の約3割の水準まで減ってしまった状況である<sup>3)</sup>。また、各種産業や宅地開発による都市の無分別な拡張が原因となり、用地確保の困難、地方自治体の財政制約により、都市公園の新設が困難な状況である。そのために今の都市公園が抱える問題を解決し、地域住民の新たなニーズに応える都市公園づくりを目指すために従前公園を活かし、老朽化した施設の適切な改修や拡充、バリアフリー化、植栽の管理などを行い、安心安全な公園利用、地域の活性化につ

ながる都市公園づくりの手法として公園再整備の必要性が指摘され、多くの自治体で単独の都市公園事業として、また、緑の基本計画などに取り入れられている。

しかし、再整備により変化した空間と利用に対し、利用者のニーズへの対応、諸課題の解決の有無、利用率や利用満足度の変化など、再整備後の公園に対する事後評価が殆ど行われず、事後評価の一般的な方法も確立されていない状況である。再整備された公園の事後評価は利用者評価に基づき、利用満足度等の客観的な指標を用いて厳密に行われるべきである。また、その結果を基づいて再整備の空間設計手法を考えられるべきである。その際に、公園の特徴といえる成熟した緑や愛着のある公園施設の存在、長年にわたる利用の履歴に加えて、昨今の厳しい財政事情のもとで再整備が最大限の効果を上げるには、従前のストックを最大限に活用することが有効と考えられる。また、そのような再整備の方法論を確立する必要がある。都市公園以外でも、集合住宅団地の建て替えや疲弊した市街地の再開発において、従前ストックとその利用履歴等を地域の資産として捉え、最大限に維持・活用するストック活用型の再整備が推進されている。

そこで、多様な地形条件や空間構成をもつと同時に、地域住民の認識度の高い身近な住区基幹公園の再整備事例を対象に、利用者による実際の利用者評価に基づき、従前ストックを活用した再整備による空間と利用の変化が利用者満足度にどのような影響を与えるのか、さらには再整備による空間と利用の変化との関係性について検討することは今後の都市公園の再整備における空間設計手法を考える上で重要な意義があると考えられる。

## 2. 既往研究と本研究の位置づけ

以上の背景を踏まえ、既往研究のレビューを行った。本研究に関連する重要なテーマである、利用者評価に基づいた都市公園の評価・公園再整備・ストックに関する既往研究をレビューしながら、本研究の位置づけについて記述を行った。

### (1) 都市の公園緑地の空間と利用に対する利用者評価に関する研究

利用者評価を通じて、都市の公園緑地の空間と利用について検討した研究は、高齢者や子供の利用など、特定利用層と対象とした利用実態に関する研究<sup>4) -7)</sup>、居住から公園までの来園距離、周辺環境など、公園外部要因に着目し、利用者評価を行った研究<sup>8) -12)</sup>など、都市公園における利用実態に関する利用者評価について検討した研究が多く見られた。公園の空間について利用者評価を行った研究は、防犯施設、休憩施設、植栽などと特定の空間要素を対象に利用者評価を行った研究<sup>13) -16)</sup>が若干に見られた。また、公園に対する住民意識調査による公園評価構造について検討した研究<sup>17)</sup><sup>18)</sup>も見られた。しかし、都市公園における空間と利用の両方について、総合的な利用者評価を行った研究は見られなかった。さらに、空間構成や利用形態の側面から公園全体に対する利用満足度を検討した研究<sup>19)</sup>はほとんど見られない。このことは、都市公園における空間と利用の総合的な評価手法が明確に確立されていないことを意味する。しかしながら、利用者評価に基づき、再整備による空間の変化が利用形態にどう影響を与えたのかを明らかにし、かつ空間構成と利用形態の変化に対する評価と公園全体の利用満足度との関係について考察し、公園再整備の事後検証の手法としての利用者評価の有効性を検討するような研究は行われていない。

### (2) 公園再整備の方法に関する研究

全国の地方自治体で行われた多くの再整備事例を通じて、公園再整備の方法に関して検討した研究は、再整備された都市公園で実施されている再整備のワークショップや住民説明会など、住民参加による官民協働を中心とした公園再整備事業の全般的なプロセスに関する研究が多く蓄積されている<sup>20) -23)</sup>が、これらは、ワークショップの運営管理の手法など、公園再整備のソフト面に重点を置いた研究である。また、公園再整備事例の概要や事業の経緯、維持管理などにおける今後の課題を述べた事例報告<sup>24) -25)</sup>が行われている。さらに、公園再生という概念にもとづき、地域社会への影響や効果の検証を試み、広い意味での都市公園事業の方向性を述べた研究<sup>26) -27)</sup>も見られる。しかしながら、再整備による物理的な空間の変化が利用形態や利用満足度に与える効果及び影響について検証する研究はおこなわれていない。

### (3) 公園再生に関する提言等

2014年8月にCLA（ランドスケープコンサルタンツ協会）の都市公園再生プロジェクト研究会は「コミュニティ形成とまちの魅力を高める身近な公園再生のあり方」を提案した<sup>28)</sup>。その内容は、周辺との連携した多様な地域サービスの提供、都市の防災機能の強化、コンパクトなまちづくりへの対応など、周辺的生活基盤施設や緑地と連携し、公園の機能を定め、地域社会の活性化に貢献する公園再生のあり方について検討が行われている。

この提案では、公園と地域社会との連携による、地域全体の機能の強化をはかる手段として公園再生を位置づけているが、従前ストックの保全・活用という視点は必ずしも十分に掘り下げられてはいない。また、提言ゆえに、従前の公園空間が抱えている具体的な問題、利用やニーズの実態等をふまえて再整備のあり方を提示する（evidence-based policy making）という体裁を当然のことながらとっていない。学術的には、公園再生による地域活性化への貢献を、具体的な評価指標を用いて評価し、その結果に基づいて有効な公園再生の手法を提示することが求められる。

しかしながら、公園に対するニーズや諸課題の解決に対応した設計意図の把握を行い、評価項目を設定した上で、公園利用者及び地域住民を対象とし、利用者評価を行い、利用満足度の向上に効果的な再整備手法を検討する研究は行われていない。

### (4) 公園緑地における資源及び資産の活用に関する研究

公園緑地が有する自然環境、文化遺産など資源及び資産の重要性や活用方法についての既往研究をみると、井原<sup>29) -30)</sup>は史的視点から庭園、城の跡地という文化遺産を活かした公園の重要性について述べている。また、渡辺ら<sup>31)</sup>は、国立公園が有する景観や動植物といった「対象」と原始性や多様性といった「価値」を資源として定義し、資源の取扱いの変遷から、今後の活用の重要性について述べている。また、都市公園の維持管理における自然資源の活用について述べた研究<sup>32) -33)</sup>では、花や樹木、小鳥など多様な動植物を公園の資源として捉え、保全活用の重要性について述べている。さらに、地域資源としての都市公園の価値や管理の重要性について論じた研究<sup>34)</sup>では、地域の歴史に関する石碑や遺跡など、地域の歴史が蓄積されたものを公園が有する地域資源として定義している。

しかしながら、公園再整備事例を対象とし、資産の活用による空間の変化について検討した研究は行われず、さらに、公園が有する資産を活かした空間設計手法による空間と利用の変化という再整備公園の空間論についての研究は行われていない。

### 3. 都市公園事業における公園再整備の位置づけ

1873年に太政官布告の公布から始まる長い歴史をもつ日本の都市公園は、戦後の1956年の都市公園法・都市公園法施行令の施行、1972年の都市公園等整備5ヶ年計画の創設など、都市公園に関わる様々な制度や施策を経て、都市公園事業が推進されてきた(図1-1)。現在においても、多くの市町村では、都市の緑のオープンスペースや緑地の適正な保全と緑化の推進方策に関する目標や講ずる施策について定めた総合的な計画である「緑の基本計画」に都市公園の整備・運営管理の方針が取り入れられている。

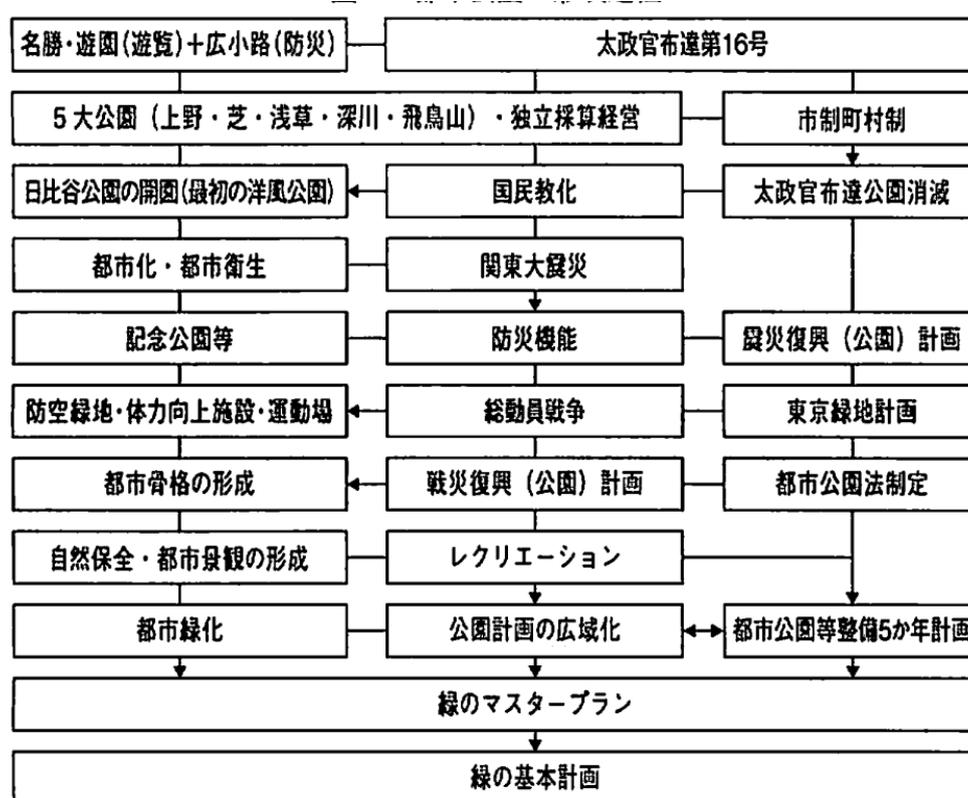


図1-1 日本の都市公園の形成過程<sup>35)</sup>

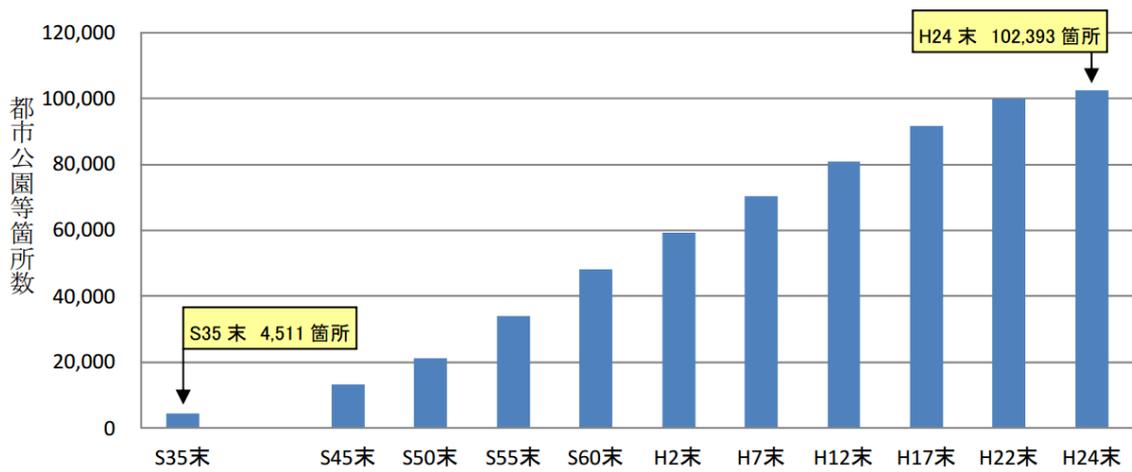


図 1-2 都市公園箇所数の推移<sup>2)</sup>

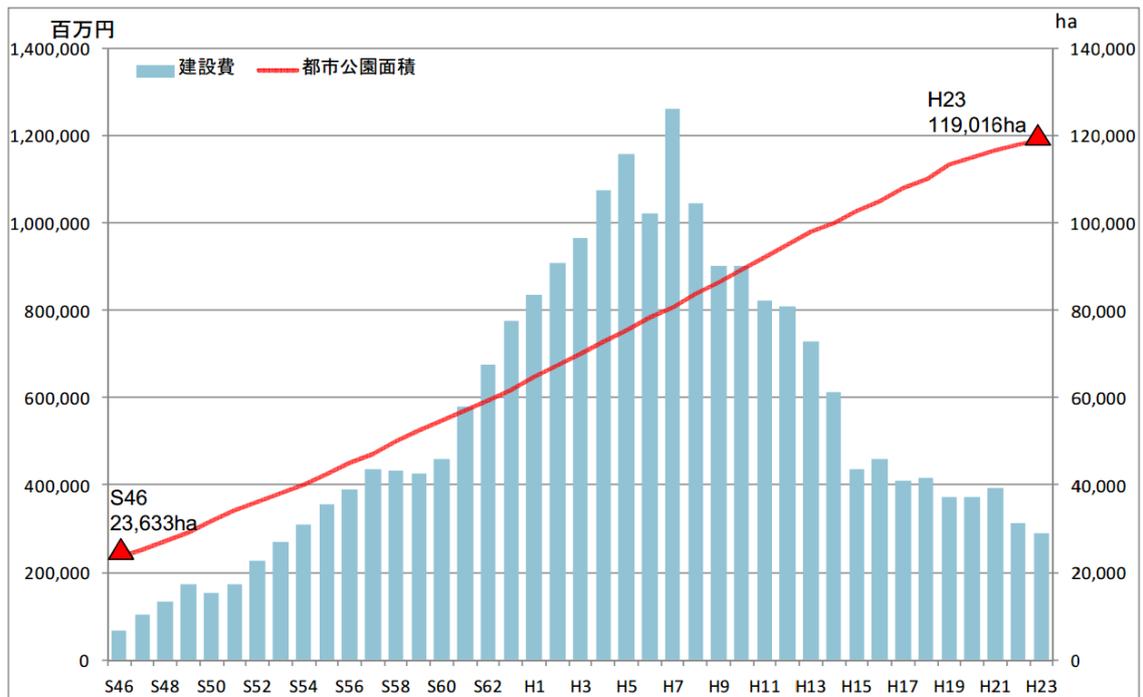


図 1-3 都市公園の面積と新規建設費の推移<sup>36)</sup>

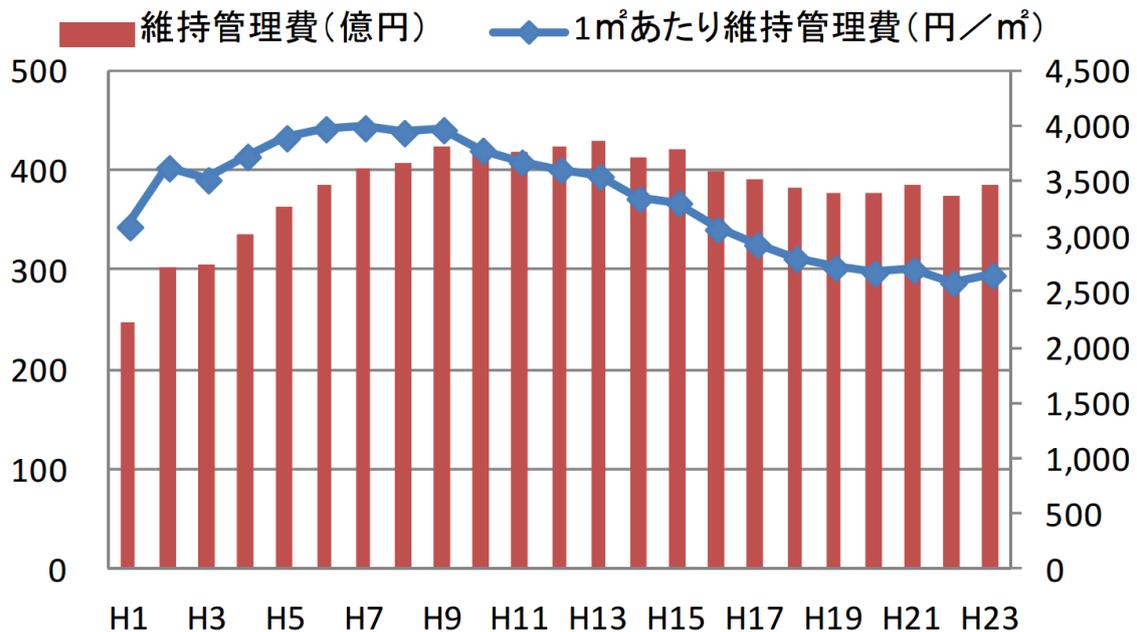


図 1-4 都市公園の維持管理費の推移<sup>36)</sup>

このように、社会資本としての都市公園は 2012 年現在に、総面積約 12 万 ha、10 万箇所以上と整備され、都市公園の整備ストックが急激に蓄積されてきた(図 1-2)。しかしながら、人口減少による税収の減少など財政の制約といった社会経済情勢に変化に伴い、1990 年代前半から都市公園の建設費、維持管理費など都市公園関連事業費が急激に減りつつ、老朽化した公園の維持管理や更新が今後の都市公園事業における重要な課題となっている(図 1-3、1-4)。さらに、都市の過密化による土地の不足が深刻な状況の中で、都市公園の新設も非常に困難となり、開設から 40 年以上経過した従前公園の老朽化対策の必要性が指摘されている。

このような状況の中で、老朽化した公園施設への対応を目的に、空間整備における様々な取り組みが行われている。例えば、公共財および社会基盤としての都市公園のストック活用を図ったストックマネジメントの推進計画である公園施設長寿命化計画があげられる<sup>37)</sup>。また、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進を図った公園施設のバリアフリー化<sup>38)</sup>が推進されている。さらに近年では、先進的な自治体において、総合的かつ体系的な公園の管理・運営の仕組みとして、パークマネジメントプランが策定されはじめた<sup>39)</sup>。欧米の先進諸国では、多くの従前公園においてパークマネジメントプランが策定され、その枠組みの中で、現状の公園が抱える問題や地域住民のニーズに応えるための様々な手段が講じられている(通常の維持管理やイベントの企画運営はもとより、老朽化した公園施設の改修や植栽の整理、不足する公園施設の拡充やバリアフリー化等の空間的な整備)。のみならず、レイアウトやゾーニング、動線等の見直しを含む大がかりな再整備も、パークマネジメントの過程でその必要性が認識され実施されるし

くみになっている（図1-5）。

このように、現状と課題についてのエビデンスに基づいて再整備が行われていくことが望ましいが、日本においては再整備の成否に関わる事後評価が殆ど行われていない。公園再整備によって従前の課題が改善・解決されたかどうかは、利用満足度等の従前の指標を使って十分評価できるし、その結果にもとづいて望ましい空間設計のあり方が議論されるべきであるが、そのような検証がほとんど行われないうまま、再整備が進んでいる状況にある。

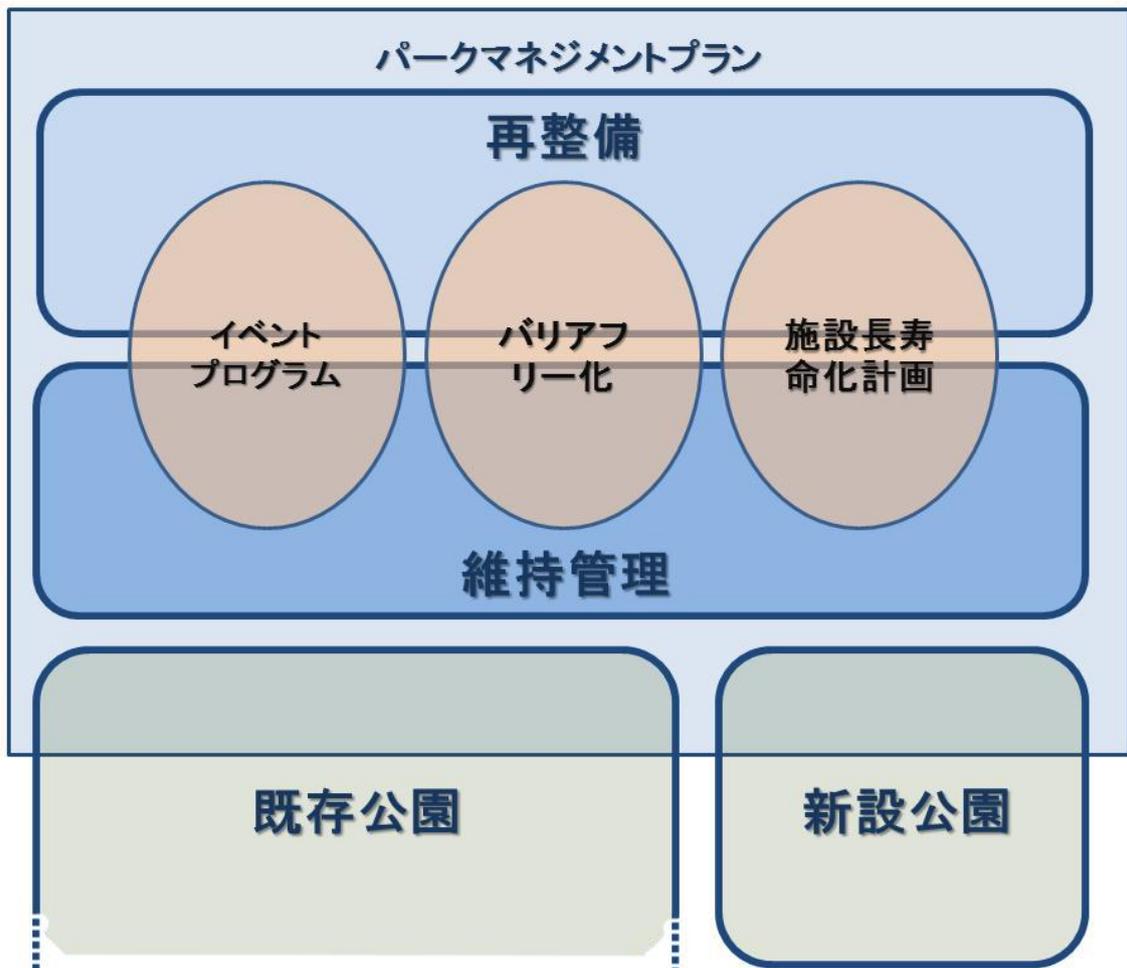


図1-5 パークマネジメントにおける公園再整備の位置づけ

#### 4. 地域の活性化における公園再整備の位置づけ

近年における急速な少子高齢化の進展、大都市への人口流出、都心部の過密化、産業構造の変化等の社会経済情勢の変化により、大都市圏と地方中小都市の均衡が崩れてしまい、地方を中心に都市機能の停滞・衰退が急激に進み、地域間格差が大きく広がる状況である。このような背景のもと、地域の産業、技術、人材、観光資源、自然環境、文化、歴史などの地域資源を有効活用して、地域経済の活性化、地域の活力の再生を総合的かつ効果的に推進するために、市街地再開発事業、再開発地区計画など、地方公共団体による様々な事業が推進されている。

各自治体は具体的な地域の将来像を提示し、基本方針及び推進目標を明確に設定した上で、地域経済の復興、地域福祉の推進、地域環境整備など、地域空間に関わる様々な方面に対する施策を策定し、取り組んでいる。こうした取り組みの中で、道路や上下水道、商店街、学校、病院など、地域住民の日常生活に密接な関係のある生活基盤施設の改修及び拡充は不可欠なものである。特に、都市環境の維持・改善、防災、住民の健康づくり・レクリエーション・交流の場など、多様な機能や役割を果たす都市公園は、地域活性化の一環として、再整備の重要性が指摘できる。したがって、本研究では、居住環境の質の向上、地域コミュニティの強化、高齢者の屋外活動の促進、育児支援機能の強化など、多面的な効果が期待できる地域活性化手法の一つとして、公園再整備を位置づけている（図1-6）。

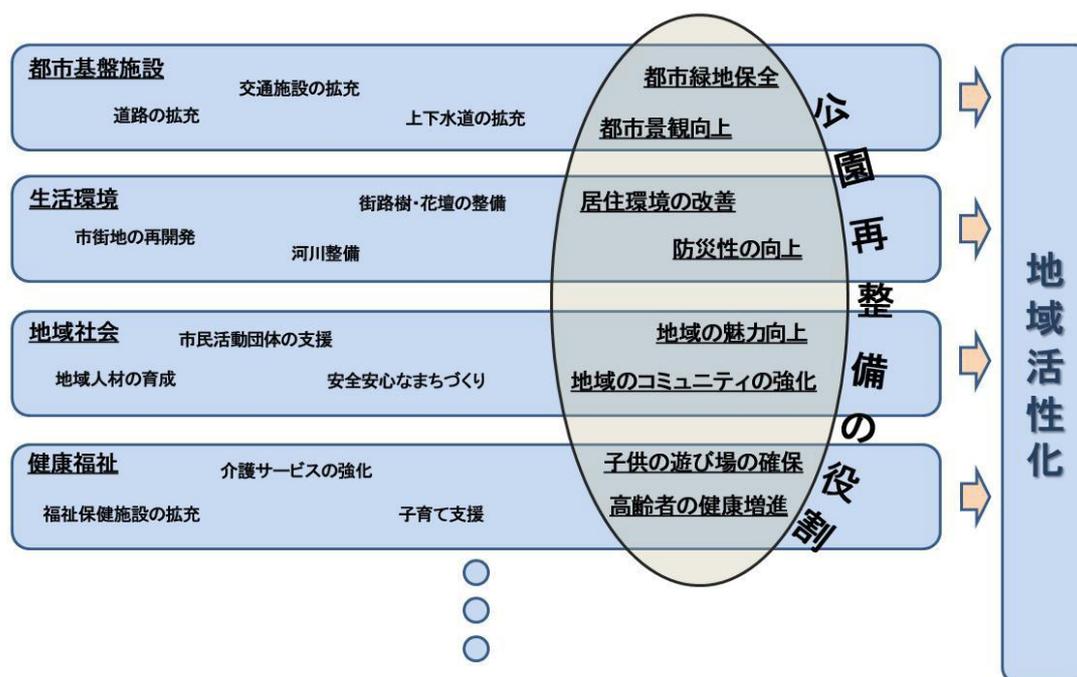


図1-6 地域活性化における公園再整備の位置づけ

昨今、地域活性化に資する公園再整備の重要性は広く指摘されているものの、それを客観的に評価する指標や方法が十分確立されているとは言い難い。地域の活性化は環境面のみならず社会的、経済的な側面を持つ総合的な問題である。これに関して、ヘドニック法を用いた公園整備の経済効果が測定されたりしているが<sup>40)</sup>、不動産価値の向上は地域活性化の一要素に過ぎない。また、利用満足度も地域活性化の成否を総合的に評価する指標としては不十分である。よって、地域活性化に資する公園再整備の手法研究は、評価指標を開発することからまずは始めなければならない（図 1-7）。

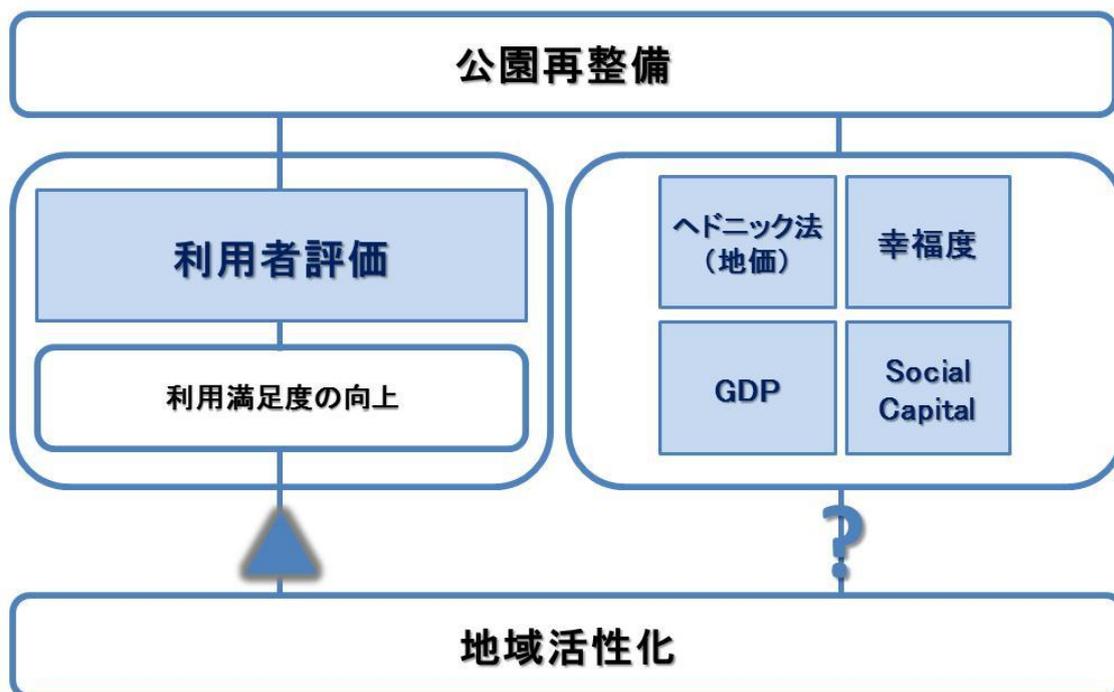


図 1-7 地域活性化に資する公園再整備の評価指標の開発

## 5. 研究の目的

公園再整備はワークショップや住民説明会などの市民参加による官民の意見合意の形成プロセスといったソフト面の観点からの研究も重要とされているが、公園再整備による空間の変化が利用者にも与える影響及び効果に関する検証といったハード面の観点から公園を評価することにより、再整備後の公園の質に対する検証が必要であると考えられる。

本研究は近年、再整備が行われた複数の身近な住区基幹公園を対象とし、公園が内包する空間特性と利用特性を公園資産として定義し（詳しくは後述する）、公園資産を保全・活用した再整備による空間構成の変化と利用形態の変化が公園全体の利用満足度にも与える影響及び効果について明らかにし、今後の都市公園における公園資産を活かした再整備の空間設計手法についての知見を得ることを目的としている。公園資産に着目する理由は、研究の背景で述べたように、公園資産を保全・活用した再整備が利用満足度の向上に有効なのではないかという仮説に基づくと同時に、公園資産の保全・活用に立脚した公園再整備の手法は十分に検討されていないことによる。具体的には、以下の内容について検討することを目的として本研究を実施した。

- ① 公園資産の保全・活用と満足度との関係性の把握
- ② 利用満足度の向上に資する公園資産を活かした再整備の具体的な手法の検討

## 6. 研究の方法と論文の構成

### 6-1. 公園資産の定義

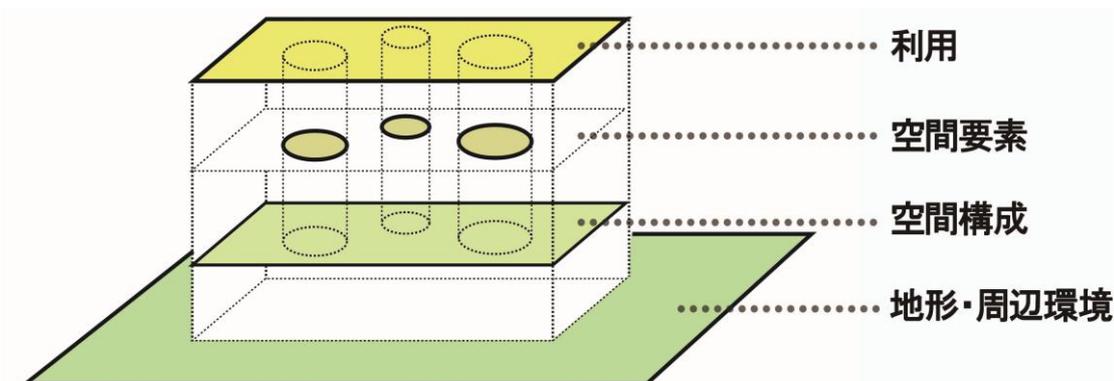


図 1-8 都市公園を構成する要素

表 1-1 都市公園を構成する要素の例

地形・周辺環境	空間構成
斜面地形 丘陵地形 山（里山）に隣接 川及び河川に隣接 都心部の商業施設に隣接 文化施設（美術館、博物館など）に隣接 学校に隣接 閑静な戸建て住宅地に立地 大規模の複合住宅地に立地 など	なだらかな起伏 広い面積の多目的広場 利用目的によるゾーンの区別 公園内の見通しの確保 園内の池などの水空間 公園から富士山への展望 など
空間要素	利用
遊具施設の充実、特徴のある遊具 休憩施設の充実 健康運動施設の充実、ジョギングコース 歴史文化施設の存在（庭園、神社、跡地など） 植栽（桜木、花壇、芝生など） 多様なルートの園路 バリアフリー施設（入口、園路、トイレなど） モニュメント 施設、園路の素材（木材、石材、レンガなど） など	地域住民のお祭り 桜の花見 家族のレクリエーション（食事、外遊びなど） 子供の自然体験（虫取り、植物観察など） 犬連れの散歩 地域住民の運動（ジョギング、ゲートボール） 高齢者の憩いの場 防災避難場所 近隣の子供の遊びの場 など

都市には、固有の地形や植栽、歴史的な庭園や構造物、遺構などからなる自然資源・文化遺産が数多く存在し、それらを活かして整備された都市公園も数多く存在する（表 1-1）。また、こうした従前の資源や遺産を活かして整備された公園だけでなく、新たな空間を創出し、利用目的に沿った施設の整備を行い、多面的な機能を果たしている身近な公園もあり、様々な目的で地域住民に利用されている。都市公園は、固有の地形や周辺環境の条件とそれを踏まえてデザインされた空間構成や空間要素（空間的特性）と、その空間的特性によってもたされる、様々な利用層、利用目的、利用空間（利用的特性）が重層的に現れ（図 1-8）、それらの幾つかは、利用者に公園の特徴及び長所として認識される。

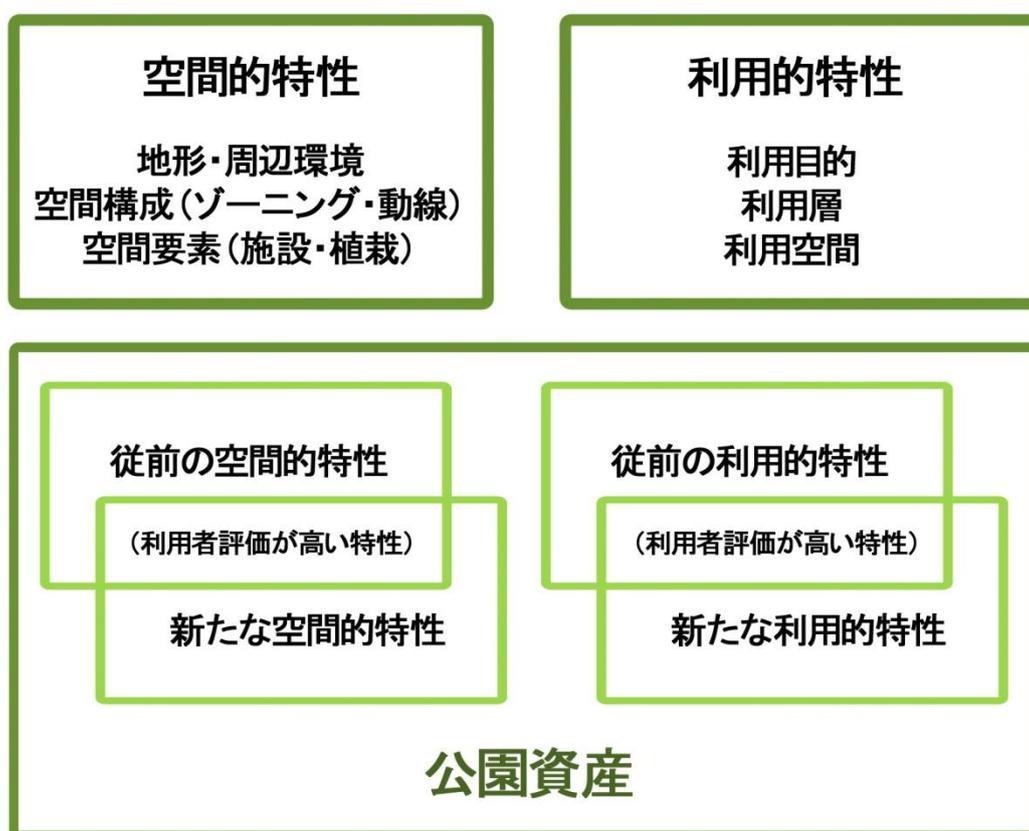


図 1-9 公園資産の定義

これらは、公園ごとに固有の特性を有するものであり、地域資源の管理や地域コミュニティの強化、公園におけるマネジメントの側面からも、その重要性を多くの既往研究によって指摘されている。しかし、「既往研究と本研究の位置づけ」で述べたように、殆どの既往研究は、歴史的・文化的な価値を有するものや景観上・防災上保全を要する自然環境、空間構成の特性等を資源として限定的に定義している。それに対して、本研究は「公園が内包する従前の空間と利用の特性として利用者の評価が高かったものに加え、再整備後の新たな空間と利用の特性を含め、これから保全・活用すべきだと利用者

が認識しているもの」を公園資産と定義した（図 1-9）。そこで、研究対象とした公園における公園資産の存在、再整備における公園資産の保全・活用の有無を確認するために、図面や写真を用いた空間分析に、1次アンケート調査による利用者の認識度の把握を加えて、設計者へのヒアリング調査を含め、各対象公園における公園資産を特定した。

公園資産を有する住区基幹公園の例として以下があげられる。A. 里山に隣接し、豊かな植生・植栽の存在といった空間的特性を有する公園。B. 伝統のある地域の神社など、歴史文化施設といった空間的特性を有する公園。C. 園内で行われる歴史のある地域のお祭りといった利用的特性を有する公園。D. なだらかな起伏の広々とした芝生広場で、地域住民のレクリエーションの場といった空間と利用の特性を有する公園。E. 池の周辺のテーブルベンチなど休憩施設での地域住民のレクリエーションの場といった空間と利用の特性を有する公園などがあげられる（図 1-10）。

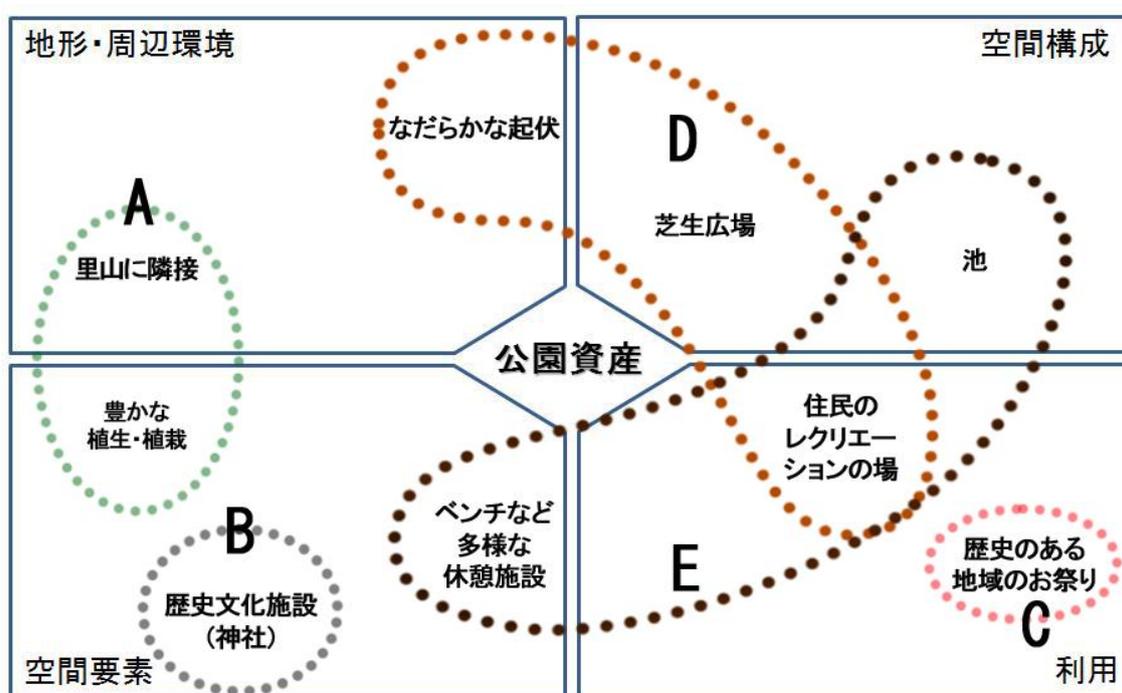


図 1-10 公園資産を有する都市公園の例

このように、公園を構成する地形・周辺環境、空間構成・空間要素、利用のそれぞれにおいて、公園資産をしうると考えられる。ただし、実際には空間と利用は決して切り離せず、再整備によって、可能となる利用形態とそれを支える空間形態は一体的に理解すべきものである。しかし、公園の周辺状況、園内の自然的環境、空間整備や利用状況などの要因から、利用者は空間または利用のどちらかをより重視したり評価したりすることが想定される。例えば、AとBタイプのように、空間的特性が重視される公園、Cタイプのように、利用的特性が重視される公園、DとEタイプのように、空間的特性と利用的特性の両方が重視される公園からなる3つのタイプがあげられる。

## 6-2. 研究対象

本研究は全面的な公園再整備が行われた複数の住区基幹公園を選定し、再整備前後の公園の変化を認知している公園利用者及び地域住民を対象として利用者評価を行った。そのため、以下の3つの選定基準を設定した。

- ① 全面的に再整備されていること。
- ② 一般利用者が公園全体の様子を認知できる規模の公園(住区基幹公園)であり、かつ再整備前後の公園の変化を認識している利用者が多数いる公園(最近再整備された公園)
- ③ 公園資産の保全・活用された再整備事例であること。

以上の基準にすべて合致する5か所の住区基幹公園を選定し、調査研究を行った(表1-2)。

表1-2 対象公園の概要

公園名	花畑公園	庄戸第二公園	西台公園	五丁田公園	富岡第五公園
位置	東京都足立区	横浜市栄区	東京都板橋区	東京都足立区	横浜市金沢区
開設日	1985年9月	1977年10月	1975年12月	1962年12月	1975年3月
再整備竣工日	2009年3月	2010年3月	2011年4月	2009年3月	2010年3月
種別	近隣公園	街区公園	街区公園	街区公園	街区公園
面積	23,026㎡	4,596㎡	7,688㎡	3,313㎡	4,728㎡

対象の選定基準③の公園資産の保全・活用した再整備事例の確認のために、各公園は、1次アンケート調査による空間と利用の特性に対する利用者の認識度の把握と設計者へのヒアリング調査を行った結果、住区基幹公園が有する典型的な空間と利用の特性が主な公園資産として、特定され、保全・活用された再整備が行われたことが確認できた。具体的に、西台公園は斜面という地形・種変環境や豊かな植生・植栽といった空間要素の空間的特性が主な公園資産として特定された。庄戸第二公園は里山に隣接した地形・周辺環境や豊かな植生・植栽といった空間要素の空間的特性が主な公園資産として特定された。この2箇所の公園は図1-10のAタイプにあたる。また、富岡第五公園と五丁田公園は地域のお祭りや近隣の子供の遊びの場といった利用的特性が主な公園資産として特定された(図1-10のCタイプ)。さらに、花畑公園は、芝生広場という空間構成や桜木120本といった空間要素の空間的特性と高齢者の憩いの場といった利用的特性の両方が公園資産として特定され、保全・活用された再整備が行われたことが確認できた(図1-10のEタイプ)。図1-11と表-3は対象公園の公園資産の特定を示したものである。

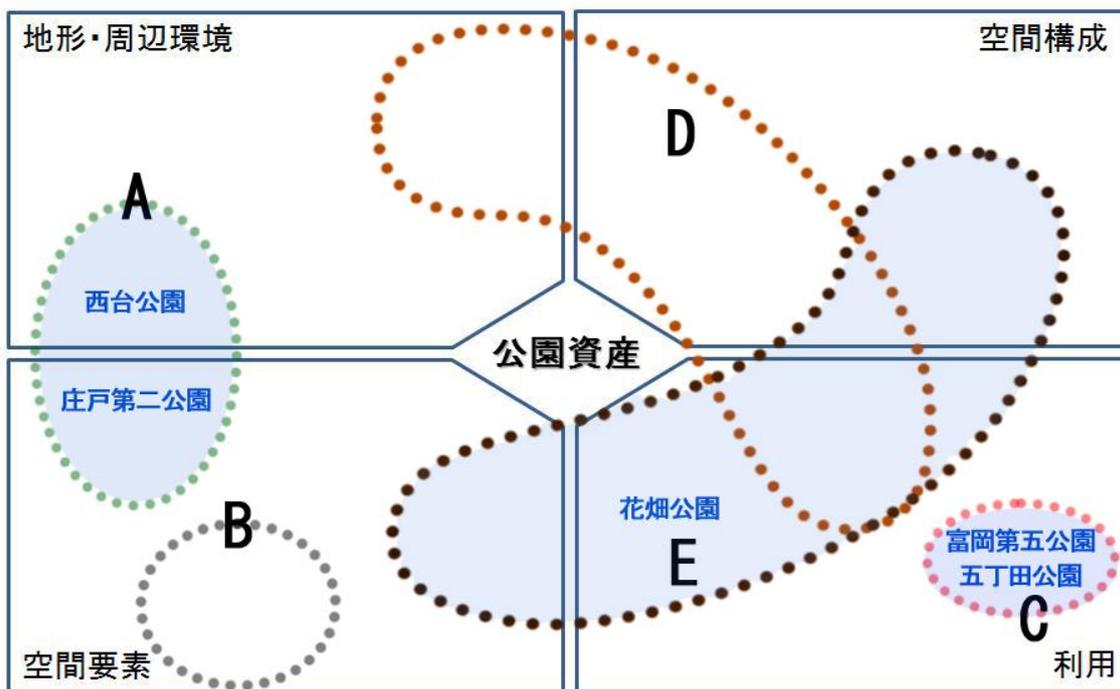


図 1-11 公園資産からみた対象公園の位置づけ

表 1-3 対象公園における公園資産の一覧

公園名	公園資産			
	地形・周辺環境	空間要素	空間構成	利用
西台公園	斜面地形	豊かな植生・植栽	-	-
庄戸第二公園	里山に隣接	豊かな植生・植栽	芝生広場	
富岡第五公園	-	-	広々とした広場	地域のお祭りの開催
五丁田公園	-	多様な遊具	-	近隣の子供の遊びの場
花畑公園	-	桜木120本	芝生広場	高齢者の憩いの場

### 6-3. 研究方法

本研究の基本的な調査は4つの段階に従って行った(図1-12)。

まず、①空間の変化を把握するために、再整備前後の施設撤去図、施設配置図、植栽図などの各種図面や写真などの資料確認を行った。そして、現地での確認を通じて、地形・周辺環境、空間構成、空間要素、利用形態について把握した。次に、②利用者が対象公園の空間と利用のどの要素を公園の資産として認識しているかを把握するために、図面や現地調査で確認できた内容を基に、1次アンケート調査を実施した。そして、③地域住民の要望や行政からの公園の課題、再整備の目的、そして、それに対応した設計意図、公園資産の活用を調べるために、再整備のワークショップに参加した地域住民、再整備当時の行政担当者、再整備の設計を行った設計者を対象とし、ヒアリング調査を行った。ただし、再整備公園の事業報告書が作成され、行政からの再整備公園の問題及び課題点が明確に提示されている事例に限り、地域住民と設計者のみとした。さらに、④ヒアリング調査で確認できた公園に対する地域住民の要望や行政側の課題に対応した設計意図と公園資産の活用による空間構成と利用形態が公園の満足度に与える影響を調べるために、再整備前後の利用経験を有する公園利用者及び地域住民を対象とし、2次アンケート調査を行った。

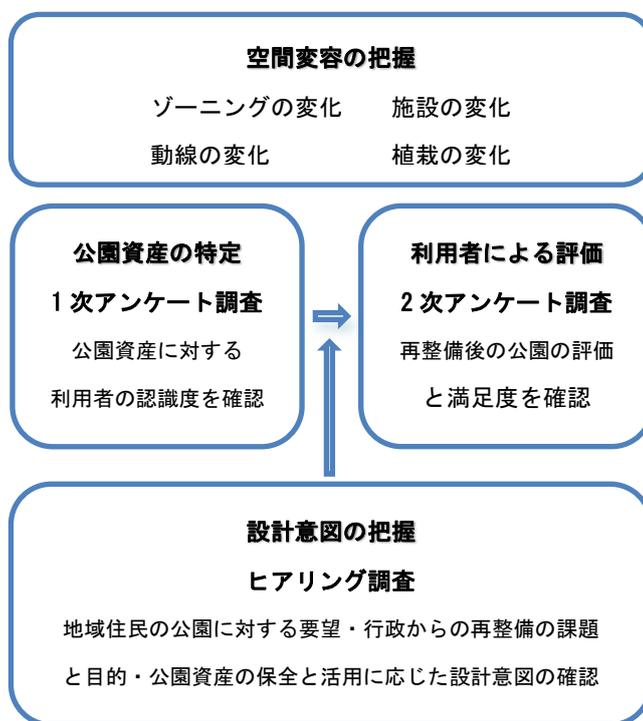


図1-12 調査方法の概要

#### 6-4. 論文の構成

本研究は以下の7章で構成されている（図1-13）。

第1章にあたる序論では、本研究の問題意識及び既往の関連研究のレビューを通じて、本研究の位置づけを明確にするとともに、都市公園事業における公園再整備の推進経緯や役割について述べる。さらに、地域再生においての一つの手段としての公園再整備を位置づけし、本研究の視点や意義を整理した上で本研究の目的を述べる。そして、それに基づき本研究の新たな着目点である公園資産の保全・活用という観点からその概念規定を行い、研究の方法や論文の構成について述べた。

第2章、第3章、第4章は本研究の目的を果たすために、5か所の対象公園を資産活用の内容や特徴によるタイプ分けし、資産を活かした公園再整備による空間構成や利用形態の変化が利用満足度に与える効果及び影響について検討を行い、結果を導出した。第2章は豊かな自然環境や広場など、空間的特性を主な公園資産として捉え、より重視したうえで、それらを保全・活用した再整備事例を対象に調査結果を整理した。第3章では、地域の子供の利用、お祭りなどのイベントの開催など利用的特性を主な公園資産として捉え、保全・活用した再整備事例を対象とした。第4章は空間構成と特定の利用層の利用といった空間と利用の両方の資産を保全・活用した再整備事例を対象とした。

最後に、第5章では、総合的考察として、本研究の結果をとりまとめ、今後の都市公園の再整備における公園資産の保全・活用の方法について計画論的な視点から考察を行った。

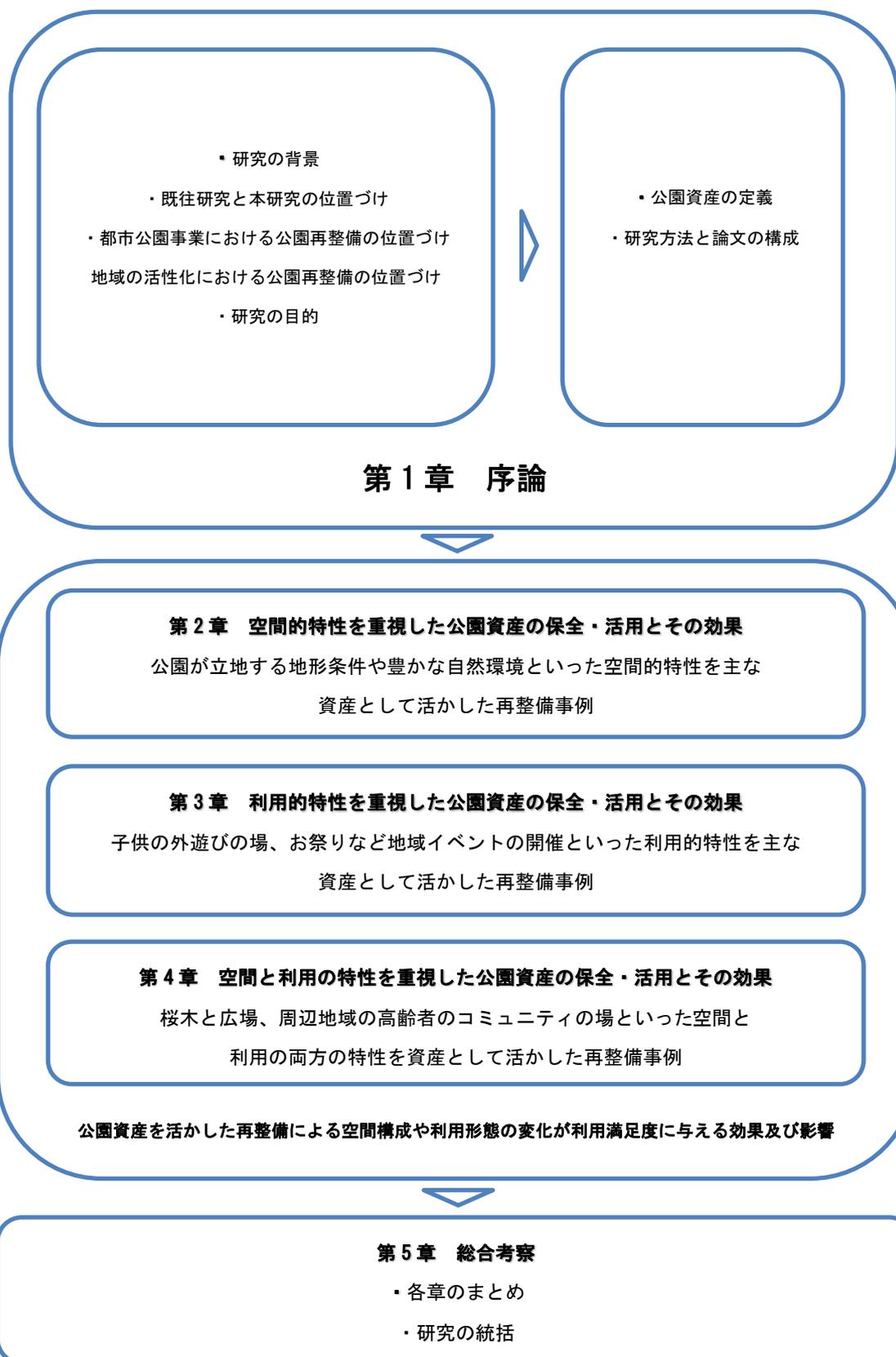


図 1-13 論文の構成

## 参考文献 (序論)

1. 野呂田 芳成、公園・緑地政策、1975、産業能率短期大学出版部、14-25
2. 国土交通省、都市公園等の面積・箇所数の推移  
<[http://www.mlit.go.jp/crd/park/joho/database/t\\_kouen/pdf/01\\_h24.pdf](http://www.mlit.go.jp/crd/park/joho/database/t_kouen/pdf/01_h24.pdf)>
3. 平成 24 年度版公園緑地マニュアル、2012、一般社団法人日本公園緑地協会、300-301
4. 永松 義博・岩渕 由生子・長澤 栄子、視覚障害者の公園利用実態 と公園施設への要望、2001、ランドスケープ研究、65(5)、727-730
5. 大野 正人・服部 勉・進士五 十八、乳幼児連れの母親の公園利用実態からみた公園デビューに関する考察、1997、ランドスケープ研究、61(5)、785-788
6. 藤崎 健一郎、勝野 武彦、村中 栄美、肢体不自由児による公園緑地の利用を促進する方策、1996、ランドスケープ研究、60(5)、643-646
7. 海津 ゆりえ、宮川 浩、真板 昭夫、上杉 哲郎、子供・親子・高齢者の身近な自然とのふれあい活動に関する研究、1996、ランドスケープ研究、60(5)、647-652
8. 下村 泰彦、増田 昇、安部 大就、山本 聡、鈴木 康介、近隣居住者の街区公園の利用行動に関する研究、1994、ランドスケープ研究、58(5)、217-220
9. 朴 永吉、田代 順孝、木下 剛、高齢者の公園利用と来園距離との関係に関する研究、1997、ランドスケープ研究、61(5)、781-784
10. 加納 潤吉、熊谷 洋一、下村 彰男、小野 良平、石橋 整司、多摩ニュータウンにおける街区公園の利用実態と公園の評価に関する研究、1999、ランドスケープ研究、63(5)、653-656
11. 永松 義博、阿部 香織、岩渕 由生子、盲学校に近接した公園の分析と評価に関する研究、2000、ランドスケープ研究、64(5)、691-696
12. 佐々田 道雄、畔柳 昭雄、海浜公園利用者の満足感と利用行動に関する研究、1999、ランドスケープ研究、63(5)、643-648
13. 佐藤 治雄、小柴 千賀、山野 智子、群落構造からみた都市公園の自然性評価の試み、1994、ランドスケープ研究、58(5)、149-152
14. 雨宮 護、横張 真、住宅地に立地する小公園に対する地域住民の犯罪リスク認知の構造と要因、2005、ランドスケープ研究、68(5)、947-950
15. 雨宮 護、島田 貴仁、高木 大資、千葉県市川市における都市公園へのネットワーク型街頭防犯カメラの設置例と市民の態度、2011、ランドスケープ研究、74(5)、783-788
16. 古谷 勝則、黒瀬 毅、油井 正昭、赤坂 信、自然公園における肢体不自由者に対応した歩道に関する研究、1998、ランドスケープ研究、62(5)、693-698
17. 田中 美穂・包清 博之・杉本 正美、市街地状況の違いと公園利用行動からみた公園に対する評価特性に関する基礎研究、2001、ランドスケープ研究 64(5)、655-658

18. 塚田 伸也、湯沢 昭、住民意識から捉えた小公園の評価構造に関する検討、2002、日本都市計画学会論文集 37、907-912
19. 金 永敏、澤木 昌典、韓国の一山新都市における公園利用者の空間評価についての研究、2000、ランドスケープ研究、64 (5)、641-646
20. 天野裕・土肥真人、岡崎市奈良井公園改修の参加型プロセスにみるデザイン上の特性に関する研究、2002、ランドスケープ研究 65(5)、731-734
21. 安恒万記、都市公園再整備におけるワークショップに関する考察、2010、筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要 5、163-173
22. 野田浩資、パートナーシップの形成過程：都市公園再整備への住民参加を事例として、2010、京都府立大学学術報告. 人文・社会 55、247-259
23. 菅 博嗣、市民意向に基づいた公園運営管理計画の策定手法に関する研究、2003、ランドスケープ研究 66(5)、749-752
24. 小松市都市整備部緑花公園課、街の顔・セントラルパークの再整備(芦城公園)、1997、公園緑地 58、57-60
25. 佐野和典、整備 檜町公園の再整備について、2007、都市公園、178、47-51
26. 池邊このみ、公園が変わるとまちが変わる、まちが変わると、人が変わる、2013、公園緑地 74(2)、4-9
27. 塚本文・鈴木武彦、今後の公園再生の方向性、2013、公園緑地 74(2)、10-13
28. 都市公園再生プロジェクト研究会、コミュニティ形成とまちの魅力を高める身近な公園(住区基幹公園)再生のあり方  
<<http://www.toshikouensaisei-pj-kenkyuukai.com/pg186.html>>
29. 井原縁、玉藻公園にみる文化遺産の公園化とその変容に関する史的研究、2004、ランドスケープ研究 67(5)、387-392
30. 井原縁、栗林公園にみる文化遺産の公園化とその変容に関する史的研究、2005、ランドスケープ研究 68(5)、389-394
31. 渡辺綱男・佐々木真二郎・四戸秀和・下村彰男、わが国における国立公園の資源性とその取扱いの変遷に関する研究、2012、ランドスケープ研究 75(5)、483-488
32. 藤田 知則、大澤 啓志、勝野 武彦、都市公園にある水田施設の現状およびその維持管理における市民参加の実態、2001、ランドスケープ研究 65(5)、739-742
33. 勝野 武彦、緑地保全と大規模公園、1998、ランドスケープ研究 62(4)、300-303
34. 西阪 玲子、田原 直樹、上甫木 昭春、都市公園における地域資源の存在状況と活用実態に関する研究、2008、ランドスケープ研究 71(5)、615-618
35. 申 龍徹、都市公園政策の歴史的変遷過程における「機能の社会化」と政策形成(6・完)、2006、法学志林 104(1)、43-66
36. 国土交通省都市局公園緑地・景観課、公園施設の計画的な維持管理・更新に向けた取り組みについて、2014

- 37. 国土交通省、公園施設長寿命化計画策定指針  
<<http://www.mlit.go.jp/common/000209166.pdf>>
- 38. 国土交通省、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律  
<<http://www.mlit.go.jp/common/000207186.pdf>>
- 39. [田代 順孝](#)、[中瀬 勲](#)、[林 まゆみ](#)、[金子忠一](#)、パークマネジメント—地域で活かされる公園づくり、2011、学芸出版社
- 40. 愛甲 哲也、崎山 愛子、庄子 康、ヘドニック法による住宅地の価格形成における公園緑地の効果に関する研究、2008、ランドスケープ研究 71(5)、727-730

## 第2章 空間的特性を重視した公園資産の保全・活用とその効果

1. はじめに
2. 研究方法
3. 結果及び考察
4. 本章のまとめ

## 第2章 空間的特性を重視した公園資産の保全・活用とその効果

### 1. はじめに

第1章の「公園資産の概念」に述べたように、都市公園は長い時間を経て、最も身近な公共空間として、地域住民に親しまれ、公園施設が利用されることで、公園の空間と利用の特性という公園資産が現れる。公園再整備における資産活用の方法については、いくつかのタイプに分類が可能である。本章では、従前公園がもつ空間的特性を公園資産として保全・活用した2か所の再整備事例を対象とし、再整備においての、空間的特性を保全・活用した方法が利用満足度に与える効果及び影響について検討を行った。

### 2. 研究の方法

#### 2-1. 研究対象公園の概要

##### (1) 西台公園

表 2-1 西台公園の概要

対象公園	西台公園
位置	東京都板橋区西台1丁目23-1
開設日	1975年12月
再整備竣工日	2011年4月
種別	街区公園
面積	7,688 m <sup>2</sup>
特徴	斜面地形 斜面林 池などビオトープ
周辺環境	都営住宅団地、一戸建ての住宅地 武蔵野台地の崖線
従前公園の問題点	園路の急勾配や階段による移動の不便さ 遊具が少なく、子供の利用の低下 樹木の繁茂により、園内が暗い 斜面の崩壊の危険性
再整備の目的	斜面地形や緑地の保全 園路のバリアフリー 安全安心な子供の利用

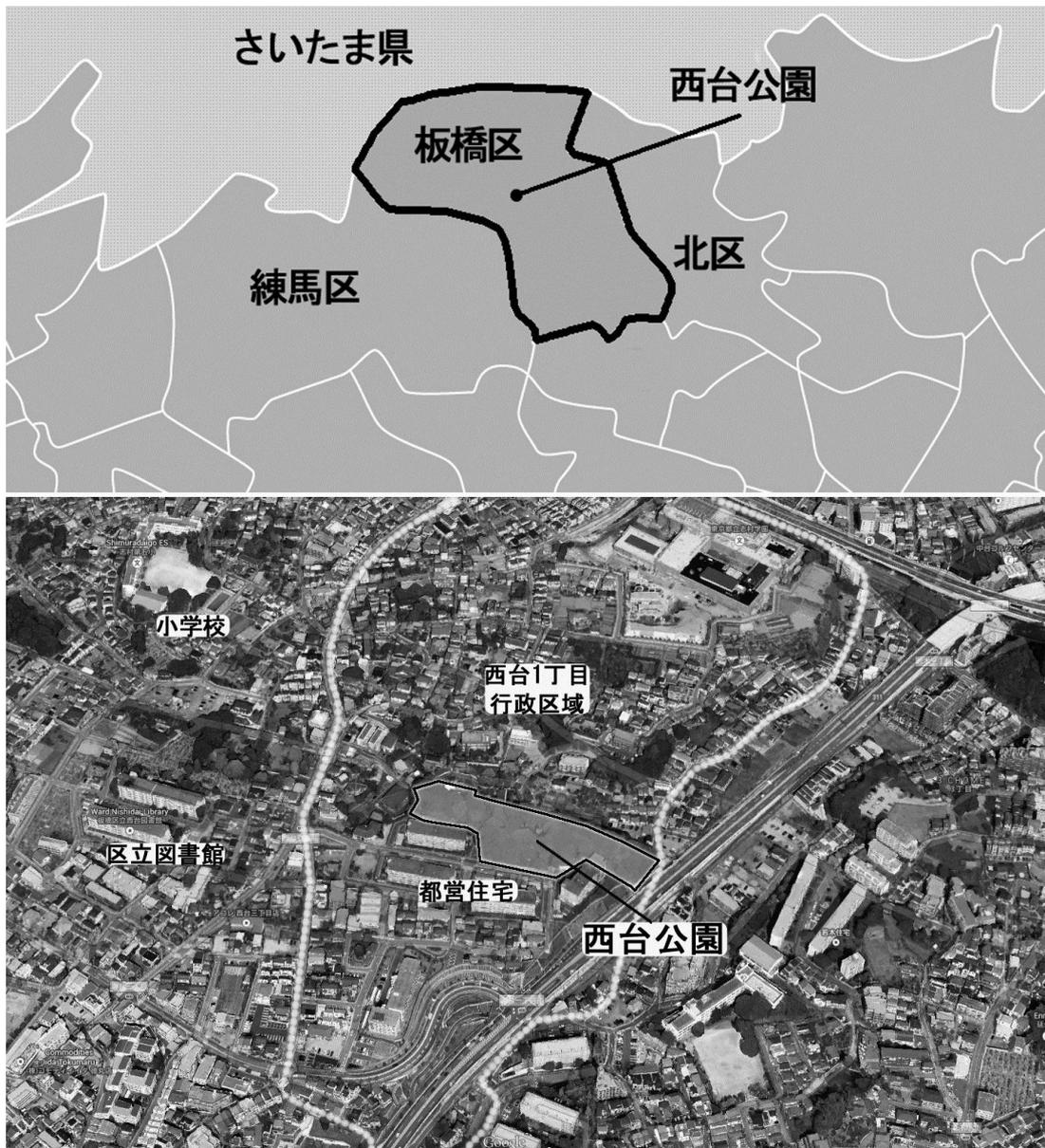


図 2-1 西台公園の概要

西台公園は1975年12月に開園された面積7,688㎡の武蔵野台地の崖線に位置した比高差16mの斜面を有する街区公園である。対象公園が位置する西台地区は都営住宅団地や戸建て住宅が隣接する閑静な住宅地であり、崖線の緑地が残っている地域である。特に、絶滅危惧種であるキンラン・ギンランの自生地を有している。開園当時は大型木製アスレチック遊具や大型すべり台など多様な遊具が設置され、児童の利用が多い公園であったが、老朽化によりすべて撤去され、池や滝は水音の苦情から流水が止まっている状況だった。さらに、植栽の生長による見通しの悪化など安全性の問題から小学生の利用が禁止されている状況であった。また、公園の南北をつなぐ斜面の園路は急勾配や階段など、地形上歩きにくく、斜面の崩壊の危険

が見られる箇所が多かった。そのため、武蔵野台地の崖線緑地の保全、安全安心な子供の利用、斜面林内の園路のバリアフリーを目的に 2011 年 4 月に再整備が行われた<sup>1)</sup>。表 2-1、図 2-1 は西台公園の概要を示したものである。

## (2) 庄戸第二公園

表 2-2 庄戸第二公園の概要

対象公園	庄戸第二公園
位置	横浜市栄区庄戸 1 丁目 25
開設日	1977 年 10 月
再整備竣工日	2010 年 3 月
種別	街区公園
面積	4,596 m <sup>2</sup>
特徴	山に隣接した樹木 広い面積の芝生広場
周辺環境	地域内の最も高台の公園 一戸建て住宅地 高齢化が急激に進む
従前公園の問題点	樹木の繁茂 隣接した道路から園内の見通しの悪化 管理不足による芝生広場の荒廃化 利用の急激な低下
再整備の目的	明るいイメージへの改善 安全安心な公園づくり 園内の移動の利便性の向上

庄戸第二公園は 1977 年 10 月に開設された面積 4,596 m<sup>2</sup>の街区公園である。対象公園が位置する庄戸地区は 1973 年から大規模住宅開発が行われ、入居が始まった戸建て住宅団地である。しかし、開発から約 40 年が経過し、若い世帯が転入せず、急速に少子化・高齢化が進んでいる地域である。特に対象公園が所在する庄戸 2 丁目は 2012 年 9 月現在、高齢化率が横浜市の中で最も高い 46.1%であった<sup>2)</sup>。公園の周辺地域には他の 3 箇所の街区公園が存在し、各公園はお祭りなどのイベント、子供の遊び、シニアクラブのゲートボールなどの運動が行われ、各公園の利用目的が明確に異なっている。また、庄戸地区の最も高台に位置し、接近性の問題もあり、周辺の公園に比べて普段の利用が低い公園である。しかし、開園当初は公園からの富士山の展望、山に隣接した成熟した植栽や広い面積をもつ三角形の芝生広場で少年野球のクラブ

活動が行われるなど、静な住宅街に位置する身近な公園として子供を中心に多様な目的で利用されたが、ここ 10 年間は少子高齢化と共に、管理不足による荒廃や施設の老朽化が進み、利用と安全性の低下などの問題を抱えるようになった。そのため、2010 年 3 月に再整備が行われた<sup>3)</sup>。表 2-2、図 2-2 は庄戸第二公園の概要を示したものである。

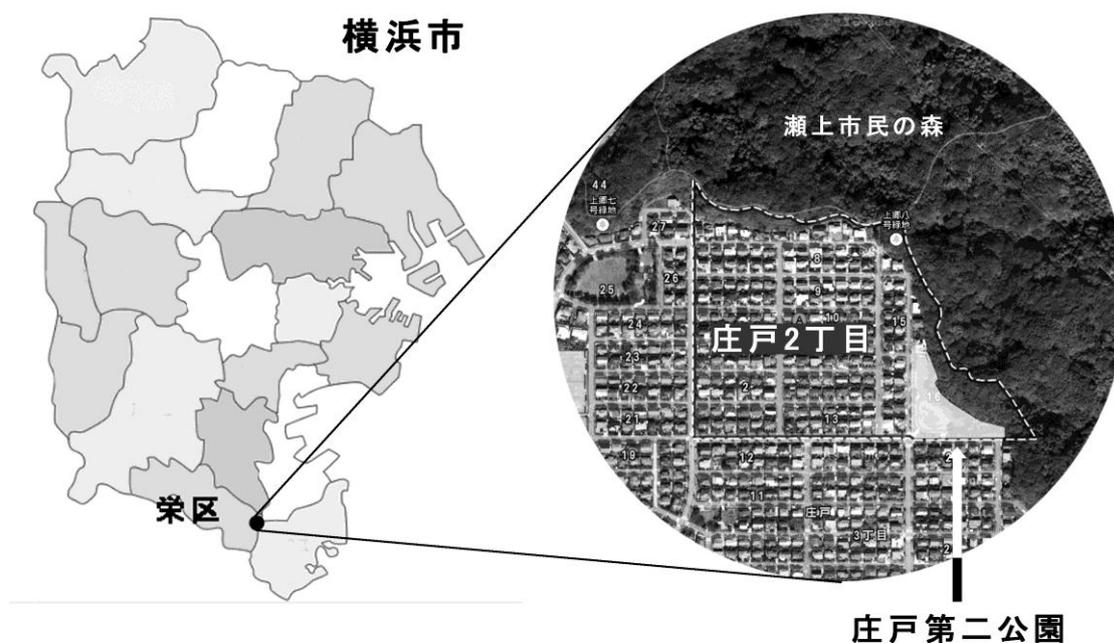


図 2-2 庄戸第二公園の概要

## 2-2. 調査方法

### (1) 空間構成の変化

公園再整備による空間構成の変化を把握するために、対象公園の施設撤去図、完成平面図、植栽図などの各種図面と再整備前の写真、対象公園の再整備事業報告書など資料を把握したうえで、現地での確認を行い、空間変化の分析を行った。

### (2) 1次アンケート調査

公園再整備による空間構成と利用形態の変化に対する利用者の認識と満足度の変化との関係性を調べるため、1次アンケート調査を行った。調査項目の設定のために、図面による空間分析と現地での確認を通じて、地形や周辺環境、空間構成、空間要素、利用形態の特性を把握し、現地調査で把握した公園の特性をアンケート項目として設定した。

表 2-3 西台公園の1次アンケート調査の概要

調査対象	再整備前後の利用経験のある 公園利用者及び地域住民
調査期間	2014年4月4日-12日(4回)
回答者/有効回答者	50/50
調査項目	すべて複数回答 ・地形、周辺環境について(2項目) ・空間構成の特性について(4項目) ・空間要素について(11項目) ・公園の利用の特性について(8項目) —再整備前と後において公園の空間と利用のどの要素を 長所 / 短所と思うかを回答

西台公園は再整備前後の利用経験のある公園利用者を対象に、公園の空間と利用の特性を内容とした25項目について、再整備前後において、どの項目を長所/短所と思うかを回答してもらった。調査期間は2014年4月4日-12日にかけて、4回実施した。有効回答数は50件であった(表2-3)。

表 2-4 庄戸第二公園の1次アンケート調査の概要

調査対象	公園利用者及び地域住民
調査期間	2013年2月23日—3月9日（7回）
回答者/有効回答者	50/50 再整備前の利用経験者25人・再整備後のみ利用経験者25人
調査項目	<p>すべて複数回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地形、周辺環境について（2項目）</li> <li>・空間構成の特性について（5項目）</li> <li>・空間要素について（8項目）</li> <li>・公園の利用の特性について（5項目）</li> </ul> <p>—再整備前と後において公園の空間と利用のどの要素を長所と思うかを回答</p>

庄戸第二公園は再整備前の利用経験のある公園利用者25人と再整備後のみ利用経験者25人、合計50人を対象に、公園の空間と利用の特性を内容とした20項目について、再整備前後において、どの項目を長所と思うかを回答してもらった。調査期間は2013年2月23日—3月9日にかけて、7回実施した（表2-4）。

### (3) ヒアリング調査

公園に対する住民の要望、行政から出された課題、再整備の目的、公園資産の保全・活用、そして、それに対応した設計意図を確認するために、ヒアリング調査を行った。西台公園はワークショップに参加した地域の自治会のメンバー、再整備の設計を行った設計者を対象として、調査を行った。庄戸第二公園はワークショップに参加した自治会のメンバー、再整備当時の行政担当者、再整備の設計を行った設計者を対象として調査を行った。両公園ともに、直接インタビュー形式でヒアリング調査を行った。西台公園の場合、再整備事業報告書が作成され、再整備公園における行政側の問題意識や課題について、明確に書かれていたため、行政担当者へのヒアリング調査を省略した（表 2-5、2-6）。

表 2-5 ヒアリング調査の対象

対象公園 調査対象	西台公園	庄戸第二公園
ワークショップ参加者	再整備当時の西台町会長 外 2人	再整備当時の庄戸2丁目 町会会長
公園設計者	(株) あい造園設計事務所 設計担当者 2人	有限会社 フィールド調査研究 代表取締役
行政担当者		再整備当時の 栄区土木事務所 再整備担当者

表 2-6 ヒアリング調査の質問項目

ワークショップ参加者	公園設計者	行政担当者
従前公園の問題点を含め、 全体的な利用状況について	従前公園の問題点を含め、 全体的な利用状況について	従前公園の問題点を含め、 全体的な利用状況について
ワークショップで出された 公園に対する苦情や要望に ついて	地域住民や行政から出され た公園に対する要望や課題 について	地域住民や行政から出され た公園に対する要望や課題 について
再整備後の公園に対する評 価について 改善されたところ 改善されなかったところ	要望や課題、資産の活用に 応じた設計の意図について	再整備後の公園に対する評 価について 改善されたところ 改善されなかったところ
	再整備後の公園に対する評 価について 改善されたところ 改善されなかったところ	

#### (4) 2次アンケート調査

ヒアリング調査で確認した公園に対する地域住民の要望や行政の課題に対応した設計意図の有効性と公園資産の保全・活用した再整備による空間と利用の変化が利用満足度に与える影響を調べるために、2次アンケート調査を行った。西台公園は再整備前後の公園の利用経験がある公園利用者及び地域住民を対象として、まず、西台町会の協力で町内の50人に配布し、47件が回収され、その中、有効回答数は43件であった。また、58人の公園利用者を対象に、2014年5月9日～6月7日にかけて、7回の現地でのアンケート調査を行った。調査内容はまず、再整備前後の利用形態の変化を把握するために利用頻度、利用時間について調べた。さらに、現在の都市公園の一般的な利用目的に対象公園の空間要素や周辺環境の特徴を加え、13の項目を設定し、再整備前後の利用目的について調査した。また、再整備前後の図面によく利用する場所をマッピングしてもらった。次に、ヒアリング調査から確認された内容を基に、地域住民の要望や行政上の課題への対応の有無の確認、設計意図が有効であったかどうかの評価するための19項目と公園利用の拠点となる空間と施設の具体的な評価のために36項目を設定した。そして、その評価項目と公園全体の満足度を5段階評価で調査を行った(表2-7)。

表 2-7 西台公園の2次アンケート調査の概要

調査対象	再整備前後の公園の利用経験がある 公園利用者及び地域住民	
調査期間	町会の協力：2014年5月17日配布・5月31日回収 現地調査：2014年5月～2014年6月(7回)	
配布数/回答数 (有効回答数)	町会の協力：50/47(43) 現地調査：58/58(58)      合計：101	
調査項目	公園の利用頻度：5段階評価(ほぼ毎日～ほぼ来ない)	
	公園の利用時間：5段階評価(2時間以上～10分以内)	
	公園の利用目的：複数回答(13項目)	
	公園のよく利用する場所：図面上で、○付のマッピング	
	公園の評価：すべて5段階評価(そう思う～そう思わない)	
	公園の利用について(3項目)	出入口について(4項目)
	公園のイメージ改善について(4項目)	園路について(8項目)
緑の保全・活用について(4項目)	遊具について(9項目)	
バリアフリーについて(3項目)	こもれび広場について(7項目)	
空間構成について(3項目)	憩いの広場について(4項目)	
地形・周辺環境について(2項目)	流れ・池広場について(4項目)	
公園の満足度について (再整備前の公園が良い～今の公園が良い)		

庄戸第二公園は庄戸2丁目町会の協力で、町会の回覧として町内の227世帯の中、不在者を除き、186世帯に配布し、99件が回収され、その中、有効回答数は90件であった。調査内容はまず、再整備前後の利用形態の変化を把握するために利用頻度、利用時間について調べた。さらに、現在の都市公園の一般的な利用目的に対象公園の空間要素や周辺環境の特徴を加え、13の項目を設定し、再整備前後の利用目的について調査した。また、再整備前後の図面によく利用する場所をマッピングしてもらった。

次に、ヒアリング調査から確認された内容を基に、地域住民の要望や行政上の課題への対応の有無の確認、設計意図が有効であったかどうかの評価を通じて、公園資産を活用した空間構成の変化が利用者満足度に与える影響を把握するために22項目を設定した。そして、その評価項目と公園全体の満足度を5段階評価で調査を行った(表2-8)。

両公園ともに、アンケートの結果は符号化し、SPSS (Statistical Package for Social Science) Win 17.0を用いて、分析を行った。

表 2-8 庄戸第二公園の2次アンケート調査の概要

調査対象	再整備前後の公園の利用経験がある庄戸2丁目の住民
調査期間	2013年8月20日配布・8月27日回収
配布数/回答数 (有効回答数)	186/99 (90)
調査項目	公園の利用頻度：5段階評価（ほぼ毎日—ほぼ来ない） 公園の利用時間：5段階評価（2時間以上—10分以内） 公園の利用目的：複数回答（13項目） 公園のよく利用する場所：図面上で、○付のマッピング
	公園の評価：すべて5段階評価（そう思う—そう思わない）
	公園の利用について（4項目） 公園のイメージ改善について（3項目） 緑の保全・活用について（4項目） 施設の整備について（4項目） 広場の利用について（4項目） 園路の利用について（2項目） 公園の価値について（1項目）
	公園の満足度について （再整備前の公園が良い—今の公園が良い）

### 3. 結果及び考察

#### 3-1. 西台公園

##### 3-1-1. 再整備による空間構成の変化

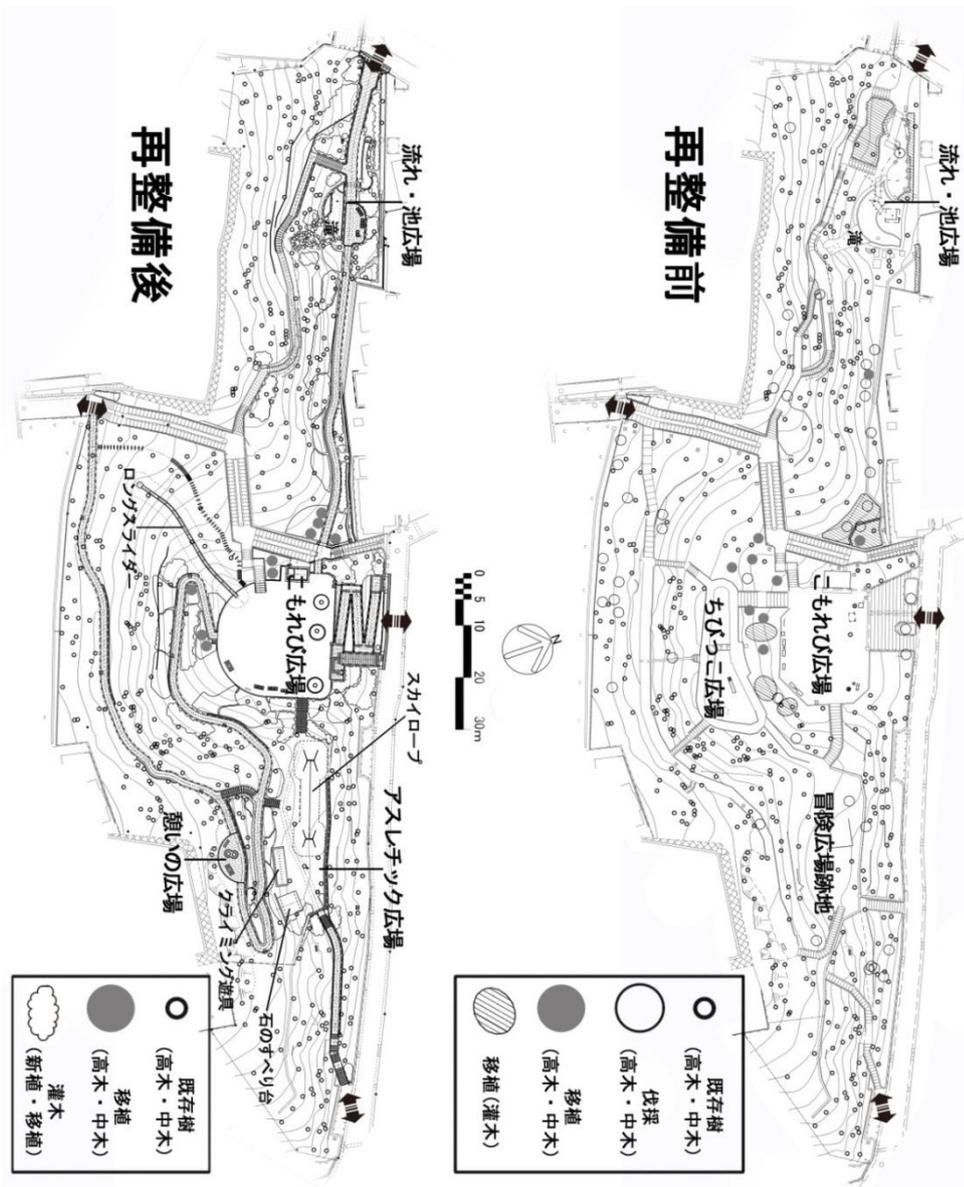


図 2-3 西台公園の再整備前後の空間構成の変化<sup>4)</sup>

### (1) 斜面林内の園路

比高 16m の北向き斜面に位置した西台公園の南側から北側の低地への移動に関して、中央斜面林内の園路はバリアフリー新法の傾斜路の整備基準に満たず<sup>5)</sup>、幅約 1.2 m、傾斜角度 5%以下の全面スロープが設置された。さらに、北側出入り口の階段にスロープを設置し、円満な移動を考慮したバリアフリーを図った再整備が行われた。また、公園の利用面積の拡大を意図し、分断されていた流れ・池広場からこもれび広場への新たな園路の整備など多様なルート<sup>6)</sup>の園路が整備されたことが分かった。



写真 2-1 再整備前の斜面林内の園路①



写真 2-2 再整備前の斜面林内の園路②



写真 2-3 再整備前の斜面林内の園路③



写真 2-4 再整備後の斜面林内の園路①



写真 2-5 再整備後の斜面林内の園路②



写真 2-6 再整備後の流れ・池広場  
-こもれび広場の園路

## (2) 空間構成と施設の変化

再整備前のちびっこ広場の幼児用のすべり台1基、こもれび広場のベンチ、トイレ、流れ・池広場の東屋などすべての施設は撤去した上で、空間構成の変化に沿った施設の拡充が行われた。具体的に、こもれび広場は従前のちびっこ広場を撤去し、斜面地形の復元と同時に、広場の面積が拡大された。さらに、トイレの改修やテーブルベンチの新設など、多目的な利用を図った再整備が行われた。また、中央部の斜面に全長32mのロングスライダーの整備が行われた。冒険広場の跡地には新たにアスレチック広場としてスカイロープ、クライミング遊具、石のすべり台といった児童向けの遊具3基の拡充が行われた。そして、冒険広場の跡地の北側に隣接した斜面林内の園路の一部空間に憩いの広場を新たに設け、テーブルベンチを設置し、キンラン・ギンランなどの自然観察や樹林地内での休憩を図った再整備が行われた。そして、水音の苦情により、使われていなかった池と滝の改修と共に、周辺の休憩空間の拡充が行われ、水資源を活かしたビオトープを意図した再整備が行われた。しかし、ヒアリング調査によると、再整備後、再び池の水音に関する苦情により、流水が止まっている状況であることが分かった(表2-9)。

表 2-9 西台公園の再整備による主な施設の変化

施設	再整備前	再整備後
ベンチ	5基	5基+テーブルベンチ2基
東屋	1箇所	無し
水飲み台	2基	2基
遊具	幼児用すべり台1基	ロングスライダー1基 スカイロープ1基 クライミング遊具1基 石のすべり台1基
トイレ	1箇所	1箇所(多目的トイレ)



写真 2-7 再整備前の東屋



写真 2-8 再整備前の遊具  
(旧ちびっこ広場)



写真 2-9 再整備前の冒険広場跡地



写真 2-10 再整備前のこもれび広場



写真 2-11 再整備前の流れ・池広場



写真 2-12 再整備後の遊具①



写真 2-13 再整備後の遊具②



写真 2-14 再整備後の憩いの広場



写真 2-15 再整備後のこもれび広場



写真 2-16 再整備後の流れ・池広場

### (3) 植栽

見通しの確保や枯損木の整理による斜面林の保全のために、ワークショップでの住民立会いによるすべての樹木の確認を経て、中高木 42 本の伐採と 9 本の移植が行われた。一方、灌木は流れ・池広場ともれび広場周辺に、新たな新植と移植が行われ、流れ・池のビオトープの機能の強化や再整備による施設の撤去、地形の変化による斜面林の減少の対策を意図した再整備が行われたことが確認できた。

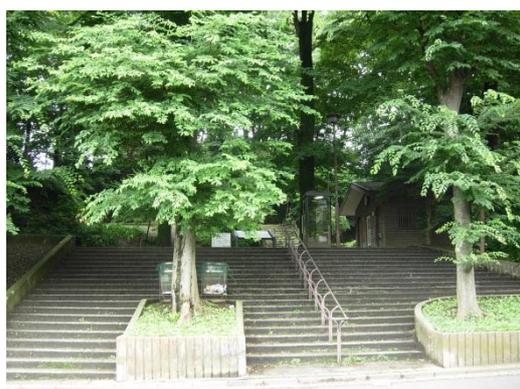


写真 2-17 再整備前の出入口



写真 2-18 再整備前の園内の見通し①



写真 2-19 再整備前の園内の見通し②



写真 2-20 再整備後の出入口



写真 2-21 再整備後の  
こもれび広場の新植



写真 2-22 再整備後の園内の見通し

#### (4) まとめ

西台公園の再整備前後の各種図面や再整備前の写真、現地確認を通じて、再整備による空間構成の変化を確認した結果、以下のようにまとめられる。

西台公園は従前の公園の問題であった、施設の老朽化や斜面の樹木の繁茂・樹勢の衰退による荒廃を解決し、斜面林の保全とバリアフリー機能の強化といった行政からの課題認識と子供が安心して遊べる明るい公園への改善、荒廃した斜面林の修復といった地域住民の要望を背景に再整備が行われた。

まず、比高差 16m の北向き斜面に位置した西台公園の北側から南側の低地への移動に関して、中央斜面林内の園路の全面スロープ化と南側出入り口の階段にスロープを設置し、バリアフリーを図った再整備が行われた。

さらに、公園の利用面積の拡大を意図し、分断されていた流れ・池広場からこもれび広場への新たな園路の整備など多様なルートの園路が整備されたことが分かった。

また、植栽は、見通しの確保や枯損木の整理による斜面林の保全のために、中高木 42 本の伐採と 9 本の移植が行われた。一方、灌木は流れ・池広場とこもれび広場周辺に、新たな新植と移植が行われ、流れ・池のビオトープの機能の強化や再整備による施設の撤去、地形の変化による斜面林の減少の対策を意図した再整備が行われたことが確認できた。

そして、再整備前の幼児用のすべり台、ベンチ、トイレ、東屋などすべての施設は撤去した上で、空間構成の変化に沿った施設の拡充が行われた。具体的に、こもれび広場は従前のちびっこ広場を撤去し、斜面地形の復元と同時に、広場の面積が拡大され、トイレの改修やテーブルベンチの新設など、多目的な利用を図った再整備が行われた。さらに、中央部の斜面に全長 32m のロングスライダーの整備が行われた。冒険広場の跡地には新たにアスレチック広場としてスカイロープ、クライミング遊具、石のすべり台の遊具 3 基の拡充が行われた。

また、冒険広場の跡地の北側に隣接した斜面林内の園路の一部空間に憩いの広場を新たに設け、テーブルベンチを設置し、キンラン・ギンランなどの自然観察や樹林地内での休憩を図った再整備が行われた。

そして、水音の苦情により、使われていなかった池と滝の改修と共に、周辺の休憩空間の拡充が行われ、水資源を活かしたビオトープを意図した再整備が行われた。

以上のことから、西台公園の空間的特性である斜面林の保全・活用を図った上で、空間構成の変化により、撤去された斜面林や地形を最大限に復元した再整備が行われたと考えられる。具体的に、スロープ、冒険性のある遊具、斜面林内の休憩施設の設置や憩いの場の整備など斜面といった地形の特性を活用した空間整備と共に、ちびっこ広場や斜面林内の園路など一部施設の撤去が行われた斜面空間の地形や緑地の復元を図ったといえる。

つまり、空間的特性を保全・活用した上で、修復による空間的特性の継承といった設計意図による再整備が行われたことが推察できた。

### 3-1-2. 再整備による空間と利用に対する利用者の認識度の変化

再整備による空間と利用の変化に対する利用者の認識の変化を把握するために、1次アンケート調査を行った。再整備前後において長所と短所について調べ、比較を行った結果、「豊かな斜面林に位置した公園」、「高木による木陰で涼しげな公園」、「高木が多い」、「木や花など豊かな緑」といった4項目が再整備前後において公園の長所として過半数以上回答した。

さらに、「歩きやすい園路」、園路の移動しやすさ（車いす・ベビーカー）、「子供が安心して遊べる環境」の3項目は再整備前に比べ、再整備後に長所と回答した数は多く増え、過半数以上回答したことから再整備により、短所から長所へと認識の変化が行われているが分かった。

また、過半数以上の回答に達していないが、「閑静な住宅街に囲まれた静かな公園」、「成熟した緑」、「絶滅危惧類であるキンラン・ギンランの自生地」、「散歩やウォーキングなど運動ができる」、「多様な植生から自然体験ができる公園」、「樹林内での散歩」といった6項目が再整備前後に比べ、長所と回答した数の変化が少なかったことから、再整備前後において長所として認識していることが確認できた。そして、「バリアフリーによる利用しやすさ」の項目も再整備前後に比べ、長所と短所の回答数の変化が比較的に多くみられ、再整備により、短所から長所へと認識の変化が確認できた。一方、「広々とした多目的広場」、「お祭りなど多様なイベントが行われる公園」といった2項目は再整備前後に比べ、短所と回答した数の変化が少なかったことから、再整備前後において短所として認識されていることが分かった（表2-10）。

表 2-10 西台公園の再整備前後の空間と利用に対する認識の変化

No	項目	再整備前		再整備後	
		長所	短所	長所	短所
地形・周辺環境	Q1.閑静な住宅街に囲まれた静かな公園	14	0	16	0
	Q2.豊かな斜面林に位置した公園	33	2	30	2
空間構成	Q3.広々とした多目的広場	7	18	9	17
	Q4.目的により空間が分けられ、利用の混雑がない	8	4	6	3
	Q5.園内の各施設への移動しやすさ	11	12	14	11
	Q6.園内の見通しの良さ	5	24	10	8
空間要素(施設)	Q7.遊具施設の充実さ	18	12	14	19
	Q8.休憩施設の充実さ	7	7	12	6
	Q9.歩きやすい園路	11	15	39	5
	Q10.多様なルートの園路	8	3	9	1
	Q11.園路の歩きやすさ(車いす・ベビーカー)	3	28	29	6
空間要素(自然)	Q12.高木による木陰で涼しげな公園	32	1	28	1
	Q13.成熟した緑	19	3	16	2
	Q14.絶滅危惧類であるキンラン・ギンランの自生地	14	0	14	0
	Q15.池・滝がある水辺	23	5	12	8
	Q16.高木が多い	38	2	33	1
	Q17.木や花など豊かな緑	40	0	38	0
利用	Q18.バリアフリーによる利用しやすさ	7	18	21	4
	Q19.散歩やウォーキングなど運動ができる	17	0	21	0
	Q20.多様な植生から自然体験ができる公園	17	0	15	0
	Q21.樹林内での散歩	20	0	18	0
	Q22.子供のボール遊びができる公園	4	5	2	9
	Q23.お祭りなど多様なイベントが行われる公園	1	20	1	21
	Q24.虫や鳥の観察ができる公園	22	1	8	2
	Q25.子供が安心して遊べる環境	9	21	28	3

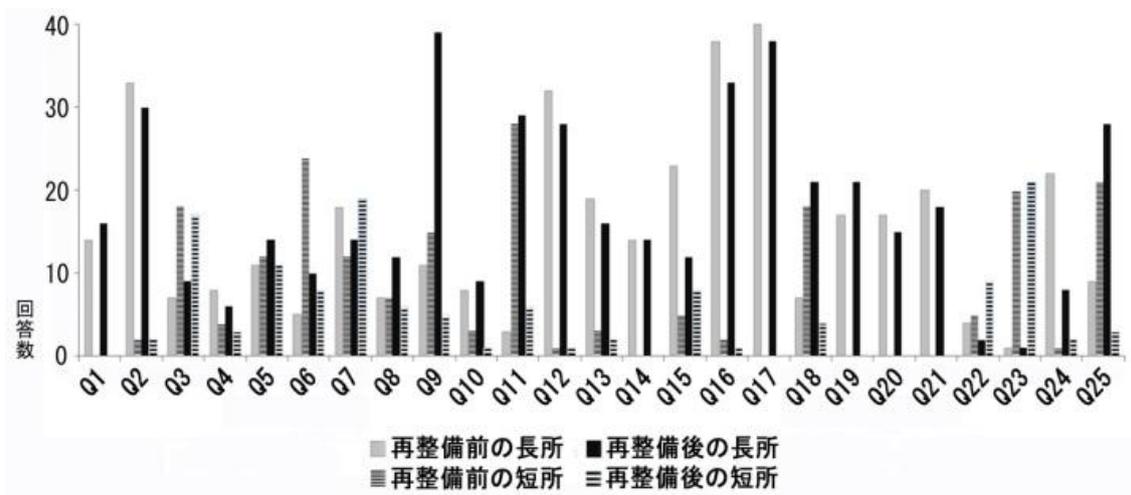


図 2-4 西台公園の再整備前後の空間と利用に対する認識の変化

以上のことから、斜面に有する豊かな自然環境と斜面林での散歩や運動を再整備前後における公園の特性として利用者に認識されていると考えられる。また、中央斜面林内の園路と出入口のスロープ化による園路のバリアフリー、一部の樹木の整理による明るい公園へのイメージ改善が再整備後の新たな特性として認識されていると考えられる。つまり、従前公園がもつ斜面地形や植栽といった公園資産を保全・活用した再整備が行われたと推察できた。一方、地域住民による多様なイベントの開催など広場での多目的な活動と広場の面積に関する不満は改善されなかつたと考えられる。

### 3-1-3. ヒアリング調査の結果まとめ

表 2-11 西台公園のヒアリング調査の結果まとめ

従前公園の利用状況	散歩や犬連れの利用者が多い。 安全事故の発生などにより、近所小学生の立ち入り禁止。 斜面林内の園路や階段からの通行人が多い。 池・滝は騒音による近所の住民からの苦情で、止まっている。
従前公園の問題点	斜面林内の園路や階段は急傾斜で、段差が多く、歩きにくい。 樹木の繁茂により、園内の見通しが悪く、暗い。 斜面樹木の樹勢の悪化、斜面の崩壊の危険性 遊具施設が少なく、子供の利用が殆どない。
公園に対する要望及び課題	斜面林内の園路のバリアフリー 遊具施設の拡充 武蔵野台地の崖線みどりの保全 安全安心な子供の利用

公園に対する住民の要望、行政から出された課題、再整備の目的、公園資産の保全・活用、そして、それに対応した設計意図を確認するために、ヒアリング調査を行った結果、西台公園は斜面地形や斜面林といった自然環境を公園資産をととして捉え、保全・活用した再整備が推進されたことが確認できた。

従前公園の最大の問題であった斜面林内の園路や階段の急傾斜による移動の不便さや施設の老朽化、園内の見通しの悪化による子供の利用の低下を解決するために、斜面林内の園路のバリアフリー、遊具の拡充、みどりの保全といった要望や課題に対応した設計意図で再整備が行われたことが分かった（表 2-11）。

### 3-1-4. 再整備による利用形態の変化

#### (1) 再整備による利用頻度・利用時間の変化

再整備による公園利用の変化を把握するために、利用時間、利用頻度について5段階評価を行い、再整備前後の平均値を比較した。その結果、「利用頻度」、「利用時間」、「満足度」について再整備前後に有意な差があることが明らかになった（図2-5）。

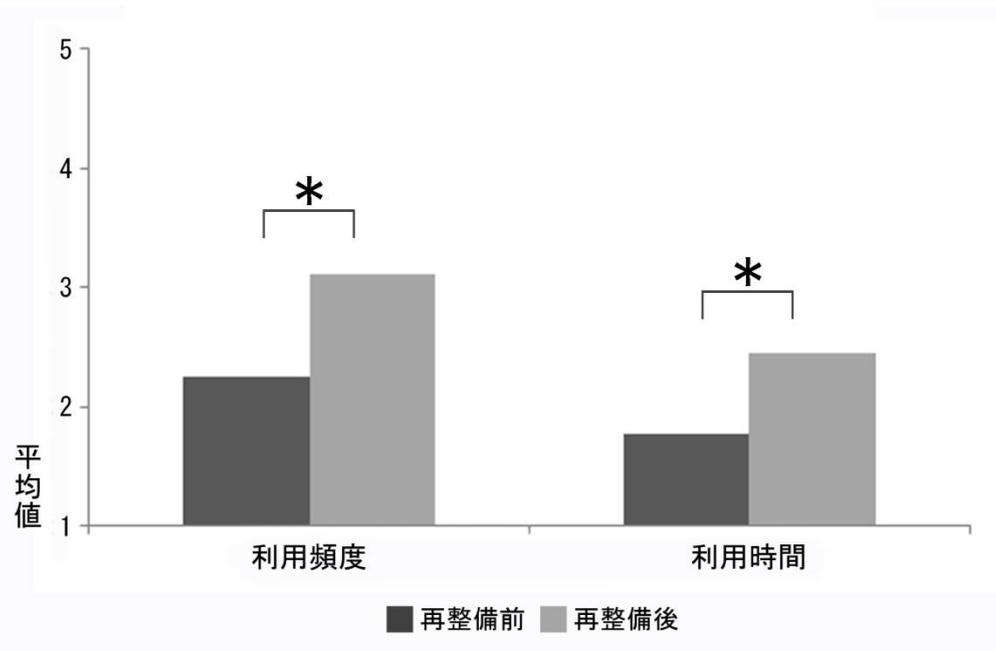


図2-5 西台公園の再整備前後の利用形態の比較

ノンパラメトリック検定の結果、\*は有意差があることを示す ( $p < 0.05$ )

表2-12 記述統計量

		N	平均値	標準偏差
再整備前	利用頻度	101	2.2475	1.16109
	利用時間	101	1.7624	.80185
再整備後	利用頻度	101	3.1188	.96216
	利用時間	101	2.4554	.92222

表2-13 検証統計量

	再整備後の利用頻度 - 再整備前の利用頻度	再整備後の利用時間 - 再整備前の利用時間
Z	-6.637 <sup>a</sup>	-6.474 <sup>a</sup>
漸近有意確率 (両側)	.000	.000

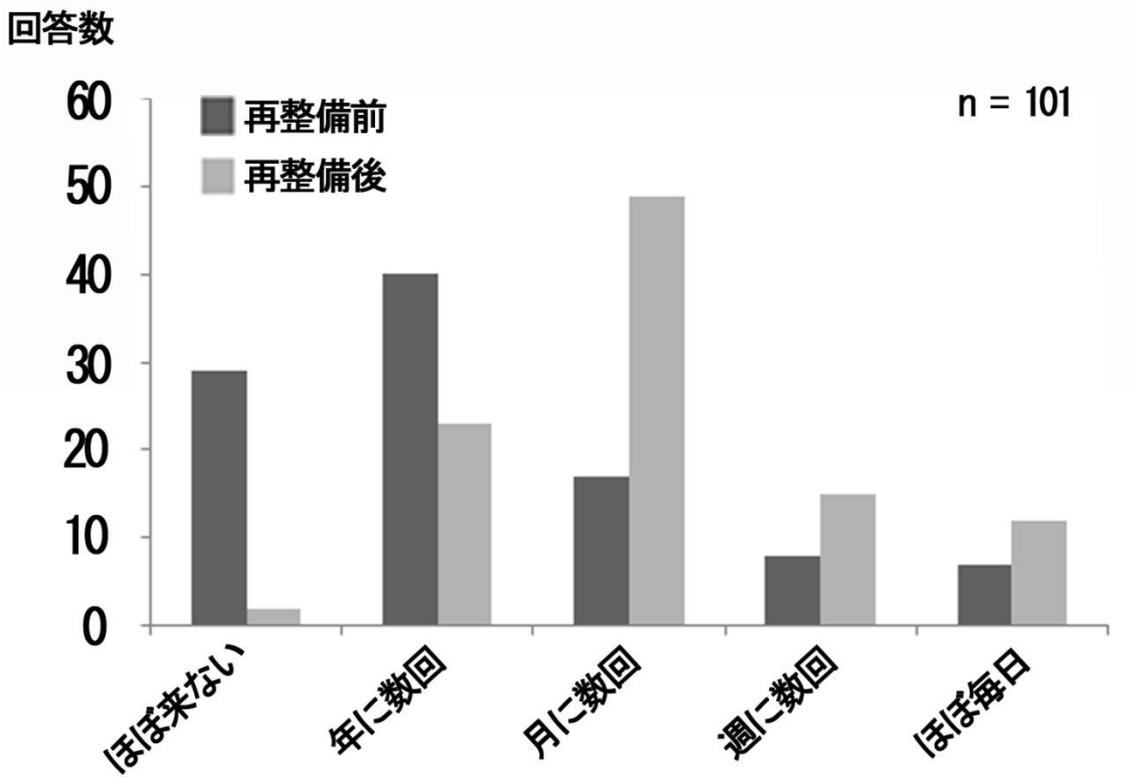


図 2-6 西台公園の再整備前後の利用頻度の変化

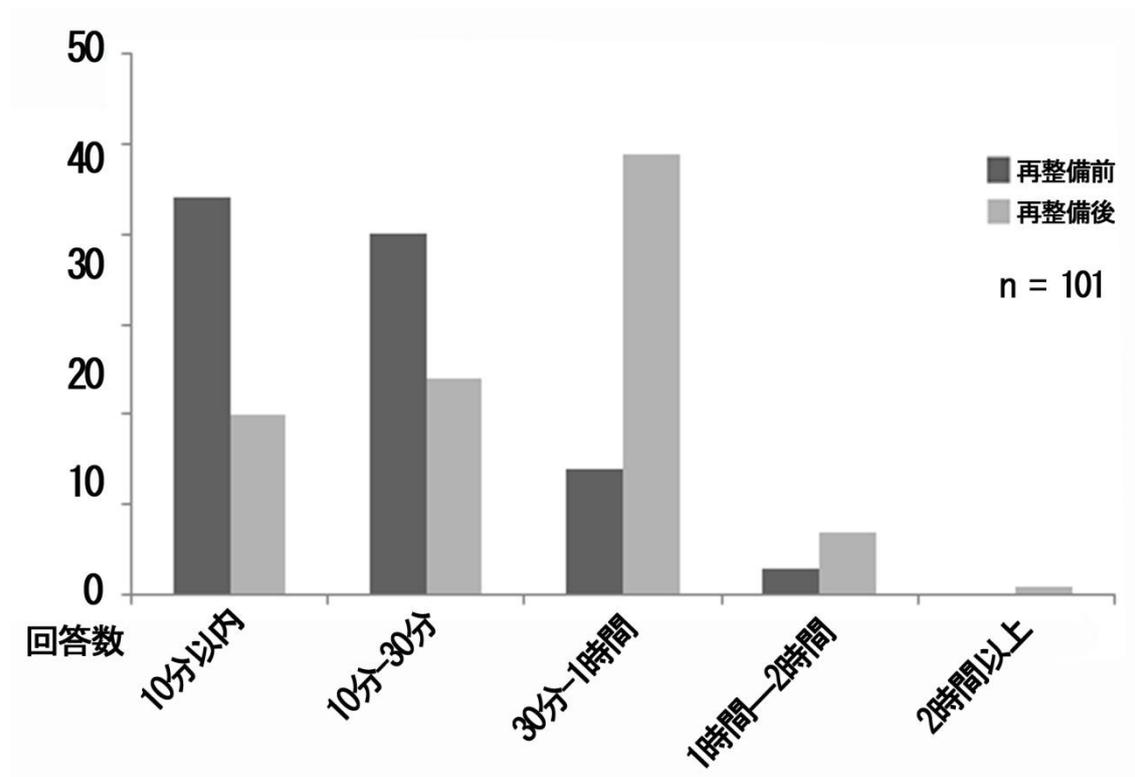


図 2-7 西台公園の再整備前後の利用時間の変化

## (2) 再整備による利用目的の変化

再整備による利用目的の変化を把握するために、再整備前後の利用目的について比較を行った。その結果、「ペットと遊ぶ」除き、「散歩」、「休憩」、「子供を遊ばせる」、「通過」といった再整備前後の主な利用を目的とした利用者の増加が確認できた。さらに、「運動・スポーツ」、「会話を楽しむ」を目的とした利用者が再整備により、新たに増えていることが分かった（図 2-8）。

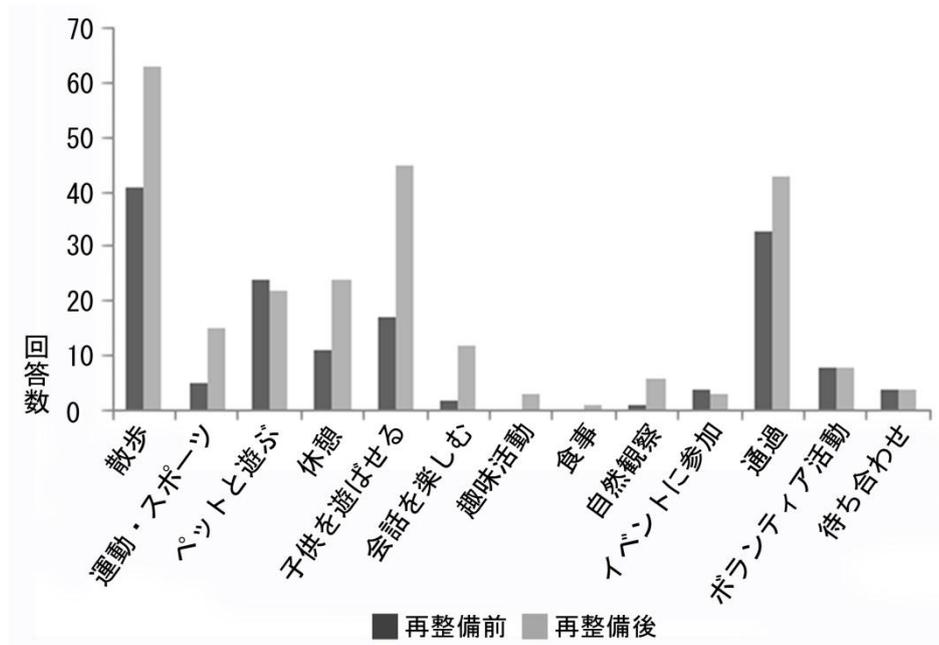


図 2-8 西台公園の再整備前後の利用目的の変化

表 2-14 西台公園の再整備前後の利用目的の変化

利用目的	再整備前		再整備後	
	回答数	%	回答数	%
散歩	41	27.3%	63	25.3%
運動・スポーツ	5	3.3%	15	6.0%
ペットと遊ぶ	24	16.0%	22	8.8%
休憩	11	7.3%	24	9.6%
子供を遊ばせる	17	11.3%	45	18.1%
会話を楽しむ	2	1.3%	12	4.8%
趣味活動	0	0.0%	3	1.2%
食事	0	0.0%	1	0.4%
自然観察	1	0.7%	6	2.4%
イベントに参加	4	2.7%	3	1.2%
目的地への移動	33	22.0%	43	17.3%
ボランティア活動	8	5.3%	8	3.2%
待ち合わせ場所	4	2.7%	4	1.6%

### (3) 再整備による利用空間の変化

再整備による空間の変化と利用特徴を調べるために、再整備前後のよく利用する場所を比べた結果、再整備前に比べ、再整備後のマッピング数の合計が増加し、全体的に広く利用されていることが分かった。さらに、再整備前の冒険広場跡地は再整備後にアスレチック広場として多様な遊具を利用する利用者が多く増えたことが確認できた。また、こもれび広場、中央斜面林内の園路（スロープ）をよく利用する利用者が整備前に比べ、再整備後に増加していることが確認できた。一方、流れ・池広場、中央斜面階段、西側斜面林内の園路（階段）を利用する利用者は再整備前に比べ、再整備後減っていることが分かった（図 2-15）。

表 2-15 西台公園の再整備前後の公園の利用空間

場所	再整備前	再整備後
	マッピング数	
①こもれび広場	34	51
②流れ・池広場	22	16
③ちびっこ広場(遊具) *	23	-
④冒険広場跡地 *	11	-
⑤憩いの広場 *	-	18
⑥南側入口	1	1
⑦北側入口	2	4
⑧斜面すべり台 *	-	42
⑨スカイロープ *	-	29
⑩クライミング遊具 *	-	9
⑪石のすべり台 *	-	3
⑫トイレ	2	7
⑬中央斜面園路(スロープ)	52	68
⑭中央斜面階段	45	31
⑮西側斜面園路(階段)	30	19
⑯東側斜面園路(階段)	3	12
⑰池-こもれび広場の園路 *	-	26
<b>合計</b>	<b>225</b>	<b>336</b>

\* は再整備による撤去及び新設

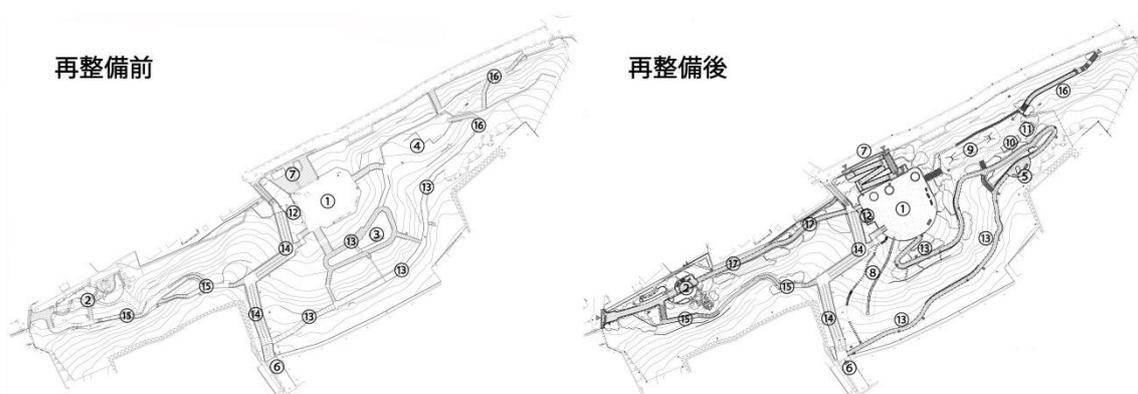


図 2-9 西台公園の再整備前後の公園の利用空間

#### (4) まとめ

西台公園の再整備前後の利用形態の変化を把握するために、2次アンケートを行った結果、以下のようにまとめられる。

まず、再整備前後の利用頻度、利用時間を比較した結果、再整備前後に有意な差があることから、再整備後の公園が再整備前と比べ、より頻繁に、長い時間利用されていることが明らかになった。つまり、再整備による空間構成の変化が公園の利用促進に良い影響を及ぼしたと考えられる。

次に、再整備前後の利用目的について比較を行った結果、「ペットと遊ぶ」除き、「散歩」、「休憩」、「子供を遊ばせる」、「通過」といった再整備前後の主な利用を目的とした利用者の増加と「運動・スポーツ」、「会話を楽しむ」を目的とした利用者が再整備により、新たに増えていることが確認できた。このことから、斜面を用いたスロープや遊具の整備、憩いの広場の野外卓の設置など新たな空間の整備と施設の拡充が公園の役割や活用範囲の拡大に良い影響を及ぼしたと考えられる。

次に、再整備による利用空間の変化を把握するために、再整備前後のよく利用する場所を調べ、比較した結果、再整備前の冒険広場跡地は再整備後にアスレチック広場として多様な遊具を利用する利用者の増加ともれび広場、中央斜面林内の園路（スロープ）をよく利用する利用者が整備前に比べ、再整備後に増加していることが分かった。これより、多様なルートでの園路の整備による歩行空間の拡大と園路のスロープ化などバリアフリーによる歩行空間の改善といった設計意図が反映された再整備手法は公園の利用促進や利用空間の拡大に有効であったと考えられる。また、斜面地形を活かした多様な遊具の拡充が子供の利用促進に良い影響を及ぼしていると考えられる。つまり、西台公園の資産として認識されていた豊かな緑地の保全と斜面地形を活用した空間整備と共に、ワークショップから出された公園に対する住民の要望や行政からの課題に応じられた再整備が行われ、多面的な公園利用や利用促進に有効であったと考えられる。

### 3-1-5. 再整備による公園の評価と利用満足度

#### (1) 住民の要望や行政の課題に応じた設計意図の有効性の評価と満足度との関係

ヒアリング調査で把握した地域住民の要望や行政からの課題、それに対応した設計意図を内容とした19項目の利用者評価が再整備前後の公園満足度に与える効果及び影響を調べた結果、まず、すべての項目は5段階評価を行い、平均点を算出した。

その結果、公園のイメージ改善、バリアフリー、公園に対する満足度に関する項目では平均3.5点以上と高く評価されていることが分かった。さらに、緑の保全と公園イメージの改善に関する項目では1項目を除き、すべての項目が4点以上と非常に高く評価されていることが確認できた。

しかし、「鳥や虫などの自然観察」、「キンラン・ギンランの自生地保護」、「多目的利用ができる広場の広さ」、「樹木や斜面の崩壊する危険性」に関する項目は3.5以下と低く評価されていることが分かった。次に、公園に対する満足度と19評価項目との相関分析を行った。その結果、◎付きの10項目と満足度とにやや強い有意な正の相関が確認できた(表2-16)。

表2-16 西台公園の設計意図の有効性の評価と満足度との関係

大別	項目	平均点数	満足度 (相関係数)
公園利用	公園の利用者が増えましたか?	3.97	.360**
	子供(幼児・児童)の利用は増えましたか?	4.26	.266**
	鳥や虫などの自然観察を楽しめるようになりましたか?	2.87	.423** ◎
緑の保全	キンラン・ギンランの自生地の保護は十分だと思いますか?	3.17	.274**
	成熟した緑を感じられますか?	4.13	.407** ◎
	高木は十分保護されたと思いますか?	4.06	.427** ◎
	公園内のみどりは十分保護されたと思いますか?	4.03	.554** ◎
公園の イメージ改善	植生・植栽の整理により、公園内部の見通しは良くなりましたか?	3.76	.378**
	ホームレス・不審者がいなくなりましたか?	4.09	.382**
	公園が明るくなり、子供が安心して遊べるようになりましたか?	4.33	.416** ◎
	メインの出入口に隣接した道路からの見通しは良くなりましたか?	4.27	.452** ◎
バリアフリー	段差のない園路の整備により、公園内を移動しやすくなりましたか?	4.24	.490** ◎
	改修によりトイレは、使いやすくなりましたか?	4.10	.394**
	身体の不自由な高齢者・障害者が利用しやすくなりましたか?	3.94	.376**
空間構成	園内の各施設へ移動しやすくなりましたか	3.93	.489** ◎
	公園をより広く使えるようになりましたか?	3.74	.537** ◎
	広場は多目的に利用する上で十分な広さですか?	3.14	.280**
地形・周辺環境	樹木や斜面が崩壊する危険性は解消されたと思いますか?	3.23	.391**
	武蔵野台地の崖線のおもかげが感じられるような再整備がなされたと思いますか?	3.82	.426** ◎
公園に対する満足度		4.15	-

\*\* : p < 0.01

\* : p < 0.05

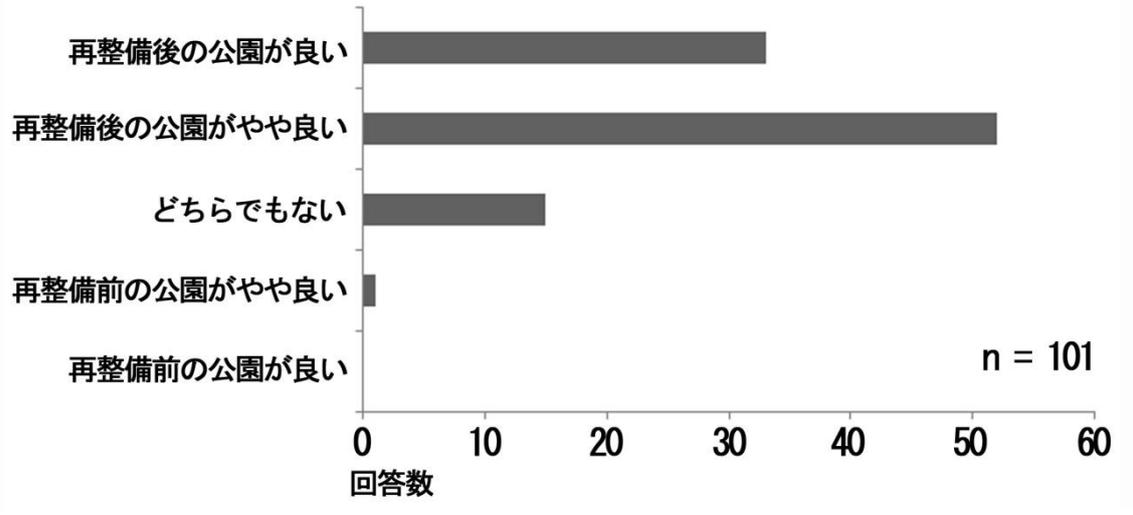


図 2-10 西台公園の利用満足度

## (2) 公園資産を保全・活用した空間と施設の評価

公園の資産を保全・活用した設計意図を基に 36 項目を設定し、主に利用の拠点となる空間と各施設の具体的な評価が再整備前後の公園満足度に与える効果及び影響を調べた結果、まず、こもれび広場は「子供が遊べる十分な広さ」、「自然環境を損わない範囲での整備」、「ちびっこ広場の撤去とその跡地の地形・植生の復元」といった 3 項目が 3.5 点以上と高く評価していることが分かった。

しかし、「こどものボール遊び」、「休憩施設の充実度」、「自然を感じられるような新規植栽・移植」、「雨天後の水はけ」の 4 項目では 3.5 点以下と低く評価されていることが確認できた。満足度との相関関係をみると、「自然環境を損わない範囲での整備」、「ちびっこ広場の撤去とその跡地の地形・植生の復元」の 2 項目と満足度の間にやや強い有意な正の相関が確認できた。

次に、憩いの広場は「自然を感じながらの休憩」、「自然環境を損わない範囲での整備」、「周辺園路の撤去と地形・植生の復元」といった 3 項目が 3.5 点以上と高く評価されていることが確認できた。一方、「テーブルベンチの利用」の項目は 3.5 点以下と評価されていることが分かった。満足度との相関関係をみると、3.5 点以上と高く評価されていた 3 項目と満足度の間にやや強い有意な正の相関が確認できた。次に、流れ・池広場は 3.5 点以上と評価された項目は「水辺のベンチの整備による休憩のしやすさ」の項目のみで、すべての項目は 3.5 点以下と低く評価されていたことが確認できた。すべての項目は満足度との強い相関は見られなかった（表 2-17）。

表 2-17 西台公園の再整備後の空間の評価と満足度との関係

大別	項目	平均点数	満足度 (相関係数)
こもれび広場	子供が遊べる十分な広さが確保できていると思いますか	3.72	.337**
	子供がボール遊びを楽しめるようになりましたか	2.71	.031
	広場内のベンチやテーブルなど休憩施設は充実したと思いますか	3.35	.205*
	広場の整備は斜面林の自然環境を損わない範囲で行われたと思いますか	3.77	.574**
	広場周辺では、自然を感じられるような新規植栽・移植が行われたと思いますか	3.22	.349**
	再整備により、「ちびっこ広場」が撤去される一方で、その跡地に地形・植生が復元されましたが、どう思いますか	3.80	.432**
	雨天後の水はけは良くなりましたか	2.94	.278**
憩いの広場	憩いの広場が整備されたことで、自然を感じながら休憩できるようになりましたか	3.86	.427**
	休憩できるテーブルベンチが置かれましたが、よく使いますか	2.88	.385**
	憩いの広場の整備は斜面林の自然環境を損わない範囲で行われたと思いますか	3.91	.590**
	憩いの広場周辺の園路の一部が撤去される一方で、地形・植生が復元されましたが、どう思いますか	3.88	.577**
流れ・池広場	流水による騒音で、水が止められている状況ですが、池を復活させたいと思いますか	3.29	.177
	池と滝を活用した水辺のビオトープはこの公園にふさわしい施設だと思いますか	3.45	.193
	水辺でのベンチの整備により、休憩しやすくなりましたか	3.75	.305**
	流れ・池の広場は園内の適切な場所に整備されたと思いますか	3.46	.339**

\*\* :  $p < 0.01$

\* :  $p < 0.05$

表 2-18 西台公園の再整備後の施設の評価と満足度との関係

大別	項目	平均点数	満足度 (相関係数)
出入口	スロープや手すりの整備により、園内の移動がしやすくなりましたか	4.36	.494**
	入口からの園内の見通しは良くなりましたか	4.40	.429**
	階段やスロープは歩きやすくなりましたか	4.39	.582**
	出入口の駐輪場の整備により、自転車での公園利用が増えたと思いますか	3.43	.458**
園路	斜面林内のスロープは車いすやベビーカーの移動に十分な幅ですか	3.48	.303**
	斜面林内のスロープは車いすやベビーカーの移動しやすい勾配ですか	3.18	.391**
	スロープの舗装は歩きやすいですか	4.29	.460**
	階段は歩きやすくなりましたか	3.47	.218*
	樹林内で散歩や運動を楽しめるようになりましたか	4.06	.504**
	斜面の地形や樹木を最大限に残しながら園路が整備されたと思いますか	4.17	.626**
	多様なルートの整備により、園内は移動しやすくなりましたか	3.99	.555**
	斜面林内の園路の一部が撤去される一方で、地形・植生が復元されましたが、どう思いますか	4.02	.616**
遊具	幼児が楽しく遊べる遊具は充実していると思いますか	2.98	.227*
	児童が楽しく遊べる遊具は充実していると思いますか	3.25	.243*
	斜面林に位置する公園にふさわしい遊具が整備され、子供が楽しめるようになりましたか	3.76	.271**
	斜面を上手く活用したすべり台は魅力的であり、子供の公園利用が増えたと思いますか	4.39	.411**
	すべり台の材質、長さ、勾配は幼児の利用に適切だと思いますか	4.03	.530**
	アスレチック遊具の整備により、子供の公園利用が増えたと思いますか	3.58	.369**
	アスレチック遊具の材質、高さ、難易度は幼児の利用に適切だと思いますか	3.15	.384**
	クライミング遊具と石のすべり台は適切な場所に整備されたと思いますか	3.37	.322**
遊具による子供の事故の危険性はあると思いますか	2.97	.293**	

\*\* :  $p < 0.01$

\* :  $p < 0.05$

次に、施設に関する評価結果をみると（表-6）、出入口は 1 項目を除き、すべての項目が 4 点以上と非常に高く評価されていることが分かった。また、すべての 4 項目と満足度との間に、やや強い有意な正の相関が確認できた。次に、園路は「スロープ舗装の歩きやすさ」、「樹林内での散歩や運動」、「斜面の地形や樹木の保全と園路の整備」、「園路の一部の撤去とその跡地の地形・植生の復元」といった 4 項目が 4 点以上と非常に高く評価されていることが確認できた。

一方、「車いすやベビーカーの移動に関する園路の幅」、「車いすやベビーカーの移動に関する園路の勾配」、「階段の歩きやすさ」といった 3 項目は 3.5 点以下と低く評価されていることが分かった。

そして、満足度と評価項目との相関分析の結果、「スロープ舗装の歩きやすさ」、「樹林内での散歩や運動」、「多様なルートの整備による移動のしやすさ」といった 3 項目と満足度との間に、やや強い有意な正の相関が確認できた。特に、「斜面の地形や樹木の保全と園路の整備」、「園路の一部の撤去とその跡地の地形・植生の復元」の 2 項目は強い有意な正の相関が見られた。

次に、遊具は「斜面を活用したすべり台の子供の利用」、「幼児の利用に対するすべ

り台の材質・長さ・勾配」といった2項目が4点以上と非常に高く評価されていることが分かった。しかし、「幼児の利用への遊具の充実度」、「児童の利用への遊具の充実度」、「幼児の利用に対するアスレチック遊具の材質・高さ・難易度」、「クライミング遊具と石のすべり台の位置」、「遊具の子供の事故の危険性」といった5項目は3.5点以下と低く評価されていることが確認できた。そして、4点以上と高く評価された2項目と満足度との間にやや強い有意な正の相関が確認できた（表2-18）。

### (3) まとめ

ヒアリング調査で把握した公園に対する住民の要望や行政の課題、公園資産の保全と活用に対応した設計意図を内容とする19の評価項目と公園の資産を保全・活用した設計意図を基に36項目を設定し、主に利用の拠点となる空間と各施設の具体的な評価が公園の満足度に与える効果及び影響を調べるために、2次アンケート調査を行った結果、以下のようにまとめられる。

公園再整備により、斜面林内の園路や出入口のスロープ、テーブルベンチ、冒険性のある遊具などの施設の新設とトイレや園路の舗装の改修、住民の立会確認による植栽の適切な整理などの空間整備が行われた。その結果、施設の老朽化と見通しの悪化による子供の利用率と安全性の低下、急勾配や階段による園内の移動の不便といった従前公園の問題を解決し、斜面林の保全、安全安心な子供の利用、公園のバリアフリーという再整備の目的が達成され、高い評価と満足度に良い影響を及ぼした可能性が推察できる。

また、斜面林を損わない範囲での施設や広場の拡充に加えて、撤去した一部斜面空間の地形や緑地の積極的な修復を図った設計意図による再整備が行われ、公園資産の保全・活用と修復が高い満足度につながった可能性が指摘できる。

しかし、鳥や虫などの自然観察と斜面に有するキンラン・ギンランの自生地の保護に関する項目は低く評価されたことから、斜面林と水資源をビオトープといった都市公園には数少ない自然要素を有する公園として、自然的特性の保全は無論、資産の有効利用の観点から、生態系の循環機能まで考慮し、都会に残る貴重な自然体験の場として整備していく必要があると考えられる。

そして、空間については、再整備による空間の変容に伴い、斜面地形や植生の復元が行われたこもれびと憩いの広場のように、斜面地形の豊かな自然環境といった従前公園の空間的な特性である公園資産の保全はもとより、最大限に復元させることは、従前空間の活用及び拡大、新規空間の創出に加え、施設の拡充を行う一般的な再整備手法に比べ、高い評価と満足度につながり、公園全体の価値向上で、有効な自然保全型公園の空間設計手法であると考えられる。

一方、こもれび広場での子供の利用、休憩施設の充実度、雨天後の水はけ問題の改善に関して低い評価が得られたことから、多目的な広場として整備されたこもれび広場に、再整備後、子供を遊ばせるという目的で訪れる「親子連れ」という特定の利用層の急激な増加に対し、空間構成や施設の機能が対応しきれなかった可能性が想定される。斜面という広場と施設の整備に制約がある地形条件では広場に隣接した施設の配置、機能性を考慮し、利用形態を想定した上で、空間と利用の整合性を図った再整備手法が高い評価と利用満足度に有効であると考えられる。

そして、平坦な地形に比べ、雨天の際に、大量の流水が発生する可能性が高い斜面地形に立地した都市公園は、日常的な地域の生活動線としての公園機能の強化のために、排水性舗装の整備、地形傾斜の調整による排水能力の向上など、水はけ対策の重要性が指摘できた。

また、流れ・池広場の水資源を活かしたビオトープは自然性の高い公園資産としての潜在力は有しているものの、低い評価や再整備後、再び水音の苦情により、流水が止まっている状況だった。このことから、都市部に立地した小規模の都市公園は、斜面地形や自然要素など、自然的な特性を基に、場所の妥当性や空間の機能性、存在価値が認められ、自然の保全・活用された空間であっても、それに対して、地域住民や利用者に受け入れられない場合もあることが指摘できた。つまり、自然保全型公園における自然空間の保全・活用の再整備手法には受け入れ可能な自然の形態や位置があり、必ずしも、自然の地形に従い、保全・活用する空間整備が正しいとは限らないことが推察できた。

さらに、地域住民が参加した再整備ワークショップで、ビオトープの重要性及び存在価値について、十分な議論がなされた上で、保全・活用されたものの、実際の評価が低かった。これより、限られた参加者からの意見というワークショップでの地域住民の意見収約の限界、かつワークショップの方法論の限界が原因であると考えられる。

施設に関しては、出入口は樹木の伐採、スロープの整備により、園内への移動の利便性の向上や見通しの改善が行われ、高い評価と満足度につながった可能性が指摘できる。特に、再整備前の南側出入り口の高木3本の伐採により、出入口から園内への見通しに関する項目が非常に高く評価されたことから、斜面のような地形条件の公園は低地側の出入口からの園内への見通しの確保が公園全体の見通しに関して高い評価につながる可能性が推察できた。

園路に関しては、斜面地形や植栽の保全と復元に関する項目が非常に高い評価と満足度との間に強い正の相関が見られた。このことから、斜面地形や豊かな緑地といった公園資産を保全・復元した上で、バリアフリー化された斜面の樹林地内で園路という歩行空間の利便性の向上を図った自然環境とのふれあいの場の創出を意図した再整備手法が高い評価と満足として現れたと考えられる。

一方、車いすやベビーカーの移動に関する幅や勾配、階段の歩きやすさについて低く評価されたが、地形上、樹木の根の保護や斜面の崩壊の危険の防止のためには、ある程度の制限は必要であると考えられる。

そして、斜面という地形条件を有した公園は「都市公園における遊具の安全確保に関する方針」の遊具の配置に関する安全領域の基準に満たすためには、一定の面積が必要となり<sup>6)</sup>、一般の遊具の設置は非常に困難である。西台公園は斜面という空間の特性を積極的に活用し、材質や勾配など安全性と管理面を考慮した冒険性のあるアス

レチック遊具の整備、特に斜面にロングスライダーの設置による子供の利用促進が行われ、高い満足度に良い影響を及ぼしたと考えられる。しかし、スカイロープやクライミング遊具、石のすべり台は材質・高さ・難易度が児童向けに設定された遊具であり、幼児向けの遊具の充実度に関する項目が非常に低く評価された。このことから、学校や幼稚園との距離、隣接した公園の遊具施設の利用状況など子供に関する周辺地域の状況把握を通じて、潜在的な子供の利用形態の想定を検討した上で、遊具整備を行う再整備手法が遊具に対する評価と満足度の向上で、有効であることが推察された。

3-2. 庄戸第二公園

3-2-1. 再整備による空間構成の変化

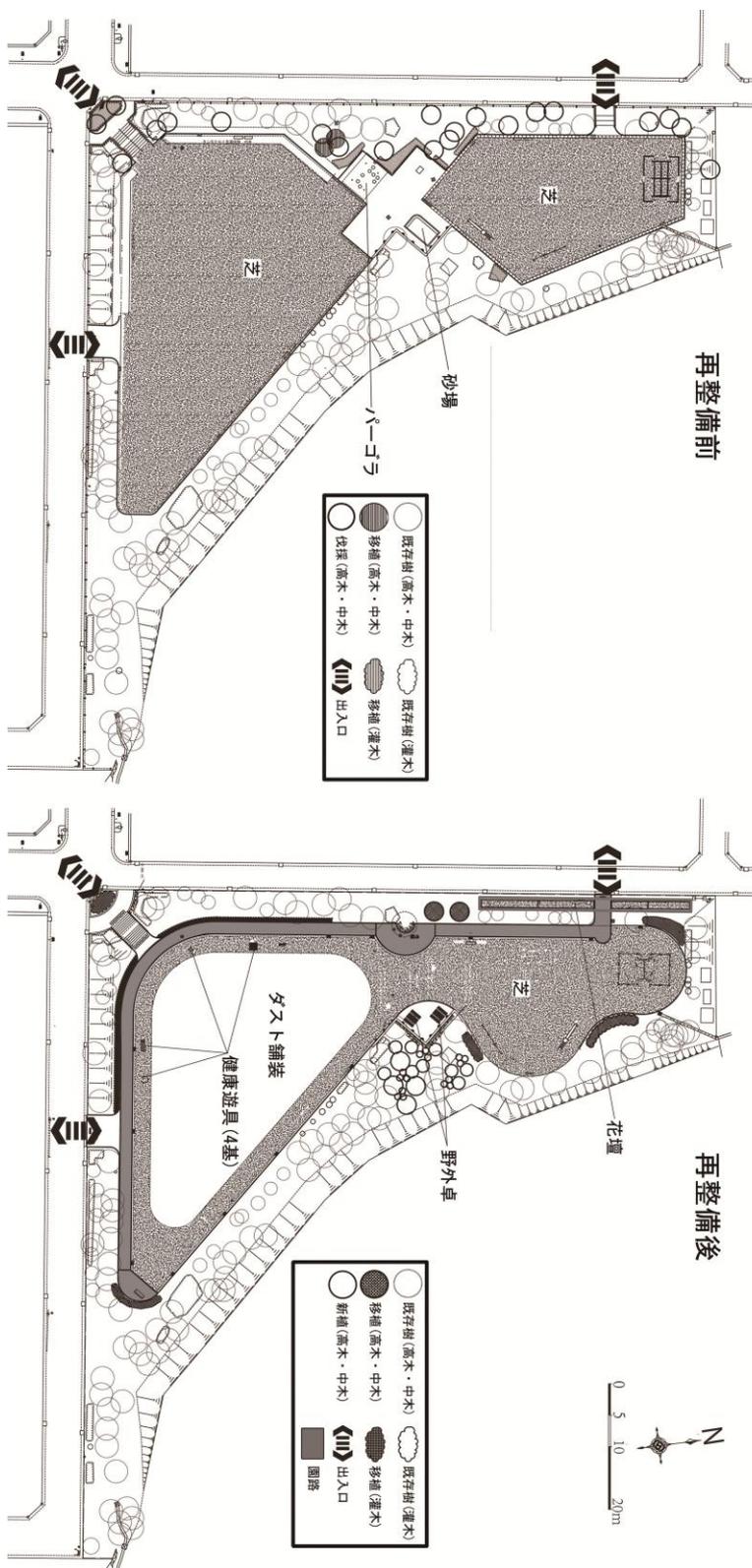


図 2-11 庄戸第二公園の再整備前後の空間構成の変化<sup>5)</sup>

### (1) 芝生広場

広場の面積は減らさず、再整備前には分離していた北側の遊具広場と南側の多目的広場を一体化させ、空間と利用の一体性を強めた再整備が行われたことが確認できた。さらに、南側の広場の芝の一部はダスト舗装とし、ゲートボールなどの運動や多目的な活動と芝管理の負担を減らすことを意図した再整備が行われたことがわかった。



写真 2-23 再整備前の広場①



写真 2-24 再整備前の広場②



写真 2-25 再整備後の広場①



写真 2-26 再整備後の広場②

## (2) 施設

施設に関しては中央部のパーゴラやベンチ2基、物置遊具8基、砂場は撤去され、ブランコ、滑り台、鉄棒の遊具3基はすべて新しく取り換えた。また、公園中央部に新たにテーブルベンチ2基、広場の外周部にベンチ4基を設置した。さらに、健康維持のための健康遊具4基と、公園のイメージの改善と地域住民の自発的な管理による公園利用の促進を目的に花壇の設置が行われ、高齢化が進む周辺環境に応じて高齢者の利用を重視した施設の整備が行われたことが分かった（表2-19）。

表 2-19 庄戸第二公園の再整備による主な施設の変化

施設	再整備前	再整備後
ベンチ	2基	4基+テーブルベンチ2基
花壇	無し	2か所（北側出入口）
パーゴラ	1箇所	無し
遊具	ブランコ1基 すべり台1基 鉄棒1基 砂場 物置遊具8基	ブランコ1基 すべり台1基 鉄棒1基 羊遊具1基
健康運動遊具	無し	4基
水飲み台	1基	1基



写真 2-27 再整備前の遊具①



写真 2-28 再整備前の遊具とパーゴラ



写真 2-29 再整備前の遊具②



写真 2-30 再整備前のベンチ



写真 2-31 再整備後の遊具



写真 2-32 再整備後のベンチ



写真 2-33 再整備後のベンチと水飲み台



写真 2-34 再整備後の健康運動遊具



写真 2-35 再整備後のテーブルベンチ



写真 2-36 再整備後の花壇

### (3) 園路

芝生広場の雑草による荒廃化、雨天後の水はけ問題など、園内での移動の利便性を確保するために、園路が整備された。公園のすべての出入口と広場の南面・西面に接する位置に計画され、出入口から広場とその周辺施設への円満な移動を可能としていることが分かった。さらに、出入口の段差を撤去し、バリアフリーを行った。



写真 2-37 再整備前の出入口



写真 2-38 再整備後の出入口



写真 2-39 再整備後の園路①



写真 2-40 再整備後の園路②

#### (4) 植栽

公園の西側の見通しの確保や落ち葉の問題の解決のために、マツ、アオギリ、キンモクセイを中心に樹木 21 本の伐採と 2 本の移植が行われた。また、空間構成の変化に沿って灌木の移植も行われた。一方、その他の樹木や広場の芝は保全されている。また、野鳥などの自然観察を考慮し、山林に隣接した中央部の野外卓 2 基を設置し、周辺に 28 本の樹木の新植が行われた。



写真 2-41 再整備前の見通し



写真 2-42 再整備後の見通し①



写真 2-43 再整備後の見通し②



写真 2-44 再整備後の中央部の新植

## (5) まとめ

庄戸第二公園の再整備前後の各種図面や再整備前の写真、現地確認を通じて、再整備による空間構成の変化を確認した結果、以下のようにまとめられる。

庄戸第二公園は従前公園の問題であった施設の老朽化と広場の管理不足による荒廃を解決し、汚くて暗い公園のイメージの改善という行政の課題認識や広場の水はけや見通しの悪さなどの苦情、花壇の設置や公園西側の樹木の整理といった住民の要望を背景に再整備が行われた。まず、広場の面積は減らさず、再整備前には分離していた北側の遊具広場と南側の多目的広場を一体化させ、空間と利用の一体性を強めた再整備が行われたことが明らかとなった。さらに、南側の広場の芝の一部はダスト舗装とし、ゲートボールなどの運動や多目的な活動と芝管理の負担を減らすことを意図した再整備が行われた。そして、公園の西側の見通しの確保や落ち葉の問題の解決のために、樹木 21 本の伐採と 2 本の移植が行われた。一方、その他の樹木や広場の芝は保全されている。また、野鳥などの自然観察を考慮し、山林に隣接した中央部の野外卓 2 基を設置し、周辺に 28 本の樹木の新植が行われた。施設に関してはブランコ、滑り台、鉄棒の遊具 3 基はすべて新しく取り換え、健康維持のための健康遊具 4 基と広場の水はけの問題への対応や園内の歩行空間の確保のための園路が設置された。園路は公園のすべての出入口と広場の南面・西面に接する位置に計画され、出入口から広場とその周辺施設への円満な移動を可能としている。また、公園のイメージの改善と地域住民の自発的な管理による公園利用の促進を目的に花壇の設置が行われ、高齢化が進む周辺環境に応じて高齢者の利用を重視した施設の整備が行われたことが分かった。

以上の結果から、庄戸第二公園の利用者に公園の資産として強く認識されている緑を改変したり、広場を保全・活用した再整備が行われたことが推察できた。具体的に、緑に関しては保全・活用を図った上で、芝生の一部ダスト舗装化や樹木の伐採・移植など資産としての特性を損わない範囲で改変されたといえる。広場については再整備前の南北広場を一体化させたり、園路の整備により、再整備前の諸課題の改善が図られたと言える。つまり、一体化した芝生広場にダスト舗装や園路を組み込むなど、従前資産を結合し、別の要素を付加することで、性能の改善・向上が図られたといえる。さらに、以上の整備が高齢者による利用や管理など、一定の限定を伴う利用想定の下に行われたと考えられる。

### 3-2-2. 再整備による空間と利用に対する利用者の認識度の変化

再整備による空間と利用の特性に対する利用者の認識の変化を把握するために、1次アンケート調査を行った。再整備前後における公園の特徴及び長所を調べ、比較を行った結果、「閑静な住宅地に囲まれた静かな公園」、「広々とした広場」、「移動及び歩行空間の良さ」、「木や花など緑が多い」、「多様な植栽」、「ゆったりとくつろげる公園」、「散歩、ウォーキングなど運動ができる」いった7項目が過半数以上回答した。

さらに、再整備前後の認識の変化を調べた結果、「移動及び歩行空間の良さ」、「明るく見通しの良さ」、「健康運動器具の充実」といった3項目は再整備前に比べ、再整備後に比較的多く公園資産として認識されていることが確認できた。

一方、過半数以上回答した7項目の中で、「移動及び歩行空間の良さ」以外の6項目は再整備前と再整備後の回答数に大きな変化は見られなかったことから、再整備の前後の公園の資産として認識されていることが確認できた(表2-20)。

表2-20 庄戸第二公園の再整備前後の空間と利用に対する認識の変化

項目		再整備前	再整備後	全体
地形・周辺環境	高台に立地し、富士山など周辺の眺めの良さ	9	7	16
	閑静な住宅街に囲まれた静かな公園	14	16	30
空間構成	遊具施設の充実さ	2	3	5
	広々とした広場	18	20	38
	移動及び歩行空間の良さ	11	15	26
	明るく見通しの良さ	3	19	22
	目的により空間が分けられ、利用の混雑がない	10	6	16
空間要素	遊具施設の充実さ	2	3	5
	健康運動器具の充実さ	0	7	7
	巨木が多い	10	8	18
	木や花など緑が多い	19	20	39
	照明設備の充実さ	0	1	1
	成熟した緑	8	5	13
	休憩施設の充実さ	10	11	21
	多様な植栽	14	11	25
利用	祭りなどイベントの際、使い勝手の良さ	3	2	5
	ゆったりとくつろげる公園	16	14	30
	散歩、ウォーキングなど運動ができる	15	17	32
	虫や鳥の観察ができる	13	9	22
	木陰が多く、夏にも涼しく過ごせる	9	7	16

以上の結果から、散歩など運動を目的とした広場での利用、山に隣接した公園として多様な植栽を持つ豊かな緑、住宅街に位置した身近な街区公園として静かに時間を過せる環境が庄戸第二公園の資産として利用者に認識されていると考えられる。また、園路や健康運動遊具の整備といった施設の拡充による公園利用の多様化と樹木の整理による明るい公園のイメージが再整備後の新たな公園の資産として認識されていると考えられる。つまり、従前公園が持つ豊かな植栽、広々とした広場、閑静な周辺環境といった公園資産を活用し、保全した再整備が行われたと推察できた。

### 3-2-3. ヒアリング調査の結果まとめ

表 2-21 庄戸第二公園のヒアリング調査の結果まとめ

従前公園の利用状況	開設当時は、子供の利用が多く、運動やスポーツの利用で、いつも賑やか。 近年になってから、普段の利用がほとんどされていない。
従前公園の問題点	施設の老朽化 芝や樹木は管理されず、雑草で荒廃化。 芝の草刈作業の負担。 隣接した道路からの見通しが悪く、暗い。 広場の水はけの悪さ。
公園に対する要望及び課題	芝や山側の樹木の保全。 休憩施設の拡充。 園路の整備。 バリアフリー化。 花壇の整備。 暗いイメージの改善

公園に対する住民の要望、行政から出された課題、再整備の目的、公園資産の保全・活用、そして、それに対応した設計意図を確認するために、ヒアリング調査を行った結果、山に隣接した豊かな自然環境と芝生広場といった空間的特性を公園資産として捉え、最大限に保全・活用する再整備が推進されたことが確認できた。具体的に、施設の老朽化や管理不足による芝生広場の荒廃化、雨天後の水はけの悪さなどの問題の解決のため、芝生や樹木の保全とバリアフリー化、明るいイメージへの改善という要望や課題に対応した設計意図で再整備が行われたことがわかった（表 2-21）。

### 3-2-4. 再整備による利用形態の変化

#### (1) 再整備による利用頻度・利用時間の変化

再整備による公園利用の変化を把握するために、利用時間、利用頻度について5段階評価を行い、再整備前後の平均値を比較した。その結果、「利用頻度」、「利用時間」、「満足度」について再整備前後に有意な差があることが明らかになった（図2-12）。

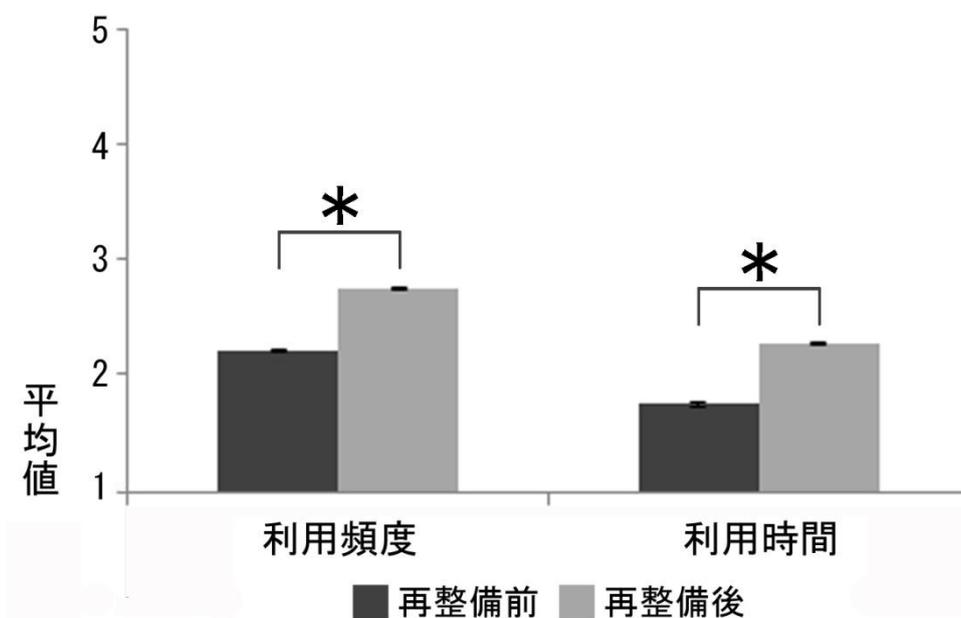


図 2-12 庄戸第二公園の再整備前後の利用形態の比較

ノンパラメトリック検定の結果、\*は有意差があることを示す ( $p < 0.05$ )

表 2-22 記述統計量

		N	平均値	標準偏差
再整備前	利用頻度	90	2.2000	1.00783
	利用時間	90	1.7222	.76478
再整備後	利用頻度	90	2.7333	.94572
	利用時間	90	2.2556	.78699

表 2-23 検証統計量

	再整備後の利用頻度 - 再整備前の利用頻度	再整備後の利用時間 - 再整備前の利用時間
Z	-4.972 <sup>a</sup>	-5.562 <sup>a</sup>
漸近有意確 率 (両側)	.000	.000

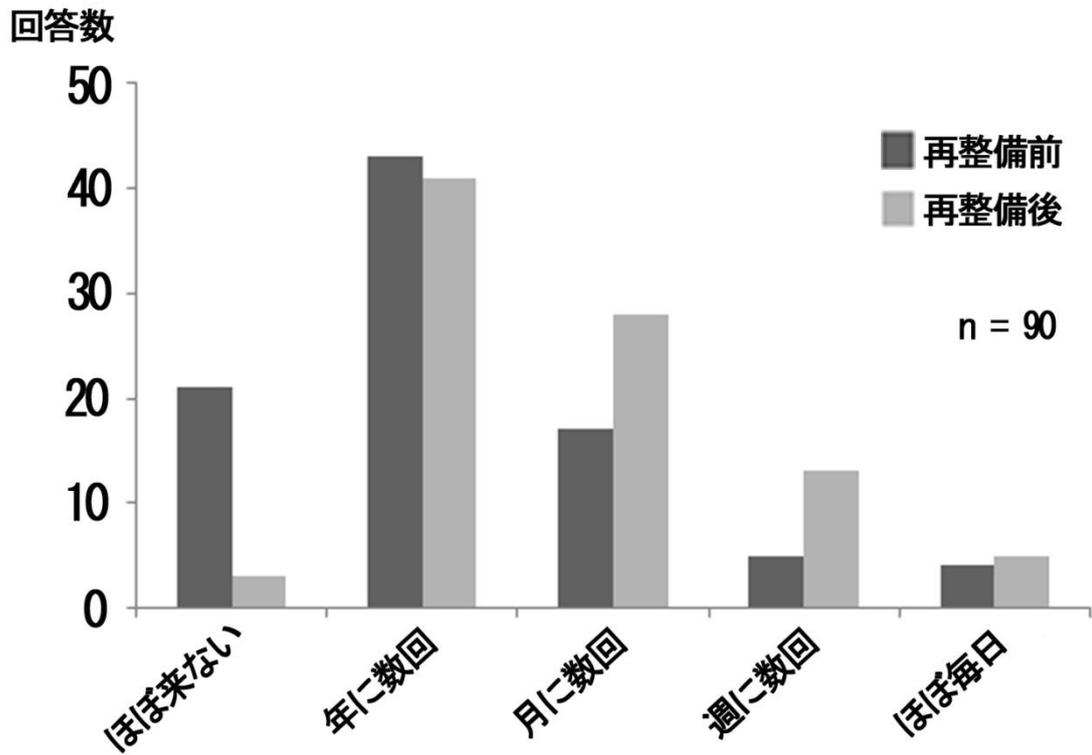


図 2-13 庄戸第二公園の再整備前後の利用頻度の変化

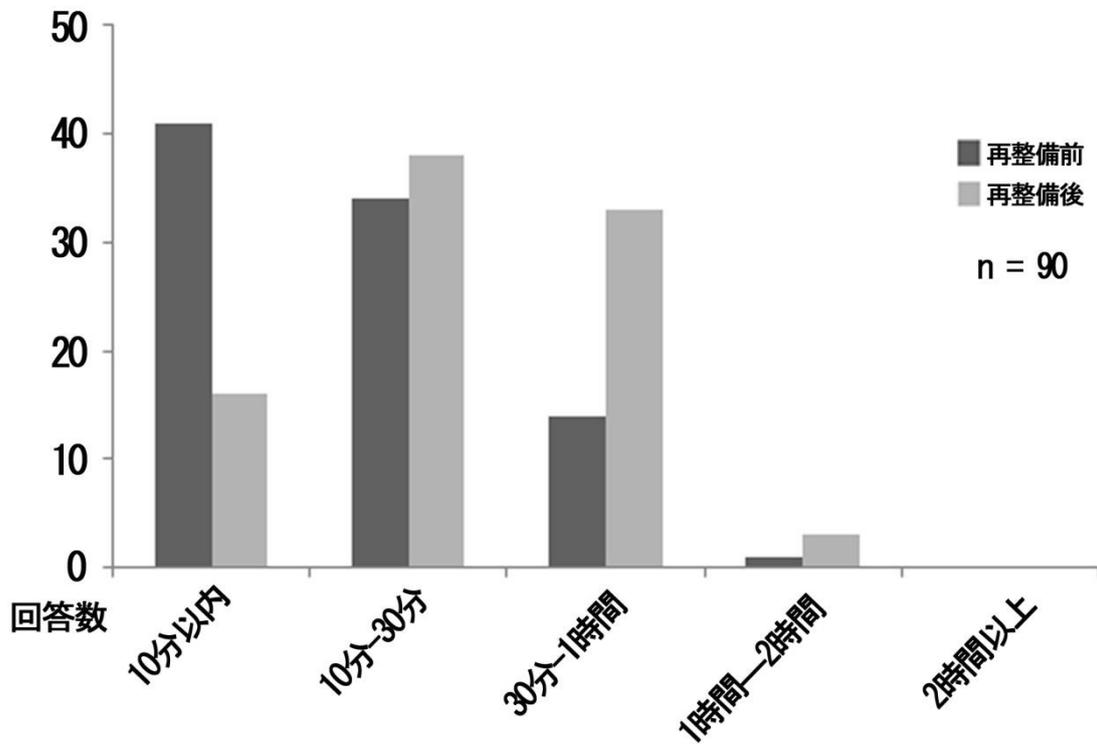


図 2-14 庄戸第二公園の再整備前後の利用時間の変化

## (2) 再整備による利用目的の変化

再整備による利用目的の変化を把握するために、再整備前後の利用目的について比較を行った。その結果、「子供を遊ばせる」、「公園の掃除などのボランティア活動」といった従前公園の主な利用目的は変化しなかったが、「散歩」、「運動・スポーツ」、「休憩」、「自然観察」、「目的地への移動」を目的とした公園利用者が増えたことが確認できた(図2-15、表2-24)。

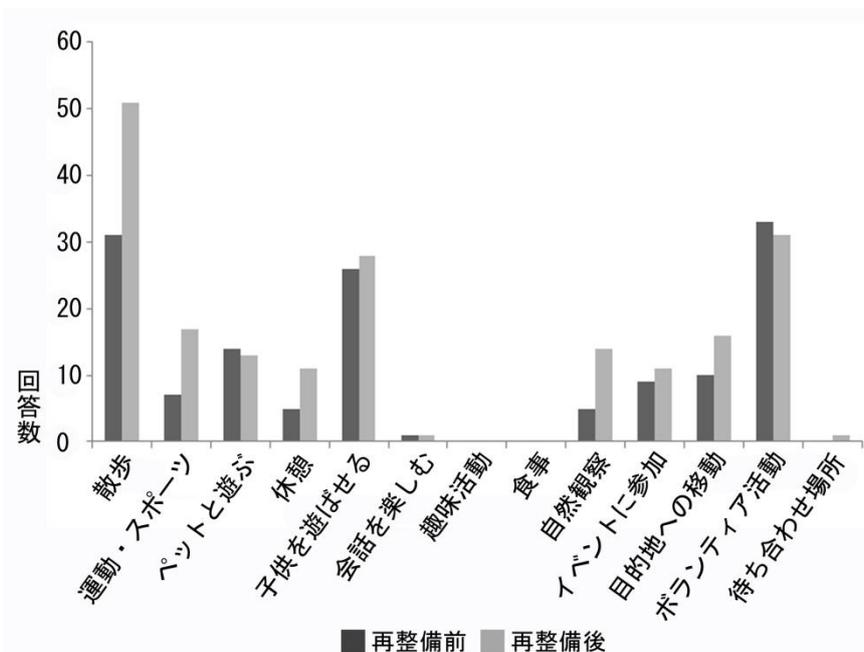


図 2-15 庄戸第二公園の再整備による利用目的の変化

表 2-24 庄戸第二公園の再整備による利用目的の変化

利用目的	再整備前		再整備後	
	回答数	%	回答数	%
散歩	31	22.0%	51	26.3%
運動・スポーツ	7	5.0%	17	8.8%
ペットと遊ぶ	14	9.9%	13	6.7%
休憩	5	3.5%	11	5.7%
子供を遊ばせる	26	18.4%	28	14.4%
会話を楽しむ	1	0.7%	1	0.5%
趣味活動	0	0.0%	0	0.0%
食事	0	0.0%	0	0.0%
自然観察	5	3.5%	14	7.2%
イベントに参加	9	6.4%	11	5.7%
目的地への移動	10	7.1%	16	8.2%
ボランティア活動	33	23.4%	31	16.0%
待ち合わせ場所	0	0.0%	1	0.5%

### (3) 再整備による利用空間の変化

再整備による空間の変化と利用特徴を調べるために、再整備前後のよく利用する場所を比べた結果を見ると、広場がよく利用する場所であることは変わらなかった。しかし、再整備前はベンチ、遊具など、施設が設置されている場所を利用する利用者が多かったが、再整備後は園路や花壇をよく利用する利用者が多くなっていることが分かった。また、再整備前の公園に比べ、再整備後の公園のマッピング数の合計は増えていたことが分かった（表 2-25）。

表 2-25 庄戸第二公園の再整備前後のよく利用する場所の変化

場所	再整備前	再整備後
	マッピング数	
①南側広場	42	44
②北側広場	16	6
③入口	1	1
④ベンチ	13	14
⑤パーゴラ*	3	-
⑥水飲み	2	3
⑦ブランコ	11	12
⑧鉄棒	2	5
⑨滑り台	6	7
⑩花壇*	-	23
⑪砂場*	8	-
⑫中央部	10	12
⑬園路*	-	53
⑭野卓*	-	10
⑮健康運動遊具*	-	15
⑯植栽	11	4
<b>合計</b>	<b>125</b>	<b>209</b>

\*は再整備による撤去及び新設

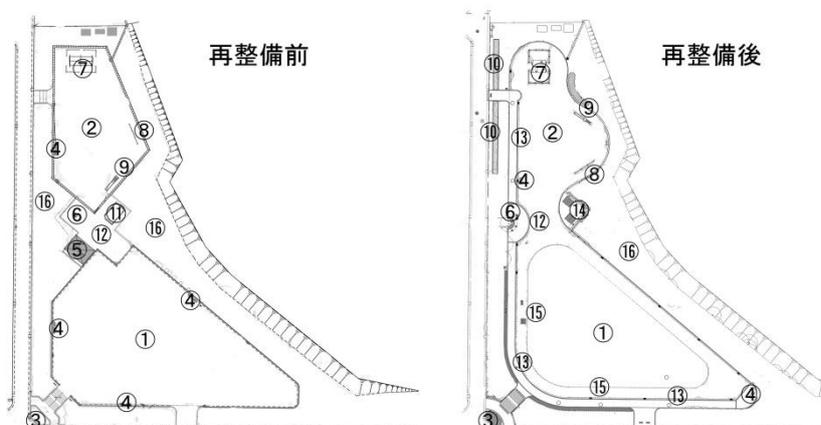


図 2-16 庄戸第二公園の再整備前後のよく利用する場所の変化

#### (4) まとめ

庄戸第二公園の再整備前後の利用形態の変化を把握するために、2次アンケートを行った結果、以下のようにまとめられる。

再整備前後の利用頻度、利用時間を比較した結果、再整備前後に有意な差があることから、再整備後の公園が再整備前と比べ、より頻繁に、長い時間利用されていることが明らかになった。つまり、再整備による空間構成の変化が公園の利用促進に良い影響を及ぼしたと考えられる。

次に、再整備前後の利用目的を比較した結果、「散歩」、「運動・スポーツ」、「休憩」、「自然観察」、「目的地への移動」を目的とした公園利用者が増えたことから、花壇、園路、野外卓、健康運動遊具などの新たな施設の整備が公園の役割や活用範囲の拡大に有効であったと考えられる。

次に、再整備による公園の利用空間の変化を把握するために、再整備前後のよく利用する場所を調べ、比較した結果、広場がよく利用する場所であることは変わらず、再整備前はベンチ、遊具など、施設が設置されている場所を利用する利用者が多かった。しかし、再整備後は園路や花壇をよく利用する利用者が多くなっていることから、園路の整備による公園の歩行空間の改善や花壇の整備による公園イメージの改善といった設計意図に基づく再整備の結果、公園の利用形態が変化したと考えられる。

以上より、庄戸第二公園の資産として認識されている緑や広場の保全と活用と共に住民説明会から出された住民の要望や行政からの課題に対応した再整備が行われ、従前公園の空間と利用形態の特性は維持されつつ、公園利用の多様化と促進に良い影響を及ぼしたと考えられる。

### 3-2-5. 再整備による公園の評価と利用満足度

表 2-26 庄戸第二公園の評価

大別	評価項目	平均点数	標準偏差
公園の利用	公園の利用者が増えましたか	3.233	1.102
	浮浪者・不審者がいなくなりましたか	3.844	0.947
	散歩など運動がやりやすくなりましたか	4.144	0.842
	公園の掃除など管理に係る活動により、近所の人との交流が増えましたか？	2.767	0.995
施設の整備	遊具施設が充実し、子供の公園遊びが増えましたか	3.100	1.061
	健康運動遊具の設置により、運動できるようになりましたか	3.378	1.118
	ベンチなど休憩施設が充実し、休憩しやすくなりましたか	3.778	1.058
	園路の幅や舗装状態は、移動しやすと思いますか	4.089	0.843
公園のイメージ改善	花壇ができて、公園のイメージが明るく変わりましたか	4.222	0.776
	公園が明るくなり、安心して過ごしやすくなりましたか	4.256	0.758
	樹木の整理により、公園の見通しがよくなりましたか	4.222	0.667
緑の保全と活用	樹木や芝生など公園内のみどりは保存されていますか	4.111	0.917
	成熟した緑により、自然を感じられますか	4.022	0.948
	広場の芝生の一部がダスト舗装に変わったが、公園の自然らしさを保っていると思いますか	3.556	1.143
	隣接した山から野鳥の観察ができるようになりましたか	3.033	0.988
広場の利用	お祭りなど、公園で色んなイベントを楽しむようになりましたか	2.078	0.997
	ダスト舗装の広場ができて、色んな活動ができるようになりましたか	3.211	1.000
	二つの広場が一体化され、公園の空間の広がりと利用の一体性が確保されたと思いますか	3.578	1.112
	雨天後の広場での水はけはよくなりましたか	4.089	0.759
園路の利用	園路の整備により、園内が移動しやすくなりましたか	4.133	0.837
	園路はジョギングや散歩など運動利用に十分な長さですか	2.778	1.159
公園の価値	富士山が眺望できる緑豊かな公園として保全すべきだと思いますか	4.244	1.074
公園に対する満足度		4.067	1.003

#### (1) 空間と利用に対する評価

ヒアリング調査で把握した公園に対する住民の要望や行政の課題、公園資産の保全と活用に対応した設計意図を内容とする 22 の評価項目が公園の満足度に与える効果及び影響を調べた。

まず、すべての項目は 5 段階評価を行い、平均点数を算出した結果、施設の整備、公園のイメージの改善、緑の保全と活用、公園の価値、公園に対する満足度に関する項目では平均 3 点以上で高く評価されていることが分かった。特に、公園のイメージ改善に関する 3 項目と公園の価値、満足度は平均 4 点以上と非常に高く評価されていることが確認できた。

しかし、公園での管理活動による近所との交流、お祭りなどイベントの公園利用、園路の長さに関する項目は 3 点以下と評価されていることが分かった (表 2-26)。

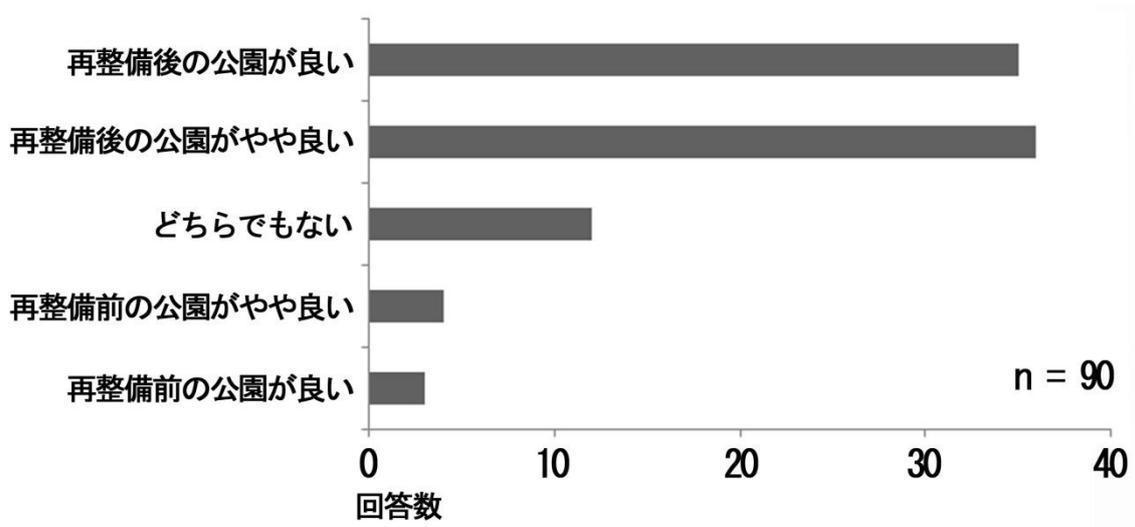


図 2-17 庄戸第二公園の利用満足度

## (2) 公園の評価項目と利用満足度との相関関係

公園に対する満足度と 22 評価項目との相関分析を行った結果、「散歩や運動の利用」、「遊具施設の充実による、子供の利用」、「健康運動遊具の設置による、運動の利用」、「花壇による、公園のイメージ改善」、「広場のダスト舗装が公園の自然らしさに与えた影響」といった 5 項目と満足度の中にやや強い有意な正の相関が確認できた。また、「園路の整備による園内の移動のしやすさ」に関する項目は強い有意な正の相関が見られた（表 2-27）。

表 2-27 庄戸第二公園の評価と利用満足度との関係

大別	評価項目	満足度(相関係数)
公園の利用	公園の利用者が増えましたか	0.382**
	浮浪者・不審者がいなくなりましたか	0.295**
	散歩など運動がやりやすくなりましたか	0.467**
	公園の掃除など管理に係る活動により、近所の人との交流が増えましたか？	0.162
施設の整備	遊具施設が充実し、子供の公園遊びが増えましたか	0.405**
	健康運動遊具の設置により、運動できるようになりましたか	0.448**
	ベンチなど休憩施設が充実し、休憩しやすくなりましたか	0.268*
	園路の幅や舗装状態は、移動しやすと思いますか	0.312**
公園のイメージ改善	花壇ができて、公園のイメージが明るく変わりましたか	0.472**
	公園が明るくなり、安心して過ごしやすくなりましたか	0.258*
	樹木の整理により、公園の見通しがよくなりましたか	0.196
緑の保全と活用	樹木や芝生など公園内のみどりは保存されていますか	0.309**
	成熟した緑により、自然を感じられますか	0.258*
	広場の芝生の一部がダスト舗装に変わったが、公園の自然らしさを保っていると思いますか	0.516**
	隣接した山から野鳥の観察ができるようになりましたか	0.236*
広場の利用	お祭りなど、公園で色んなイベントを楽しむようになりましたか	0.197
	ダスト舗装の広場ができて、色んな活動ができるようになりましたか	0.199
	二つの広場が一体化され、公園の空間の広がりや利用の一体性が確保されたと思いますか	0.388**
	雨天後の広場での水はけはよくなりましたか	0.302**
園路の利用	園路の整備により、園内が移動しやすくなりましたか	0.618**
	園路はジョギングや散歩など運動利用に十分な長さですか	0.351**
公園の価値	富士山が眺望できる緑豊かな公園として保全すべきだと思いますか	0.329**

### (3) まとめ

ヒアリング調査で把握した公園に対する住民の要望や行政の課題、公園資産の保全と活用に対応した設計意図を内容とする 22 の評価項目が公園の満足度に与える効果及び影響を調べるために、2 次アンケート調査を行った結果、以下のようにまとめられる。

老朽化した遊具、ベンチなど施設の改修と花壇、野外卓、園路、健康運動遊具などの新設が、施設の老朽化や荒廃による公園の利用率と安全性の低下といった従前公園が抱えていた問題を解決し、明るい公園へのイメージ改善という再整備の目的が達成され、高い評価と満足度につながった可能性が指摘できる。

また、園路の整備や一部のダスト舗装等の利便性を考慮した整備に加えて、花壇の設置や山林隣接部分への樹木の新植等、豊かな自然環境といった公園資産を活かした再整備が行われ、従前公園が持つ公園資産の保全と活用が高い満足度に影響を与えた可能性が指摘される。

特に、「広場の芝の一部がダスト舗装に変わったが、公園の自然らしさを保っていると思いますか」と「ダスト舗装の広場ができて色んな活動ができるようになりましたか」の項目が高く評価された。

このことから、一般的な小規模公園では維持管理に問題を抱える全面芝生の広場を一部ダスト舗装にすることは、高い技術と費用を要する芝の維持管理作業の負担軽減に貢献するなどの有効性が推察された。

また、園路の設置による園内の移動のしやすさに関する評価項目は高く評価され、満足度と強い正の相関があることから、小規模な街区公園でも、公園の全面に接する園路の整備が園内各所への移動や施設の利便性を高め、公園の利用範囲の拡大と利用の利便性を向上させ、高い満足度として現れたと考えられる。

しかし、公園に対する満足度と施設の整備、公園のイメージ改善、緑の保全と活用に関してはすべての項目で高い評価が得られたにもかかわらず、利用に関する項目で低い評価が見られたことから、施設の改修や樹木の整理による空間構成の変化が実際の利用評価に必ず良い影響を与えるとは限らないといえる。

つまり、広場というゾーンを維持した上で、新たな施設の整備による空間機能の拡充と共に、緑は保全するにとどまらず、利用の側面からもその機能を位置づけ、多様な活動を可能とする再整備が公園の空間ならびに利用に対する評価と満足度の向上で、有効であることが推察された。

## 4. 本章の結論

本章では従前公園がもつ空間的特性を公園資産として捉え、保全・活用した2か所の再整備事例を対象として、図面による空間分析と2回のアンケート調査による利用者評価を通じて、再整備による空間構成と利用形態の変化が利用満足度に与える効果及び影響を明らかにし、今後の公園再整備における「空間的特性」を活かした再整備の空間設計手法について検討を行った。その結果、以下の諸点が明らかになった。

### 4-1. 空間的特性を活かした再整備と利用満足度との関係性

本章の対象公園である西台公園と庄戸第二公園は斜面林と山に隣接した成熟した植生、芝生広場といった空間的特性を積極的に保全・活用した再整備が行われ、空間と利用に関する評価と満足度が高く評価されたことが確認できた。すなわち、公園利用者及び地域住民に認識されている公園資産を把握した上で、最大限に保全・活用する再整備手法が公園の利用満足度の向上で、有効であることが確認できた。

### 4-2. 空間的特性を活かした再整備手法

空間的特性を活かした再整備手法において、資産が有する地形や形態、量などの保全する手法のみならず、多様な空間設計手法が利用満足度の向上に有効であることが明らかになった。

- ① 複数の空間資産を結合し、空間構成上の改変を行い、空間と利用の一体性を高める再整備手法。
- ② 施設の設置、園路の確保など空間整備によって、破壊された公園資産を本来の形態に復元させ、空間的特性の継承を行う再整備手法。
- ③ 従前の空間資産に、公園に対するニーズへの対応や諸課題の解決に適した新たな施設の拡充など空間要素の付加を行う再整備手法。

そして、公園資産を最大限に保全・活用、修復した空間に対して、利用的側面からは低く評価されているものが確認できた。再整備のワークショップのような地域住民との議論を通じて、総意を行った上で、自然的特性といった公園資産の保全・活用を図った再整備手法は、必ずしも、空間と利用において、良い評価につながるとは限らないことが明らかになった。この結果により、自然保全型公園は再整備による空間と利用の変化に対して、公園利用者は自然環境の保全、再生と同時に、空間利用における利便性、機能性、快適性を求める傾向が強いことが確認できた。このような矛盾する利用者評価の結果から、地域住民との十分な合意形成の作業を経て、公園資産の保全・活用による質の向上と新たな空間整備による利便性の向上とのバランスの取り方を見極める必要があることが指摘できた。

## 引用・参考文献 (2章)

1. ヒアリング結果を基に筆者整理
2. 栄区町別人口・世帯の状況、2012年、栄区土木事務所からの提供
3. ヒアリング結果を基に筆者整理
4. 図2-3の図面は株) あい造園設計事務所より提供。筆者再作成
5. 都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン(改訂版)  
<<http://www.mlit.go.jp/common/000224238.pdf>>
6. 図2-11の図面は栄区土木事務所より提供。筆者再作成
7. 国土交通省：都市公園における遊具の安全確保に関する方針  
<<http://www.mlit.go.jp/common/000022126.pdf>>

### 第3章 利用的特性を重視した公園資産の保全・活用とその効果

1. はじめに
2. 研究方法
3. 結果及び考察
4. 本章のまとめ

## 第3章 利用的特性を重視した公園資産の保全・活用とその効果

### 1. はじめに

本章では、従前公園がもつ利用的特性を公園資産として保全・活用した2か所の再整備事例を対象とし、利用的特性を保全・活用した方法が利用満足度に与える効果及び影響について検討を行った。

### 2. 研究の方法

#### 2-1. 研究対象公園の概要

##### (3) 富岡第五公園

表 3-1 富岡第五公園の概要

位置	横浜市金沢区富岡西5丁目7
開設日	1975年03月
再整備竣工日	2010年3月
種別	街区公園
面積	4,728 m <sup>2</sup>
特徴	盆踊りなど、年中多様な地域のイベント開催
周辺環境	閑静な住宅地 小学校・中学校に隣接
従前公園の問題点	樹木の繁茂により、暗い。 アオギリの落ち葉 イベント以外の普段の利用が殆どない。 (小学生の立ち入り禁止)
再整備の目的	公園のバリアフリー化 施設の改修 普段の公園利用の向上 地域の交流の場

富岡第五公園は1975年03月に開園された面積4,728 m<sup>2</sup>の街区公園である。対象公園が位置する富岡西地区は1970年代に一戸建住宅を中心に大規模の住宅団地が整備されてきた。しかし、住宅団地の造成から30年以上が経過した近年、若い世帯の転入が徐々に減少し、少子高齢化が急速に進んでいる地域である。対象公園である富岡第五公園は住宅団地の開発に伴い、開設された公園で、街区公園としては比較的に広い面積の広場を有した公園である。特に、2つの多目的広場では、盆踊

り大会など、年中多様な地域のイベントが開催される地域の交流の場として利用されている。しかし、施設の老朽化と管理不足による樹木の繁茂を原因として、昼間でも公園内部が暗く、落ち葉が大量に発生するなどの問題が原因となり、イベントの開催以外には殆ど利用されない状況であった。さらに、小学校や幼稚園などが隣接しているものの、公園内の治安の悪化、安全事故の危険という問題から、普段の子供の立ち入りが禁止されている状況であった。そのため、従前公園が抱えた見通しの悪化、施設の老朽化、落ち葉などの問題を解決し、安全安心な公園利用として普段の公園利用の向上、地域の交流の場づくりを目的に 2010 年 03 月に再整備が行われた<sup>1)</sup>。表 3-1、図 3-1 は富岡第五公園の概要を示したものである。

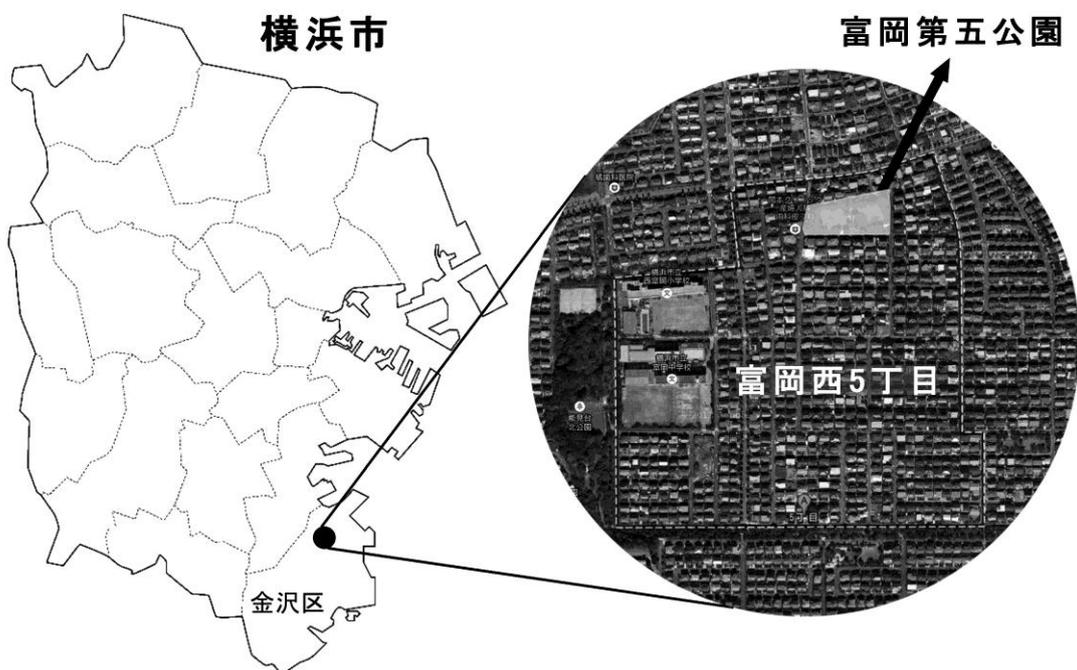


図 3-1 富岡第五公園の概要

## (2) 五丁田公園

五丁田公園は1962年12月に開設された面積3,313 m<sup>2</sup>の街区公園である。多数の集合住宅や戸建て住宅の閑静な住宅街に位置している。主に近隣の小学生の遊び場としての利用が多かったが、遊具施設の老朽化や植栽の繁茂による安全性の悪化、利用の低下などの問題から近年、利用が激減している状況であった。特に車の通行が多い東京都道318号環状七号線が隣接し、公園周辺にはタクシーや不審車両の無断駐車が多く、園内のトイレの利用する不審者により、治安の悪化が大きい問題となり、子供の利用が少ない状況であった。また、花壇やフェンス、施設が混雑し、さらに、段差も多かったため、公園が狭小化され、安全性が確保されていない状況であった。そのため、施設の老朽化や樹木の繁茂による、安全性の低下、施設の混雑による公園の狭小化、主な利用者である小学生の利用の減少、トイレの利用に関する周辺の住民の苦情などの問題や遊具施設の改修・拡充、樹木の管理による安全性の確保への要望を背景に2009年03月に再整備が行われた<sup>2)</sup>。表3-2、図3-2は五丁田公園の概要を示したものである。

表3-2 五丁田公園の概要

対象公園	五丁田公園
位置	東京都足立区大谷田3丁目7-17
開設日	1962年12月
再整備竣工日	2009年3月
種別	街区公園
面積	3,313 m <sup>2</sup>
特徴	近隣の子供の遊び場 多様な遊具施設
周辺環境	閑静な住宅地 南側に東京都道318号環状七号線が隣接
従前公園の問題点	樹木の繁茂による見通しの悪化 施設の老朽化 公園周辺の不審車両の無断駐車 夜間のトイレの利用の苦情 施設の混雑による公園の狭小化
再整備の目的	安全安心な子供の利用 施設の改修や拡充による安全性の確保

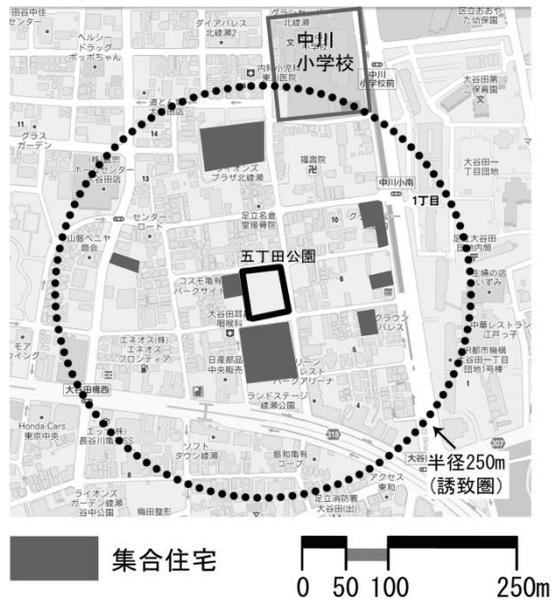
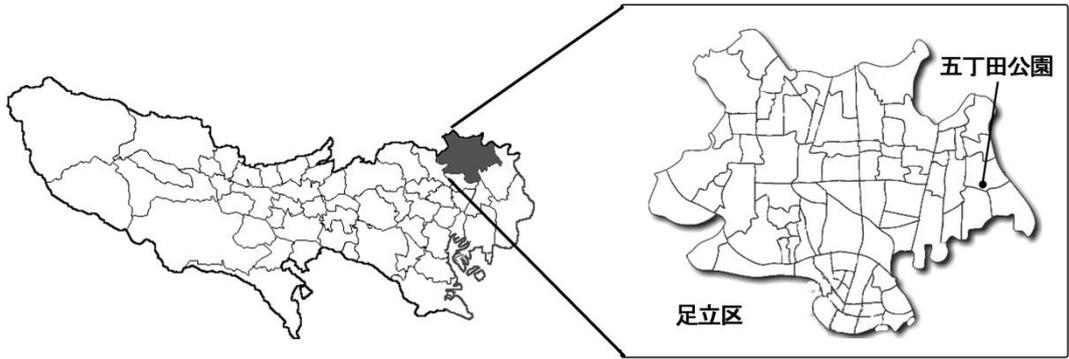


図 3-2 五丁田公園の概要

## 2-2. 調査方法

### (2) 空間構成の変化

公園再整備による空間構成の変化を把握するために、対象公園の施設撤去図、完成平面図、植栽図などの各種図面と再整備前の写真、対象公園の再整備事業報告書など資料を把握した上で、現地での確認を行い、空間変化の分析を行った。

### (2) 1次アンケート調査

まず、富岡第五公園は公園再整備による空間構成と利用形態の変化に対する利用者の認識と満足度の変化との関係性を調べるため、1次アンケート調査を行った。調査項目の設定のために、図面による空間分析と現地での確認を通じて、地形や周辺環境、空間構成、空間要素、利用形態の特性を把握し、現地調査で把握した公園の特性をアンケート項目として設定した。具体的に、再整備前の利用経験のある公園利用者25人と再整備後のみ利用経験者25人、合計50人を対象に、公園の空間と利用の特性を内容とした18項目について、再整備前後において、どの項目を長所と思うかを回答してもらった。調査期間は2013年2月23日—3月10日にかけて、5回実施した(表3-3)。

表3-3 富岡第五公園の1次アンケート調査の概要

調査対象	再整備前後の利用経験のある 公園利用者及び地域住民
調査期間	2013年2月23日—3月10日(5回)
回答者/有効回答者	50/50 (再整備前の利用経験者25人・再整備後の未利用経験者25人)
調査項目	すべて複数回答 ・地形、周辺環境について(1項目) ・空間構成の特性について(4項目) ・空間要素について(8項目) ・公園の利用の特性について(5項目) —再整備前と後において公園の空間と利用のどの要素を 長所と思うかを回答

次に、五丁田公園は再整備による利用形態の変化と空間と利用の変化に対する利用者の認識を把握するために、1次アンケート調査を行った。再整備前後の利用経験がある公園利用者を対象に、まず、利用形態の変化を調べるために、再整備前後における「利用頻度」、「利用時間」について調べた。

さらに、現在の都市公園の一般的な利用目的に対象公園の空間要素や周辺環境の特徴を加え、15項目を設定し、再整備前後の「利用目的」を調べた。

また、再整備前後の図面によく利用する場所をマッピングしてもらった。そして、再整備前後の空間構成と利用形態の変化に対する利用者の認識と満足度の変化との関係性を調べるため、現地確認と空間分析から把握した18項目について、再整備前の短所と思うか/再整備後の長所と思うかを回答してもらった。

調査は2011年3月5日—9日と4月9日—10日にかけて、7回実施し、有効回答数は150件であった（表3-4）。

表 3-4 五丁田公園の1次アンケート調査の概要

調査対象	再整備前後の公園の利用経験がある公園利用者
調査期間	2011年3月5日—9日、4月9日—10日（5回）
回答数 / 有効回答数	90 / 90
調査項目	公園の利用頻度：5段階評価（ほぼ毎日—ほぼ来ない） 公園の利用時間：5段階評価（2時間以上—10分以内） 公園の利用目的：複数回答（15項目） 公園のよく利用する場所：図面上で、○付のマッピング
	再整備後公園の長所について：複数回答（18項目）
	再整備前公園の短所について：複数回答（18項目）

### (5) ヒアリング調査

公園に対する住民の要望、行政から出された課題、再整備の目的、公園資産の保全・活用、そして、それに対応した設計意図を確認するために、ヒアリング調査を行った。五丁田公園はワークショップに参加した地域の自治会のメンバー、再整備の設計を行った設計者を対象として、調査を行った。富岡第五公園はワークショップに参加した公園愛護会のメンバー、再整備当時の行政担当者、再整備の設計を行った設計者を対象として調査を行った。両公園ともに、直接インタビュー形式でヒアリング調査を行った。五丁田公園の場合、再整備事業報告書が作成され、再整備公園における行政側の問題意識や課題について、明確に書かれていたため、行政担当者へのヒアリング調査を省略した（表 3-5、3-6）。

表 3-5 ヒアリング調査の対象

対象公園 調査対象	富岡第五公園	五丁田公園
ワークショップ参加者	再整備当時の 公園愛護会会長 外 2人	再整備当時の 大谷田西部自治会 事務局長
公園設計者	(株)農村・都市計画研究 所 代表取締役	中央技研株式会社 技術課長
行政担当者	再整備当時の 金沢区土木事務所 再整備担当者	

表 3-6 ヒアリング調査の質問項目

ワークショップ参加者	公園設計者	行政担当者
従前公園の問題点を含め、 全体的な利用状況について	従前公園の問題点を含め、 全体的な利用状況について	従前公園の問題点を含め、 全体的な利用状況について
ワークショップで出された 公園に対する苦情や要望に ついて	地域住民や行政から出され た公園に対する要望や課題 について	地域住民や行政から出され た公園に対する要望や課題 について
再整備後の公園に対する評 価について 改善されたところ 改善されなかったところ	要望や課題、資産の活用に 応じた設計の意図について	再整備後の公園に対する評 価について 改善されたところ 改善されなかったところ
	再整備後の公園に対する評 価について 改善されたところ 改善されなかったところ	

#### (4) 2次アンケート調査

ヒアリング調査で確認した公園に対する地域住民の要望や行政の課題に対応した設計意図の有効性と公園資産の保全・活用した再整備による空間と利用の変化が利用満足度に与える影響を調べるために、2次アンケート調査を行った。富岡第五公園は再整備前後の公園の利用経験がある公園利用者を対象として、2013年10月25日～11月9日にかけて、7回の現地でのアンケート調査を行った。調査内容はまず、再整備前後の利用形態の変化を把握するために利用頻度、利用時間について調べた。さらに、現在の都市公園の一般的な利用目的に対象公園の空間要素や周辺環境の特徴を加え、13の項目を設定し、再整備前後の利用目的について調査した。また、再整備前後の図面によく利用する場所をマッピングしてもらった。そして、ヒアリング調査から確認された内容を基に、地域住民の要望や行政上の課題への対応の有無の確認、設計意図が有効であったかどうかを評価するための17項目と新たに整備された空間と施設の具体的な評価のために7項目を設定した。そして、その24項目と公園全体の満足度を5段階評価で調査を行った（表3-7）。

表 3-7 富岡第五公園の2次アンケート調査の概要

調査対象	再整備前後の公園の利用経験がある 公園利用者及び地域住民
調査期間	2013年10月25日～2013年11月9日（7回）
回答数/ 有効回答数	90 / 90
調査項目	公園の利用頻度：5段階評価（ほぼ毎日～ほぼ来ない） 公園の利用時間：5段階評価（2時間以上～10分以内） 公園の利用目的：複数回答（13項目） 公園のよく利用する場所：図面上で、○付のマッピング
	公園の評価：すべて5段階評価（そう思う～そう思わない）
	公園の利用について（4項目） 公園のイメージ改善について（3項目） 緑の保全・活用について（2項目） 施設の整備について（4項目） イベントの利用について（2項目） 落ち葉の対処について（1項目） 公園の価値について（1項目） 公園中央部の整備について（4項目） 広場のベンチ周辺の整備について（3項目）
	公園の満足度について （再整備前の公園が良い～今の公園が良い）

五丁田公園は再整備前後の対象公園の利用経験がある公園利用者を対象として、2011年6月29日～7月7日にかけて、6回の調査を実施した。有効回答数は50件であった。調査内容はヒアリング調査から確認された内容を基に、地域住民の要望や行政の課題の達成可否の確認、設計意図の有効性の評価を通じて公園資産を活用した空間構成の変化が利用者満足度に与える影響を把握するために設定した16項目と公園全体の満足度を5段階評価で調査を行った（表3-8）。

両公園ともに、アンケートの結果は符号化し、SPSS（Statistical Package for Social Science）Win 17.0を用いて、分析を行った。

表 3-8 五丁田公園の2次アンケート調査の概要

調査対象	再整備前後の公園の利用経験のある公園利用者
調査期間	2011年6月29日—7月7日（6回）
回答数 / 有効回答数	50 / 50
調査項目	公園の評価：すべて5段階評価（そう思う—そう思わない）
	公園の安全性について（4項目） みどりの保存について（3項目） 施設の改善について（4項目） 公園の利用について（5項目）
	公園の満足度について （再整備前の公園が良い—今の公園が良い）

### 3. 結果及び考察

#### 3-1. 富岡第五公園

##### 3-1-1. 再整備による空間構成の変化

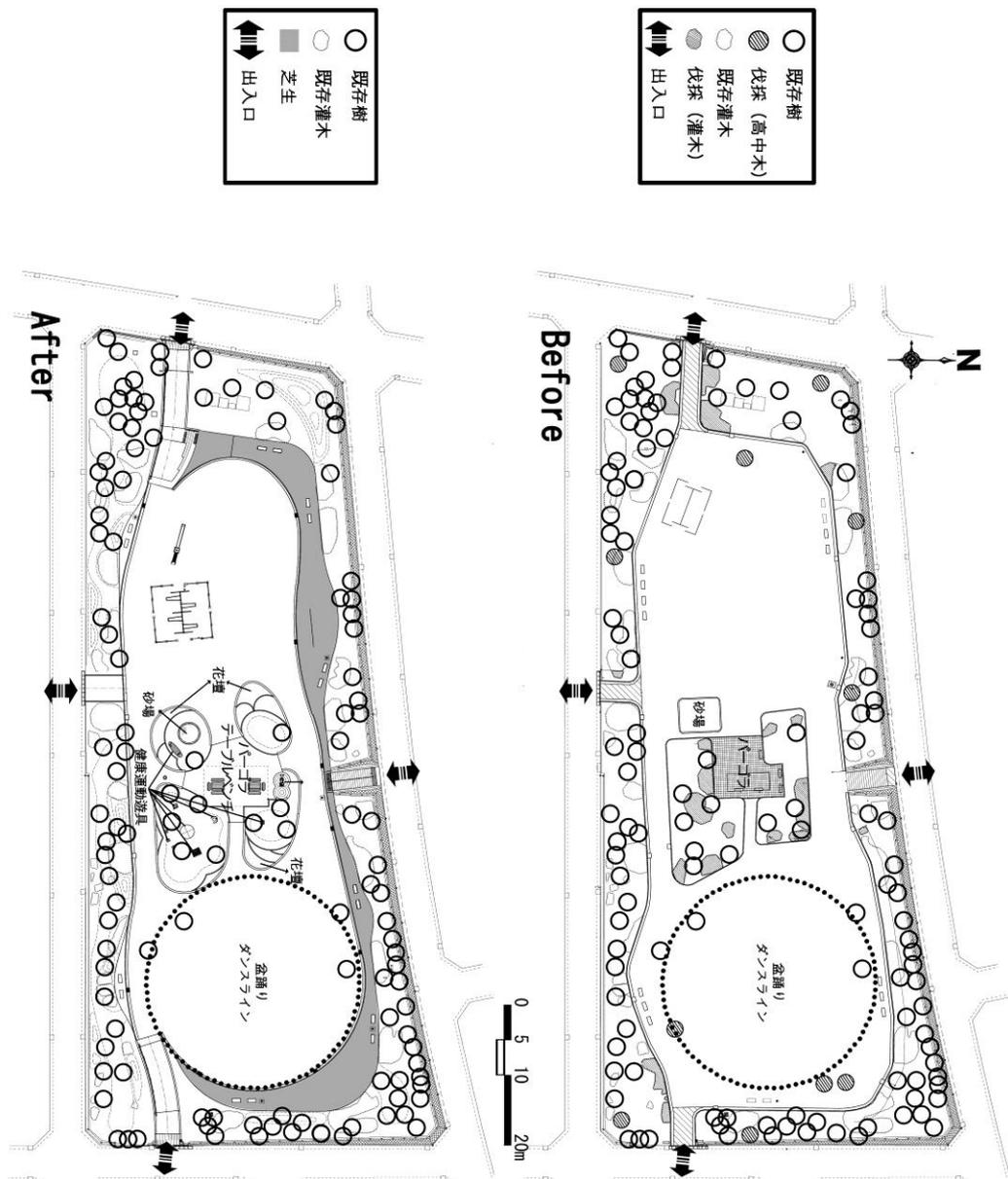


図 3-3 富岡第五公園の再整備前後の空間構成の変化<sup>3)</sup>

## (1) 広場

従前公園は中央部のパーゴラを中心にブランコなど遊具が設置されていた東側広場と地域のイベントの開催として使われた西側広場に分けられていたが、お祭りや地域イベントの開催に影響を与えない範囲で、従前のダスト舗装の面積を最大限に保全・活用した再整備が行われた。具体的に、東側広場は最大の地域のイベントである盆踊り大会の従前のダンス動線を基準とし、全体の面積は多少減少されたが、広場の外周部芝生を植栽し、イベントの開催する際の有効利用面積の増加を意図した再整備が行われたことが分かった。



写真 3-1 再整備前の東側広場



写真 3-2 再整備前の西側広場



写真 3-3 再整備後の東側広場  
(朝のラジオ体操)



写真 3-4 再整備後の西側広場

## (2) 施設

老朽化した遊具（ブランコ1基、すべり台1基、シーソー1基、鉄棒1基）施設はすべて、新しく取り換えた。ただ、シーソーは子供の転落事故など、安全性の問題から撤去された。特に、西側の出入口から園内への内部視野の圧迫感を解消するために、従前のブランコとすべり台が位置変更されたことが分かった。また、広場のベンチ16基も新しく取り換えた。そして、公園中央部には、従前のパーゴラやベンチ5基を撤去し、新たな施設の整備が行われたことが確認できた。具体的に、休憩空間としての利用を考慮した、パーゴラとテーブルベンチ2基、公園のイメージ改善と地域住民の自発的な公園管理を意図した花壇を3か所、高齢者の健康増進を図った健康遊具7基の設置が行われた。さらに、花壇管理の利便性を考慮し、従前の広場の水飲み台は撤去し、中央部に新たに新設した（表3-9）。

表 3-9 富岡第五公園の再整備による主な施設の変化

施設	再整備前	再整備後
ベンチ	21基	16基+テーブルベンチ2基
水飲み台	1基（西側広場）	1基（中央部）
遊具	ブランコ1基 すべり台1基 シーソー1基 鉄棒1基 砂場	ブランコ1基 すべり台1基 鉄棒1基 砂場
健康運動遊具	無し	7基



写真 3-5 再整備前の遊具①



写真 3-6 再整備前の遊具②



写真 3-7 再整備前のベンチ



写真 3-8 再整備前の水飲み台



写真 3-9 再整備前の中央部



写真 3-10 再整備後の遊具



写真 3-11 再整備後のベンチ



写真 3-12 再整備後の健康遊具



写真 3-13 再整備後の中央部

### (3) 出入口のバリアフリー

従前公園は出入口の段差や車止めによる園内への進入の不便さという問題から、公園の出入口のバリアフリーという行政の課題に応じられ、北側の出入口を除き、すべての段差や車止めを撤去し、スロープの傾斜、舗装など、車いすやベビーカーの移動を考慮したバリアフリーを行った。



写真 3-14 再整備前の出入口①



写真 3-15 再整備前の出入口②



写真 3-16 再整備後の出入口①



写真 3-17 再整備後の出入口②

#### (4) 植栽

樹木の繁茂により園内の見通しが悪く、全体的に暗いという苦情から、樹木の間伐を行った。また、アオギリからの落ち葉が近所の道路まで飛んでいくなど、景観と管理面からの問題を解決するため、アオギリ 15 本の中、11 本の伐採が行われたことが分かった。



写真 3-18

再整備前の西側広場からの園内の見通し



写真 3-19 アオギリの落ち葉

## (5) イベント開催

富岡第五公園は盆踊り大会、ラジオ体操、もちづき大会など、年中多様な地域イベントの開催という利用的特性の有し、イベントの開催する際の利便性の向上を意図した再整備が行われたことが確認できた。具体的に、イベントの際に、休憩空間の確保を意図し、全年齢の人が座れるように、新たに整備された花壇の高さを 38 cm とした。

さらに、広場の外周部に芝生を植栽して、休憩空間としての利用を意図した再整備が行われた。また、公園中央部にも、休憩空間の拡充を意図し、テーブルベンチや健康遊具など施設の整備を行った。

そして、落ち葉の問題から 11 本のアオギリが伐採されたが、広場の 4 本は盆踊り大会の際、提灯の飾りとしての活用を意図し、保存されていたことが分かった。



写真 3-20 再整備後の盆踊り大会



写真 3-21 花壇の 38 cm の高さ①



写真 3-22 花壇の 38 cm の高さ②



写真 3-23 盆踊り大会の際、公園中央部

## (6) まとめ

富岡第五公園の再整備前後の各種図面や再整備前の写真、現地確認を通じて、再整備による空間構成の変化を確認した結果、以下のようにまとめられる。

富岡第五公園は施設の老朽化や荒廃化による普段の公園利用の低下、出入口のバリアフリーと休憩施設の全面的な改善と地域の交流の場としての利便性の確保といった行政からの課題、アオギリからの落ち葉問題の解決と明るくて安全な公園へとイメージの改善といった住民の要望を背景に、従前の施設をすべて撤去し、新たな施設の拡充を行った。

特に、公園の中央部には従前の樹木を除く、すべての空間要素を撤去し、テーブルベンチ、パーゴラ、健康遊具、水飲み台を整備した。また、公園のイメージ改善、イベントの際の休憩空間の確保を意図した花壇の整備が行われた。

そして、落ち葉の問題の改善のため、アオギリ 11 本の伐採が行われた。さらに、広場の外周部の芝生化による有効利用面積の増加、盆踊り大会のダンス動線を考慮した広場の整備など、地域のイベントの開催する際の地域住民の利便性の向上を図った再整備が行われたことが確認できた。

以上のことから、富岡第五公園は公園の利用的特性である、お祭りなど地域のイベントの開催する際の利用増進と利便性の向上を最優先に考慮した再整備が行われたと言える。

具体的に、イベント開催を考慮し、多目的広場の面積の維持とともに、広場の外周部の芝生化という新たな空間要素の付加によって、利用空間の有効面積の拡大を図ったと言える。

また、公園中央部の限定した空間に休憩、交流、運動など、多面的な機能を集約させ、空間機能性の向上を意図した再整備が行われたと考えられる。さらに、広場の外周部に、休憩施設の基本空間要素であるベンチに芝生といった自然的な要素を結合することで、広場での休憩空間の質の向上と利用促進の誘導を意図した再整備が行われたと推察できた。

### 3-1-2. 再整備による空間と利用に対する利用者の認識度の変化

再整備による空間と利用の特性に対する利用者の認識の変化を把握するために、1次アンケート調査を行った。再整備前後における公園の特徴及び長所を調べ、比較を行った結果、「広々とした広場」、「木や花など緑が多い」、「祭りなどイベントの際、使い勝手の良さ」といった3項目は再整備前後において、過半数以上回答した。

また、再整備前後の変化を調べた結果、「移動及び歩行空間の良さ」、「明るくて、見通しの良さ」、「休憩施設の充実さ」、「子供が安心して楽しく遊べる」といった4項目は再整備前に比べ、再整備後に比較的多く公園の特性として認識されていることが確認できた（表3-10）。

表3-10 富岡第五公園の再整備前後の空間と利用に対する認識の変化

項目		再整備前	再整備後	全体
地形・周辺環境	閑静な住宅街に囲まれた静かな公園	12	8	20
空間構成	広々とした広場	17	18	35
	移動及び歩行空間の良さ	7	21	28
	明るく見通しの良さ	7	17	24
	目的により空間が分けられ、利用の混雑がない	3	5	8
空間要素	遊具施設の充実さ	0	3	3
	巨木が多い	9	3	12
	健康運動器具の充実さ	0	7	7
	木や花など緑が多い	15	15	30
	照明設備の充実さ	0	1	1
	成熟した緑	6	3	9
	休憩施設の充実さ	5	14	19
	多様な植栽	13	8	21
利用	子供が安心して楽しく遊べる	6	19	25
	祭りなどイベントの際、使い勝手の良さ	21	17	38
	ゆったりとくつろげる公園	5	3	8
	散歩、ウォーキングなど運動ができる	8	7	15
	虫や鳥の観察ができる	7	3	10

以上の結果をまとめると、散歩、運動、イベント開催など多様な利用を目的とした多目的広場、年中に多様なイベントの開催による地域住民の交流が富岡第五公園の空間と利用の特性として利用者に認識されていると考えられる。

そして、公園中央部の多様な施設の拡充と出入口のバリアフリー、花壇の新設、樹木の適切な整理が行われ、地域のイベント開催のみならず、日常的に身近な公園として、多様な目的に、子供が安心して遊べる明るくて、安全な公園のイメージが再整備後に、新たな公園の特性として認識されていることが推察できた。

### 3-1-3. ヒアリング調査の結果まとめ

表 3-11 富岡第五公園のヒアリング調査の結果まとめ

従前公園の利用状況	盆踊り大会など地域のイベントの開催 子供の利用が禁止されている
従前公園の問題点	高木が多く、繁茂により、見通しの悪化 施設の老朽化 段差による出入口の進入の問題 イベント以外の普段の利用は殆どない アオギリの落ち葉が大量発生
公園に対する要望及び課題	地域の交流の場 (イベント開催時の利便性の確保) 暗いイメージの改善 施設の改修、バリアフリー 安全安心な子供の利用

公園に対する住民の要望、行政から出された課題、再整備の目的、公園資産の保全・活用、そして、それに対応した設計意図を確認するために、ヒアリング調査を行った結果、富岡第五公園は年中を通じて盆踊り大会など地域のイベントの開催による住民の交流の場といった利用的資産を保全・活用した再整備の推進が行われたことが分かった。

従前公園の最大の問題である普段の公園利用の低下の解決のため、老朽化施設の改修、バリアフリーと園内の見通しの確保のために、樹木の整理が行われ、イベント開催の際の利便性の向上や子供に安全な利用を意図した明るい公園へのイメージの改善といった要望や課題に対応した設計意図で再整備が行われたことが確認できた（表 3-11）。

### 3-1-4. 再整備による利用形態の変化

#### (1) 再整備による利用頻度・利用時間の変化

再整備による公園利用の変化を把握するために、利用時間、利用頻度について5段階評価を行い、再整備前後の平均値を比較した。その結果、「利用頻度」、「利用時間」、「満足度」について再整備前後に有意な差があることが明らかになった（図3-4）。

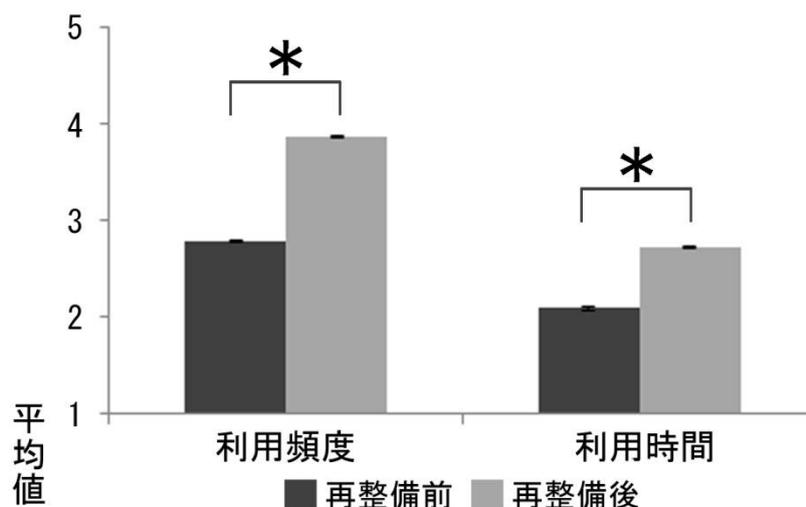


図3-4 富岡第五公園の再整備前後の利用形態の比較

ノンパラメトリック検定の結果、\*は有意差があることを示す（ $p < 0.05$ ）

表3-12 記述統計量

		N	平均値	標準偏差
再整備前	利用頻度	90	2.7778	1.39645
	利用時間	90	2.0778	.78221
再整備後	利用頻度	90	3.8667	1.00783
	利用時間	90	2.7111	.79668

表3-13 検証統計量

	再整備後の利用頻度 - 再整備前の利用頻度	再整備後の利用時間 - 再整備前の利用時間
Z	-6.383 <sup>a</sup>	-6.429 <sup>a</sup>
漸近有意確率 (両側)	.000	.000

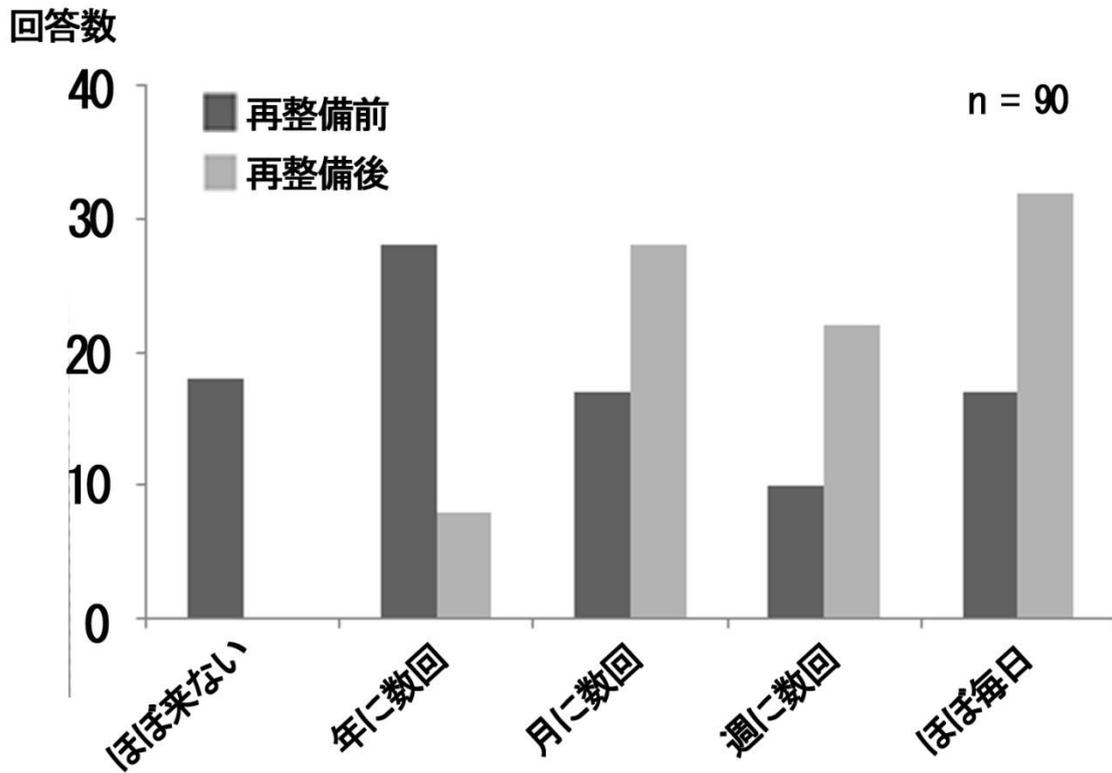


図 3-5 富岡第五公園の再整備前後の利用頻度の変化

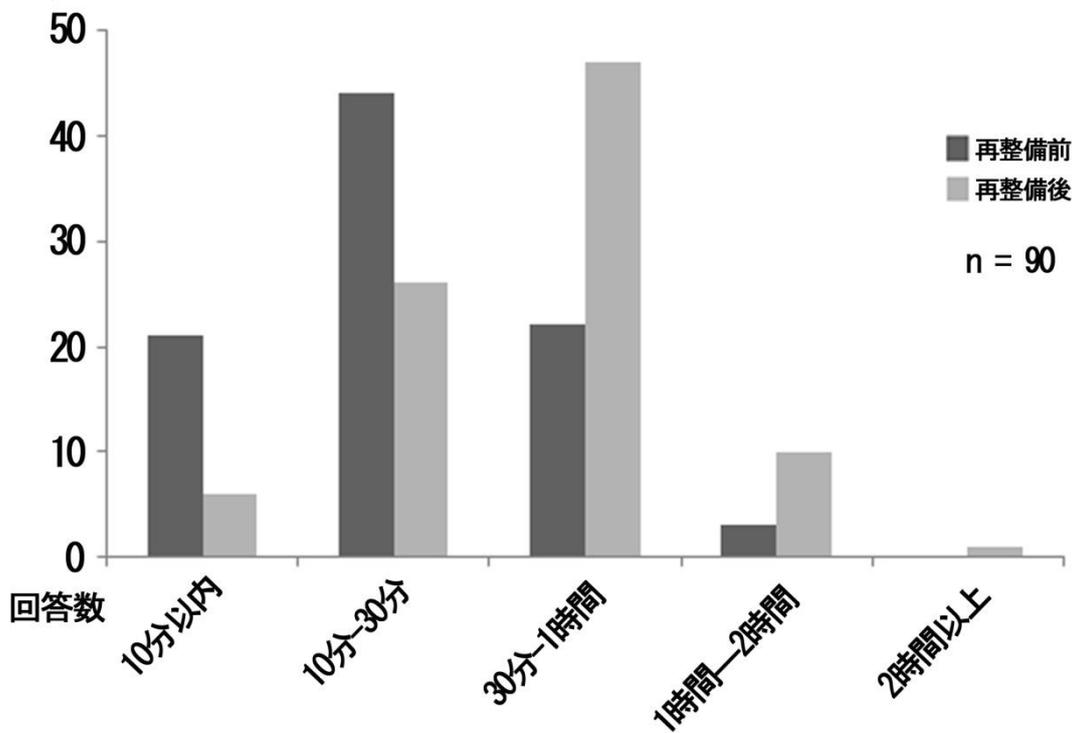


図 3-6 富岡第五公園の再整備前後の利用時間の変化

## (2) 再整備による利用目的の変化

再整備による利用目的の変化を把握するために、再整備前後の利用目的について比較を行った。その結果、散歩やお花見といった主な利用目的は再整備前後に変わらなかったが、運動・スポーツ、休憩、会話を楽しむ、食事、イベントに参加、ボランティア活動を目的とした公園利用者が増加していることが分かった（図 3-7）。

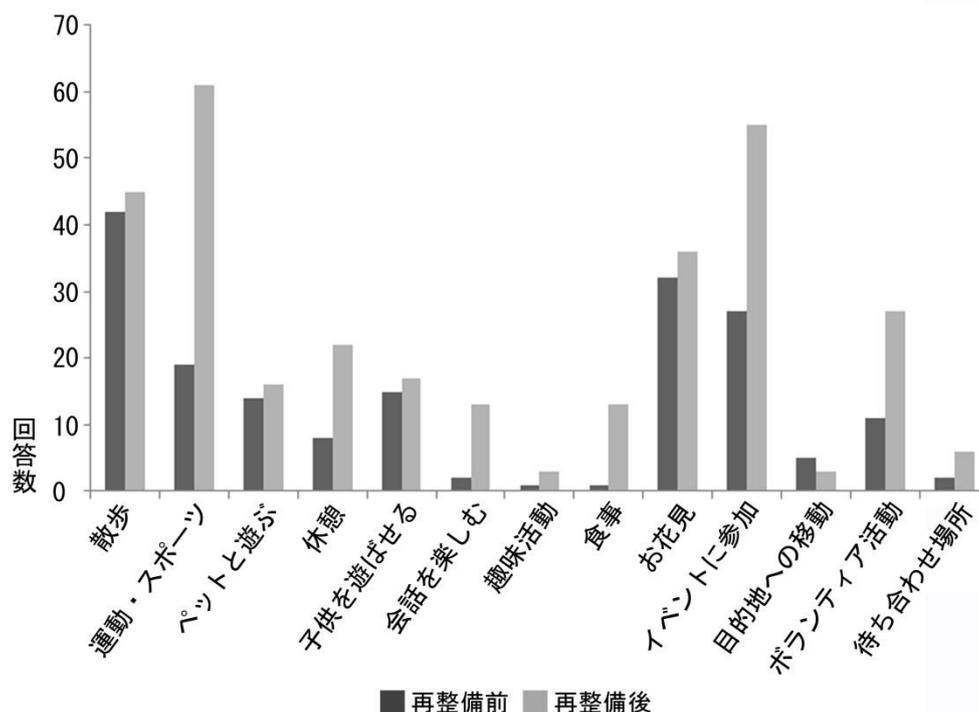


図 3-7 富岡第五公園の再整備前後の利用目的の変化

表 3-14 富岡第五公園の再生前後の利用目的の変化

利用目的	再整備前		再整備後	
	回答数	%	回答数	%
散歩	42	23.5%	45	14.2%
運動・スポーツ	19	10.6%	61	19.2%
ペットと遊ぶ	14	7.8%	16	5.0%
休憩	8	4.5%	22	6.9%
子供を遊ばせる	15	8.4%	17	5.4%
会話を楽しむ	2	1.1%	13	4.1%
趣味活動	1	0.6%	3	0.9%
食事	1	0.6%	13	4.1%
お花見	32	17.9%	36	11.4%
イベントに参加	27	15.1%	55	17.4%
目的地への移動	5	2.8%	3	0.9%
ボランティア活動	11	6.1%	27	8.5%
待ち合わせ場所	2	1.1%	6	1.9%

### (3) 再整備による利用空間の変化

再整備による空間の変化と利用特徴を調べるために、再整備前後のよく利用する場所を比べた結果を見ると、遊具、植栽、砂場は再整備前後において、マッピング数の変化が見られなかった。

しかし、再整備前に比べ、再整備後には西側広場と東側広場、ベンチ、中央部（テーブルベンチ）の利用者が大きく増加していることが分かった。特に、新たに整備された花壇や健康運動遊具もよく利用する空間であることが確認できた。さらに、マッピングの数の合計も2倍以上で、増加していることが分かった（表3-15）。

表 3-15 富岡第五公園の再整備前後のよく利用する場所の変化

場所	再整備前		再整備後	
	マッピング数	%	マッピング数	%
①西側広場	14	11.2%	33	10.9%
②東側広場	49	39.2%	73	24.1%
③入口	2	1.6%	3	1.0%
④ベンチ	13	10.4%	38	12.5%
⑤中央部(ベンチ・野外卓)	14	11.2%	49	16.2%
⑥遊具	18	14.4%	20	6.6%
⑦植栽	12	9.6%	10	3.3%
⑧砂場	13	10.4%	9	3.0%
⑨花壇*	-		29	9.6%
⑩健康運動器具*	-		39	12.9%
<b>合計</b>	<b>135</b>	<b>100.0%</b>	<b>303</b>	<b>100.0%</b>

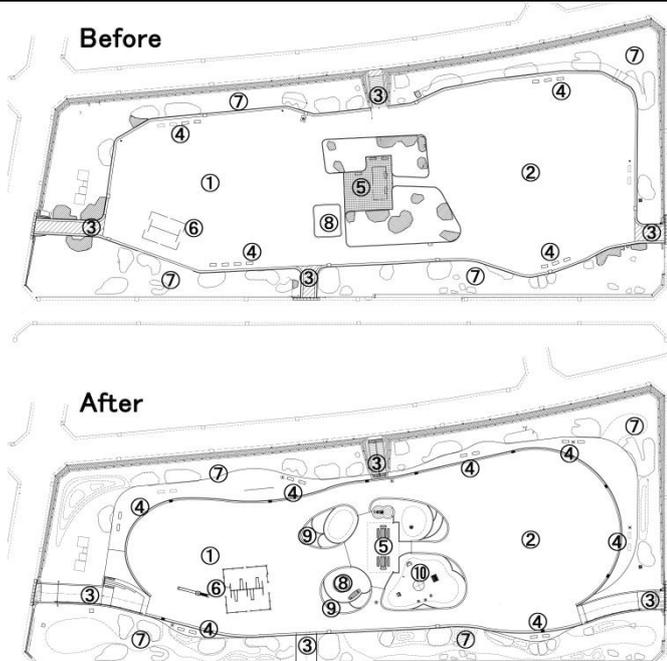


図 3-8 富岡第五公園の再整備前後のよく利用する場所

#### (4) まとめ

富岡第五公園の再整備前後の利用形態の変化を把握するために、2次アンケートを行った結果、以下のようにまとめられる。

まず、再整備前後の利用頻度、利用時間を比較した結果、再整備前後に有意な差があることから、再整備後の公園が再整備前と比べ、より頻繁に、長い時間利用されていることが明らかになった。つまり、再整備による空間構成の変化が公園の利用促進に良い影響を及ぼしたと考えられる。

次に、再整備前後の利用目的を比較した結果、運動・スポーツ、休憩、会話を楽しむ、食事、イベントに参加、ボランティア活動の利用を目的とした公園利用者が増加していることが分かった。このことから、再整備により、運動や休憩、イベントの開催、住民の交流など多様な目的を意図し、公園中央部に健康運動遊具、休憩施設、花壇などが整備され、中央部の空間機能性の向上が公園の役割や活用範囲の拡大に良い影響を及ぼしたと考えられる。

そして、再整備前後のよく利用する場所を調べた結果、広場とベンチ、特に公園中央部の施設をよく利用する利用者が増えたことが明らかになった。このことから、新たな施設の整備による老朽化した施設の改善、花壇の整備による公園イメージの改善と住民による自発的な公園の管理誘導、イベント開催の最大限に考慮した広場の整備による、イベントの開催する際の利便性の向上を図った再整備が行われ、より多様な目的に、利用の促進に良い影響を及ぼしたと考えられる。

つまり、富岡第五公園の公園資産である多様な地域のイベントが開催する際の利便性の向上を図った多目的広場の保全・活用と公園中央部の空間整備とともに、ワークショップを通じて、再整備公園に対する地域住民の要望や行政からの課題に対応した明確な設計意図による再整備が行われ、利用の多様化と利用促進に有効であったと推察できた。

### 3-1-5. 再整備による公園の評価と利用満足度

表 3-16 富岡第五公園の評価

大別	評価項目	平均点数	標準偏差
公園の利用	公園の利用者が増えましたか	4.36	0.8253
	お祭りなど、イベント以外に普段の公園の利用は増えましたか	4.20	0.8238
	広々とした空間を持つ公園として色々な活動ができるようになりましたか	4.06	0.8260
	公園の利用により、近所の人との交流が増えましたか	3.87	0.9966
施設の改修	出入口のスロープや手すりの整備により、園内に移動しやすくなりましたか	4.30	0.7103
	遊具施設が充実し、子供の公園遊びが増えましたか	3.86	0.6101
	健康運動遊具の設置により、運動できるようになりましたか	3.97	0.8799
	ベンチや野外卓など休憩施設が充実し、休憩しやすくなりましたか	4.32	0.7318
緑の保全	樹木や芝生など公園内のみどりは保存されていますか	4.39	0.7599
	成熟した緑により、自然を感じられますか	4.09	0.9674
公園のイメージ改善	公園が明るくなり、安心して過ごしやすくなりましたか	4.42	0.5992
	浮浪者・不審者がいなくなりましたか	4.13	0.7525
	樹木の整理により、公園が明るくなりましたか	4.10	0.7939
落ち葉の問題改善	アオギリの伐採により、園内の落ち葉は減りましたか	2.89	1.1061
イベントの利用	お祭りなど、色々なイベントにより、楽しめるようになりましたか	4.38	0.7728
	多様なイベントが開催される公園として、年中、楽しめるようになりましたか	4.11	0.8669
公園の価値	小学校に近く、閑静な住宅街にふさわしい身近な公園として整備されたと思いますか	4.38	0.9066
中央部の利用	再整備前に比べ、移動しやすくなりましたか	4.21	0.8002
	再整備前に比べ、イベントの際に使い勝手がよくなりましたか	4.12	0.8589
	再整備前に比べ、見通しは良くなりましたか	3.78	0.8317
	再整備前に比べ、利用しやすくなりましたか	4.36	0.7834
ベンチの利用	ダスト舗装の一部が芝生となり、広場の面積は保っていると思いますか	3.74	1.0007
	ダスト舗装の一部が芝生となり、緑が増えたと思いますか	3.52	1.1039
	再整備前に比べ、利用しやすくなりましたか	3.82	0.8942
公園に対する満足度		4.42	0.7929

#### (1) 空間と利用に対する評価

公園に対する住民の要望、行政からの課題、それに応じた設計意図を内容とした24項目の評価が再整備後の公園の満足度に与える効果及び影響を調べるために、2次アンケート調査を行った。すべての項目は5段階評価を行い、平均点数を算出した結果、「公園の利用」、「施設の改修」、「緑の保全」、「公園のイメージの改善」、「イベントの利用」、「公園の価値」、「中央部の利用」、「ベンチの利用」に関するすべての項目は3.5以上と高く評価されていることが確認できた。

特に、「緑の保全」、「公園のイメージの改善」、「イベントの利用」、「公園の価値」に関するすべての項目は4.0点以上と非常に高く評価されていることが分かった。さ

らに、「中央部の利用」に関する項目も、「見通しの良さ」の項目を除き、すべての項目が4.0点以上と評価されていることが分かった。

一方、落ち葉の問題改善に関しては3.0点以下と低い評価が見られた。公園に対する満足度に関しては4.42点と非常に高く評価されていることが確認できた。特に、「再整備後の公園が良い」「再整備後の公園がやや良い」の回答数が全体の9割以上を占めることが分かった（表3-16、図3-9）。

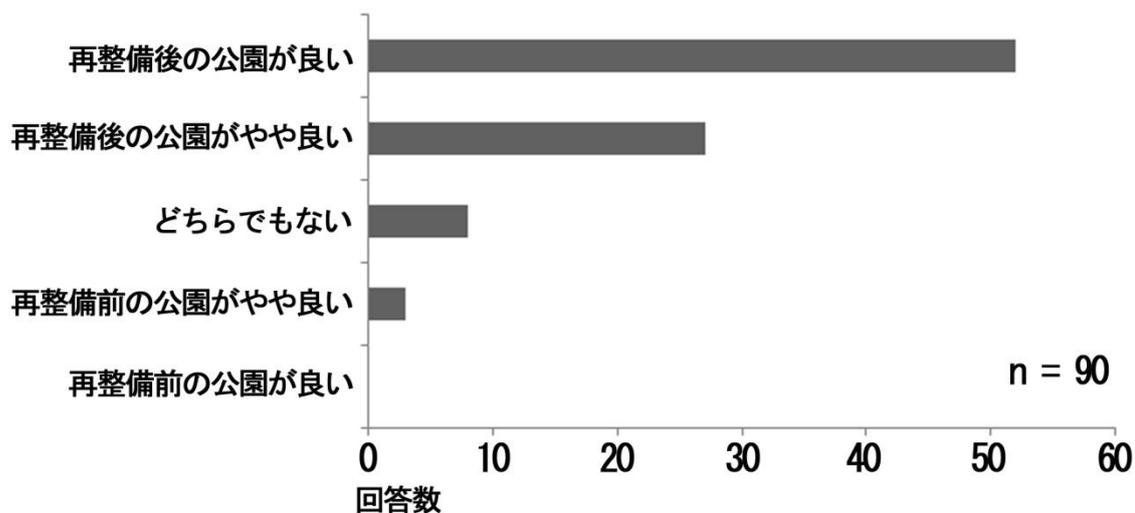


図3-9 富岡第五公園の利用満足度

## (2) 公園の評価項目と利用満足度との相関関係

公園に対する満足度と 24 評価項目との相関分析を行った結果、「公園の利用」、「緑の保全」、「公園のイメージ改善」、「イベントの利用」、「公園の価値」、「中央部の利用」のすべての項目は満足度との間に 1% の有意水準の正の相関が見られた。特に、公園のイメージ改善の「公園が明るくなり、安心して過ごしやすくなりましたか」とイベントの利用の「お祭りなど色んなイベントにより、楽しめるようになりましたか」と中央部の利用の「再整備前に比べ、イベントの際に使い勝手が良くなりましたか」といった 3 項目と利用満足度との間に強い有意な正の相関が確認できた (表 3-17)。

表 3-17 富岡第五公園の評価と利用満足度との関係

大別	評価項目	満足度 (相関係数)
公園の利用	公園の利用者が増えましたか	.472**
	お祭りなど、イベント以外に普段の公園の利用は増えましたか	.420**
	広々とした空間を持つ公園として色々な活動ができるようになりましたか	.427**
	公園の利用により、近所の人との交流が増えましたか	.555**
施設の改修	出入口のスロープや手すりの整備により、園内に移動しやすくなりましたか	.251*
	遊具施設が充実し、子供の公園遊びが増えましたか	0.197
	健康運動遊具の設置により、運動できるようになりましたか	.391**
	ベンチや野外卓など休憩施設が充実し、休憩しやすくなりましたか	.441**
緑の保全	樹木や芝生など公園内のみどりは保存されていますか	.470**
	成熟した緑により、自然を感じられますか	.419**
公園のイメージ改善	公園が明るくなり、安心して過ごしやすくなりましたか	.614**
	浮浪者・不審者がいなくなりましたか	.432**
	樹木の整理により、公園が明るくなりましたか	.432**
落ち葉の問題改善	アオギリの伐採により、園内の落ち葉は減りましたか	0.169
イベントの利用	お祭りなど、色んなイベントにより、楽しめるようになりましたか	.635**
	多様なイベントが開催される公園として、年中、楽しめるようになりましたか	.405**
公園の価値	小学校に近く、閑静な住宅街にふさわしい身近な公園として整備されたと思いませんか	.448**
中央部の利用	再整備前に比べ、移動しやすくなりましたか	.534**
	再整備前に比べ、イベントの際に使い勝手がよくなりましたか	.640**
	再整備前に比べ、見通しは良くなりましたか	.451**
	再整備前に比べ、利用しやすくなりましたか	.551**
ベンチの利用	ダスト舗装の一部が芝生となり、広場の面積は減ったと思いませんか	0.109
	ダスト舗装の一部が芝生となり、緑が増えたと思いませんか	.233*
	再整備前に比べ、利用しやすくなりましたか	.281**

\*\* :  $p < 0.01$

\* :  $p < 0.05$

### (3) まとめ

ヒアリング調査で把握した公園に対する住民の要望や行政の課題、公園資産の保全と活用に対応した設計意図を内容とする24の評価項目が公園の満足度に与える効果及び影響を調べるために、2次アンケート調査を行った結果、以下のようにまとめられる。

老朽化された遊具、ベンチ、パーゴラなどの施設の改修とイメージ改善を図った花壇、健康運動遊具、テーブルベンチ、出入口のバリアフリーなど新たな施設の整備が行った。その結果、施設の老朽化と荒廃化による利用と安全性の低下という従前公園の問題を解決し、子供が安心して利用できる明るくて、安全な公園へとイメージが改善され、高い評価と満足度につながった可能性が考えられる。

また、広場での地域イベントの開催に影響を与えない範囲で、広場の従前の面積の最大限の維持した上で、中央部の休憩施設の拡充、外周部の芝生化、花壇の設置、アオギリの一部の保存など、イベントの開催といった特定の利用形態の利便性の向上を図った再整備手法が高い利用満足度に良い影響を及ぼしたと考えられた。

そして、公園中央部の空間と利用に関する項目が高い評価と有意な正の相関が見られたことから、富岡第五公園のように、比較的広い面積の多目的広場を有する街区公園では、広場は多目的な活動としての空間を確保した上で、限定された空間に多様な空間要素を集約させ、空間機能性の向上を図った再整備手法が公園の評価と利用満足度の向上につながった可能性が推察できた。

一方、落ち葉問題の改善に関しては、低く評価されたことから、落ち葉の問題は、単純に問題となる樹木の量を減らすことで、解決できるとは限らないことが示唆できた。解決のためには、公園愛護会のように、地域住民による公園維持管理のボランティア団体の自発的な活動の積極的な支援育成など、樹木を含む、公園内の緑地の持続的で、体系的な維持管理の重要性が指摘できた。

3-2. 五丁田公園

3-2-1. 再整備による空間構成の変化

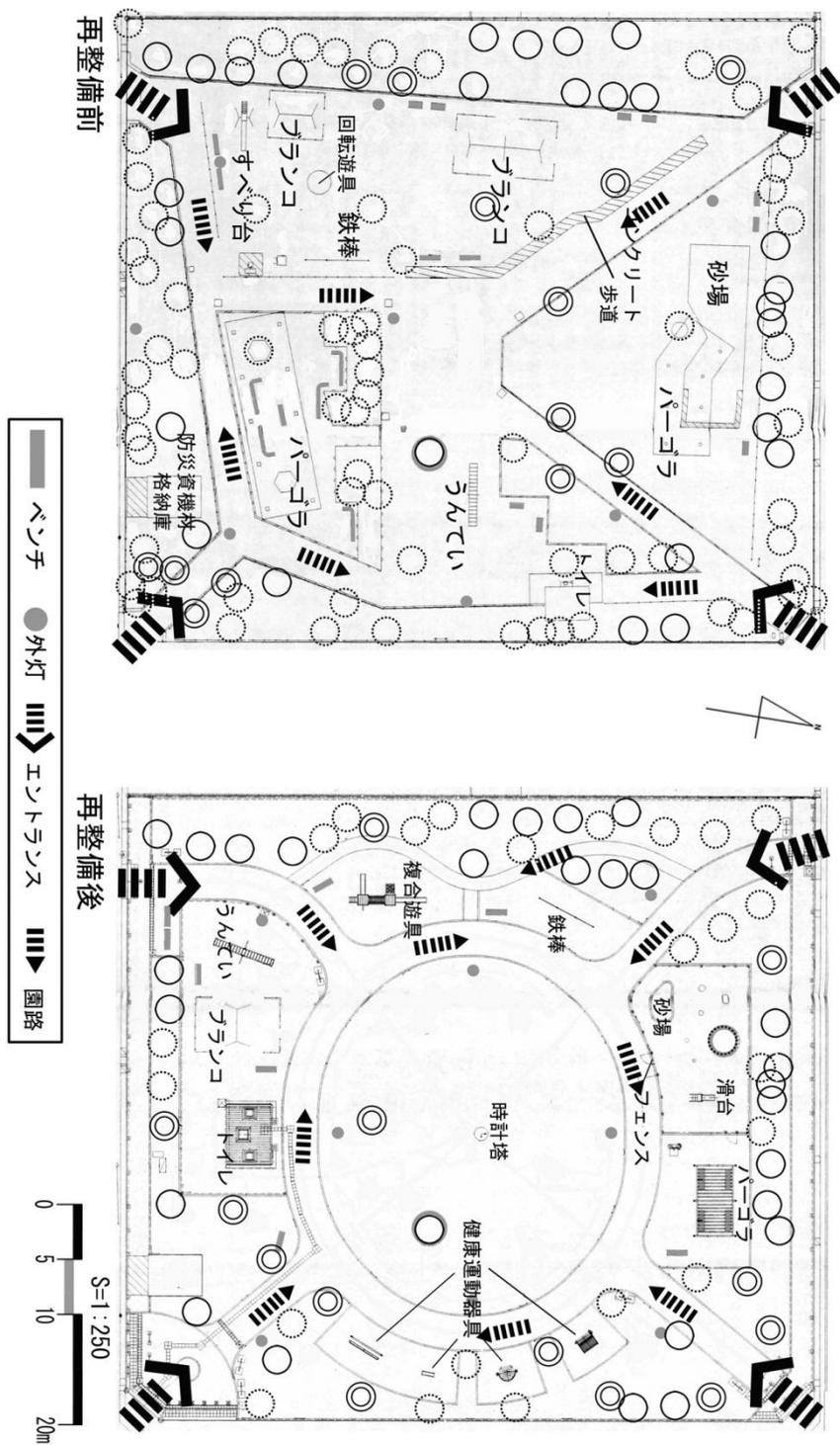


図 3-10 五丁田公園の再整備前後の空間構成の変化<sup>4)</sup>

## (1) ゾーニング

五丁田公園はフェンスや花壇、段差により、区切られた空間に遊具やパーゴラ、ベンチなどの施設が混雑されている状況から、公園全体が広く使われず、安全性の問題など、子供の遊び場として適していない空間構成であったが、安全性を確保した子供の遊び場づくりを目的に再整備が行われた。具体的には、公園の中央部に多目的な利用を図った広場を整備し、その周りに、児童や幼児の年齢別の遊具の設置、健康運動遊具、パーゴラ、トイレなどの施設の拡充が行われたことが確認できた。



写真 3-24 再整備前の公園中央部①



写真 3-25 再整備前の公園中央部②



写真 3-26 再整備後の公園中央部①



写真 3-27 再整備後の公園中央部②

## (2) 施設の拡充

老朽化した従前公園のベンチ、パーゴラ、遊具、トイレなどすべての施設は撤去された。そして、安全性の低下、施設の混雑による公園の狭小化といった公園の最大の問題の原因となっていたフェンスや花壇、段差をすべて撤去し、中央部の広場を中心に、ベンチ 14 基、ブランコ 3 基、複合遊具 1 基、幼児用のすべり台 1 基、うんてい 1 基、鉄棒 1 基、幼児用の砂場、物置遊具 3 基、健康運動遊具 4 基の拡充が行われた。

トイレは夜間の不審者による利用が多く騒音など、隣接した民家からの苦情により、集合住宅の立体駐車場の方向に、位置移動をさせ、多目的トイレとして整備されたことが分かった（表 3-18）。

表 3-18 五丁田公園の再整備前後の主な施設の変化

施設	再整備前	再整備後
ベンチ	20 基	14 基
外灯	8 基	8 基（従前外灯の維持）
遊具	ブランコ 3 基 すべり台 1 基 うんてい 1 基 鉄棒 1 基 回転遊具 1 基 砂場	ブランコ 3 基 複合遊具 1 基 幼児用すべり台 1 基 鉄棒 1 基 幼児用物置遊具 3 基 幼児用砂場
健康運動遊具	無し	3 基



写真 3-28 再整備前の遊具



写真 3-29 再整備前の遊具とベンチ



写真 3-30 再整備前のパーゴラ



写真 3-31 再整備前のトイレ



写真 3-32 再整備後の複合遊具



写真 3-33 再整備後の幼児用遊具



写真 3-34 再整備後の  
幼児用遊具コーナー



写真 3-35 再整備後の健康運動遊具



写真 3-36 再整備後のパーゴラ



写真 3-37 再整備後のトイレ

### (3) 植栽

樹木の繁茂による、園内が暗く、隣接した道路からの見通しの悪化による、公園の安全性の低下を解決するために、伐採 38 本、移植 13 本、新植 23 本を行い、見通しの確保し、明るい公園としての改善を最優先に考えた植栽管理が行われた(図 3-11)。

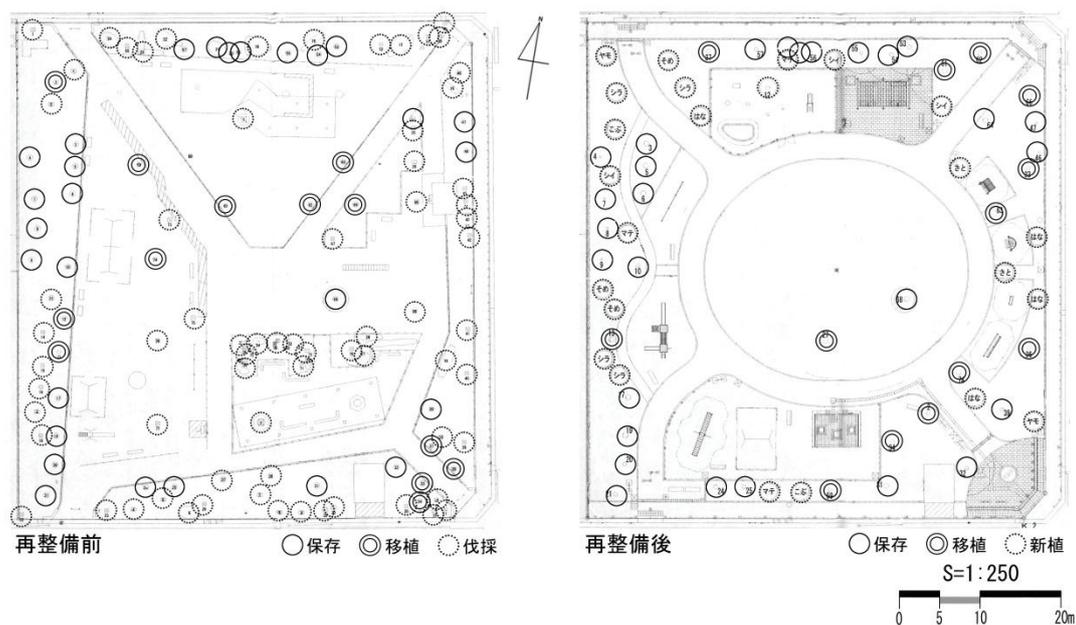


図 3-11 五丁田公園の再整備前後の植栽の変化



写真 3-38 再整備前の道路からの見通し



写真 3-39 再整備前の園内の見通し

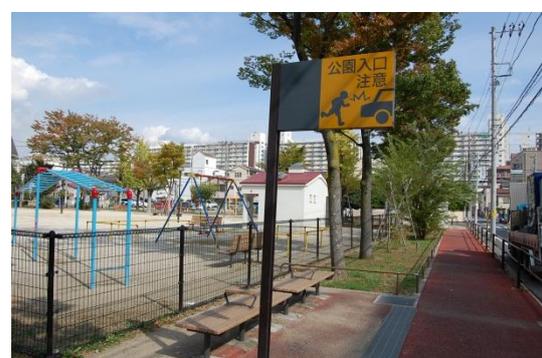


写真 3-40 再整備後の道路からの見通し



写真 3-41 再整備後の園内の見通し

#### (4) まとめ

五丁田公園の再整備前後の各種図面や再整備前の写真、現地確認を通じて、再整備による空間構成の変化を確認した結果、以下のようにまとめられる。

五丁田公園は施設の老朽化や樹木の繁茂による、安全性の低下、施設の混雑による公園の狭小化、主な利用者である小学生の利用の減少、トイレの利用に関する周辺の住民の苦情などの問題や施設の改修・拡充、樹木の管理による安全性の確保した子供の遊び場への要望を背景に再整備が行われたことがわかった。

まず、再整備前の公園のフェンスや花壇、段差をすべて撤去し、公園の中央部にはイベントなど多目的な利用を目的とした広場を整備し、自由な動線を計画した。また、広場の周りに、遊具、健康運動器具、パーゴラ、トイレなどの施設の拡充を行い、空間が分けられた。

そして、繁茂した樹木は伐採(38本)、移植(13本)、新植(23本)を行い、見通しの確保を最優先に考えた植栽管理が行われた。

このことから、多目的な利用を図る広場を中心に部分的に施設を拡充するという全体として空間構成の限定性を弱めるゾーニングとともに、樹木の整理が行われ、施設の老朽化や安全性の確保という問題の解決を図る再整備が行われたと言える。

一方、多目的広場の整備により、空間構成の限定性は弱めたものの、個別の施設に関しては、利用層や目的など利用形態を限定した上で、施設の配置が計画され、五丁田公園の利用資産である子供の遊び場としての機能の強化とともに、多様な利用層を考慮し、身近な公園として役割の増大を図った再整備が行われたと考えられる。

そして、緑の保存といった要望があるにもかかわらず、大きく植栽の整理を行ったのは、限られた空間での広場の整備や施設の拡充が行われ、安全性の確保といった最も重要な課題に対応するためには植栽の整理をせざるを得ない状況であったことが原因であると推察できる。

つまり、公園の規模や施設、課題の内容に応じて、ゾーニングの見直しを含む設計意図、設計手法に基づく再整備の可能性が示唆された。また、ワークショップを通じて地域住民の要望や行政的な課題を把握し、それを解決するための設計意図を明確した上で、再整備が行われたと考えられる。

### 3-2-2. 再整備による利用形態と利用者認識度の変化

#### (1) 再整備による利用頻度・利用時間の変化

再整備による公園利用の変化を把握するために、利用時間、利用頻度について5段階評価を行い、再整備前後の平均値を比較した。その結果、「利用頻度」、「利用時間」、「満足度」について再整備前後に有意な差があることが明らかになった（図3-12）。

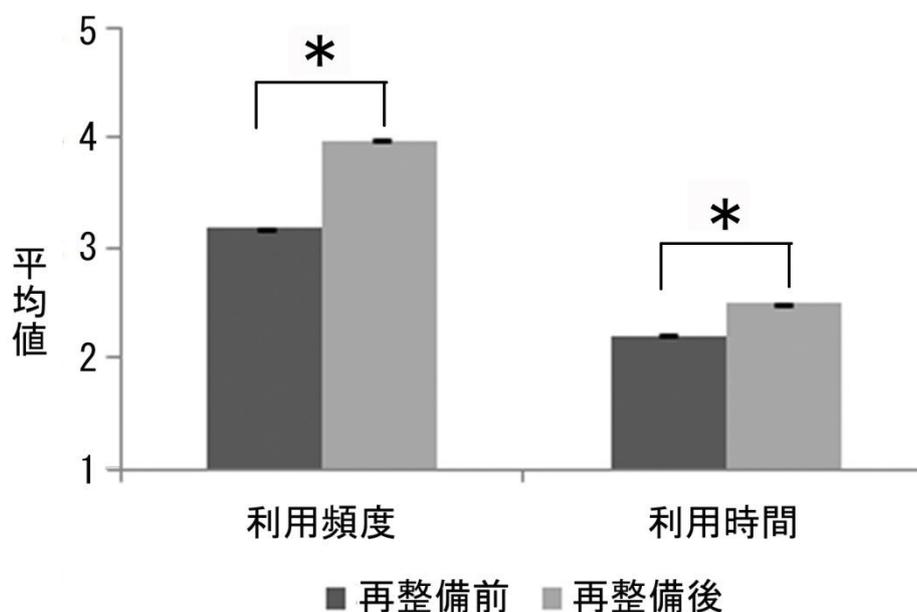


図3-12 五丁田公園の再整備前後の利用形態の比較  
ノンパラメトリック検定の結果、\*は有意差があることを示す（ $p < 0.05$ ）

表3-19 記述統計量

		N	平均値	標準偏差
再整備前	利用頻度	90	3.1778	1.38676
	利用時間	90	2.2000	.76731
再整備後	利用頻度	90	3.9778	.91157
	利用時間	90	2.4889	.82441

表3-20 検証統計量

	再整備後の利用頻度 - 再整備前の利用頻度	再整備後の利用時間 - 再整備前の利用時間
Z	-5.543 <sup>a</sup>	-4.315 <sup>a</sup>
漸近有意確率 (両側)	.000	.000

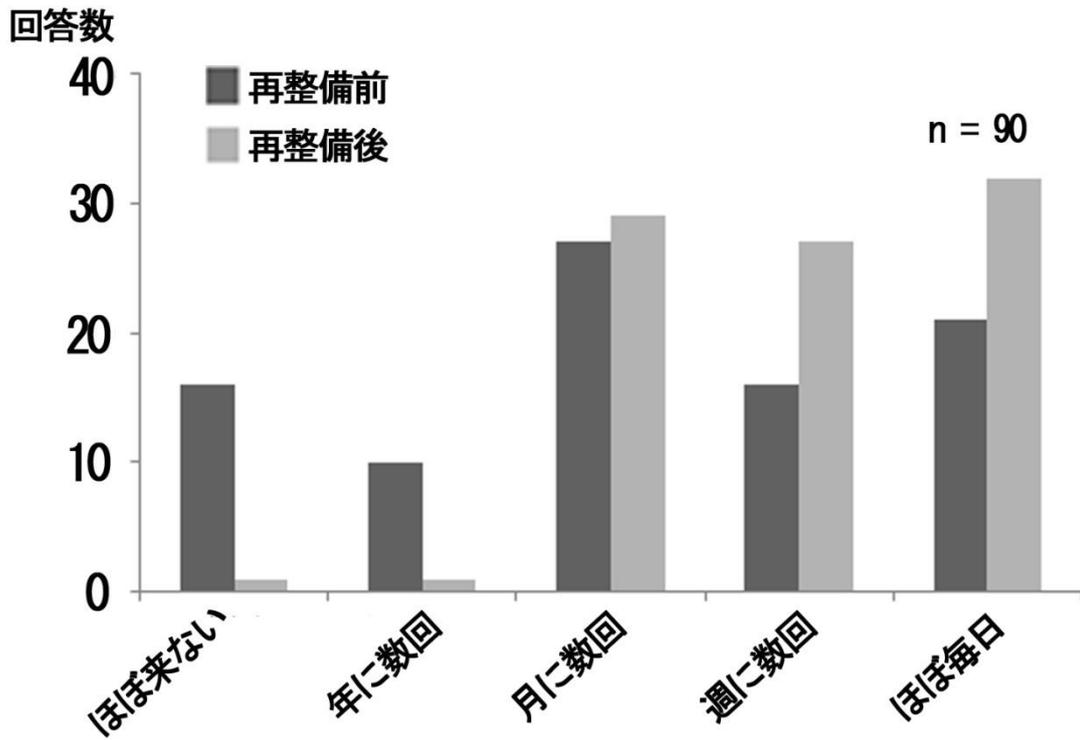


図 3-13 五丁田公園の再整備前後の利用頻度の変化

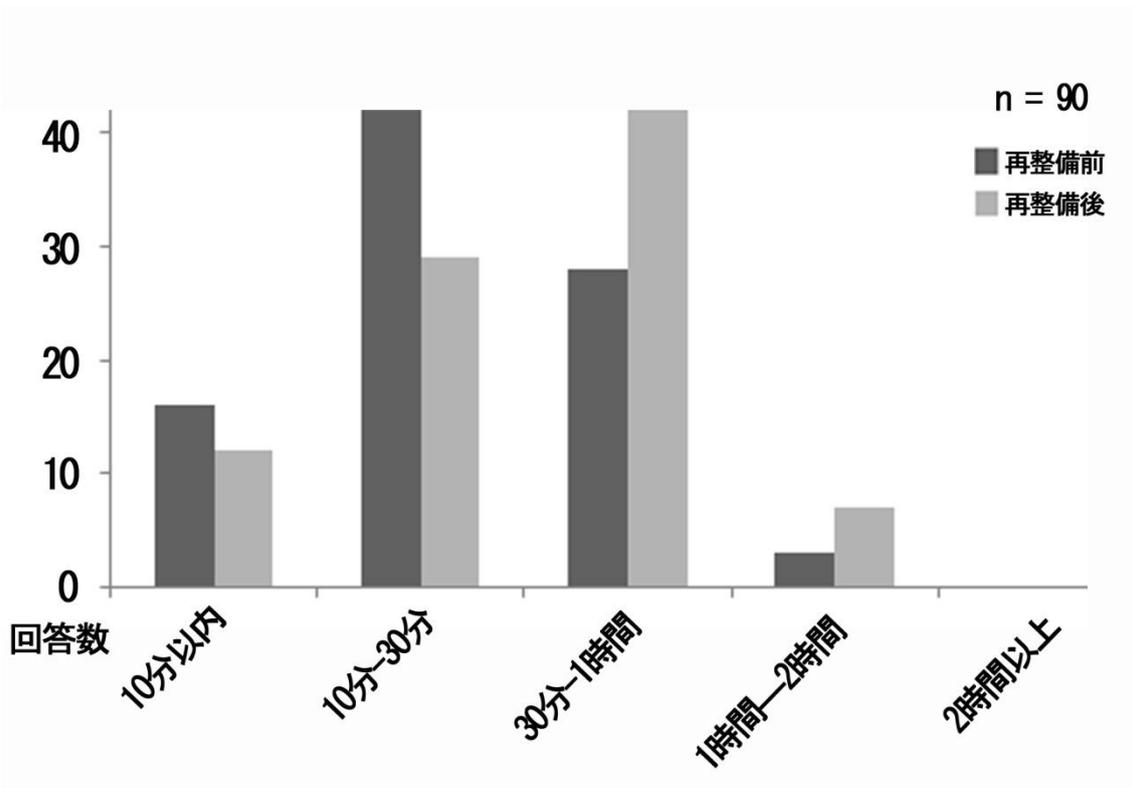


図 3-14 五丁田公園の再整備前後の利用時間の変化

## (2) 再整備による利用目的の変化

再整備による利用目的の変化を把握するために、再整備前後の利用目的について比較を行った。その結果、「散歩」、「子供を遊ばせる」、「目的地への移動」といった主な利用目的は再整備前後に変わらなかったが、運動・スポーツやトイレの利用を目的とした公園利用者が増加していることが分かった（表 3-21、図 3-15）。

表 3-21 五丁田公園の再整備前後の利用目的の変化

利用目的	回答数		%	
	再整備前	再整備後	再整備前	再整備後
散歩	29	30	19.08%	16.39%
運動・スポーツ	14	24	9.21%	13.11%
ペットと遊び	11	10	7.24%	5.46%
休憩	10	14	6.58%	7.65%
子供を遊ばせる	39	41	25.66%	22.40%
会話を楽しむ	8	10	5.26%	5.46%
トイレの利用	10	18	6.58%	9.84%
趣味活動	3	2	1.97%	1.09%
食事	1	1	0.66%	0.55%
花見	0	0	0.00%	0.00%
イベントに参加	0	2	0.00%	1.09%
目的地への移動	15	16	9.87%	8.74%
ボランティアか通津	0	0	0.00%	0.00%
通学・通勤	4	5	2.63%	2.73%
待ち合わせ	8	10	5.26%	5.46%

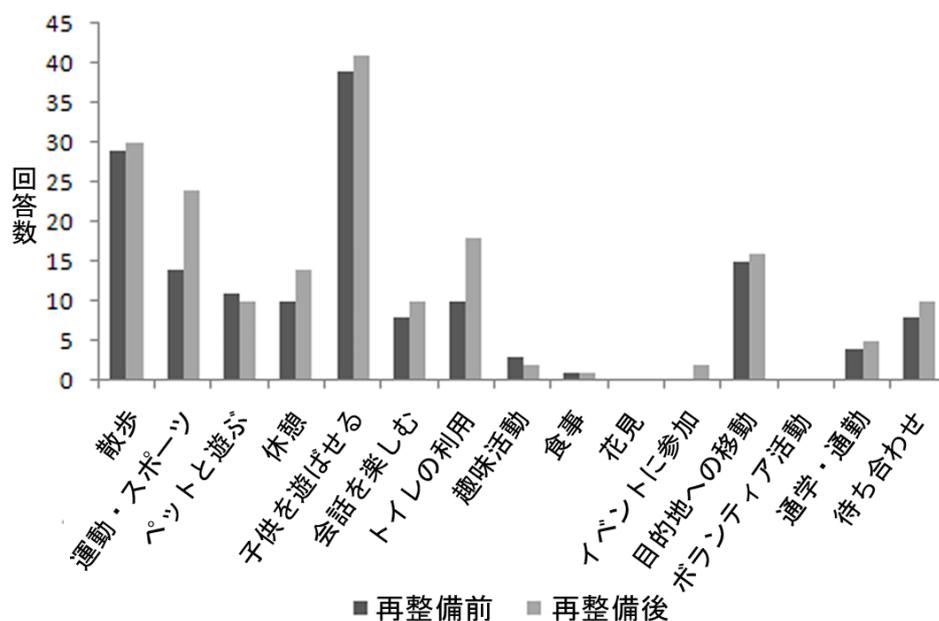


図 3-15 五丁田公園の再整備前後の利用目的の変化

### (3) 再整備による利用空間の変化

再整備による空間の変化と利用特徴を調べるために、再整備前後のよく利用する場所を比べた結果を見ると、遊具施設と広場がよく利用する場所であることは変わらなかった。しかし、再整備前は休憩施設をよく利用した利用者が多かったが、再整備後は減少され、健康運動施設が設置された場所をよく利用する利用者が多くなっていることが分かった（図 3-16）。

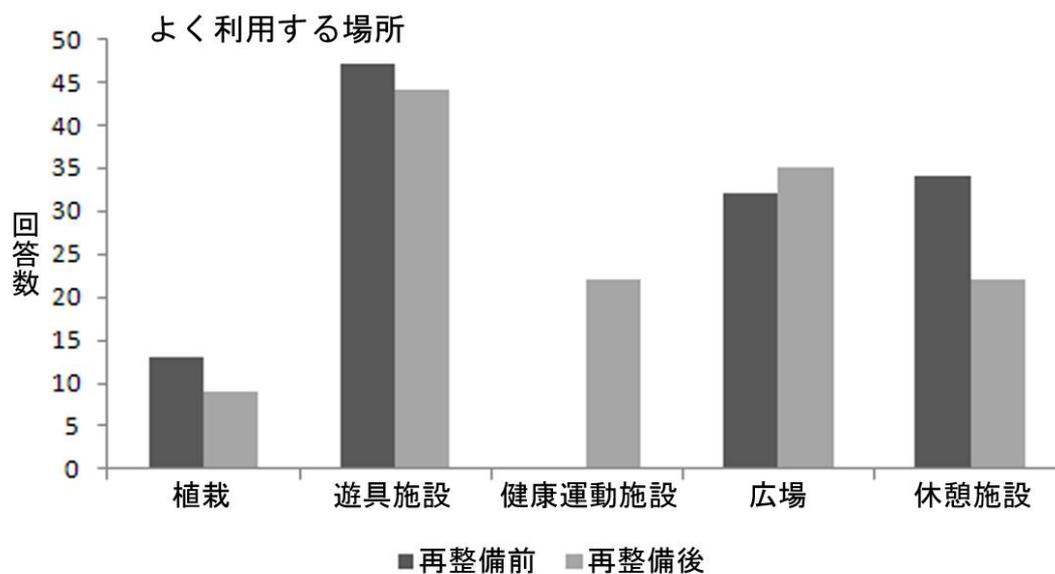


図 3-16 五丁田公園の再整備前後のよく利用する場所

#### (4) 再整備による空間と利用に対する利用者の認識度の変化

再整備による空間と利用の特性に対する利用者の認識の変化を調べるために、再整備前の短所と再整備後の長所を調べ、比較を行った。その結果、再整備前には短所として認識された「健康運動器具の充実」、「公園の賑やかさ」、「見通しの良さ」、「治安の良さ」、「広々とした空間による開放感」、「遊具施設の充実」、「歩道空間の良さ」、「安心して子供を遊ばせる」、「遊び場の区分」といった9項目が再整備後に長所として認識されている傾向が確認できた（図3-17、表3-22）。

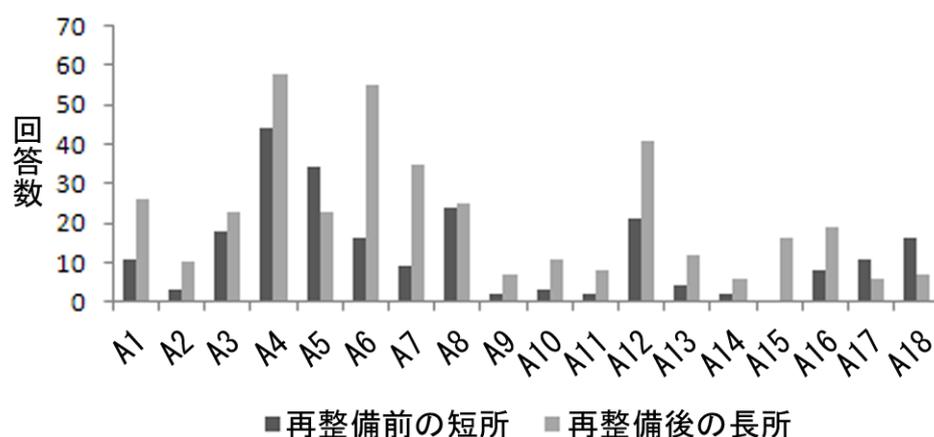


図 3-17 五丁田公園の再整備による空間と利用に対する認識の変化

表 3-22 再整備前後の短所・長所の18項目の一覧

項目	長所の詳細内容	短所の詳細内容
A1	健康運動器具が充実している	健康運動器具が少ない
A2	景色が良い	景色が良くない
A3	人が多くてにぎやか	利用者が少ない
A4	明るく見通しが良い	暗くて見通しが悪い
A5	治安が良い	治安が悪い
A6	広々とした空間があって開放感が感じられる	広場もなく、公園が狭い
A7	遊具施設が充実している	遊具施設が少ない
A8	移動及び歩行空間が良い	移動及び歩行空間が悪い
A9	自然を感じられる	自然を感じられない
A10	休憩施設が充実している	休憩施設が少ない
A11	木や花などの緑が多い	木や花などの緑が少ない
A12	安心して子供を遊ばせる	安心して子供を遊ばせられない
A13	多様な目的での利用ができる	多様な目的での利用ができない
A14	施設案内の看板が充実している	施設案内の看板が少ない
A15	季節感を感じられる	季節感を感じられない
A16	年齢により子供の遊び場を区別させる	幼児が遊べる場所がない
A17	照明設備が充実している	照明設備が少ない
A18	その他	その他

## (5) まとめ

五丁田公園の再整備前後の利用形態の変化や空間と利用の変化に対する利用者の認識度の変化を把握するために、1次アンケートを行った結果、以下のようにまとめられる。

まず、再整備前後の利用頻度、利用時間を比較した結果、再整備前後に有意な差があることから、再整備後の公園が再整備前と比べ、より頻繁に、長い時間利用されていることが確認できた。つまり、再整備による空間構成の変化が公園の利用促進に良い影響を及ぼしたと考えられる。つまり、再整備による空間構成の変化が公園の利用促進に良い影響を及ぼしたと考えられる。

次に、再整備前後の利用目的を比較した結果、運動・スポーツやトイレの利用を目的とした公園利用者が増加していることから、再整備による多目的な広場の整備と健康運動遊具など、新たな施設の整備やトイレの拡充が公園の役割や活用範囲の拡大に良い影響を及ぼしたと考えられる。

次に、再整備前後のよく利用する場所を調べた結果、前後において、遊具がよく利用する場所であることは変わらなかったが、再整備前に比べ、再整備後は健康運動遊具が設置された場所をよく利用する利用者が増加していることが分かった。このことから、多目的な利用を図る広場を中心に部分的に施設の拡充が行われ、安全安心な子供の遊び場の確保といった従前公園の諸課題の解決はもちろん、高齢者の健康運動といった新たな公園利用が行われるなど、公園利用の多様化や利用促進に良い影響を与えたと考えられる。

そして、再整備前の短所と再整備後の長所を調べ、比較を行った結果、再整備前には短所として認識された「健康運動器具の充実」、「公園の賑やかさ」、「見通しの良さ」、「治安の良さ」、「広々とした空間による開放感」、「遊具施設の充実」、「歩道空間の良さ」、「安心して子供を遊ばせる」、「遊び場の区分」といった9項目が再整備後に長所として認識されていることが確認できた。これより、施設の老朽化と荒廃化による安全性の低下を改善し、明るくて安全性の確保した子供の遊び場の整備といった諸課題の解決を図り、段差やフェンスなど、公園の狭小化の原因となる空間要素を撤去し、広場の整備と全面的な施設の改修や拡充に加え、見通しの確保のために、適切な植栽の整理が行われ、従前公園の問題が改善されたと推察できた。

### 3-2-3. ヒアリングの結果まとめ

表 3-23 五丁田公園のヒアリング結果まとめ

従前公園の利用状況	主に近状の子供の利用が多い。 通行人のトイレの利用。 夜間にはタクシーや不審車両の無断駐車が多い。
従前公園の問題点	遊具施設の老朽化 樹木の繁茂による見通しの悪さ 園内の花壇・段差が多く、子供が広く使えない。 トイレが汚い。 不審者が多い。
公園に対する要望及び課題	遊具施設の改修 広場の整備 見通しの改善 トイレの改修と位置変更 公園の危険性を排除し、安全性を確保 安全安心な子供の遊び場

公園に対する住民の要望、行政から出された課題、再整備の目的、公園資産の保全・活用、そして、それに対応した設計意図を確認するために、ヒアリング調査を行った結果、近隣の子供の遊び場といった利用的特性を公園資産として捉え、保全・活用した再整備が行われたことが確認できた。施設の老朽化や荒廃化、樹木の繁茂による見通しの悪化による子供の利用の低下や不審者も無断駐車や夜間のトイレの利用などの従前公園の問題と全面的な施設の改修や段差、フェンスなど子供の公園利用における危険的な要素を排除し、安全性を確保した子供の遊び場という行政の課題に対応した設計意図で、再整備が推進されたことが分かった（表 3-23）。

### 3-2-4. 再整備による公園の評価と利用満足度

#### (1) 空間と利用に対する評価

公園に対する住民の要望、行政からの課題、それに応じた設計意図を内容とした16項目の評価が再整備後の公園の満足度に与える効果及び影響を調べるために、2次アンケート調査を行った。すべての項目は5段階評価を行い、平均点数を算出した結果、五丁田公園は「公園の安全性」、「施設の改善」、「公園に対する満足度」に関するすべての項目は4.0点以上と非常に高く評価されていることが確認できた。

しかし、「みどりの保存」に関するすべての項目と広場でのイベントの参加に関する項目は3点以下と低く評価されることが分かった。特に、「みどりの保存」の2項目は2.5点以下と非常に低く評価されていることが確認できた（表3-24）。

表 3-24 五丁田公園の評価

大別	項目	平均点数	標準偏差
公園の 安全性	公園内の見通しが良くなりましたか	4.58	.67279
	浮浪者・不審者がいなくなりましたか	4.16	.88893
	安心して子供を遊ばせるようになりましたか	4.54	.67643
	公園が明るくなりましたか	4.74	.44309
みどりの 保存	樹木や花など公園内のみどりは保存されていますか	2.42	.90554
	多様な植栽が見られるようになりましたか	3.30	.83910
	成熟した緑により自然を感じられますか	2.24	.84660
施設の 改善	トイレは使いやすくなりましたか	4.60	.57143
	園路の整備により歩きやすくなりましたか	4.50	.54398
	フェンス・花壇・段差の撤去で広く使えるようになりましたか	4.66	.51942
	児童と幼児の遊具コーナーに分けられ遊びやすくなりましたか	4.34	.82338
公園の 利用	広場の整備により、多目的な利用ができるようになりましたか	3.70	1.12938
	広場で行われるイベントに参加するようになりましたか	2.52	1.87617
	広場でのイベントの際、使い勝手は良いと思いますか	3.90	.88641
	利用者の年齢層が広がりましたか	4.18	.80026
	公園の利用者が増えましたか	4.40	.60609
公園に対する満足度		4.08	.80407

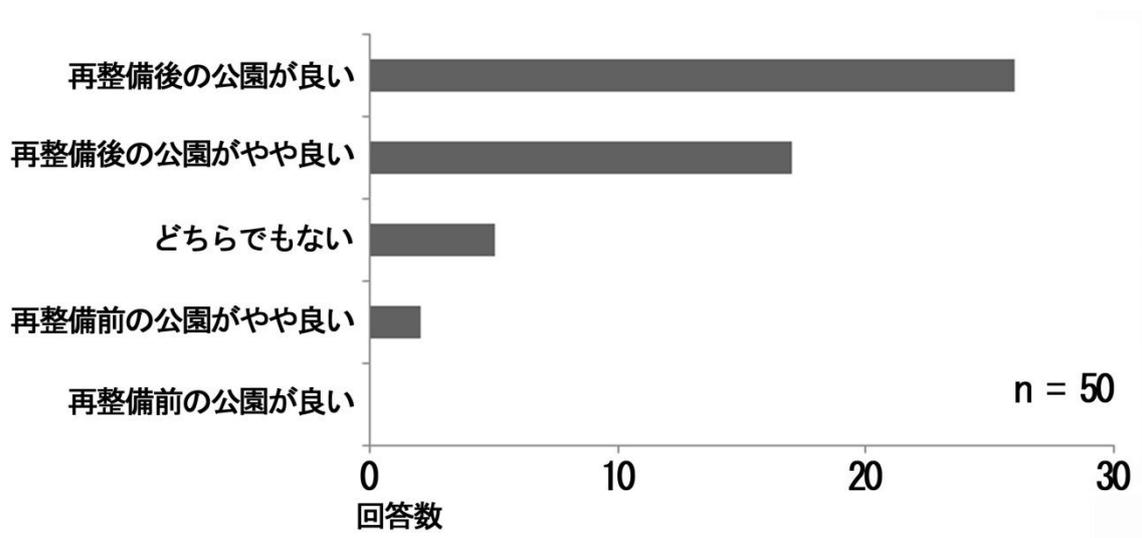


図 3-18 五丁田公園の利用満足度

## (2) 公園の評価項目と利用満足度との相関関係

公園に対する満足度と16評価項目との相関分析を行った結果、五丁田公園は「見通しの良さ」、「安心して子供を遊ばせる」、「年齢による遊び場の区別」、「園内のみどりの保存」、「多様な植栽」、「成熟した緑」、「公園の明るさ」といった7項目と満足度間にやや強い有意な正の相関が見られた。特に、「緑の保存」に関するすべての項目は満足度間にやや強い有意な正の相関が見られた(表3-25)。

表3-25 五丁田公園の評価と利用満足度との関係

大別	評価項目	満足度 (相関係数)
公園の 安全性	公園内の見通しが良くなりましたか	0.403**
	浮浪者・不審者がいなくなりましたか	0.381**
	安心して子供を遊ばせるようになりましたか	0.557**
	児童と幼児の遊具コーナーに分けられ遊びやすくなりましたか	0.420**
みどりの 保存	樹木や花など公園内のみどりは保存されていますか	0.401**
	多様な植栽が見られるようになりましたか	0.599**
	成熟した緑により自然を感じられますか	0.481**
施設の 改善	トイレは使いやすくなりましたか	0.293*
	園路の整備により歩きやすくなりましたか	0.233
	フェンス・花壇・段差の撤去で広く使えるようになりましたか	0.360*
	広場の整備により、多目的な利用ができるようになりましたか	0.004
公園の 利用	広場で行われるイベントに参加するようになりましたか	0.242
	広場でのイベントの際、使い勝手は良いと思いますか	0.326*
	利用者の年齢層が広がりましたか	0.263
	公園の利用者が増えましたか	0.226
	公園が明るくなりましたか	0.403**

\*\* :  $p < 0.01$

\* :  $p < 0.05$

### (3) まとめ

ヒアリング調査で把握した公園に対する住民の要望や行政の課題、公園資産の保全と活用に対応した設計意図を内容とする16の評価項目が公園の満足度に与える効果及び影響を調べるために、2次アンケート調査を行った結果、以下のようにまとめられる。

「公園の安全性」に関する項目は4.0点以上と高く評価され、不審者の有無に関する項目以外のすべての項目が満足度との間にやや強い有意な正の相関が見られた。

このことから、段差やフェンスの撤去、老朽化した遊具の改修、植栽の適切な整理により、見通しを確保といった子供の遊びにおける潜在的な危険な要素の排除を行う再整備手法が安全性の確保した子供の遊び場としての高い評価に有効であると指摘できた。さらに、年齢別に幼児と児童の区別した遊び場を設け、年齢に適した遊具を設置することで、子供の事故防止、遊具の独占など、子供の利用混雑による様々な問題が解消され、高い評価と満足度につながる再整備手法であるといえる。

つまり、身近な小規模の街区公園における主な利用者である近隣の子供の遊び場としての公園再整備を推進する上で、利用ニーズに対応した施設の拡充は言うまでもないが、まず、従前公園の空間的な危険要素の排除を最優先に考慮すべきであると考えられる。

一方、緑と広場の利用に関する項目が低い評価だったにも関わらず、満足度に関しては高く評価されたことが分かった。このことから、利用者は植栽の伐採や間伐により、公園の緑が減少したと感じるものの、再整備前の公園の最も大きい問題であった樹木の繁茂による公園の安全性の低下が樹木の整理により、解決され、高い評価を得られたことが満足度の向上で、良い影響を及ぼした可能性が想定される。

植栽や広場の利用の評価については3点以下の非常に低い評価だったが、これは、地域住民の要望や課題に即した再整備でもあったことから、今後の公園利用の定着や推移を踏まえ、時間をかけて再評価を行っていく必要があると考えられる。

## 4. 本章の結論

本章では特定の利用層の目的に沿って行われる利用的特性を公園資産として捉え、その資産を保全・活用した2か所の都市公園再整備事例を対象として、図面による空間分析と2回のアンケート調査による利用者評価を行った。そして、その結果を基に、再整備による空間構成と利用形態の変化が利用満足度に与える効果及び影響を明らかにし、今後の公園再整備における「利用的特性」を活かした再整備の空間設計手法について検討を行った。その結果、以下の諸点が明らかになった。

### 4-1. 利用的特性を活かした再整備と利用満足度との関係

本章の対象公園である富岡第五公園と五丁田公園は地域イベントの開催による地域住民の交流の場と近隣の子供の遊び場といった利用的特性を公園資産として捉え、積極的に保全・活用した再整備が行われ、空間と利用に関する評価と満足度が高く評価されたことが確認できた。つまり、利用的特性を把握した上で、利用形態の限定に沿った空間整備を行い、利用の利便性を図った再整備手法が公園の利用満足度の向上につながった可能性が推察できた。

### 4-2. 利用的特性を活かした再整備手法

身近な近隣の住区基幹公園は地域住民の生活圏内に複数存在する。そして、立地条件や整備状況、利用状況により、時間の経過と共に、公園ごとに利用の特性が現れる。そのため、再整備公園と近隣の公園との空間機能や利用形態における関係性や役割分担を考慮し、地域全体での公園の位置づけを把握する必要性が指摘できた。

そして、それを基に、特定の利用者層による利用形態の限定が必要であるといえる。さらに、利用層、利用目的、利用行為の想定に基づき、利用形態を想定した上で、公園毎に資産の活用方法を細やかに考えていくことが、地域の公園利用の促進や満足度の向上で、つながる有効な再整備手法であることが明らかになった。

本章の対象公園である富岡第五公園と五丁田公園は従前公園が有する利用的特性を把握し、認識した上で、再整備のワークショップを通じて、多様なイベントが開催される地域の交流の場づくりと近隣の子供の安全安心な遊びの場づくりといった明確な再整備の課題の設定による利用形態の限定を行った。

そして、特定の利用形態に対応した空間機能の限定、利用空間の有効面積の拡大を図り、利便性の向上を最優先に考慮した空間整備とともに、従前の利用的特性を支える空間的特性を最大限に活かすことにより、公園資産の保全・活用と資産の質の向上を図った再整備が行われ、高い利用満足度につながった可能性が推察できた。

## 引用・参考文献 (3章)

1. ヒアリング結果を基に筆者整理
2. ヒアリング結果を基に筆者整理
3. 図 3-3 の図面は金沢区土木事務所より提供。筆者再作成
4. 図 3-10 の図面は足立区より提供。筆者再作成

## 第4章 空間と利用の特性を重視した公園資産の保全・活用と

### その効果

1. はじめに
2. 研究方法
3. 結果及び考察
4. 本章のまとめ

## 第4章 空間と利用の特性を重視した公園資産の保全・活用とその

### 効果

#### 1. はじめに

本章では、従前公園がもつ空間的特性や利用的特性の両方を公園資産として保全・活用した再整備事例を対象とし、空間的特性と利用的特性を保全・活用した方法が利用満足度に与える効果及び影響について検討を行った。

#### 2. 研究の方法

##### 2-1. 研究対象公園の概要

表 4-1 花畑公園の概要

対象公園	花畑公園
位置	足立区花畑4丁目40-1
開設日	1985年9月1日
再整備竣工日	2009年3月14日
種別	近隣公園
面積	23,025.91㎡
特徴	120本のソメイヨシノ（東京都桜百選） 周辺団地の高齢者と子供が主な利用者
周辺環境	花畑団地（2,725世帯）、老人ホーム
従前公園の問題点	広場での公園利用者の混雑やマナーの悪さ さくらの樹勢の悪化 施設の老朽化
再整備の目的	高齢者の健康広場としての公園づくり 子供の外遊びの向上につながる遊び場づくり

本章の研究対象である花畑公園は1985年9月1日に開設された面積は23,025.91㎡の近隣公園である。足立区制50年を記念して作られた花畑記念庭園と芝生広場、健康運動器具、遊具、プールなどの施設で構成されている。1964年管理開始された2,725世帯の花畑団地が隣接し、団地の世帯主の54%が高齢化されている地域である。誘致圏内に大型老人ホームが2箇所あり、花畑西小学校が位置して高齢者や小学生が主な公園利用者である。特に地域の高齢者のコミュニティの場として、利用されている特徴が

ある。120本の桜に囲まれ、東京都桜百選に選ばれた地域の名所である。高齢者の介護予防や子供の基礎体力の増大という行政からの課題や自由空間である芝生広場での犬の散歩、自転車の利用など利用の混雑やマナーの悪さなどの苦情や桜の保存、施設の拡充への要望といったワークショップから出された地域住民の意見を背景に2009年3月に再整備が行われた<sup>1)</sup>。表4-1と図4-1は花畑公園の概要を示したものである。

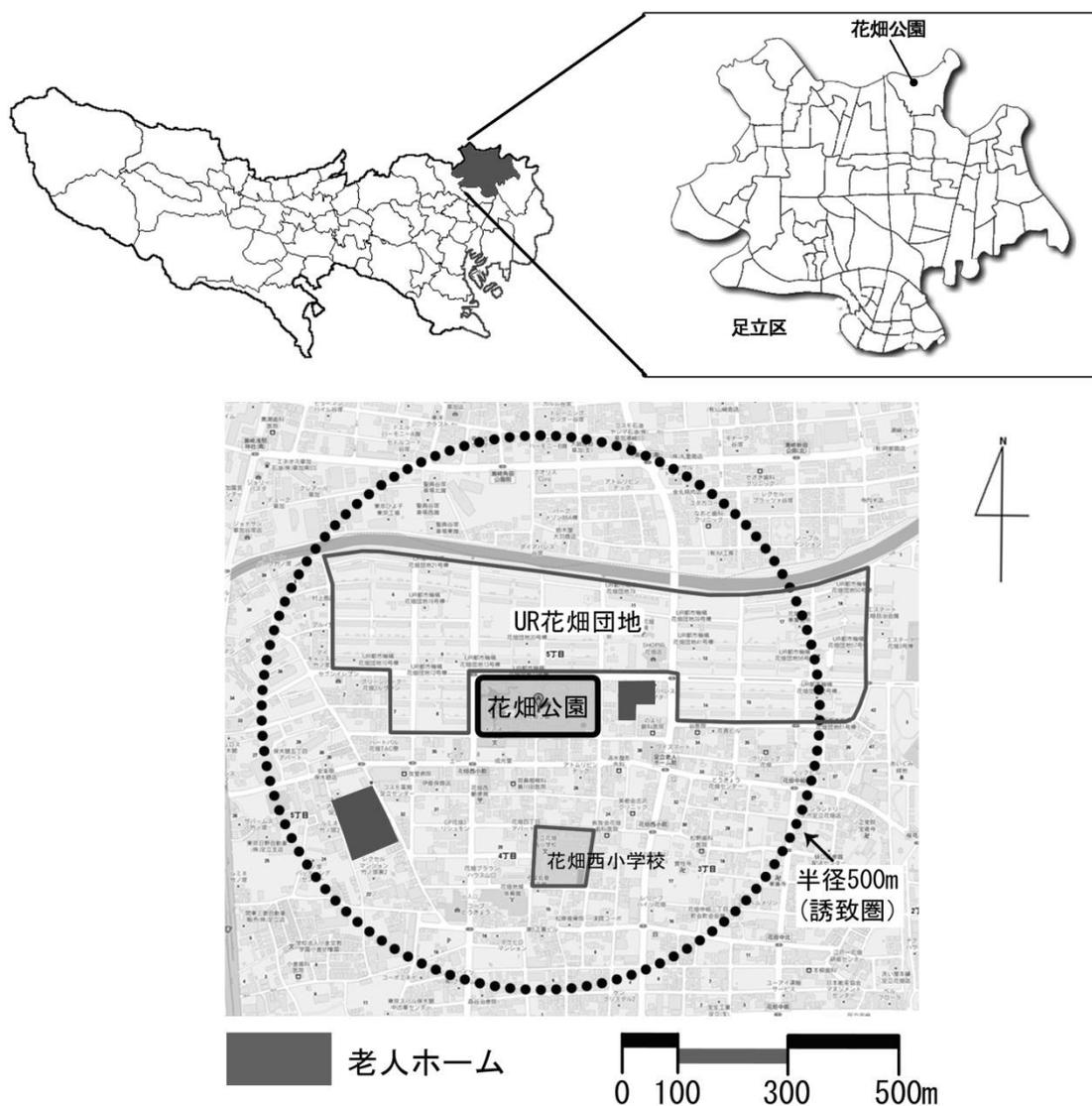


図 4-1 花畑公園の概要

## 2-2. 調査方法

### (1) 空間構成の変化

公園再整備による空間構成の変化を把握するために、花畑公園の施設撤去図、完成平面図、植栽図などの各種図面と再整備前の写真、花畑公園の再整備事業報告書など資料を把握した上に、現地での確認を行い、空間変化の分析を行った。

### (2) 1次アンケート調査

公園再整備による利用形態の変化と空間と利用の変化に対する利用者の認識を把握するために、1次アンケート調査を行った。再整備前後の利用経験がある公園利用者を対象に、まず、利用形態の変化を調べるために、再整備前後における「利用頻度」、「利用時間」について調べた。

さらに、現在の都市公園の一般的な利用目的に対象公園の空間要素や周辺環境の特徴を加え、15項目を設定し、再整備前後の「利用目的」を調べた。また、再整備前後の図面によく利用する場所をマッピングしてもらった。

そして、再整備前後の空間構成と利用形態の変化に対する利用者の認識と満足度の変化との関係性を調べるため、現地確認と空間分析から把握した18項目について、再整備前の短所と思うか/再整備後の長所と思うかを回答してもらった。調査は2011年3月5日—9日と4月9日—10日にかけて、7回実施し、有効回答数は150件であった(表4-2)。

表 4-2 1次アンケート調査の概要

調査対象	再整備前後の公園の利用経験がある公園利用者
調査期間	2011年3月5日—9日、4月9日—10日(7回)
回答数 / 有効回答数	150 / 150
調査項目	公園の利用頻度：5段階評価(ほぼ毎日—ほぼ来ない)
	公園の利用時間：5段階評価(2時間以上—10分以内)
	公園の利用目的：複数回答(15項目)
	公園のよく利用する場所：図面上に○付のマッピング
	再整備後公園の長所について：複数回答(18項目)
	再整備前公園の短所について：複数回答(18項目)

### (3) ヒアリング調査

公園に対する住民の要望、行政から出された課題、再整備の目的、公園資産の保全・活用、そして、それに対応した設計意図を確認するために、ワークショップに参加した地域の自治会のメンバー、再整備の設計を行った設計者に直接インタビュー形式でヒアリング調査を行った（表 4-3、4-4）。

表 4-3 ヒアリング調査の対象

対象公園名 調査対象	花畑公園
ワークショップ参加者	再整備当時の仲組 4 丁目町会元町会長 K. T
公園設計者	(株) シビックデザイン研究所 代表取締役 出来正典

表 4-4 ヒアリング調査の質問項目

ワークショップ参加者	公園設計者
従前公園の問題点を含め、全体的な利用状況について	従前公園の問題点を含め、全体的な利用状況について
ワークショップで出された公園に対する苦情や要望について	地域住民や行政から出された公園に対する要望や課題について
再整備後の公園に対する評価について 改善されたところ 改善されなかったところ	要望や課題、資産の活用に応じた設計の意図について
	再整備後の公園に対する評価について 改善されたところ 改善されなかったところ

#### (4) 2次アンケート調査

再整備前後の対象公園の利用経験がある公園利用者を対象として、2011年6月29日～7月7日にかけて、6回の調査を実施した。有効回答数は80件であった。

調査内容はヒアリング調査から確認された内容を基に、地域住民の要望や行政の課題の達成可否の確認、設計意図の有効性の評価を通じて公園資産を活用した空間構成の変化が利用者満足度に与える影響を把握するために設定した16項目と公園全体の満足度を5段階評価で調査を行った(表4-5)。

アンケートの結果は符号化し、SPSS (Statistical Package for Social Science) Win 17.0 を用いて、分析を行った。

表 4-5 2次アンケート調査の質問項目

調査対象	再整備前後の公園の利用経験のある公園利用者
調査期間	2011年6月29日—7月7日(6回)
回答数 / 有効回答数	80 / 80
調査項目	公園の評価:すべて5段階評価 (そう思う—そう思わない)
	利用者のマナーについて(2項目) 公園の安全性について(3項目) みどりの保存について(2項目) 施設の改善について(5項目) 公園の利用について(4項目)
	公園の満足度について (再整備前の公園が良い—今の公園が良い)

### 3. 結果及び考察

#### 3-1. 再整備による空間構成の変化

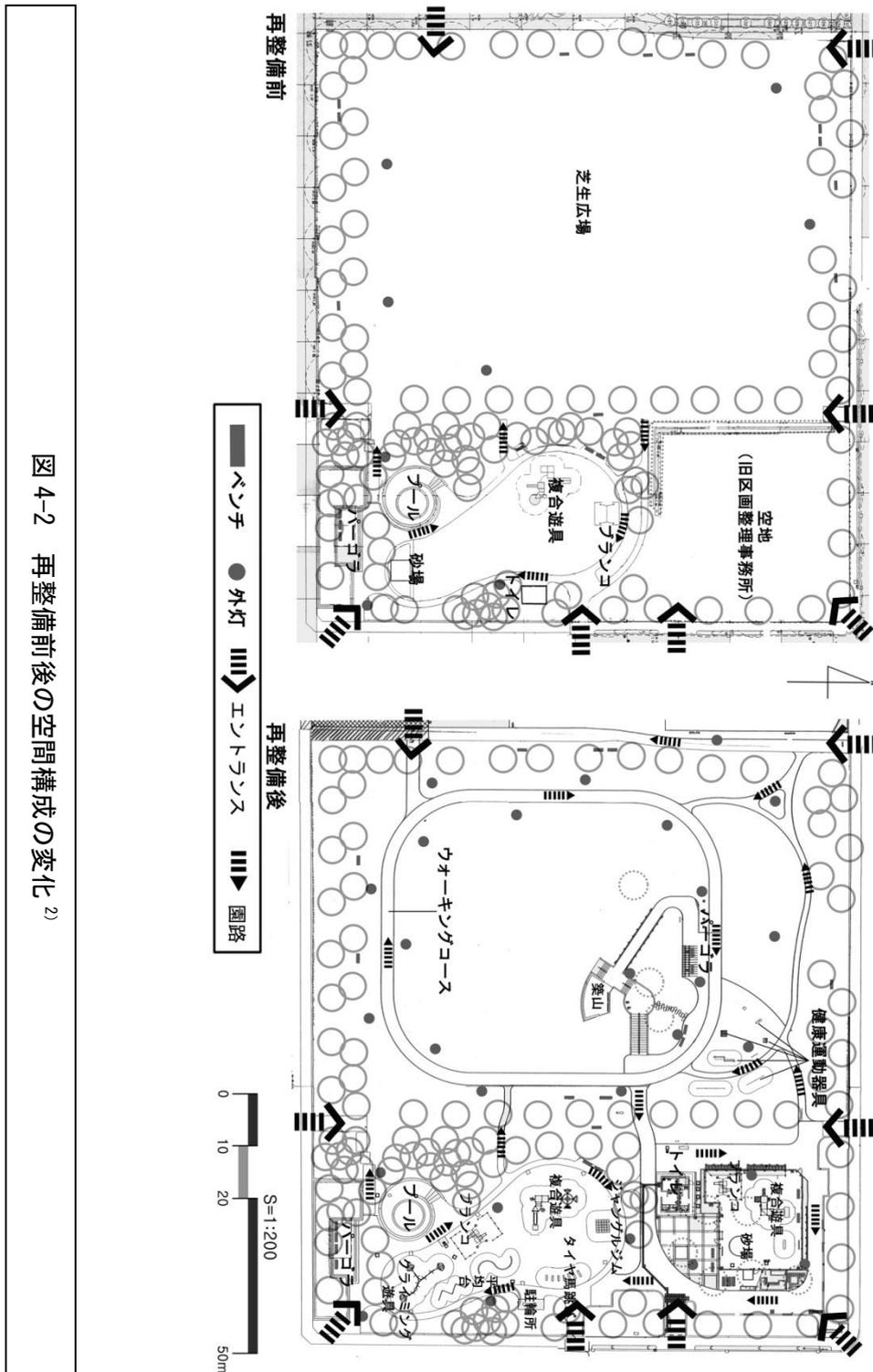


図 4-2 再整備前後の空間構成の変化<sup>2)</sup>

### (1) ゾーニングの変化

花畑公園は芝生広場という利用目的が不明確な広場で、自転車の利用、ボール遊び、犬連れの散歩、運動など、利用の混雑が見られ、従前公園の大きい問題であったが、再整備後、高齢者の健康増進という明確な設計意図により、高齢者向けの運動を目的とした健康広場と従前遊具コーナーには児童向けの遊具の設置、空き地には幼児向けの幼児遊具コーナーを整備した。

それによって、空間機能に限定したゾーニングが行われて、運動スポーツ、散歩などの目的で利用する健康広場と遊具施設の拡充が行われた子供の遊び場に分けられて利用の混雑の解消を図った再整備が行われたことが確認できた。



写真 4-1 再整備前の芝生広場



写真 4-2 再整備後の健康広場



写真 4-3 再整備後の幼児遊具コーナー



写真 4-4 再整備後の児童遊具コーナー

## (2) 施設の拡充

芝生広場には、高齢者の健康増進を目的とした健康広場として、全長 200mのウォーキングコース、健康運動器具 7 基、築山を設置し、散歩や運動などの利用を目的とする空間として再整備された。また、従前の遊び場と空地に遊具施設を拡充し、年齢別に児童と幼児の遊具コーナーを設けることで、子供の遊びを目的とする空間として再整備されたことが分かった。さらに、広場のベンチや従前のパーゴラも、新しく整備し、公園の休憩機能の向上を図った再整備が行われたことが確認できた（表 4-6）。

表 4-6 再整備による主な施設の変化

施設	再整備前	再整備後
ベンチ	17 基	26 基
街灯	8 基	27 基
トイレ	1 箇所	1 箇所（多目的トイレ）
遊具	ブランコ 2 基 複合遊具 1 基 砂場 幼児用のプール	ブランコ 4 基 複合遊具 2 基 砂場 平均台 クライミング遊具 幼児用のプール タイヤ馬跳び ジャングルジム
健康運動遊具	無し	7 基
ウォーキングトラック	無し	全長 200m
築山	無し	1 箇所



写真 4-5 再整備前の複合遊具



写真 4-6 再整備前のブランコ



写真 4-7 再整備前の砂場とパーゴラ



写真 4-8 再整備後の複合遊具



写真 4-9 再整備後のクライミング遊具



写真 4-10 再整備後のトイレ



写真 4-11 ウォーキングトラック



写真 4-12 健康運動遊具

### (3) 園路

再整備前には、園路は整備されず、自由動線で、雨天後の芝生広場の水はけ問題により、園内の移動に不便であったが、再整備による、ウォーキングトラックを含んだ、園路の整備による移動動線が計画された。さらに、広場の外周部の園路の整備により、犬連れの利用者の芝生への進入の抑制を図った再整備が行われたことが分かった。



写真 4-13 再整備前の広場



写真 4-14 再整備後の園路



写真 4-15 再整備後の園路-2



写真 4-16 再整備後の園路-3

#### (4) 植栽の保全

花畑公園は従前の120本のソメイヨシノはすべて保存された。また、園内の見通しの確保のため、広場から遊び場の中の樹木を7本伐採した。さらに、築山、幼児遊具コーナー周辺に新植(9本)が行われた(図4-3)。

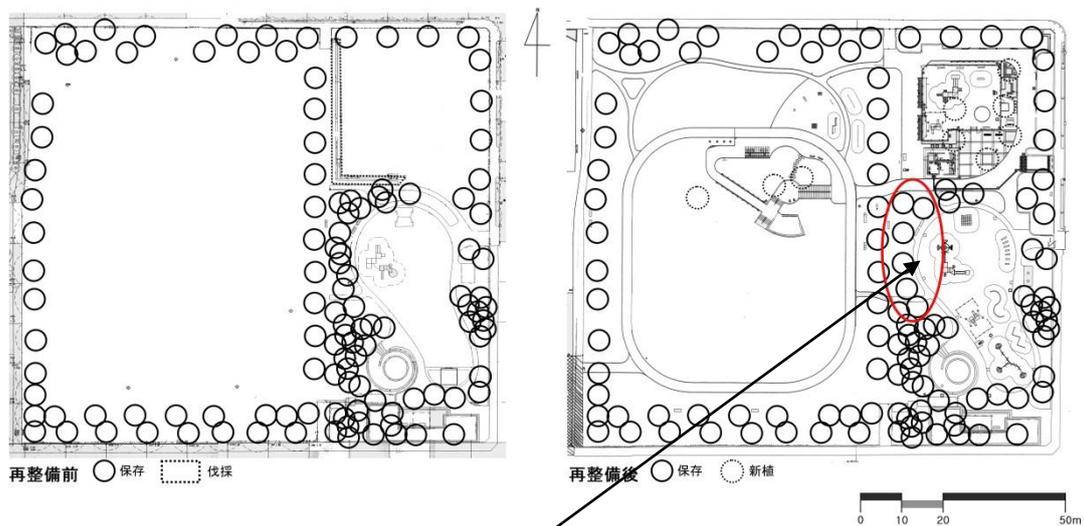


図4-3 再整備前後の植栽の変化



写真4-17 再整備前の広場から遊びの場への見通し

## (5) まとめ

花畑公園の再整備前後の各種図面や再整備前の写真、現地確認を通じて、再整備による空間構成の変化を確認した結果、以下のようにまとめられる。

花畑公園は高齢者の介護予防や子供の基礎体力の増大という行政からの課題や自由空間である芝生広場での利用の混雑やマナーの悪さなどの苦情や緑の保存、施設の拡充への要望といったワークショップから出された地域住民の意見を背景に利用目的や空間機能を限定する方向性をもつゾーニングにより、二つの空間に分けられ、利用混雑を解消した再整備が行われたことがわかった。

施設に関しては芝生広場を健康広場として全長 200mのウォーキングコース、健康運動器具 7 基、築山を設置し、散歩や運動などの利用を目的とする空間に再整備された。

そして、従前の遊び場と空地に遊具施設を拡充し、年齢別に児童と幼児の遊具コーナーを設けることで、子供の遊びを目的とする空間として再整備された上に、園路の整備による利用動線が計画された。植栽に関しては、120 本の桜はすべて保存され、広場から遊び場の間の樹木の伐採(7 本)と築山、幼児遊具コーナー周辺に新植(9 本)が行われた。

このことから、花畑公園は再整備により、空間機能の限定性を高めるゾーニングによる施設の拡充とともに、空間的特性である桜木の保護が行われ、再整備前の公園の最も大きい問題であった利用混雑の解消や公園資産の保全を図った再整備が行われたことが読み取れる。

また、従前の芝生広場を高齢者の健康増進といった設計意図を設定し、健康広場として、施設が拡充され、高齢者の利用促進や利用の拡大を意図した再整備が行われ、従前公園の利用的特性であった高齢者の交流の場としての公園機能の強化を図った再整備が行われたと考えられる。さらに、幼児と児童の遊具コーナーを新設し、年齢層を考慮した遊具の拡充が行われ、安全安心な子供の遊び場の確保といった住民の要望や行政の課題に対応した再整備が行われたと考えられる。

### 3-2. 再整備による利用形態と利用者認識度の変化

#### (1) 再整備による利用頻度・利用時間の変化

再整備による公園利用の変化を把握するために、利用時間、利用頻度について5段階評価を行い、再整備前後の平均値を比較した。その結果、「利用頻度」、「利用時間」、「満足度」について再整備前後に有意な差があることが明らかになった（図4-4）。

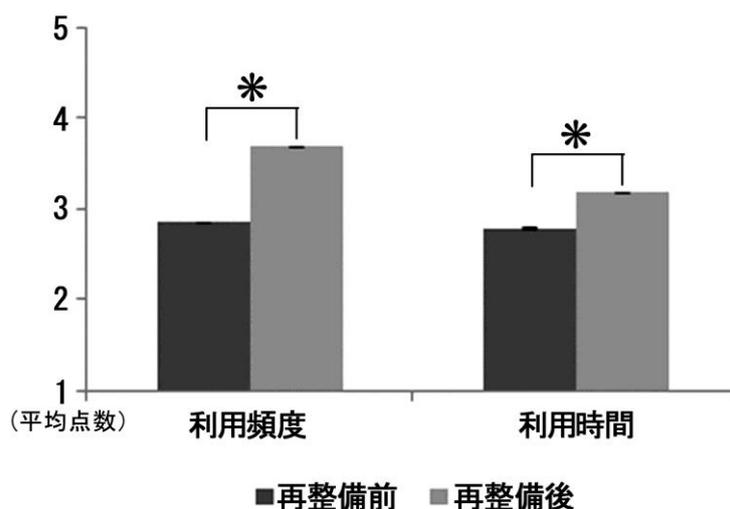


図4-4 再整備前後の利用形態の比較

ノンパラメトリック検定の結果、\*は有意差があることを示す ( $p < 0.05$ )

表4-7 記述統計量

		N	平均値	標準偏差
再整備前	利用頻度	150	2.8533	1.17231
	利用時間	150	2.7867	.87919
再整備後	利用頻度	150	3.6867	.97717
	利用時間	150	3.1800	.76912

表4-8 検証統計量

	再整備後の利用頻度 - 再整備前の利用頻度	再整備後の利用時間 - 再整備前の利用時間
Z	-7.863 <sup>a</sup>	-2.771 <sup>a</sup>
漸近有意確率 (両側)	.000	.006

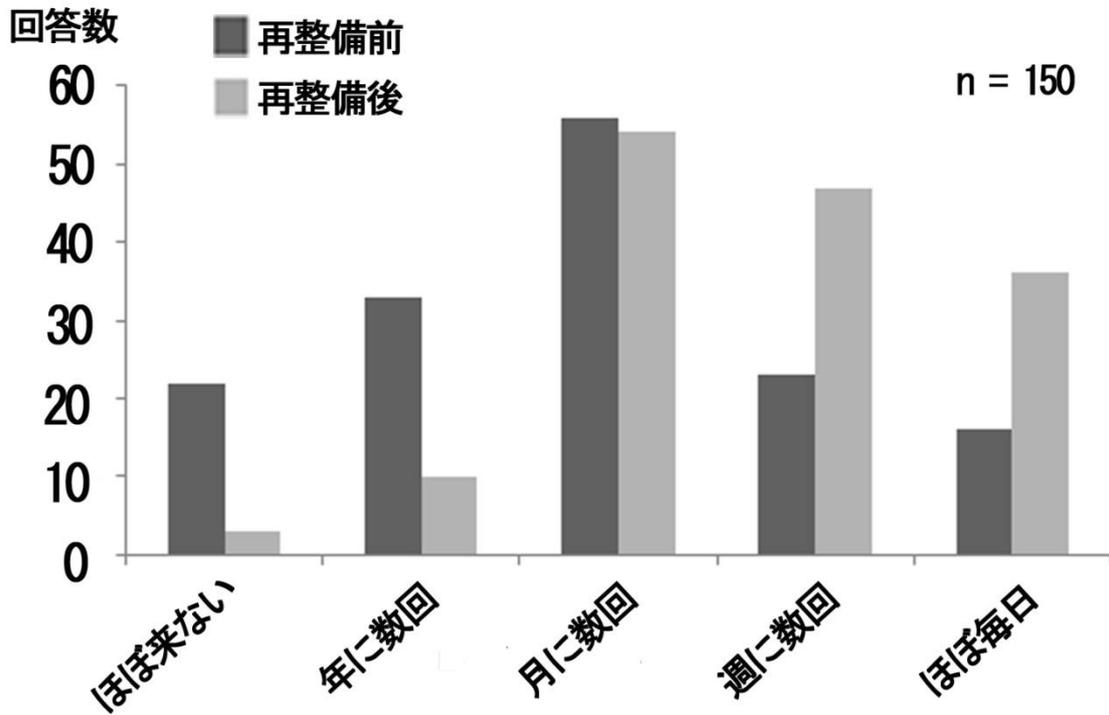


図 4-5 再整備前後の利用頻度の変化

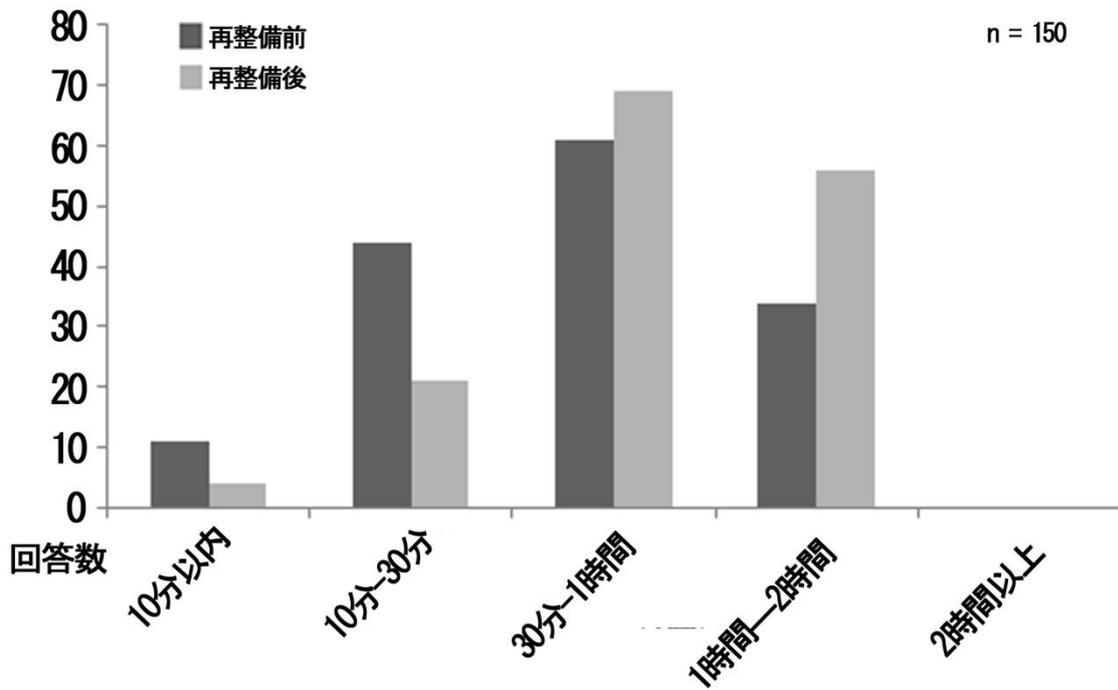


図 4-6 再整備前後の利用時間の変化

## (2) 再整備による利用目的の変化

再整備による利用目的の変化を把握するために、再整備前後の利用目的について比較を行った。その結果、「散歩」、「子供を遊ばせる」、「花見」といった主な利用目的は再整備前後に変わらなかったが、運動・スポーツやトイレの利用を目的とした公園利用者が増加していることが分かった（図 4-7、表 4-9）。

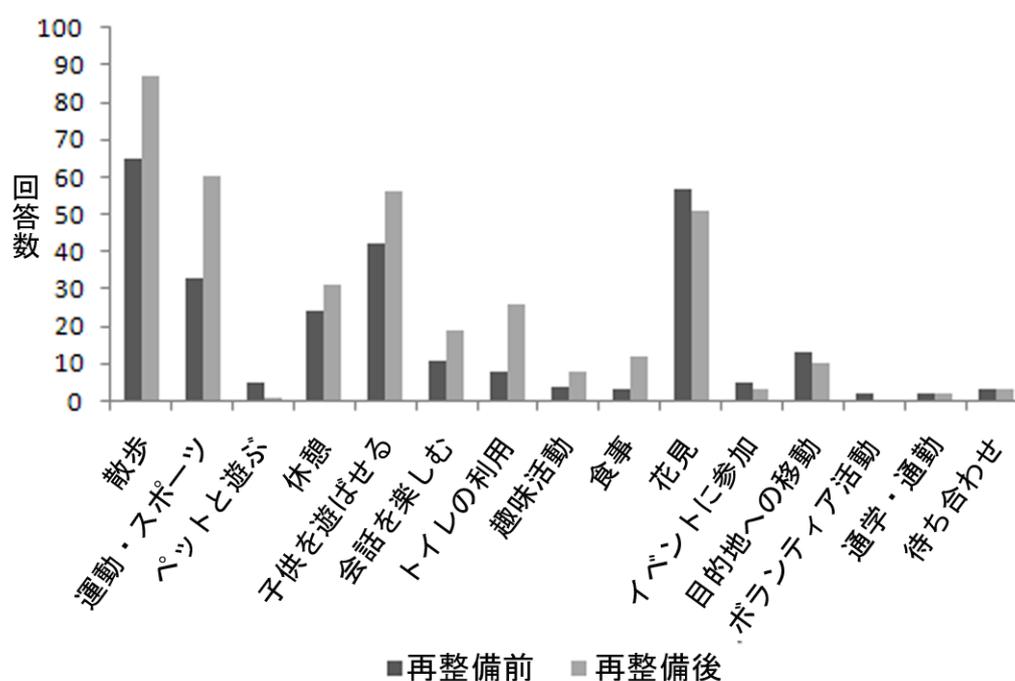


図 4-7 再整備前後の利用目的の変化

表 4-9 再生前後の利用目的の変化

利用目的	回答数		%	
	再整備前	再整備後	再整備前	再整備後
散歩	65	87	23.47%	23.58%
運動・スポーツ	33	60	11.91%	16.26%
ペットと遊び	5	1	1.81%	0.27%
休憩	24	31	8.66%	8.40%
子供を遊ばせる	42	56	15.16%	15.18%
会話を楽しむ	11	19	3.97%	5.15%
トイレの利用	8	26	2.89%	7.05%
趣味活動	4	8	1.44%	2.17%
食事	3	12	1.08%	3.25%
花見	57	51	20.58%	13.82%
イベントに参加	5	3	1.81%	0.81%
目的地への移動	13	10	4.69%	2.71%
ボランティアか通津	2	0	0.72%	0.00%
通学・通勤	2	2	0.72%	0.54%
待ち合わせ	3	3	1.08%	0.81%

### (3) 再整備による利用空間の変化

再整備による空間の変化と利用特徴を調べるために、再整備前後のよく利用する場所を比べた結果を見ると、広場がよく利用する場所であることは変わらなかった。しかし、再整備前は植栽された場所をよく利用した利用者が多かったが、再整備後は遊具や健康運動施設が設置された場所をよく利用する利用者が多くなっていることが分かった（図4-8）。

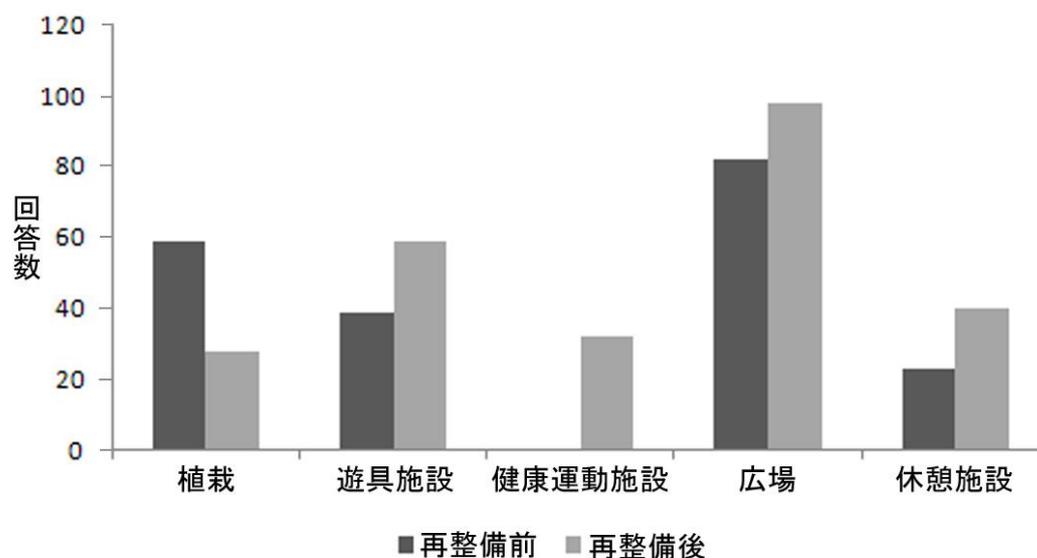


図4-8 再整備前後のよく利用する場所

#### (4) 再整備による空間と利用に対する利用者の認識度の変化

再整備による空間と利用の特性に対する利用者の認識の変化を調べるために、再整備前の短所と再整備後の長所を調べ、比較を行った。その結果、再整備前に短所として認識された「健康運動器具の充実」、「公園の賑やかさ」、「見通しの良さ」、「治安の良さ」、「遊具施設の充実」、「歩道空間の良さ」、「休憩施設の充実」、「安心して子供を遊ばせる」、「多目的な利用」、「施設案内の看板の充実」、「遊び場の区分」、「照明施設の充実」といった12項目が再整備後に長所として認識している傾向が確認できた(図4-9、表4-10)。

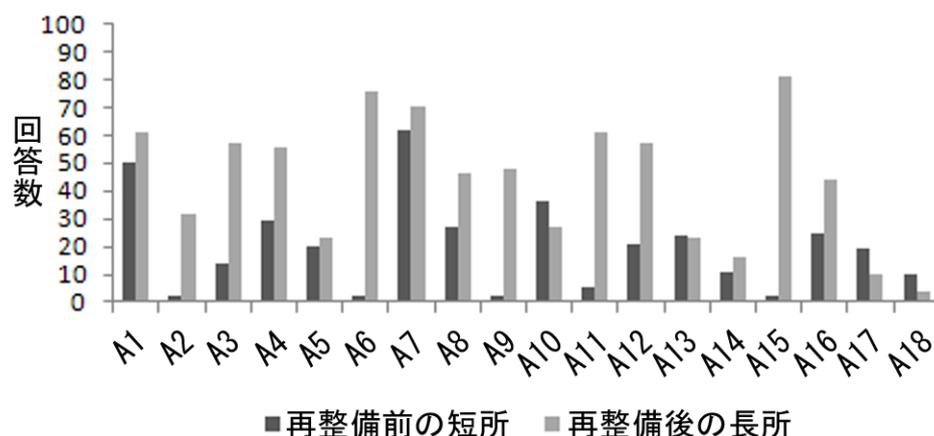


図4-9 再整備による空間と利用に対する認識の変化

表4-10 再整備前後の短所・長所の18項目の一覧

項目	長所の詳細内容	短所の詳細内容
A1	健康運動器具が充実している	健康運動器具が少ない
A2	景色が良い	景色が良くない
A3	人が多くてにぎやか	利用者が少ない
A4	明るく見通しが良い	暗く見通しが悪い
A5	治安が良い	治安が悪い
A6	広々とした空間があって開放感が感じられる	広場もなく、公園が狭い
A7	遊具施設が充実している	遊具施設が少ない
A8	移動及び歩行空間が良い	移動及び歩行空間が悪い
A9	自然を感じられる	自然を感じられない
A10	休憩施設が充実している	休憩施設が少ない
A11	木や花などの緑が多い	木や花などの緑が少ない
A12	安心して子供を遊ばせる	安心して子供を遊ばせられない
A13	多様な目的での利用ができる	多様な目的での利用ができない
A14	施設案内の看板が充実している	施設案内の看板が少ない
A15	季節感を感じられる	季節感を感じられない
A16	年齢により子供の遊び場を区別させる	幼児が遊べる場所がない
A17	照明設備が充実している	照明設備が少ない
A18	その他	その他

## (5) まとめ

花畑公園の再整備前後の利用形態の変化や空間と利用の変化に対する利用者の認識度の変化を把握するために、1次アンケートを行った結果、以下のようにまとめられる。

まず、再整備前後の利用頻度、利用時間を比較した結果、再整備前後に有意な差があることから、再整備後の公園が再整備前と比べ、より頻繁に、長い時間利用されていることが明らかになった。つまり、再整備による空間構成の変化が公園の利用促進に良い影響を及ぼしたと考えられる。

次に、再整備前後の利用目的を比較した結果、運動・スポーツやトイレの利用を目的とした公園利用者が増加していることから、再整備による健康運動コーナー、築山、ウォーキングコースなど高齢者の健康増進を目的とした施設整備やトイレの拡充が公園の役割や活用範囲の拡大に良い影響を及ぼしたと考えられる。

次に、再整備前後のよく利用する場所を調べた結果、前後において、広場がよく利用する場所であることは変わらなかったが、再整備前に比べ、再整備後は施設が設置された場所をよく利用する利用者が増加していることが分かった。このことから、空間機能を限定したゾーニングを設定した上に、施設の拡充を行ったことで、高齢者の運動、子供の外遊びの増進といった再整備の課題に沿った設計意図で再整備が行われ、公園利用の多様化や利用促進に有効であったと考えられる。

そして、再整備前の短所と再整備後の長所を調べ、比較を行った結果、12項目が再整備前に比べ、再整備後に長所として認識されていることが確認できた。これより、従前公園が抱えた諸課題の解決を図り、一部樹木の整理による見通しの確保や健康運動施設、遊具、パーゴラ、ベンチなど、適切な施設の新設や改修が行われ、従前公園の問題が改善されたと推察できた。

### 3-3. ヒアリング調査の結果まとめ

表 4-11 ヒアリング調査の結果まとめ

従前公園の利用状況	地域の桜の名所。 周辺団地の高齢者の利用が多い。 芝生広場での多目的な利用。
従前公園の問題点	犬の糞による衛生面の悪化 施設の老朽化。特に遊具施設やトイレ。 園内の見通しの悪さ 高齢者が利用できる施設の不足 遊具の数が少なく、幼児の利用ができない
公園に対する要望及び課題	トイレの改修 介護予防の推進と医療費の削減につながる 公園づくり 安心安全な遊び場の確保 桜の保全 バリアフリー化

公園に対する住民の要望、行政から出された課題、再整備の目的、公園資産の保全・活用、そして、それに対応した設計意図を確認するために、ヒアリング調査を行った結果、花畑公園は芝生広場や桜 120 本という空間的特性と近隣の高齢者の利用といった利用的特性を最大限に保全・活用した再整備が推進されたことが確認できた。具体的に、桜 120 本や広場の芝生の保全という住民の要望や高齢者の健康増進を意図したパークで筋トレという行政からの課題に対応した設計意図で再整備が行われたことが確認できた（表 4-11）。

### 3-4. 再整備による公園の評価と利用満足度

#### (1) 空間と利用に対する評価

公園に対する住民の要望、行政からの課題、それに応じた設計意図を内容とした16項目の評価が再整備後の公園の満足度に与える効果及び影響を調べるために、2次アンケート調査を行った。

すべての項目は5段階評価を行い、平均点数を算出した結果、花畑公園はすべての項目が平均値の3.5点以上で高く評価されていることが分かった。特に、「築山のリハビリ効果」の1項目を除き、すべての項目は平均値4.0以上と非常に高く評価されていることが分かった。

公園に対する満足度に関しては、平均値4.61と非常に高い満足度を確認できた。特に、「再整備後の公園が良い」「再整備後の公園がやや良い」の回答数が全体の9割以上を占めることが分かった(表4-12、図4-10)。

表 4-12 再整備公園の評価

大別	項目	平均点数	標準偏差
利用者のマナー	芝生広場に犬を連れて来る利用者がいなくなりましたか	4.66	.54988
	犬の放し飼いやゴミ捨てなど公園の利用マナーが良くなりましたか	4.60	.56479
公園の安全性	公園内の見通しが良くなりましたか	4.44	.72642
	浮浪者・不審者がいなくなりましたか	4.14	.95126
	安心して子供を遊ばせるようになりましたか	4.53	.63595
みどりの保存	成熟した緑により自然を感じられますか	4.19	.88723
	樹木や芝生など公園内のみどりは保存されていますか	4.45	.72740
施設の改善	児童と幼児の遊具コーナーに分けられ遊びやすくなりましたか	4.59	.60991
	トイレのは使いやすくなりましたか	4.75	.46389
	園路の整備により歩きやすくなりましたか	4.54	.71057
	健康運動施設は健康に良い効果があると思いますか	4.50	.69355
	築山のリハビリ効果はあると思いますか	3.93	1.05272
公園の利用	子供が外遊びを楽しむようになりましたか	4.58	.63195
	利用目的により空間が分けられ利用の混雑が解消されましたか	4.46	.71057
	利用者の年齢層が広くなりましたか	4.19	.76463
	公園の利用者が増えましたか	4.68	.54599
公園に対する満足度		4.61	.62630

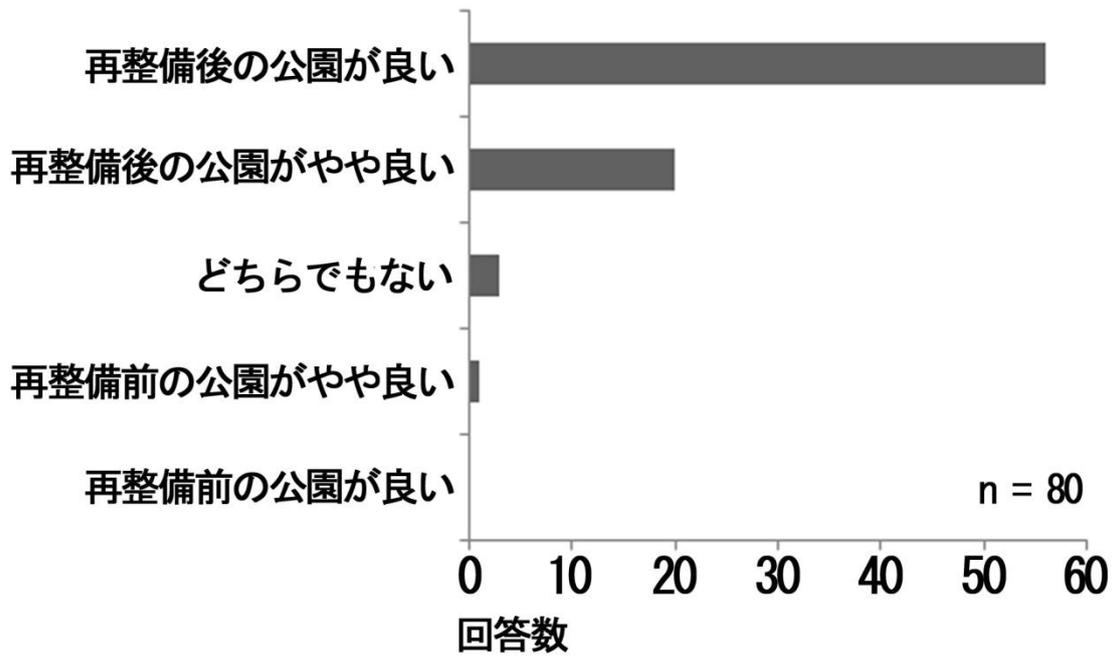


図 4-10 再整備公園の利用満足度

## (2) 公園の評価項目と利用満足度との相関関係

公園に対する満足度と 16 評価項目との相関分析を行った結果、「浮浪者・不審者」、「成熟した緑」、「みどりの保存」、「利用混雑の解消」、「健康運動器具による健康の良い効果」、「築山のリハビリの効果」といった 6 項目と満足度の中にやや強い有意な正の相関が見られた。特に、みどりの保全に関するすべての項目はやや強い有意な正の相関が確認できた（表 4-13）。

表 4-13 公園の評価と利用満足度との関係

大別	評価項目	満足度 (相関係数)
利用者の マナー	芝生広場に犬を連れて来る利用者がいなくなりましたか	0.167
	犬の放し飼いやゴミ捨てなど公園の利用マナーが良くなりましたか	0.308**
公園の 安全性	公園内の見通しが良くなりましたか	0.377**
	浮浪者・不審者がいなくなりましたか	0.431**
	安心して子供を遊ばせるようになりましたか	0.358**
みどりの 保存	成熟した緑により自然を感じられますか	0.405**
	樹木や芝生など公園内のみどりは保存されていますか	0.471**
施設の 改善	児童と幼児の遊具コーナーに分けられ遊びやすくなりましたか	0.224*
	トイレのは使いやすくなりましたか	0.316**
	園路の整備により歩きやすくなりましたか	0.360**
	子供が外遊びを楽しむようになりましたか	0.250*
	利用目的により空間が分けられ利用の混雑が解消されましたか	0.522**
公園の 利用	利用者の年齢層が広くなりましたか	0.392**
	公園の利用者が増えましたか	0.330**
	健康運動施設は健康に良い効果があると思いますか	0.423**
	築山のリハビリ効果はあると思いますか	0.493**

\*\* :  $p < 0.01$

\* :  $p < 0.05$

### (3) まとめ

ヒアリング調査で把握した公園に対する住民の要望や行政の課題、公園資産の保全と活用に対応した設計意図を内容とする16の評価項目が公園の満足度に与える効果及び影響を調べるために、2次アンケート調査を行った結果、以下のようにまとめられる。

全体評価項目が3.5点以上と高く評価されていることから、地域住民の要望に応え、再整備前の公園の問題の解決や高齢者の介護予防や子供の基礎体力の増進といった再整備の目的が達成され、高い満足度にも影響を及ぼした可能性が想定される。

また、桜120本や芝生広場の保存による成熟した緑という再整備前の公園の空間的特性を活かした再整備が行われ、高い評価が得られ、満足度の向上にも良い影響を与えられた可能性があると考えられる。

つまり、新しい施設の拡充と従前の資産である緑の保存といった異なる方向性を併せ持った再整備が行われ、公園に対する評価と満足度の向上に有効に作用したと考えられる。

さらに、利用目的が異なる利用者の混雑を解消することで満足度に良い影響を及ぼしたことから、健康広場と子供の遊び場のように特化された再整備の目的を有する場合、利用目的や年齢に沿った空間のゾーニングが有効であることを示唆している。

特に、高齢者の健康増進という特定の利用層による利用形態を想定し、それに沿った空間整備を行い、空間機能の向上とともに、設計意図に合致した利用形態が現れ、高い評価と満足度につながった可能性が推察できた。

## 4. 本章の結論

本章では存公園がもつ空間的特性と特定の利用層の目的により行われる利用的特性といった空間と利用の両方の特性を公園資産として捉え、保全・活用した花畑公園の再整備事例を対象として、図面による空間分析と2回のアンケート調査による利用者評価を通じて、再整備による空間構成と利用形態の変化が利用満足度に与える効果及び影響を明らかにし、今後の公園再整備における「空間資産」と「利用資産」の両方を活かした再整備の空間設計手法について検討を行った。その結果、以下の諸点が明らかになった。

### 4-1. 公園資産を活かした再整備と利用満足度との関係

本章の対象公園である花畑公園は120本のソメイヨシノと近隣の高齢者の交流の場といった空間と利用の特性を公園資産として捉え、その資産を保全・活用した再整備が行われ、空間と利用に関する評価と満足度が高く評価されたことが明らかになった。つまり、公園利用者及び地域住民に認識されている公園資産を把握した上で、最大限に保全・活用する再整備手法が公園の利用満足度の向上で、有効であることが確認できた。

### 4-2. 公園資産を活かした再整備手法

従前公園の空間的特性の保全を図った上で、空間機能の限定性を高めたゾーニングと特定の利用形態の想定に従う施設の整備が高い評価と満足度に有効であることが指摘できた。すなわち、空間機能の限定性の向上を図る空間の創出に従い、空間別の利用形態を限定した施設の整備を行う再整備手法が公園資産の質の向上と利用促進につながり、高い利用満足度に現れることが読み取れる。

また、従前の利用的特性のみならず、地域の公園利用の把握から予測できる新たな利用層による潜在的な利用形態を想定し、空間機能を限定させることは、小規模公園の多目的な利用における最大の問題点である利用混雑の改善に有効な手法であるといえる。

さらに、新たな利用的特性の創出を図る再整備手法は、公園利用の促進と地域での公園機能の拡大につながり、利用満足度の向上に有効であることが推察できた。

引用・参考文献 (4章)

1. ヒアリング結果を基に筆者整理
2. 図 4-2 の図面は足立区より提供。筆者再作成

## 第5章 結論

1. 各章のまとめ
2. 統括

## 5. 結論

### 1. 各章のまとめ

第1章では、本研究の背景として、公園再整備の推進経緯を示した後、既往の関連研究をレビューし、本研究の位置づけを明確にした。さらに、都市公園事業や地域活性化における公園再整備の位置づけを行い、それを踏まえ、研究目的と研究方法を提示した。

本研究は、公園再整備による空間の変化が利用者を与える影響及び効果に関する検証といった「再整備事業の事後評価としての客観的な指標」が確立されていないこと。そして、利用者に公園の特徴及び長所として認識する空間と利用の固有の特性といった「公園資産」を活かした再整備が利用満足度の向上に有効なのではないかという2つの問題意識を設定した。それに踏まえ、再整備が行われた複数の住区基幹公園を対象とし、再整備手法の実証的な事後評価として利用者評価に基づき、公園資産を活かした再整備による空間と利用の変化が利用満足度を与える影響及び効果を明らかにし、今後の公園再整備の空間設計手法についての知見を得ることを目的として研究を行った。

第2章、第3章、第4章は、5か所の研究対象公園を資産活用の内容や特徴によりタイプ分けし、図面や写真、現地確認による空間分析とヒアリング調査、公園利用者及び地域住民を対象とした2回のアンケート調査を通じて、公園資産を活かした再整備による空間構成や利用形態の変化が利用満足度を与える効果及び影響について検討を行い、結果を導出した。

まず、2章では、斜面の植生・植栽や芝生広場など、空間的特性を公園資産として活かした再整備事例を対象とし、調査を行い、今後の公園再整備における「空間的特性」を活かした再整備の空間設計手法について検討を行った。その結果、以下の諸点が明らかになった。

- ① 2章の対象公園である西台公園と庄戸第二公園は斜面の斜面林と山に隣接した成熟した植生、芝生広場といった空間的特性を積極的に保全・活用した再整備が行われ、空間と利用に関する評価と満足度が高く評価されたことが確認できた。すなわち、公園利用者及び地域住民に認識されている公園資産を把握した上で、最大限に保全・活用する再整備手法が公園の利用満足度の向上で、有効であることが確認された。
- ② 空間的特性を活かした再整備手法において、資産が有する地形や形態、量などの保全する手法のみならず、多様な空間設計手法が利用満足度の向上に有効であることが明らかになった(図5-1)。具体的には、複数の公園資産を結合し、空間構成上の改変を行い、空間と利用の一体性を高める再整備手法。そして、

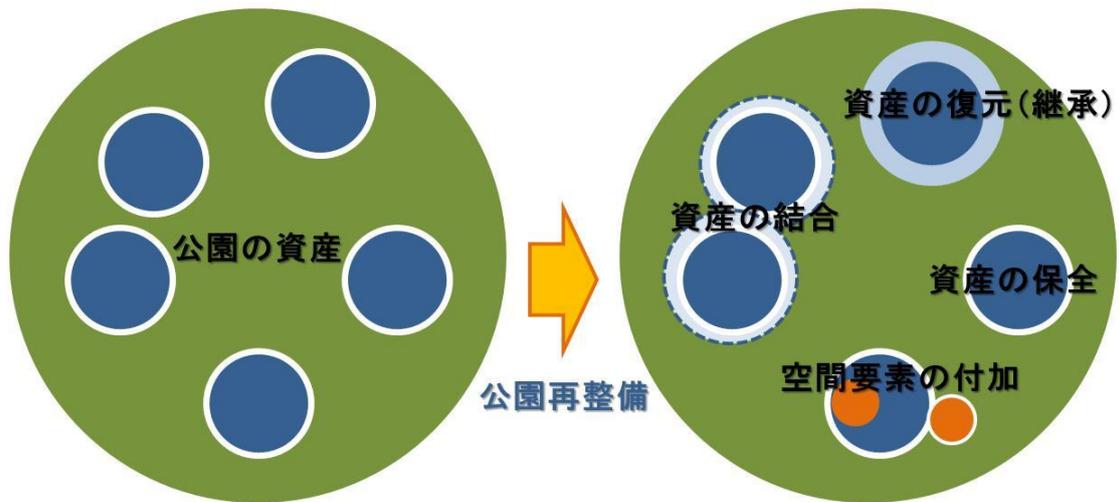


図 5-1 公園資産（空間的特性）を活かした公園再整備手法

施設の設置、園路の確保など空間整備によって、破壊された公園資産を本来の形態に復元させ、空間的特性の継承を行う再整備手法。また、従前の公園資産に、公園に対するニーズへの対応や諸課題の解決に適した新たな施設の拡充など空間要素の付加を行う再整備手法からなる空間的特性を活かした多様な空間設計手法が公園の評価と満足度の向上に有効であることが確認された。

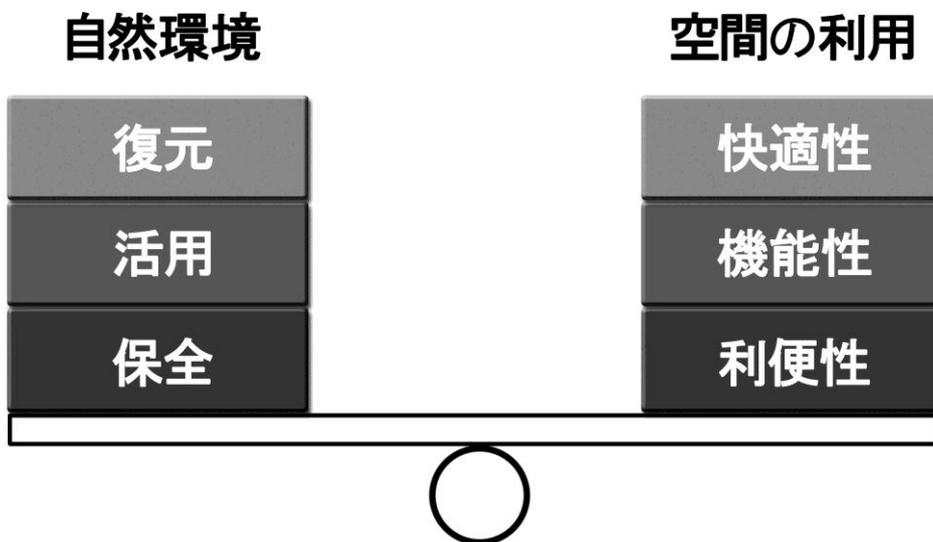


図 5-2 自然保全型公園の空間的特性を活かした再整備手法

- ③ 再整備のワークショップのような地域住民との議論を通じて、総意を行った上で、斜面の植生・植栽、芝生広場などの自然要素を空間的特性と捉え、保全・

活用を図った再整備手法は、必ずしも、空間と利用において、良い評価につながるとは限らないことが明らかになった。公園利用者は自然環境の保全、再生と同時に、空間利用における利便性、機能性、快適性を求める傾向が強いことが確認できた。このような矛盾する利用者評価の結果から、地域住民との十分な合意形成の作業を経て、公園資産の保全・活用による質の向上と新たな空間整備による利便性の向上とのバランスの取り方を見極める必要があることが指摘できた（図 5-2）。

第 3 章では、多様な地域イベントの開催による地域住民の交流の場、近隣の子供の遊びの場など、利用的特性を公園資産として活かした再整備事例を対象とし、調査を行い、今後の公園再整備における「利用的特性」を活かした再整備の空間設計手法について検討を行った。その結果、以下の諸点が明らかになった。

- ①3章の対象公園である富岡第五公園と五丁田公園は地域イベントの開催による地域住民の交流の場と近隣の子供の遊び場といった利用的特性を公園資産として捉え、積極的に保全・活用した再整備が行われ、空間と利用に関する評価と満足度が高く評価されたことが確認できた。つまり、利用的特性を把握した上で、利用形態の限定に沿った空間整備を行い、利用の利便性を図った再整備手法が公園の利用満足度の向上につながった可能性が推察できた。

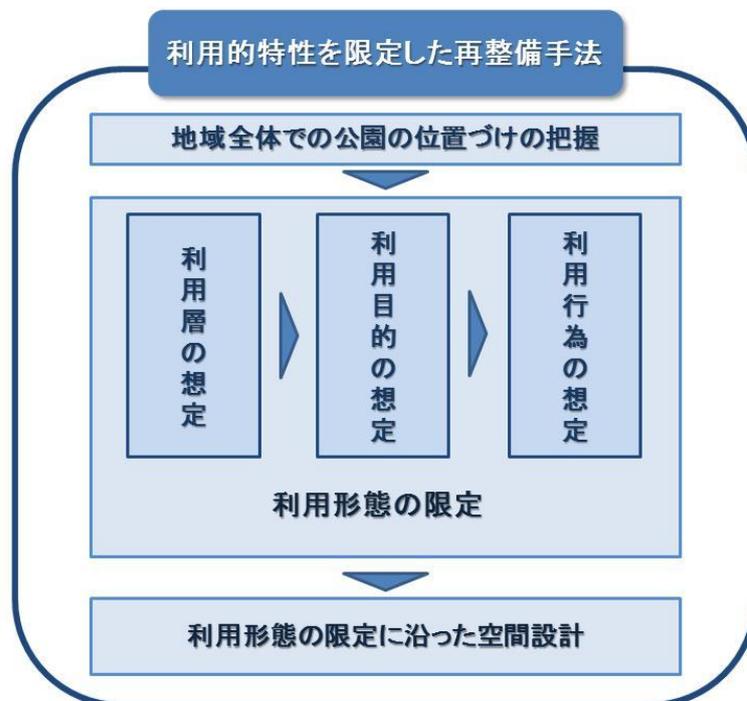


図 5-3 利用的特性を限定した再整備手法



第4章では、120本のソメイヨシノと近隣の高齢者の交流の場といった空間と利用の特性の両方を公園資産として活かした再整備事例を対象とし、調査を行い、今後の公園再整備における「空間と利用の特性」を活かした再整備の空間設計手法について検討を行った。その結果、以下の諸点が明らかになった。

- ①4章の対象公園である花畑公園は120本のソメイヨシノと近隣の高齢者の交流の場といった空間と利用の特性を公園資産として捉え、その資産を保全・活用した再整備が行われ、空間と利用に関する評価と満足度が高く評価されたことが明らかになった。つまり、公園利用者及び地域住民に認識されている公園資産を把握した上で、最大限に保全・活用する再整備手法が公園の利用満足度の向上で、有効であることが確認できた。
- ②従前公園の空間的特性の保全を図った上で、空間機能の限定性を高めたゾーニングと特定の利用形態の想定に従う施設の整備が高い評価と満足度に有効であることが指摘できた。すなわち、空間機能の限定性の向上を図る空間の創出に従い、空間別の利用形態を限定した施設の整備を行う再整備手法が公園資産の質の向上と利用促進につながり、高い利用満足度に現れたといえる。また、従前の利用的特性のみならず、地域の公園利用の把握から予測できる新たな利用層による潜在的な利用形態を想定し、空間機能を限定させることは、小規模公園の多目的な利用における最大の問題点である利用混雑の改善に有効な手法であるといえる。さらに、新たな利用的特性の創出を図る再整備手法は、公園利用の促進と地域での公園機能の拡大につながり、利用満足度の向上に有効であることが推察できた（図5-5）。

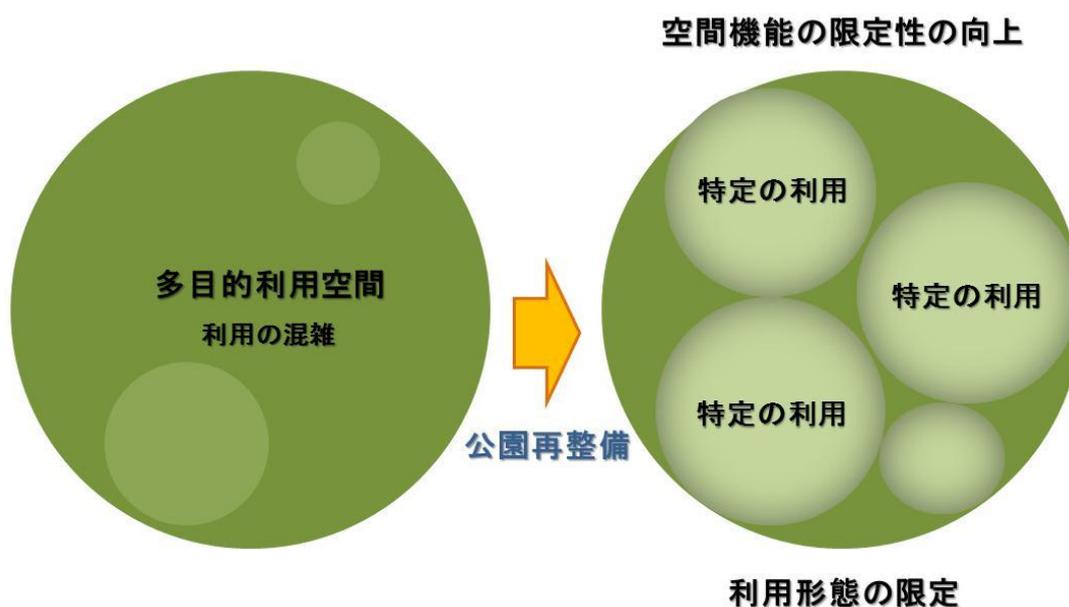


図5-5 空間と利用の特性を活かした再整備手法

## 2. 総括

本研究は、公園再整備が行われた5か所の住区基幹公園を対象として、公園資産を保全・活用した再整備による空間構成と利用形態の変化が利用満足度に与える効果及び影響を明らかにし、今後の都市公園の再整備における公園資産の保全・活用の方法について計画論的な視点から考察を行うことを目的に研究を進め、以下の知見を得ることができた。

一つ目に、公園は周辺環境や地形、レイアウト、公園施設、植生・植栽などからなる空間的特性と時間の経過による地域住民の長年の利用形態の定着によって、利用的特性が現れる。それらの特性のうち、利用者が公園の特徴及び長所と考える特性については、公園資産として再整備において積極的に保全・活用する必要がある。本研究で扱った事例の場合には、斜面の植生・植栽、広々とした芝生広場、サクラによって囲繞された空間的特性に加えて、近隣の高齢者の憩い、子供の遊び、多様なイベントの開催による地域交流などの利用的特性が公園資産として特定された。住区基幹公園の再整備にあたって、公園資産を保全・活用することは利用者の満足度を高めるのに有効であり、特に斜面林・地形の復元や園路の新設、イベントの利便性を高めることが満足度と強い相関を示した。つまり、公園の質の向上という観点から、公園資産の保全・活用は意義があると考えられた。

二つ目に、公園資産は、空間的特性と利用的特性の両面において見出しうる。空間的特性については地形・周辺環境、空間構成、空間要素など様々なレベル/スケールにおいて公園資産となりうる可能性がある。そのため、特定の施設や空間だけでなく、公園全体のレイアウトや周辺環境との関係についても公園資産と見なしうるかどうか慎重に検討されるべきである。また、これら公園資産の保全・活用にあたっては、以下の手法のいずれかまたは両方を利用者の要求に応じて適用することが満足度の向上に有効と考えられた。

### 1) 当該公園の公園資産の特性(空間的特性及び利用的特性)に立脚した手法

この手法は、空間的特性及び利用的特性のどちらを重視するかによって以下の2つの考え方があり、利用者の要望によっていずれかまたは両方を採用する。まず、①空間的特性の保全・活用をより重視し、それに支障を来さない範囲で利便性の向上をはかるという方法である。これは、従前の空間的特性を修復し、継承・発展させる方法(公園資産の復元)、複数の空間や施設を結合するなど、空間構成レベルの改変を行う方法(公園資産の結合)、ニーズや課題に応える新たな施設を従前の空間に付加(公園資産に空間要素の付加)する方法等が利用満足度の向上に有効である。次に、②利用的特性の保全・活用をより重視した再整備によって空間的特性のポテンシャルを最大化する手法である。これについては、明確な利用者層・利用

形態の想定、または限定（空間機能の限定）を行うことが満足度の向上に有効であった。

## 2) 近隣住区～地区内におけるその他の公園の空間的特性・利用的特性をふまえて当該公園の公園資産の保全・活用の在り方を考える手法

公園資産としての空間的特性や利用的特性は公園に応じて様々である。そこで、当該公園だけを見て再整備を行うのではなく、例えば、緑地保全(空間的特性)を重視すべき公園と施設利用(利用的特性)を重視すべき公園、また空間的特性についても斜面緑地の保全・活用を重視すべき公園と多目的広場の保全・活用を重視すべき公園、さらには利用的特性についても、高齢者や親子連れなど、特定の利用者層・利用形態をより重視すべき公園とそうでない公園等々、地区内の住区基幹公園が有する公園資産の特徴に応じた役割分担を明確にしたうえで、当該公園における公園資産の保全・活用の在り方を検討していくことが重要である。

三つ目に、公園資産の特定は、再整備前の公園の利用経験がある利用者が参加する再整備ワークショップ等を通じて行われるべきである。その際、再整備前に利用者の評価が低かったり関心が低かったりしたものについても公園資産となりうる可能性を検討するとともに、再整備後に評価が低くなりがちなものについてはなるべくそれを回避する配慮が必要である。再整備のワークショップにおいて、参加者にあまり注目されなかったり、評価が低かったりしたものであっても、公園資産になるかもしれないということを検討してみる姿勢や能力が専門家には求められるだろう。さらに、見通しの確保といった従前公園の諸課題の解決のため、植栽・植生の整理により、緑量が減少することで、再整備後の評価が低くなることが予想される場合は、再整備ワークショップを通じて短期的な評価が難しいことの十分な説明や合意形成のもとで、計画設計案に反映させていく必要がある。

### 3. 今後の研究課題

本研究では、複数の身近な住区基幹公園の再整備事例を対象に公園資産を活かした再整備による空間構成の変化が利用形態や利用満足度に与える効果を検討し、多様な空間構成における空間設計手法について計画論的な知見を得ることができた。

しかし、今回の研究は空間と利用における従前の公園資産の保全・活用した再整備手法に関する検討が主な内容であり、従前の空間的特性の保全・活用によって可能となる新たな利用的特性の発現に関する検討や空間の変化によって生み出された新たな利用的特性が利用者の満足度を高めるかどうかの事例検証は行われておらず、今後の課題としたい。

そして、今後はさらに、調査範囲を広げて、公園内部の問題のみならず地域全体が抱える問題の解決への公園再整備による貢献、地域活性化に資する公園再整備の方法、公園資産の保全・活用手法について知見を積み重ねていく必要がある。

そのためには、上述したように、地域活性化に資する公園再整備の影響や効果を客観的に把握するための指標や方法を開発していく必要がある。また、その際、公園資産を保全・活用することがどのような意義をもつかを明らかにしていくことが重要である。本研究で得られた結果と、地域活性化に資する公園再整備の効果検証の結果を統合し、より効果的な空間設計手法が明らかにされるべきであろう。同時に、再整備された公園のマネジメントプランを策定し、再整備の設計意図に則って管理運営を行っていくとともに、公園の利用実態や質を定期的にモニタリングすることで、公園資産の継承、質を向上させるための知見や方法論を蓄積していく必要がある。

## Summary

A study on the effect of urban park regeneration that utilize the park assets based on user evaluation

Recently, urban park which is established more than 40 years ago has been increased. Deterioration of park facilities and desolate of park is proceeding due to worsening of management quality in these parks due to social changes including population decrease, low birth rate and aging trend, park users are changing and there is a gap between the needs of the users of the park and the function.

According to this, many local governments are promoting park regeneration projects to resolve the existing problems and to respond to user's changing needs.

Specifically, park regeneration has been gone into effect for the purpose of contributing to a safe park use and regional activation through maintenance and improvement of old facilities, promotion of barrier free equipment, and planting management .

However, practically speaking, post- evaluation is not carried out after park regeneration based on utilization & change of user satisfaction, whether corresponding to the user's needs, resolution the presence problem of parks. Accordingly, post-evaluation method of regeneration is not even established.

In terms of the Evidence-based Policy Making, post-evaluation of regenerated park should be done by setting the objective indicators for the user satisfaction which is based on the user evaluation. In addition, in promoting the regeneration of the park , the existing stoke of the park such as a green belt which is feature of the park , facilities of the park which is well received from the users and history of the use for a longtime should be preserved and utilized of as much as possible. Through this, the effectiveness of park regeneration can be maximized.

This study defines the following as park assets. It is highly estimated characteristics by users among the characteristics of existing space and use with the park , and characteristics that users are aware of worth to be preserved & utilized for the future including characteristics of new space & use after regeneration.

Therefore, we confirmed the effects through the surveys on how user satisfaction are influenced by the changes in spatial composition and park user's utilization

pattern caused by park regeneration that preserves & utilizes park assets.

And, based on this result, we have proceeded the study for the purpose to propose a direction view of planning for the preservation & utilization of park assets in the urban park regeneration for the future.

This study selected five principal parks in residential area where park regeneration is fully implemented and user's evaluation is carried out targeting local residents & users who experienced the park before and after regeneration.

A specific research methods as followings: First, spatial change is investigated through information of each blueprint and photographs before and after regeneration. Second, first round survey is conducted and the park assets are specified.

Third, listening research targeting local residents, administrative parts, and designers in order to check what residents were asking for ; how the administrative parts were perceiving the problems of the park; what was the designer's intension.

Fourth, 2nd round survey was conducted in order to identify how design intensions and changes in spatial composition and utilization pattern used park assets that were confirmed through a hearing survey influenced the user satisfaction.

The results through above research are as follows:

First, it is confirmed that to carry out evaluation of the user satisfaction targeting the park users & local residents who have ever used the park before and after regeneration is effective post -evaluation method of regeneration park.

Second, spatial characteristics that is ( slope forest ,grass square, cherry blossom,) and use characteristics that is (community places for elderly, children's play, exchange of local residents through various event ) are defined as park assets in this study's target park.

and , it is confirmed that preserving and utilizing such of park assets is effective to increase the user satisfaction .

Third, among the various park assets ,it is confirmed that preservation& utilization method specially rays stress on spatial characteristics is effective to user satisfaction.

Specifically, it is as in the following; the method to succeed to park assets through restoring the spatial characteristics(restoration of park assets) , the

method to change the spatial position(combination of park assets )and the method to add a new facility to an existing facility in response to user's need and subjects.(add spatial elements to the park assets)

The next thing, as for the preservation& utilization method that is attached importance to use characteristics , it is confirmed that the method to limit specific user group and user pattern (limit of spatial function) is effective to increase the user satisfaction.

## 図面リスト

## 図表リスト

### 第1章 序論

- 図 1-1 日本の都市公園の形成過程
- 図 1-2 都市公園箇所数の推移
- 図 1-3 都市公園の面積と新規建設費の推移
- 図 1-4 都市公園の維持管理費の推移
- 図 1-5 パークマネジメントにおける公園再整備の位置づけ
- 図 1-6 地域活性化における公園再整備の位置づけ
- 図 1-7 地域活性化に資する公園再整備の評価指標の開発
- 図 1-8 都市公園を構成する要素
- 図 1-9 公園資産の定義
- 図 1-10 公園資産を有する都市公園の例
- 図 1-11 公園資産からみた対象公園位置づけ
- 図 1-12 調査方法の概要
- 図 1-13 論文の構成

表 1-1 都市公園を構成する要素の例

表 1-2 対象公園の概要

表 1-3 対象公園における公園資産の一覧

### 第2章 空間的特性を活かした再整備手法

- 表 2-1 西台公園の概要
- 表 2-2 庄戸第二公園の概要
- 表 2-3 西台公園の1次アンケート調査の概要
- 表 2-4 庄戸第二公園の1次アンケート調査の概要
- 表 2-5 ヒアリング調査の対象
- 表 2-6 ヒアリング調査の質問項目
- 表 2-7 西台公園の2次アンケート調査の概要
- 表 2-8 庄戸第二公園の2次アンケート調査の概要
- 表 2-9 西台公園の再整備による主な施設の変化
- 表 2-10 西台公園の再整備前後の空間と利用に対する認識の変化
- 表 2-11 西台公園のヒアリング調査の結果まとめ
- 表 2-12 記述統計量
- 表 2-13 検証統計量
- 表 2-14 西台公園の再整備前後の利用目的の変化

- 表 2-15 西台公園の再整備前後の公園の利用空間
- 表 2-16 西台公園の設計意図の有効性の評価と満足度との関係
- 表 2-17 西台公園の再整備後の空間の評価と満足度との関係
- 表 2-18 西台公園の再整備後の施設の評価と満足度との関係
- 表 2-19 庄戸第二公園の再整備による主な施設の変化
- 表 2-20 庄戸第二公園の再整備前後の空間と利用に対する認識の変化
- 表 2-21 庄戸第二公園のヒアリング調査の結果まとめ
- 表 2-22 記述統計量
- 表 2-23 検証統計量
- 表 2-24 庄戸第二公園の再整備による利用目的の変化
- 表 2-25 庄戸第二公園の再整備前後のよく利用する場所の変化
- 表 2-26 庄戸第二公園の評価
- 表 2-27 庄戸第二公園の評価と利用満足度との関係

- 図 2-1 西台公園の概要
- 図 2-2 庄戸第二公園の概要
- 図 2-3 西台公園の再整備前後の空間構成の変化
- 図 2-4 西台公園の再整備前後の空間と利用に対する認識の変化
- 図 2-5 西台公園の再整備前後の利用形態の比較
- 図 2-6 西台公園の再整備前後の利用頻度の変化
- 図 2-7 西台公園の再整備前後の利用時間の変化
- 図 2-8 西台公園の再整備前後の利用目的の変化
- 図 2-9 西台公園の再整備前後の公園の利用空間
- 図 2-10 西台公園の利用満足度
- 図 2-11 庄戸第二公園の再整備前後の空間構成の変化
- 図 2-12 庄戸第二公園の再整備前後の利用形態の比較
- 図 2-13 庄戸第二公園の再整備前後の利用頻度の変化
- 図 2-14 庄戸第二公園の再整備前後の利用時間の変化
- 図 2-15 庄戸第二公園の再整備による利用目的の変化
- 図 2-16 庄戸第二公園の再整備前後のよく利用する場所の変化
- 図 2-17 庄戸第二公園の利用満足度

- 写真 2-1 再整備前の斜面園路①
- 写真 2-2 再整備前の斜面園路②
- 写真 2-3 再整備前の斜面園路③
- 写真 2-4 再整備後の斜面園路①

- 写真 2-5 再整備後の斜面園路②
- 写真 2-6 再整備後の流れ・池広場-こもれび広場の園路
- 写真 2-7 再整備前の東屋
- 写真 2-8 再整備前の遊具（旧ちびっこ広場）
- 写真 2-9 再整備前の冒険広場跡地
- 写真 2-10 再整備前のこもれび広場
- 写真 2-11 再整備前の流れ・池広場
- 写真 2-12 再整備後の遊具①
- 写真 2-13 再整備後の遊具②
- 写真 2-14 再整備後の憩いの広場
- 写真 2-15 再整備後のこもれび広場
- 写真 2-16 再整備後の流れ・池広場
- 写真 2-17 再整備前の出入口
- 写真 2-18 再整備前の園内の見通し①
- 写真 2-19 再整備前の園内の見通し②
- 写真 2-20 再整備後の出入口
- 写真 2-21 再整備後のこもれび広場の新植
- 写真 2-22 再整備後の園内の見通し
- 写真 2-23 再整備前の広場①
- 写真 2-24 再整備前の広場②
- 写真 2-25 再整備後の広場①
- 写真 2-26 再整備後の広場②
- 写真 2-27 再整備前の遊具①
- 写真 2-28 再整備前の遊具とパーゴラ
- 写真 2-29 再整備前の遊具②
- 写真 2-30 再整備前のベンチ
- 写真 2-31 再整備後の遊具
- 写真 2-32 再整備後のベンチ
- 写真 2-33 再整備後のベンチと水飲み台
- 写真 2-34 再整備後の健康運動遊具
- 写真 2-35 再整備後のテーブルベンチ
- 写真 2-36 再整備後の花壇
- 写真 2-37 再整備前の出入口
- 写真 2-38 再整備後の出入口
- 写真 2-39 再整備後の園路①
- 写真 2-40 再整備後の園路②

- 写真 2-41 再整備前の見通し  
 写真 2-42 再整備後の見通し①  
 写真 2-43 再整備後の見通し②  
 写真 2-44 再整備後の中央部の新植

### 第 3 章 利用的特性を活かした再整備手法

- 表 3-1 富岡第五公園の概要  
 表 3-2 五丁田公園の概要  
 表 3-3 富岡第五公園の 1 次アンケート調査の概要  
 表 3-4 五丁田公園の 1 次アンケート調査の概要  
 表 3-5 ヒアリング調査の対象  
 表 3-6 ヒアリング調査の質問項目  
 表 3-7 富岡第五公園の 2 次アンケート調査の概要  
 表 3-8 五丁田公園の 2 次アンケート調査の概要  
 表 3-9 富岡第五公園の再整備による主な施設の変化  
 表 3-10 富岡第五公園の再整備前後の空間と利用に対する認識の変化  
 表 3-11 富岡第五公園のヒアリング調査の結果まとめ  
 表 3-12 記述統計量  
 表 3-13 検証統計量  
 表 3-14 富岡第五公園の再生前後の利用目的の変化  
 表 3-15 富岡第五公園の再整備前後のよく利用する場所の変化  
 表 3-16 富岡第五公園の評価  
 表 3-17 富岡第五公園の評価と利用満足度との関係  
 表 3-18 五丁田公園の再整備前後の主な施設の変化  
 表 3-19 記述統計量  
 表 3-20 検証統計量  
 表 3-21 五丁田公園の再整備前後の利用目的の変化  
 表 3-22 再整備前後の短所・長所の 18 項目の一覧  
 表 3-23 五丁田公園のヒアリング結果まとめ  
 表 3-24 五丁田公園の評価  
 表 3-25 五丁田公園の評価と利用満足度との関係
- 図 3-1 富岡第五公園の概要  
 図 3-2 五丁田公園の概要  
 図 3-3 富岡第五公園の再整備前後の空間構成の変化  
 図 3-4 富岡第五公園の再整備前後の利用形態の比較

- 図 3-5 富岡第五公園の再整備前後の利用頻度の変化
- 図 3-6 富岡第五公園の再整備前後の利用時間の変化
- 図 3-7 富岡第五公園の再整備前後の利用目的の変化
- 図 3-8 富岡第五公園の再整備前後のよく利用する場所
- 図 3-9 富岡第五公園の利用満足度
- 図 3-10 五丁田公園の再整備前後の空間構成の変化
- 図 3-11 五丁田公園の再整備前後の植栽の変化
- 図 3-12 五丁田公園の再整備前後の利用形態の比較
- 図 3-13 五丁田公園の再整備前後の利用頻度の変化
- 図 3-14 五丁田公園の再整備前後の利用時間の変化
- 図 3-15 五丁田公園の再整備前後の利用目的の変化
- 図 3-16 五丁田公園の再整備前後のよく利用する場所
- 図 3-17 五丁田公園の再整備による空間と利用に対する認識の変化
- 図 3-18 五丁田公園の利用満足度

- 写真 3-1 再整備前の東側広場
- 写真 3-2 再整備前の西側広場
- 写真 3-3 再整備後の東側広場（朝のラジオ体操）
- 写真 3-4 再整備後の西側広場
- 写真 3-5 再整備前の遊具①
- 写真 3-6 再整備前の遊具②
- 写真 3-7 再整備前のベンチ
- 写真 3-8 再整備前の水飲み台
- 写真 3-9 再整備前の中央部
- 写真 3-10 再整備後の遊具
- 写真 3-11 再整備後のベンチ
- 写真 3-12 再整備後の健康遊具
- 写真 3-13 再整備後の中央部
- 写真 3-14 再整備前の出入口①
- 写真 3-15 再整備前の出入口②
- 写真 3-16 再整備後の出入口①
- 写真 3-17 再整備後の出入口②
- 写真 3-18 再整備前の西側広場からの園内の見通し
- 写真 3-19 アオギリの落ち葉
- 写真 3-20 再整備後の盆踊り大会
- 写真 3-21 花壇の 38 cmの高さ①

- 写真 3-22 花壇の 38 cmの高さ②
- 写真 3-23 盆踊り大会の際、公園中央部
- 写真 3-24 再整備前の公園中央部①
- 写真 3-25 再整備前の公園中央部②
- 写真 3-26 再整備後の公園中央部①
- 写真 3-27 再整備後の公園中央部②
- 写真 3-28 再整備前の遊具
- 写真 3-29 再整備前の遊具とベンチ
- 写真 3-30 再整備前のパーゴラ
- 写真 3-31 再整備前のトイレ
- 写真 3-32 再整備後の複合遊具
- 写真 3-33 再整備後の幼児用遊具
- 写真 3-34 再整備後の幼児用遊具コーナー
- 写真 3-35 再整備後の健康運動遊具
- 写真 3-36 再整備後のパーゴラ
- 写真 3-37 再整備後のトイレ
- 写真 3-38 再整備前の道路からの見通し
- 写真 3-39 再整備前の園内の見通し
- 写真 3-40 再整備後の道路からの見通し
- 写真 3-41 再整備後の園内の見通し

#### 第4章 空間と利用の特性を活かした再整備手法

- 表 4-1 花畑公園の概要
- 表 4-2 1次アンケート調査の概要
- 表 4-3 ヒアリング調査の対象
- 表 4-4 ヒアリング調査の質問項目
- 表 4-5 2次アンケート調査の質問項目
- 表 4-6 再整備による主な施設の変化
- 表 4-7 記述統計量
- 表 4-8 検証統計量
- 表 4-9 再生前後の利用目的の変化
- 表 4-10 再整備前後の短所・長所の 18 項目の一覧
- 表 4-11 ヒアリング調査の結果まとめ
- 表 4-12 再整備公園の評価
- 表 4-13 公園の評価と利用満足度との関係

- 図 4-1 花畑公園の概要
- 図 4-2 再整備前後の空間構成の変化
- 図 4-3 再整備前後の植栽の変化
- 図 4-4 再整備前後の利用形態の比較
- 図 4-5 再整備前後の利用頻度の変化
- 図 4-6 再整備前後の利用時間の変化
- 図 4-7 再整備前後の利用目的の変化
- 図 4-8 再整備前後のよく利用する場所
- 図 4-9 再整備による空間と利用に対する認識の変化
- 図 4-10 再整備公園の利用満足度

- 写真 4-1 再整備前の芝生広場
- 写真 4-2 再整備後の健康広場
- 写真 4-3 再整備後の幼児遊具コーナー
- 写真 4-4 再整備後の児童遊具コーナー
- 写真 4-5 再整備前の複合遊具
- 写真 4-6 再整備前のブランコ
- 写真 4-7 再整備前の砂場とパーゴラ
- 写真 4-8 再整備後の複合遊具
- 写真 4-9 再整備後のクライミング遊具
- 写真 4-10 再整備後のトイレ
- 写真 4-11 ウォーキングトラック
- 写真 4-12 健康運動遊具
- 写真 4-13 再整備前の広場
- 写真 4-14 再整備後の園路
- 写真 4-15 再整備後の園路-2
- 写真 4-16 再整備後の園路-3
- 写真 4-17 再整備前の広場から遊びの場への見通し

## 第5章 結論

- 図 5-1 公園資産（空間的特性）を活かした公園再整備手法
- 図 5-2 自然保全型公園の空間資産を活かした再整備手法
- 図 5-3 利用的特性を限定した再整備手法
- 図 5-4 利用的特性を活かした再整備手法
- 図 5-5 空間と利用の特性を活かした再整備手法

## 資料編

<1次アンケート、2次アンケート用紙、再整備前後の平面図>

1. 西台公園
2. 庄戸第二公園
3. 富岡第五公園
4. 五丁田公園
5. 花畑公園

西台公園

千葉大学大学院園芸学部都市環境デザイン学研究グループでは、  
西台公園の再整備に関する調査を実施しております。

1. あなたがこの公園の長所及び短所と覚ることに○をしてください。(複数回答可能)

No	項目	再整備前		再整備後	
		長所	短所	長所	短所
1	閑静な住宅街に囲まれた静かな公園				
2	高木による木陰で涼しげな公園				
3	絶滅危惧類であるキンラン・ギンランの自生地				
4	遊具施設の充実さ				
5	休憩施設の充実さ				
6	歩きやすい園路				
7	池・滝がある水辺				
8	目的により空間が分けられ、利用の混雑がない				
9	高木が多い				
10	広々とした多目的広場				
11	バリアフリーによる利用しやすさ				
12	園内の各施設への移動しやすさ				
13	散歩やウォーキングなど運動ができる				
14	成熟した緑				
15	多様なルートの園路				
16	園内の見通しの良さ				
17	多様な植生から自然体験ができる公園				
18	樹林内での散歩				
19	子供のボール遊びができる公園				
20	木や花など豊かな緑				
21	お祭りなど多様なイベントが行われる公園				
22	虫や鳥の観察ができる公園				
23	園路の歩きやすさ(車いす・ベビーカー)				
24	豊かな斜面林に位置した公園				
25	子供が安心して遊べる環境				
26	その他				

2. 上記の項目の中で、今後にも必ず残してほしいことは何ですか？

(順位を付け、番号で回答してください)

最も残してほしいこと

二番目に残してほしいこと

三番目に残してほしいこと

ご協力頂き誠に有り難うございます。 千葉大学園芸学研究科 都市デザイン学研究グループ

千葉大学大学院園芸学研究科都市環境デザイン学研究グループでは、  
「板橋区立西台公園」の再整備に関する調査を実施しております。  
この調査結果はすべて統計的に処理され、個人情報が開示されることはありません。

板橋区立西台公園は平成23年4月、再整備が行われ、全面的に改修されました。

ここからは再整備前後の基本的な公園利用の形態についてお聞きします。

＜再整備前＞

- あなたはこの公園にどのぐらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのぐらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間-2時間 5) 2時間以上
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。(複数回答可能)  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) 音楽、読書、写真などの趣味活動  
8) 食事 9) 自然観察 10) イベントに参加  
11) 通過 12) ボランティア活動 13) 待合わせ  
14) その他 ( )
- 添付した図面上に最も利用した場所に「○」を付けてください。

＜再整備後＞

- あなたはこの公園にどのぐらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのぐらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間-2時間 5) 2時間以上
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。(複数回答可能)  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) 音楽、読書、写真などの趣味活動  
8) 食事 9) 自然観察 10) イベントに参加  
11) 通過 12) ボランティア活動 13) 待合わせ  
14) その他 ( )
- 添付した図面上に最も利用する場所に「○」を付けてください。

ここからは「再整備前と比べた」現在の公園の評価についてお答えください。

- 公園の利用者が増えましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 公園内のみどりは十分保護されたと思いますか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- キンラン・ギンランの自生地は保護は十分だと思いますか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 植生・植栽の整理により、公園内部の見通しは良くなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- ホームレス・不審者がいなくなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

10. 段差のない園路の整備により、公園内を移動しやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

11. 改修によりトイレは、使いやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

12. 園内の各施設へ移動しやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

13. 広場は多目的に利用する上で十分な広さですか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

14. 武蔵野台地の崖線のおもかげが感じられるような再整備がなされたと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

15. 子供（幼児・児童）の利用は増えましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

16. 高木は十分保護されたと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

17. 成熟した緑を感じられますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

18. 公園が明るくなり、子供が安心して遊べるようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

19. メインの出入口に隣接した道路からの見通しは良くなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

20. 身体の不自由な高齢者・障害者が利用しやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

21. 公園をより広く使えるようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

22. 樹木や斜面が崩壊する危険性は解消されたと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

23. 鳥や虫などの自然観察を楽しめるようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

●ここからは園内の「出入口」の整備に関する質問です。

24. スロープや手すりの整備により、園内の移動がしやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

25. 入口からの園内の見通しは良くなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

26. 階段やスロープは歩きやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

27. 出入口の駐輪場の整備により、自転車での公園利用が増えたと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 

●ここからは園内の「園路」の整備に関する質問です。

28. 斜面林内のスロープは車いすやベビーカーの移動に十分な幅ですか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

29. 斜面林内のスロープは車いすやベビーカーの移動しやすい勾配ですか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

30. スロープの舗装は歩きやすいですか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

31. 階段は歩きやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

32. 樹林内で散歩や運動を楽しめるようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

33. 斜面の地形や樹木を最大限に残しながら園路が整備されたと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

34. 多様なルート of 整備により、園内は移動しやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

35. 斜面林内の園路の一部が撤去される一方で、地形・植生が復元されましたが、どう思いますか？

- 1) 良いと思う 2) やや良いと思う 3) とちらでもない 4) あまり良いと思わない 5) 良いと思わない
- 

●ここからは園内の「こもれば広場」の整備に関する質問です。

36. 子供が遊べる十分な広さが確保できていると思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

37. 子供がボール遊びを楽しめるようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

38. 広場内のベンチやテーブルなど休憩施設は充実したと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

39. 広場の整備は斜面林の自然環境を損なわない範囲で行われたと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

40. 広場周辺では、自然を感じられるような新規植栽・移植が行われたと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

41. 再整備により、「ちびっこ広場」が撤去される一方で、その跡地に地形・植生が復元されましたが、どう思いますか？

- 1) 良いと思う 2) やや良いと思う 3) とちらでもない 4) あまり良いと思わない 5) 良いと思わない

42. 雨天後の水はけは良くなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 

●ここからは園内の「憩いの広場」の整備に関する質問です。

43. 憩いの広場が整備されたことで、自然を感じながら休憩できるようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

44. 休憩できるテーブルベンチが置かれましたが、よく使いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

45. 憩いの広場の整備は斜面林の自然環境を損なわない範囲で行われたと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

46. 憩いの広場周辺の園路の一部が撤去される一方で、地形・植生が復元されましたが、どう思いますか？

- 1) 良いと思う 2) やや良いと思う 3) とちらでもない 4) あまり良いと思わない 5) 良いと思わない
- 

●ここからは園内の「遊具」の整備に関する質問です。

47. 幼児が楽しく遊べる遊具は充実していると思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

48. 児童が楽しく遊べる遊具は充実していると思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

49. 斜面林に位置する公園にふさわしい遊具が整備され、子供が楽しめるようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

50. 斜面を上手く活用したすべり台は魅力的であり、子供の公園利用が増えたと思いますか？

1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

51. すべり台の材質、長さ、勾配は幼児の利用に適切だと思いますか？

1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

52. アスレチック遊具の整備により、子供の公園利用が増えたと思いますか？

1) 良いと思う 2) やや良いと思う 3) とちらでもない 4) あまり良いと思わない 5) 良いと思わない

53. アスレチック遊具の材質、高さ、難易度は幼児の利用に適切だと思いますか？

1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

54. クライミング遊具と石のすべり台は適切な場所に整備されたと思いますか？

1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

55. 遊具による子供の事故の危険性はあると思いますか？

1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

・ある場合はどの遊具ですか？ ( )

---

●ここからは園内の「流れ・池の広場」の整備に関する質問です。

56. 流水による騒音で、現在は水が止められている状況ですが、池を復活させたいと思いますか？

1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

57. 池と滝を活用した水辺のビオトープはこの公園にふさわしい施設だと思いますか？

1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

58. 水辺でのベンチの整備により、休憩しやすくなりましたか？

1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

59. 流れ・池の広場は園内の適切な場所に整備されたと思いますか？

1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

---

60. あなたは再整備前後を比べて、この公園に関してどう思いますか？

1) 今の公園が良い 2) 今の公園がやや良い 3) どちらでもない 4) 再整備前の公園のほうがやや良かった 5) 再整備前の公園のほうが良かった

61. 皆様についてお聞きします。

性別 ①男性 ②女性 年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60歳以上

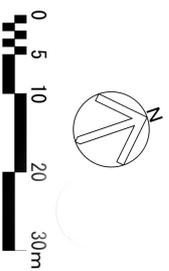
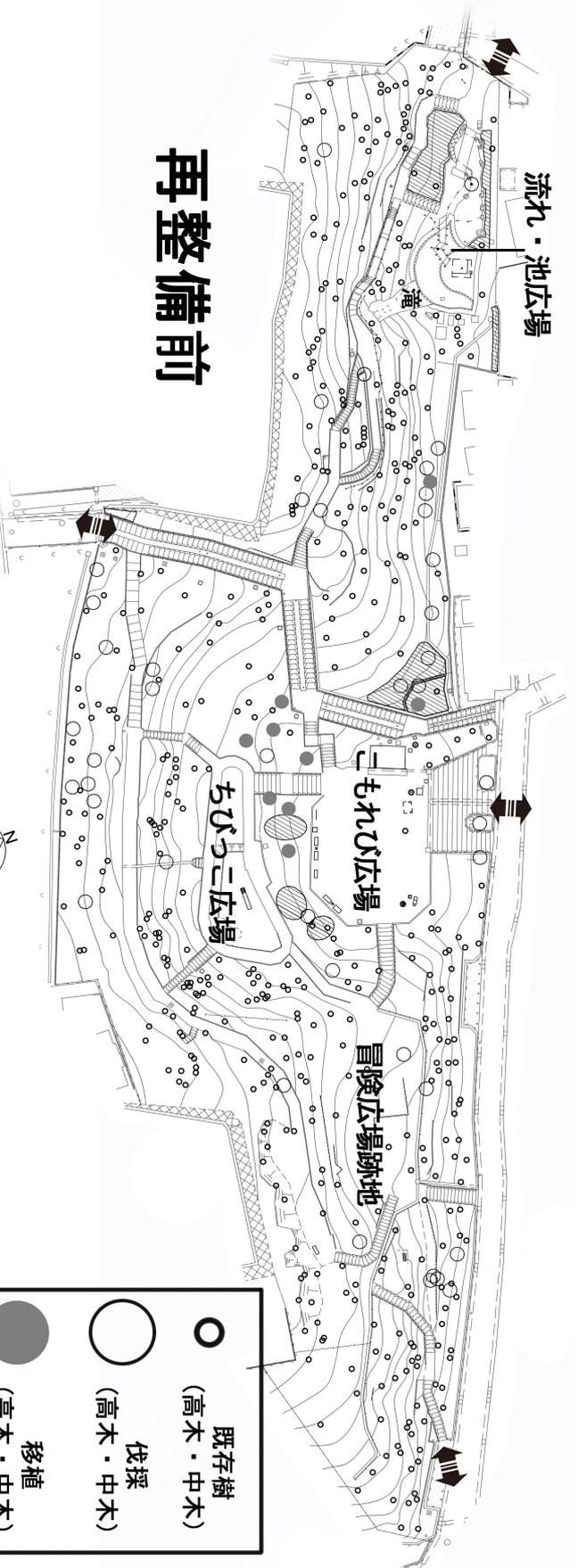
居住歴 ①5年以内 ②5-10年 ③10-20年 ④20-30年 ⑤30年以上

質問は以上です。ご協力頂き、誠にありがとうございます。

千葉大学大学院園芸学研究所 都市デザイン学研究グループ

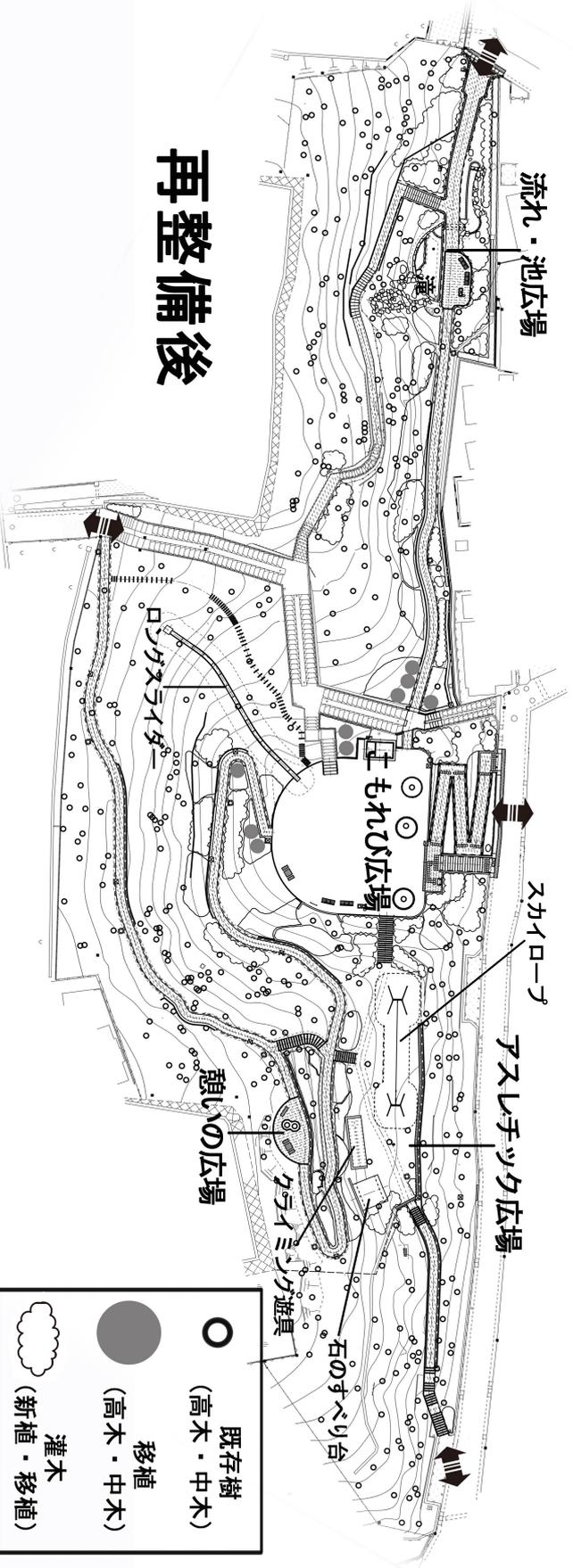
流れ・池広場

# 再整備前



	既存樹 (高木・中木)
	伐採 (高木・中木)
	移植 (高木・中木)
	移植(灌木)

# 再整備後



	既存樹 (高木・中木)
	移植 (高木・中木)
	灌木 (新植・移植)

庄戸第二公園

千葉大学園芸学部都市環境デザイン学研究室では、この公園の再整備に関する調査を実施しております。

この調査結果はすべて統計的に処理され、個人情報が出ることはありません。

---

1. あなたはこの公園を再整備が行われる前に利用したことがありますか？

- 1) はい      2) いいえ

2. あなたがこの公園に最も大きい特徴及び長所と感ずることは何ですか？ (複数回答可能)

- 1) 高台に立地し、富士山など周辺の眺めの良さ
- 2) 遊具施設の充実さ
- 3) 広々とした広場
- 4) 巨木が多い
- 5) 子供が安心して楽しく遊べる
- 6) 健康運動器具の充実さ
- 7) 移動及び歩行空間の良さ
- 8) 祭りなどイベントの際、使い勝手の良さ
- 9) 木や花など緑が多い
- 10) 照明設備の充実さ
- 11) 明るく見通しの良さ
- 12) ゆったりとくつろげる公園
- 13) 閑静な住宅街に囲まれた静かな公園
- 14) 散歩、ウォーキングなど運動ができる
- 15) 成熟した緑
- 16) 休憩施設の充実さ
- 17) 虫や鳥の観察ができる
- 18) 多様な植栽
- 19) 目的により空間が分けられ、利用の混雑がない (例-児童と幼児の区別、遊びと休憩の場所の区別)
- 20) 木陰が多く、夏にも涼しく過ごせる
- 21) 公園に関する思い出 ( )
- 22) その他 ( )

3. 上記の2番の項目の中で、今後にも必ず残してほしいことは何ですか？

(順位を付け、回答してください)

最も残してほしいこと

二番目に残してほしいこと

三番目に残してほしいこと

千葉大学園芸学研究科都市環境デザイン学研究グループでは、

**庄戸第二公園**の再整備に関する調査を実施しております。

この調査結果はすべて統計的に処理され、個人情報が出ることはありません。

この公園は平成22年3月、再整備が行われ、全面的に改修されました。

ここからは再整備前後の基本的な公園利用の形態についてお聞きします。

<再整備前>

- あなたはこの公園にどのくらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのくらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間-2時間 5) 2時間以上
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。 - 複数応答可能  
(添付した図面上に最も利用した場所に○を付けてください)  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) 音楽、読書、写真など趣味活動  
8) 食事 9) お花見や野鳥など自然観察  
10) イベントに参加 11) 目的地への移動  
12) ボランティア活動 13) 待合わせ場所  
14) その他 ( )

<再整備後>

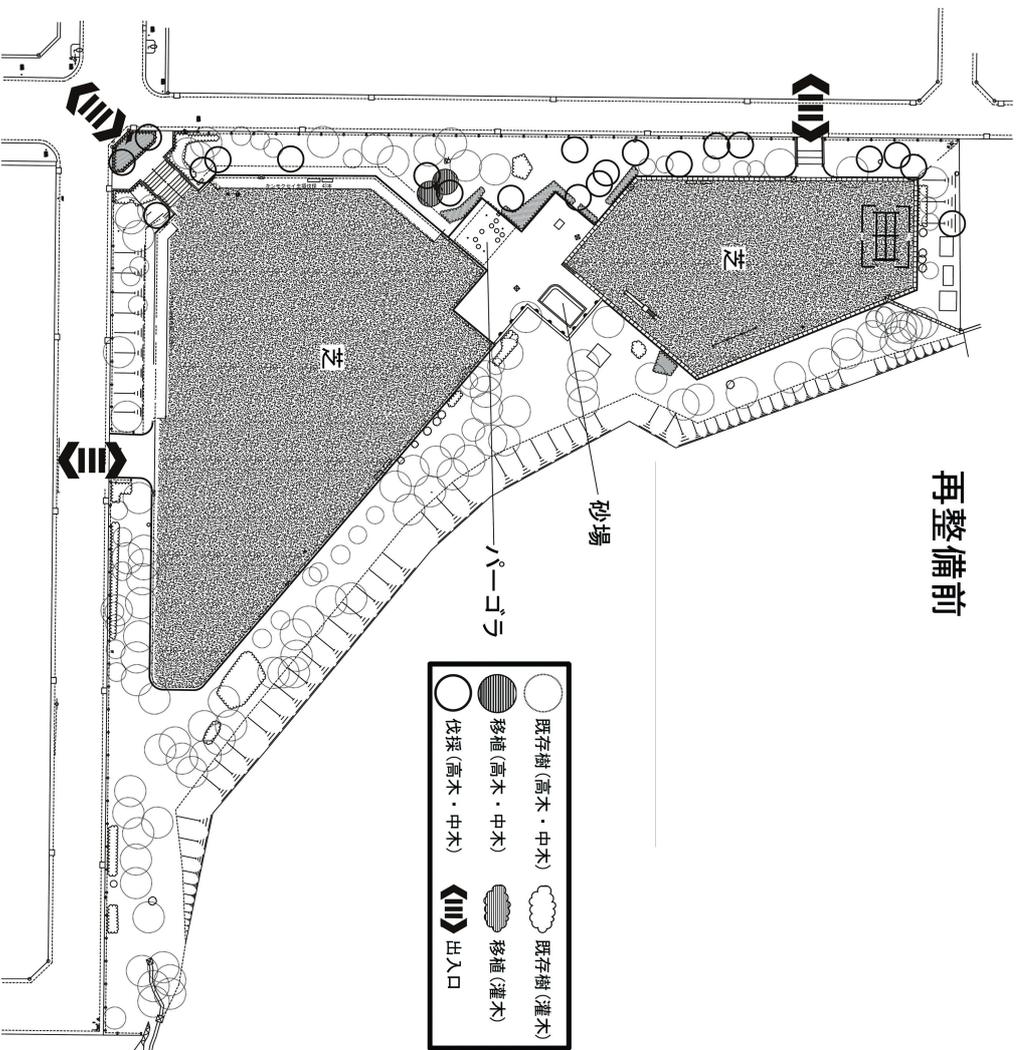
- あなたはこの公園にどのくらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのくらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間-2時間 5) 2時間以上
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。 - 複数応答可能  
(添付した図面上に最も利用する場所に○を付けてください)  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) 音楽、読書、写真など趣味活動  
8) 食事 9) お花見や野鳥など自然観察  
10) イベントに参加 11) 目的地への移動  
12) ボランティア活動 13) 待合わせ場所  
14) その他 ( )

ここからは再整備後の現在の公園の評価に関する質問にお答えください。

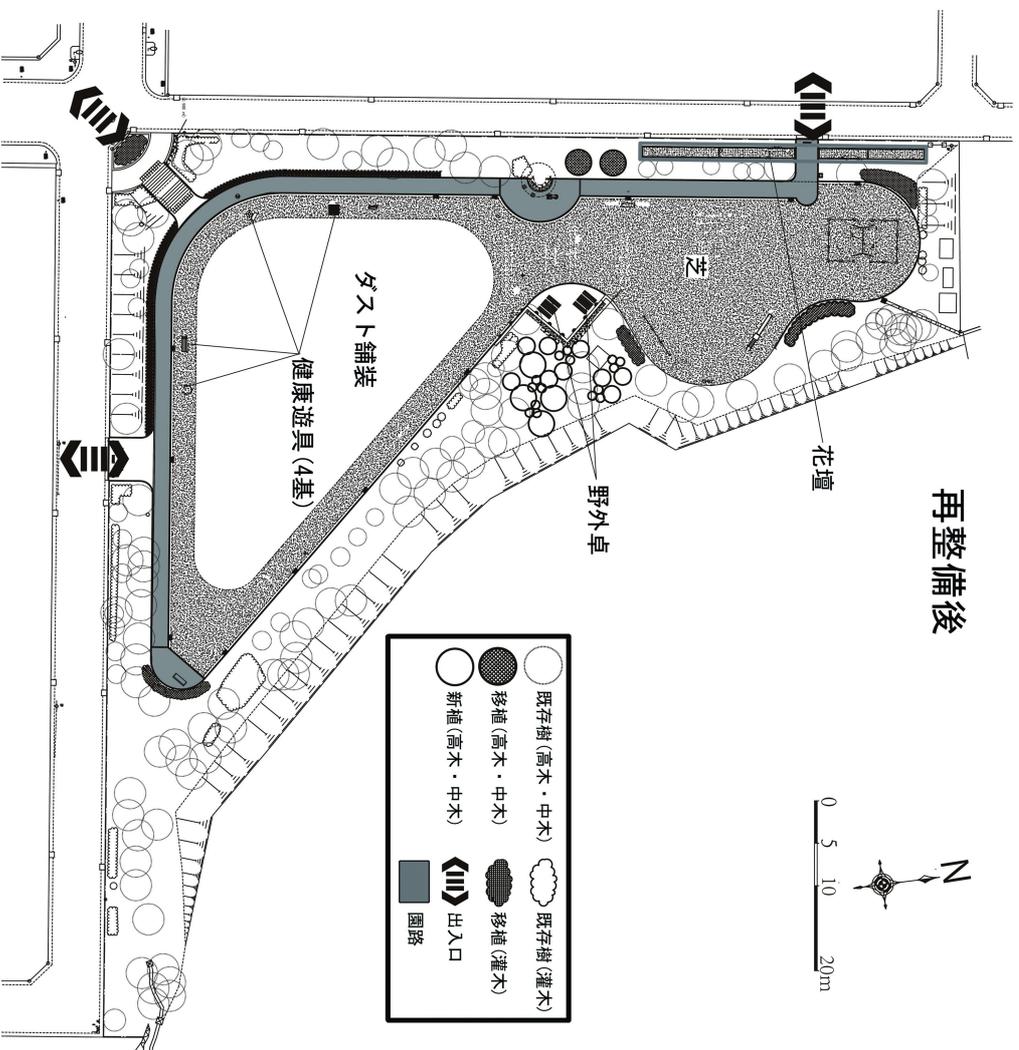
- 公園の利用者が増えましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 公園が明るくなり、安心して過ごしやすくなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 浮浪者・不審者がいなくなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 散歩など運動がやりやすくなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- お祭りなど、公園で色んなイベントを楽しむようになりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- ダスト舗装の広場ができて、色んな活動ができるようになりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 雨天後の広場での水はけはよくなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない



### 再整備前



### 再整備後



## 富岡第五公園

千葉大学園芸学部都市環境デザイン学研究室では、この公園の再整備に関する調査を実施しております。

この調査結果はすべて統計的に処理され、個人情報が出ることはありません。

---

1. あなたはこの公園を再整備が行われる前に利用したことがありますか？

- 1) はい            2) いいえ

2. あなたがこの公園に最も大きい特徴及び長所と感ずることは何ですか？ (複数回答可能)

- 1) 遊具施設の充実さ
- 2) 広々とした広場
- 3) 巨木が多い
- 4) 子供が安心して楽しく遊べる
- 5) 健康運動器具の充実さ
- 6) 移動及び歩行空間の良さ
- 7) 祭りなどイベントの際、使い勝手の良さ
- 8) 木や花など緑が多い
- 9) 照明設備の充実さ
- 10) 明るく見通しの良さ
- 11) ゆったりとくつろげる公園
- 12) 閑静な住宅街に囲まれた静かな公園
- 13) 散歩、ウォーキングなど運動ができる
- 14) 成熟した緑
- 15) 休憩施設の充実さ
- 16) 虫や鳥の観察ができる
- 17) 多様な植栽
- 18) 目的により空間が分けられ、利用の混雑がない (例-児童と幼児の区別、遊びと休憩の場所の区別)
- 19) 公園に関する思い出 ( )
- 20) その他 ( )

3. 上記の2番の項目の中で、今後にも必残してほしいことは何ですか？

(順位を付け、回答してください)

最も残してほしいこと

二番目に残してほしいこと

三番目に残してほしいこと

ご協力頂き誠に有り難うございます。 千葉大学園芸学研究科 都市デザイン学研究グループ

千葉大学園芸学研究科都市環境デザイン学研究グループでは、  
富岡第五公園の再整備に関する調査を実施しております。

この調査結果はすべて統計的に処理され、個人情報が出ることはありません。

この公園は平成22年3月、再整備が行われ、全面的に改修されました。

ここからは再整備前後の基本的な公園利用の形態についてお聞きします。

<再整備前>

- あなたはこの公園にどのぐらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのぐらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間-2時間 5) 2時間以上
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。 -複数応答可能  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) 音楽、読書、写真など趣味活動  
8) 食事 9) お花見 10) イベントに参加  
11) 目的地への移動 12) ボランティア活動  
13) 待合わせ場所  
14) その他 ( )
- 添付した図面上に最も利用した場所に○を付けて、上記の利用目的の番号の入れてください。

<再整備後>

- あなたはこの公園にどのぐらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのぐらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間-2時間 5) 2時間以上
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。 -複数応答可能  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) 音楽、読書、写真など趣味活動  
8) 食事 9) お花見 10) イベントに参加  
11) 目的地への移動 12) ボランティア活動  
13) 待合わせ場所  
14) その他 ( )
- 添付した図面上に最も利用する場所に○を付けて、上記のの利用目的の番号の入れてください。

ここからは再整備後の現在の公園の評価に関する質問にお答えください。

- 公園の利用者が増えましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 公園が明るくなり、安心して過ごしやすくなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 浮浪者・不審者がいなくなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- お祭りなど、色んなイベントにより、楽しめるようになりましたか  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- お祭りなど、イベント以外に普段の公園の利用は増えましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

10. 多様なイベントが開催される公園として、年中、楽しめるようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

11. 広々とした空間を持つ公園として色々な活動ができるようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

12. 出入口のスロープや手すりの整備により、園内に移動しやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

13. 遊具施設が充実し、子供の公園遊びが増えましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

14. 健康運動遊具の設置により、運動できるようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

15. ベンチや野外卓など休憩施設が充実し、休憩しやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

16. 樹木や芝生など公園内のみどりは保存されていますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

17. 成熟した緑により、自然を感じられますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

18. 樹木の整理により、公園が明るくなくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

19. アオギリの伐採により、園内の落ち葉は減りましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

20. 二つの広場が一体化され、公園の空間と利用の広がりが確保されましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

21. 小学校に近く、閑静な住宅街にふさわしい身近な公園として整備されたと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

22. 公園の利用により、近所の人との交流が増えましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

23. その外に再整備により、改善されたこと及び改善されなかったことを教えてください。

( )

●ここからは公園の中央部周辺の整備に関する質問です。

24-1. 再整備前に比べ、移動しやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

24-2. 再整備前に比べ、イベントの際に使い勝手がよくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

24-3. 再整備前に比べ、見通しは良くなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

24-4. 再整備前に比べ、利用しやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

●ここからは広場のベンチ周辺の整備に関する質問です。

25-1. ダスト舗装の一部が芝生となり、広場の面積は減ったと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

25-2. ダスト舗装の一部が芝生となり、緑が増えたと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

25-3. 再整備前に比べ、利用しやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

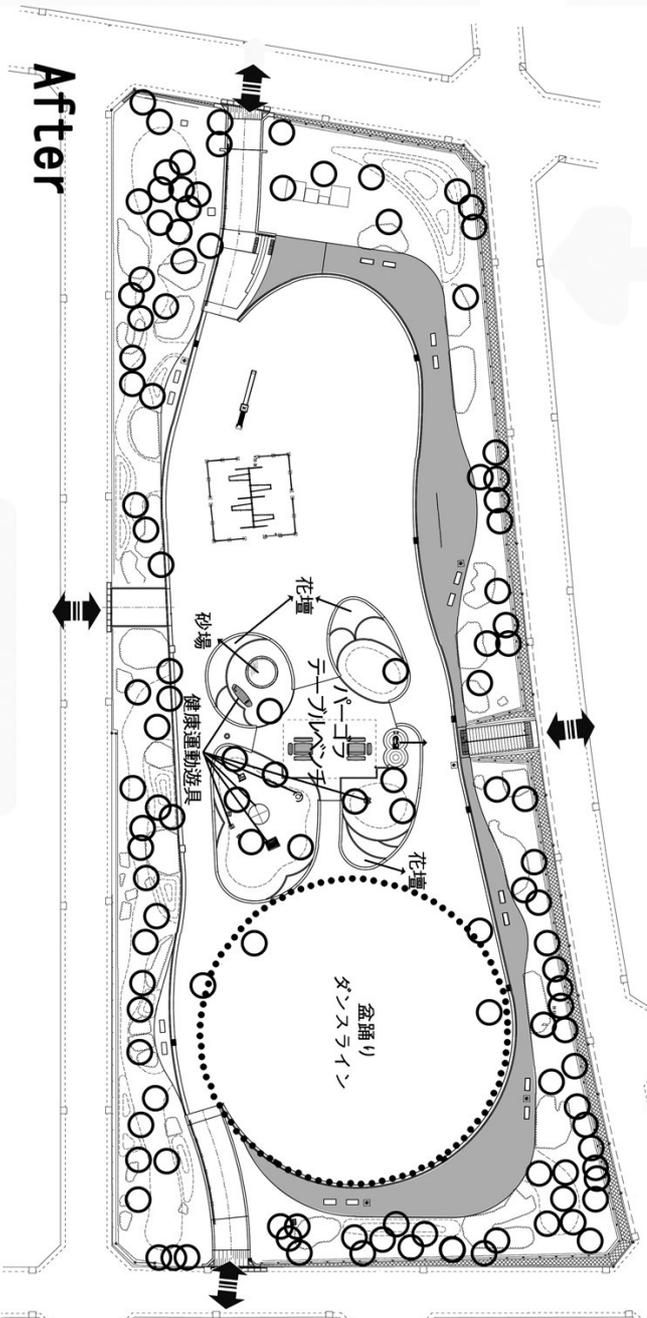
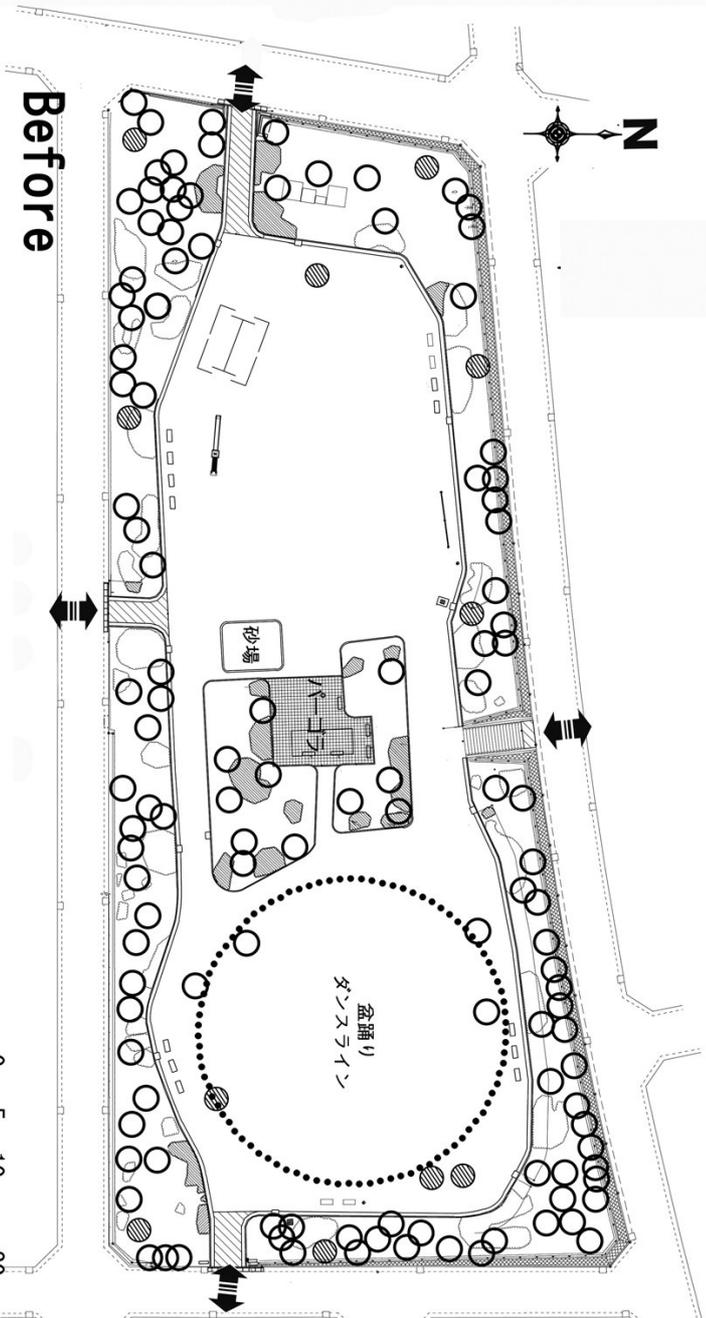
26. あなたは再整備前後を比べ、この公園に関してどう思いますか？

- 1) 再整備前の公園が良かった 2) 再整備前の公園がやや良かった 3) とちらでもない  
4) 今の公園がやや良い 5) 今の公園が良い

27. 属性についてお聞きます。

- 性別 ①男性 ②女性 年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60歳以上  
居住歴 ①5年以内 ②5-10年 ③10-20年 ④20-30年 ⑤30年以上

ご協力頂き誠に有り難うございます。 千葉大学園芸学研究科 都市デザイン学研究グループ



五丁田公園

＜1次アンケート調査＞

千葉大学園芸学部都市環境デザイン学研究室では、この公園の再整備に関する調査を実施しております。

この調査結果はすべて統計的に処理され、個人情報が出ることはありません。

この公園は平成21年3月、再整備が行われ、全面的に改修されました。

ここからは再整備前後の基本的な公園利用の形態についてお聞きします。

＜再整備前＞

- あなたはこの公園にどのぐらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのぐらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間以上 5) その他 ( )
- この公園をよく利用する時間帯はいつですか？  
1) 4-7時 2) 7-10時 3) 10-13時  
4) 13-16時 5) 16-19時 6) 19-22時  
7) 22時-4時
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。 - 複数応答可能  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) トイレの利用 8) 音楽、読書、写真など  
9) 食事 10) 桜などの花見  
11) イベントに参加 12) 目的地への移動  
13) ボランティア活動 14) 通学・通勤  
15) 待合わせ場所 16) その他 ( )

＜再整備後＞

- あなたはこの公園にどのぐらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのぐらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間以上 5) その他 ( )
- この公園をよく利用する時間帯はいつですか？  
1) 4-7時 2) 7-10時 3) 10-13時  
4) 13-16時 5) 16-19時 6) 19-22時  
7) 22時-4時
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。 - 複数応答可能  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) トイレの利用 8) 音楽、読書、写真など  
9) 食事 10) 桜などの花見  
11) イベントに参加 12) 目的地への移動  
13) ボランティア活動 14) 通学・通勤  
15) 待合わせ場所 16) その他 ( )

ここからは再整備前後の図面を見て、次の質問にお答えください。 - 複数応答可能

- あなたがこの公園でよく利用する場所はどこですか？

図面に○をつけてください。

- あなたがこの公園でもっとも好きな場所はどこですか？

図面に○をつけてください。

ここからは再整備前後のこの公園の評価に関する質問にお答えください。

＜再整備前＞

- あなたはこの公園に関してどう思いますか？  
1) 満足 2) やや満足 3) どちらでもない  
4) やや不満 5) 不満

＜再整備後＞

- あなたはこの公園に関してどう思いますか？  
1) 満足 2) やや満足 3) どちらでもない  
4) やや不満 5) 不満

＜再整備前＞

8. あなたがこの公園に良いと感じることは何ですか？－複数応答可能
- 1)健康運動器具が充実している
  - 2)景色が良い
  - 3)人が多くてにぎやか
  - 4)明るく見通しが良い
  - 5)治安が良い
  - 6)広々とした空間があって開放感が感じられる
  - 7)遊具施設が充実している
  - 8)移動及び歩行空間が良い
  - 9)自然を感じられる
  - 10)休憩施設が充実している
  - 11)木や花などの緑が多い
  - 12)安心して子供を遊ばせる
  - 13)多様な目的での利用ができる
  - 14)施設案内の看板が充実している
  - 15)季節感を感じられる
  - 16)年齢により子供の遊び場を区別させる
  - 17)照明設備が充実している

9. あなたがこの公園に悪いと感じることは何ですか？－複数応答可能

- 1)健康運動器具が少ない
- 2)景色が良くない
- 3)利用者が少ない
- 4)暗くて見通しが悪い
- 5)治安が悪い
- 6)広場もなく、公園が狭い
- 7)遊具施設が少ない
- 8)移動及び歩行空間が悪い
- 9)自然を感じられない
- 10)休憩施設が少ない
- 11)木や花などの緑が少ない
- 12)安心して子供を遊ばせられない
- 13)多様な目的での利用ができない
- 14)施設案内の看板が少ない
- 15)季節感を感じられない
- 16)幼児が遊べる場所がない
- 17)照明設備が少ない

＜再整備後＞

8. あなたがこの公園に良いと感じることは何ですか？－複数応答可能
- 1)健康運動器具が充実している
  - 2)景色が良い
  - 3)人が多くてにぎやか
  - 4)明るく見通しが良い
  - 5)治安が良い
  - 6)広々とした空間があって開放感が感じられる
  - 7)遊具施設が充実している
  - 8)移動及び歩行空間が良い
  - 9)自然を感じられる
  - 10)休憩施設が充実している
  - 11)木や花などの緑が多い
  - 12)安心して子供を遊ばせる
  - 13)多様な目的での利用ができる
  - 14)施設案内の看板が充実している
  - 15)季節感を感じられる
  - 16)年齢により子供の遊び場を区別させる
  - 17)照明設備が充実している

9. あなたがこの公園に悪いと感じることは何ですか？－複数応答可能

- 1)健康運動器具が少ない
- 2)景色が良くない
- 3)利用者が少ない
- 4)暗くて見通しが悪い
- 5)治安が悪い
- 6)広場もなく、公園が狭い
- 7)遊具施設が少ない
- 8)移動及び歩行空間が悪い
- 9)自然を感じられない
- 10)休憩施設が少ない
- 11)木や花などの緑が少ない
- 12)安心して子供を遊ばせられない
- 13)多様な目的での利用ができない
- 14)施設案内の看板が少ない
- 15)季節感を感じられない
- 16)幼児が遊べる場所がない
- 17)照明設備が少ない

10. 属性についてお聞きします。

- 性別 ①男性 ②女性 年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60歳以上  
居住歴 ①5年以内 ②5-10年 ③10-20年 ④20-30年 ⑤30年以上

<2次アンケート調査用紙>

千葉大学園芸学研究科都市環境デザイン学研究グループでは、

**五丁田公園**の再整備に関する調査を実施しております。

この調査結果はすべて統計的に処理され、個人情報が出ることはありません。

この公園は平成21年3月、再整備が行われ、全面的に改修されました。

ここからは再整備前後の基本的な公園利用の形態についてお聞きします。

<再整備前>

- あなたはこの公園にどのぐらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのぐらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間-2時間 5) 2時間以上
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。 -複数応答可能  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) トイレの利用 8) 音楽、読書、写真など  
9) 食事 10) 桜などの花見  
11) イベントに参加 12) 目的地への移動  
13) ボランティア活動 14) 通学・通勤  
15) 待合わせ場所 16) その他 ( )

<再整備後>

- あなたはこの公園にどのぐらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのぐらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間-2時間 5) 2時間以上
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。 -複数応答可能  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) トイレの利用 8) 音楽、読書、写真など  
9) 食事 10) 桜などの花見  
11) イベントに参加 12) 目的地への移動  
13) ボランティア活動 14) 通学・通勤  
15) 待合わせ場所 16) その他 ( )

ここからは再整備後の現在の公園の評価に関する質問にお答えください。

- 公園内の見通しが良くなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 浮浪者・不審者がいなくなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 安心して子供を遊ばせるようになりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 年齢により、児童と幼児の遊具コーナーに分けられ、遊びやすくなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- お花や樹木など公園内のみどりが保存されていますか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 前に比べ、より多様な植栽が見られますか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 成熟した緑により、自然を感じられますか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

11. トイレの改修や位置の移動により、使いやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

12. 園路の整備により、歩きやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

13. フェンス、花壇、段差を撤去し、広く公園を使えるようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

14. 広場の整備により、多目的な利用ができるようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

15. 広場で行われるお祭りなどのイベントに参加するようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

16. お祭りなどイベントを目的に公園を利用する際、使い勝手は良いと思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

17. 利用者の年齢層が広がりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

18. 公園の利用者が増えましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

19. 公園が明るくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

20. その外に再整備により、改善されたこと及び改善されなかったことを教えてください。

( )

21. あなたは再整備前後を比べ、この公園に関してどう思いますか？

- 1) 再整備前の公園が良かった。 2) 再整備前の公園がやや良い 3) とちらでもない  
4) 今の公園がやや良い 5) 今の公園が良い

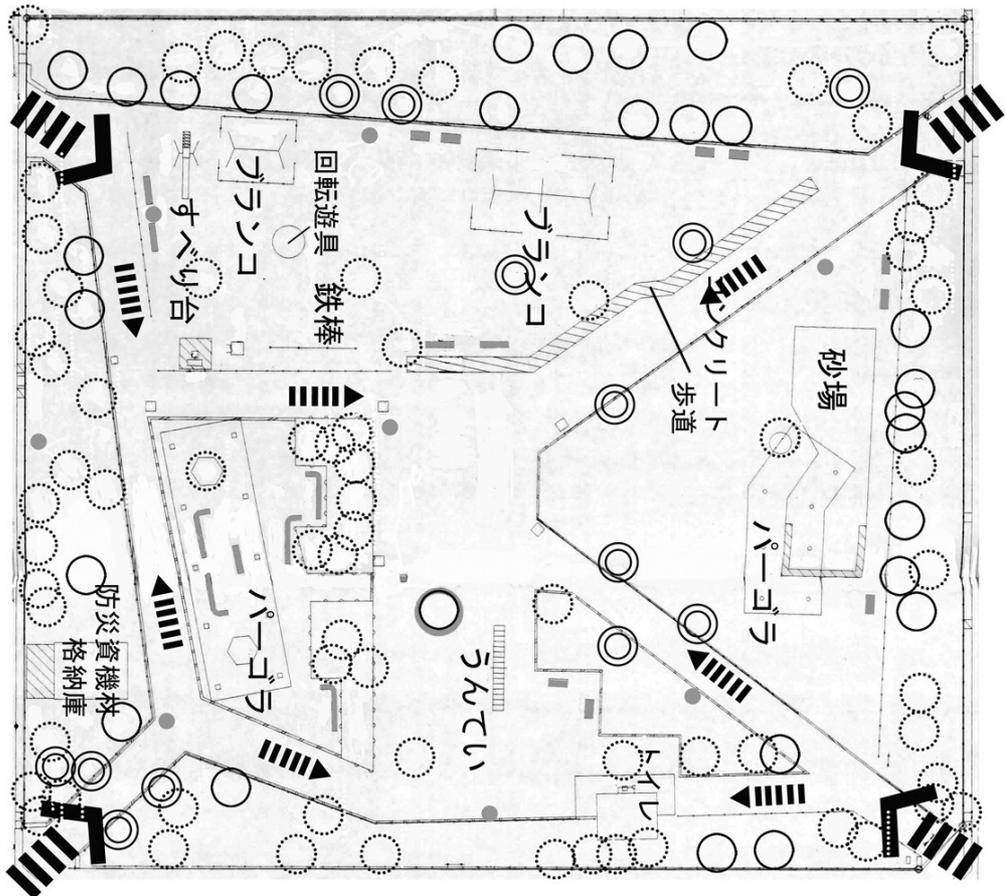
22. 属性についてお聞きします。

性別 ①男性 ②女性 年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60歳以上

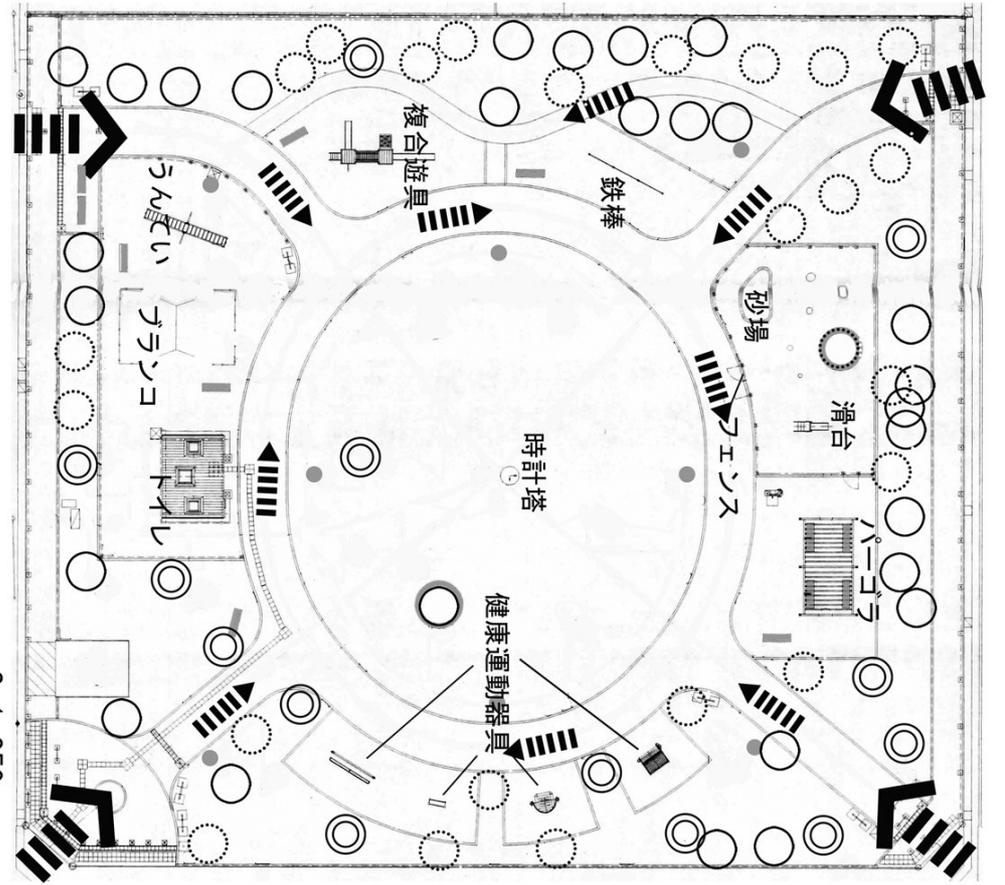
居住歴 ①5年以内 ②5-10年 ③10-20年 ④20-30年 ⑤30年以上

ご協力頂き誠に有り難うございます。 千葉大学園芸学研究科 都市デザイン学研究グループ

再整備前



再整備後



- ベンチ
- 外灯
- ▤ エントランス
- ▤ 園路



花畑公園

＜1次アンケート調査＞

千葉大学園芸学部都市環境デザイン学研究室では、この公園の再整備に関する調査を実施しております。

この調査結果はすべて統計的に処理され、個人情報が出ることはありません。

この公園は平成21年3月、再整備が行われ、全面的に改修されました。

ここからは再整備前後の基本的な公園利用の形態についてお聞きします。

＜再整備前＞

- あなたはこの公園にどのぐらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのぐらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間以上 5) その他 ( )
- この公園をよく利用する時間帯はいつですか？  
1) 4-7時 2) 7-10時 3) 10-13時  
4) 13-16時 5) 16-19時 6) 19-22時  
7) 22時-4時
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。 -複数応答可能  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) トイレの利用 8) 音楽、読書、写真など  
9) 食事 10) 桜などの花見  
11) イベントに参加 12) 目的地への移動  
13) ボランティア活動 14) 通学・通勤  
15) 待合わせ場所 16) その他 ( )

＜再整備後＞

- あなたはこの公園にどのぐらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのぐらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間以上 5) その他 ( )
- この公園をよく利用する時間帯はいつですか？  
1) 4-7時 2) 7-10時 3) 10-13時  
4) 13-16時 5) 16-19時 6) 19-22時  
7) 22時-4時
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。 -複数応答可能  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) トイレの利用 8) 音楽、読書、写真など  
9) 食事 10) 桜などの花見  
11) イベントに参加 12) 目的地への移動  
13) ボランティア活動 14) 通学・通勤  
15) 待合わせ場所 16) その他 ( )

ここからは再整備前後の図面を見て、次の質問にお答えください。 -複数応答可能

- あなたがこの公園でよく利用する場所はどこですか？

図面に○をつけてください。

- あなたがこの公園でもっとも好きな場所はどこですか？

図面に○をつけてください。

ここからは再整備前後のこの公園の評価に関する質問にお答えください。

＜再整備前＞

- あなたはこの公園に関してどう思いますか？  
1) 満足 2) やや満足 3) どちらでもない  
4) やや不満 5) 不満

＜再整備後＞

- あなたはこの公園に関してどう思いますか？  
1) 満足 2) やや満足 3) どちらでもない  
4) やや不満 5) 不満

＜再整備前＞

8. あなたがこの公園に良いと感じることは何ですか？ －複数応答可能
- 1)健康運動器具が充実している
  - 2)景色が良い
  - 3)人が多くてにぎやか
  - 4)明るく見通しが良い
  - 5)治安が良い
  - 6)広々とした空間があって開放感が感じられる
  - 7)遊具施設が充実している
  - 8)移動及び歩行空間が良い
  - 9)自然を感じられる
  - 10)休憩施設が充実している
  - 11)木や花などの緑が多い
  - 12)安心して子供を遊ばせる
  - 13)多様な目的での利用ができる
  - 14)施設案内の看板が充実している
  - 15)季節感を感じられる
  - 16)年齢により子供の遊び場を区別させる
  - 17)照明設備が充実している

9. あなたがこの公園に悪いと感じることは何ですか？ －複数応答可能

- 1)健康運動器具が少ない
- 2)景色が良くない
- 3)利用者が少ない
- 4)暗くて見通しが悪い
- 5)治安が悪い
- 6)広場もなく、公園が狭い
- 7)遊具施設が少ない
- 8)移動及び歩行空間が悪い
- 9)自然を感じられない
- 10)休憩施設が少ない
- 11)木や花などの緑が少ない
- 12)安心して子供を遊ばせられない
- 13)多様な目的での利用ができない
- 14)施設案内の看板が少ない
- 15)季節感を感じられない
- 16)幼児が遊べる場所がない
- 17)照明設備が少ない

＜再整備後＞

8. あなたがこの公園に良いと感じることは何ですか？ －複数応答可能
- 1)健康運動器具が充実している
  - 2)景色が良い
  - 3)人が多くてにぎやか
  - 4)明るく見通しが良い
  - 5)治安が良い
  - 6)広々とした空間があって開放感が感じられる
  - 7)遊具施設が充実している
  - 8)移動及び歩行空間が良い
  - 9)自然を感じられる
  - 10)休憩施設が充実している
  - 11)木や花などの緑が多い
  - 12)安心して子供を遊ばせる
  - 13)多様な目的での利用ができる
  - 14)施設案内の看板が充実している
  - 15)季節感を感じられる
  - 16)年齢により子供の遊び場を区別させる
  - 17)照明設備が充実している

9. あなたがこの公園に悪いと感じることは何ですか？ －複数応答可能

- 1)健康運動器具が少ない
- 2)景色が良くない
- 3)利用者が少ない
- 4)暗くて見通しが悪い
- 5)治安が悪い
- 6)広場もなく、公園が狭い
- 7)遊具施設が少ない
- 8)移動及び歩行空間が悪い
- 9)自然を感じられない
- 10)休憩施設が少ない
- 11)木や花などの緑が少ない
- 12)安心して子供を遊ばせられない
- 13)多様な目的での利用ができない
- 14)施設案内の看板が少ない
- 15)季節感を感じられない
- 16)幼児が遊べる場所がない
- 17)照明設備が少ない

10. 属性についてお聞きします。

- 性別 ①男性 ②女性 年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60歳以上  
居住歴 ①5年以内 ②5-10年 ③10-20年 ④20-30年 ⑤30年以上

＜2次アンケート調査＞

千葉大学園芸学研究科都市環境デザイン学研究グループでは、

**花畑公園**の再整備に関する調査を実施しております。

この調査結果はすべて統計的に処理され、個人情報が出ることはありません。

この公園は平成21年3月、再整備が行われ、全面的に改修されました。

ここからは再整備前後の基本的な公園利用の形態についてお聞きします。

＜再整備前＞

- あなたはこの公園にどのぐらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのぐらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間-2時間 5) 2時間以上
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。 - 複数応答可能  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) トイレの利用 8) 音楽、読書、写真など  
9) 食事 10) 桜などの花見  
11) イベントに参加 12) 目的地への移動  
13) ボランティア活動 14) 通学・通勤  
15) 待合わせ場所 16) その他 ( )

＜再整備後＞

- あなたはこの公園にどのぐらいの頻度でいらっしゃいますか？  
1) ほぼ毎日 2) 週に2-3回 3) 月に数回  
4) 年に数回 5) ほとんど来ない
- この公園の利用時間はどのぐらいですか？  
1) 10分以内 2) 10-30分 3) 30-1時間以内  
4) 1時間-2時間 5) 2時間以上
- あなたがこの公園を利用する目的をお答えください。 - 複数応答可能  
1) 散歩 2) 運動・スポーツ 3) ペットと遊ぶ  
4) 休憩 5) 子供を遊ばせる 6) 会話を楽しむ  
7) トイレの利用 8) 音楽、読書、写真など  
9) 食事 10) 桜などの花見  
11) イベントに参加 12) 目的地への移動  
13) ボランティア活動 14) 通学・通勤  
15) 待合わせ場所 16) その他 ( )

ここからは再整備後の現在の公園の評価に関する質問にお答えください。

- 芝生広場に犬を連れて来る利用者がいなくなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 犬の放し飼いやゴミ捨てなど公園の利用マナーが良くなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 公園内の見通しが良くなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 浮浪者・不審者がいなくなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 安心して子供を遊ばせるようになりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 年齢により、児童と幼児の遊具コーナーに分けられ、遊びやすくなりましたか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない
- 樹木や芝生など公園内のみどりは保存されていますか？  
1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

11. 成熟した緑により、自然を感じられますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

12. トイレの改修や位置の移動により、使いやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

13. 園路の整備により、歩きやすくなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

14. 子供が外遊びを楽しむようになりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

15. 運動や子供の遊びなど利用目的により空間が分けられ、利用の混雑が解消されましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

16. 利用者の年齢層が広くなりましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

17. 公園の利用者が増えましたか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

18. 健康運動施設やウォーキングコースの利用で健康に良い効果があると思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

19. 築山の階段やスロープ、手すりなどの施設の利用でリハビリの効果があると思いますか？

- 1) そう思う 2) ややそう思う 3) とちらでもない 4) あまりそう思わない 5) そう思わない

20. その外に再整備により、改善されたこと及び改善されなかったことを教えてください。

( )

21. あなたは再整備前後を比べ、この公園に関してどう思いますか？

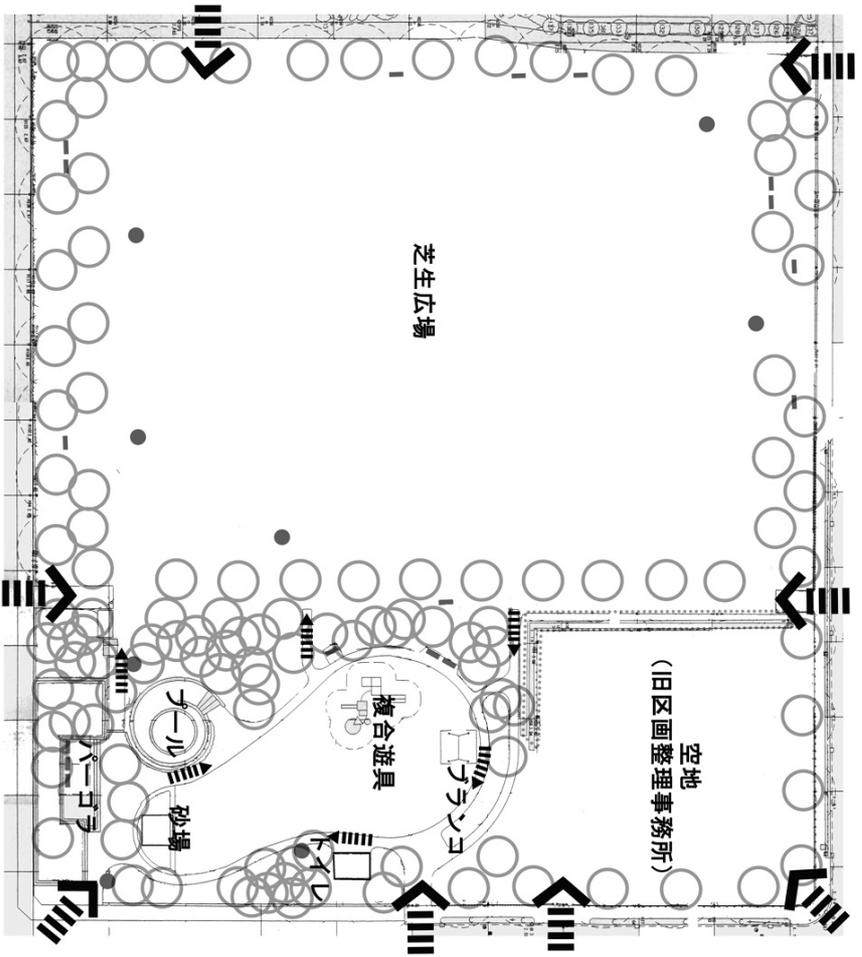
- 1) 再整備前の公園が良かった 2) 再整備前の公園がやや良かった 3) とちらでもない  
4) 今の公園がやや良い 5) 今の公園が良い

22. 属性についてお聞きします。

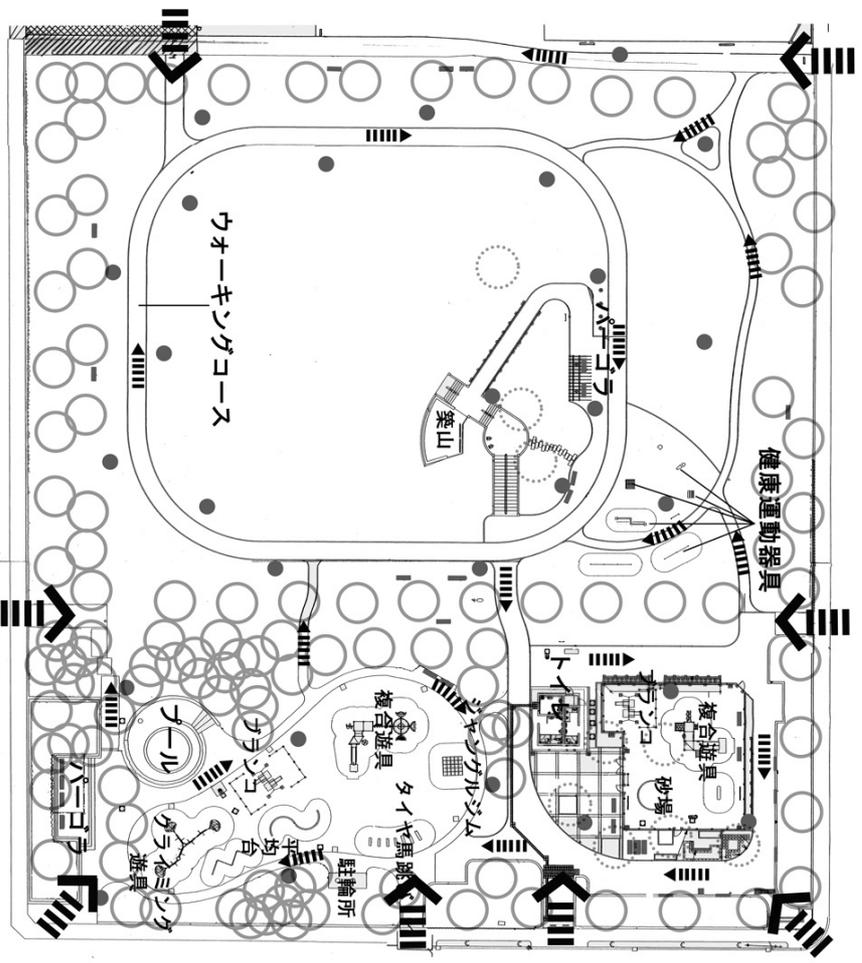
性別 ①男性 ②女性 年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60歳以上

居住歴 ①5年以内 ②5-10年 ③10-20年 ④20-30年 ⑤30年以上

ご協力頂き誠に有り難うございます。 千葉大学園芸学研究科 都市デザイン学研究グループ



再整備前



再整備後

- ベンチ
- 外灯
- ≡≡≡ エントランス
- ≡≡≡▶ 園路

